



新洲本城跡総合戦略



目次

第1章 人口ビジョン

I 洲本市の人口動向

- 1. 人口動向特性 1
- 2. 「人口ビジョン」策定以降の動向 3
- 3. 「人口ビジョン」の検証 7

II 洲本市の趨勢人口の検討

- 1. 国立社会保障・人口問題研究所による推計 8
- 2. 趨勢人口の推計 11

III 洲本市の将来人口シミュレーション

- 1. 将来人口シミュレーションについて 16
- 2. 将来人口シミュレーション結果 17
- 3. シミュレーションを踏まえた人口政策等の課題 23

IV 洲本市の将来人口と将来展望

- 1. 洲本市の戦略人口 26
- 2. 洲本市の将来展望 29

第2章 総合戦略

I 基本的な考え方

- 1. 策定の趣旨 30
- 2. 新洲本市総合計画との整合性と連動 30
- 3. 計画の期間 31
- 4. 計画の位置づけ 32
- 5. 戦略の考え方 32

II 戦略構想

- 1. 戦略目標 35
- 2. 基本理念 35
- 3. 戦略の体系 37

Ⅲ 基本戦略に基づく取組

- 基本戦略1 洲本の人のあたたかさに触れ、ここに居たい、
訪れたいと思う「ひと」を創り育む 39
- 基本戦略2 歴史の薫る魅力的でやすらぎのある
「わがまち洲本」を創り守る 44
- 基本戦略3 女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの
「しごと」のステージを創り広げる 49

Ⅳ アクションプラン

- アクションプラン 53
- 主な事業・施策の事業表示イメージ 54
- 【基本戦略1】
- (1) 都市圏からの移住・定住の促進 55
- (2) 「関係人口」の拡充 55
- (3) 観光資源を生かした交流の促進 56
- (4) まちの魅力の効果的な情報発信 57
- (5) 教育・スポーツの振興 59
- 【基本戦略2】
- (1) 妊娠・出産・子育ての支援 62
- (2) 健康・福祉・医療の支援 63
- (3) 元気な高齢者の活躍の機会の推進 63
- (4) 歴史・文化の保存と活用によるまちづくりの推進 65
- (5) コミュニティ組織、中間支援団体の育成と支援 66
- (6) 防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備 68
- (7) 環境意識の向上の推進 70
- (8) 淡路島全体で考える未来の公共交通システムの構築と交通ネットワークの充実
. 71
- (9) 市域を超えた広域連携による新たな行政運営の推進 72
- 【基本戦略3】
- (1) 農業生産基盤の整備 73
- (2) 新規就農者支援による担い手の確保 74
- (3) 畜産振興の推進 75
- (4) 水産業の振興 75
- (5) 地域企業への就業促進 76
- (6) 起業・創業の支援 77
- (7) 企業誘致の促進 78

V “未来の種”

“未来の種”	79
--------	----

VI 戦略の進行管理

1. 推進体制	85
2. 検証・改訂	85

参考資料

I 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部

1. 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部設置要綱	86
2. 構成員名簿	88
3. 新洲本市総合戦略の策定に向けた検討経過	89

II 中学生・高校生アンケート調査

1. 実施概要	90
2. 調査結果	90

III 一般市民アンケート調査

1. 実施概要	107
2. 調査結果	107

IV 新洲本市総合戦略 若手職員ワークショップ ～すもと・もっとおもろナーレ2019～

1. 開催目的	150
2. 開催概要	150
3. 検討結果	151

V 新洲本市総合戦略 一般ワークショップ ～すもと・もっとおもろナーレ2019～

1. 開催目的	155
2. 開催概要	155
3. 検討結果	155

VI 新洲本市総合戦略 パブリックコメントの募集結果

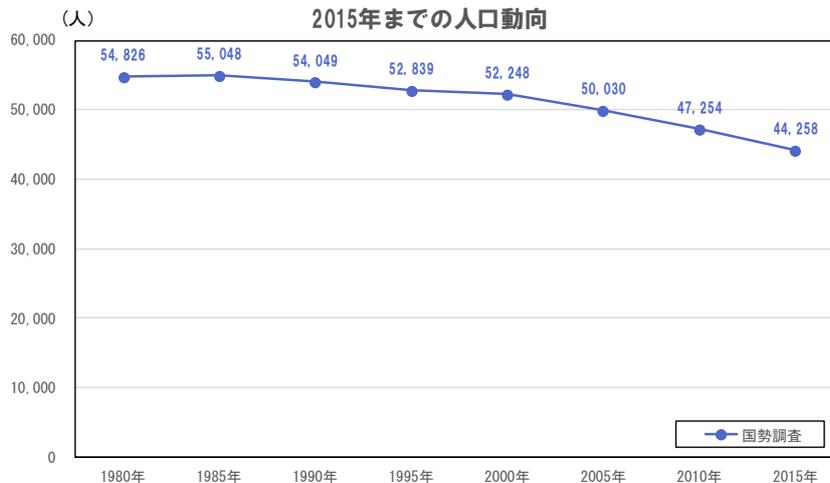
パブリックコメント募集結果	160
---------------	-----

第1章 人口ビジョン

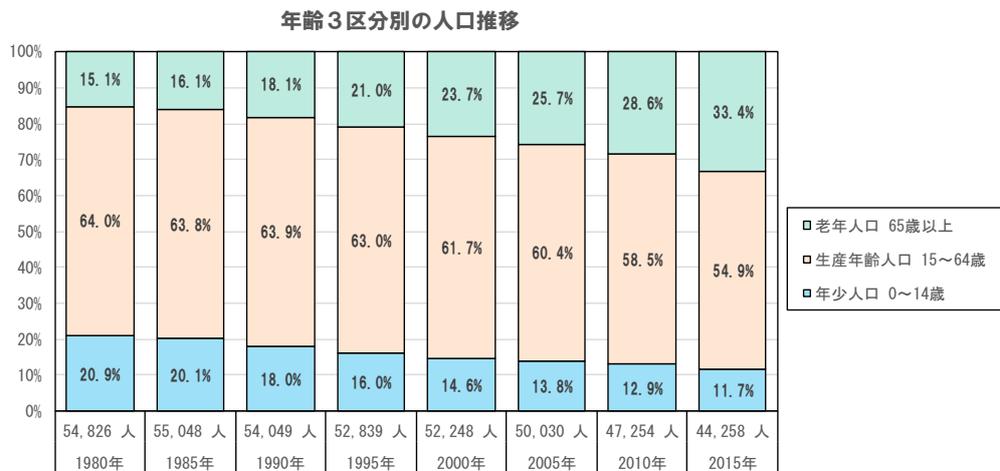
I 洲本市の人口動向

1. 人口動向特性

本市の人口は、1985年に55,048人に達して以降、減少傾向で推移しており、2015年には44,258人にまで減少しています。



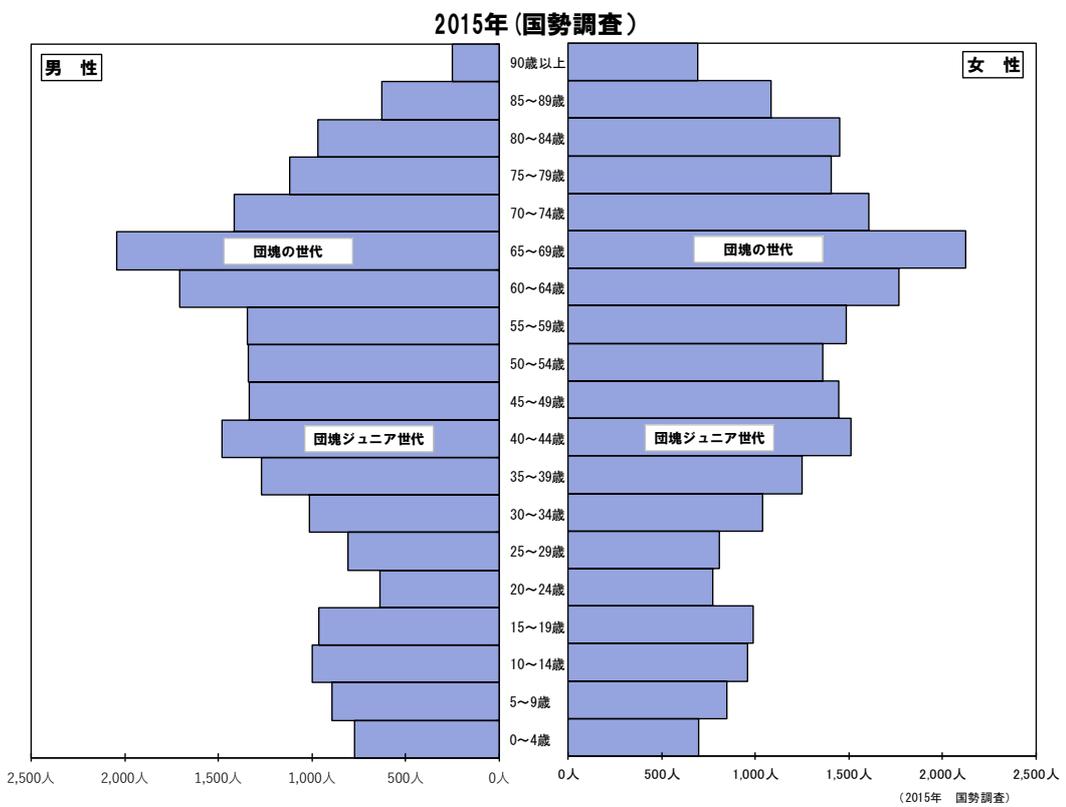
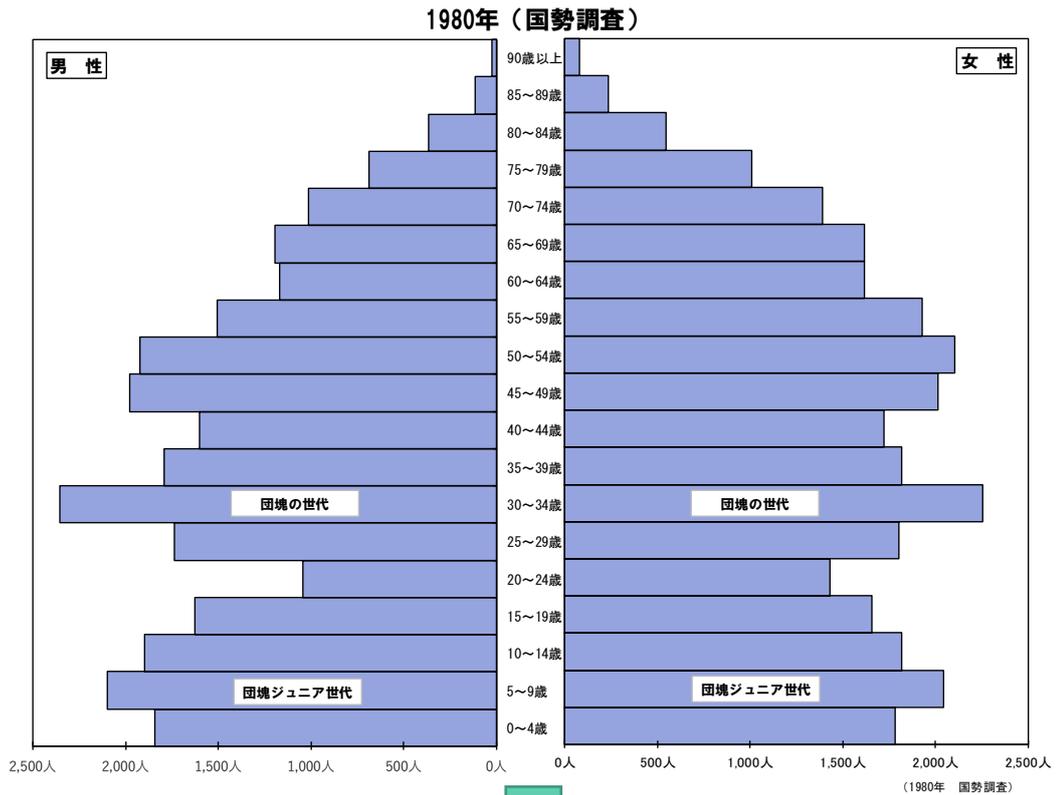
年齢3区別の比率について1980年から2015年までの動向をみると、年少人口（0～14歳）は20.9%から11.7%へと9.2ポイント減少、生産年齢人口（15～64歳）についても64.0%から54.9%へと9.1%減少している一方で、老年人口（65歳以上）については15.1%から33.4%へと18.3ポイント増加しており、本市においても少子高齢化が進んでいることがわかります。



(単位：人)

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総人口	54,826	55,048	54,049	52,839	52,248	50,030	47,254	44,258
年少人口 0～14歳	20.9%	20.1%	18.0%	16.0%	14.6%	13.8%	12.9%	11.7%
生産年齢人口 15～64歳	64.0%	63.8%	63.9%	63.0%	61.7%	60.4%	58.5%	54.9%
老年人口 65歳以上	15.1%	16.1%	18.1%	21.0%	23.7%	25.7%	28.6%	33.4%

こうした変化を人口ピラミッド（性別・年齢別人口構造）として示すと次のとおりです。



1980年に比べ、2015年では団塊の世代を中心とする人口の膨らみが高齢化するとともに、若い年齢層ほど人口が少なく、ピラミッドに近い形状から底辺の小さな壺型にシフトしています。

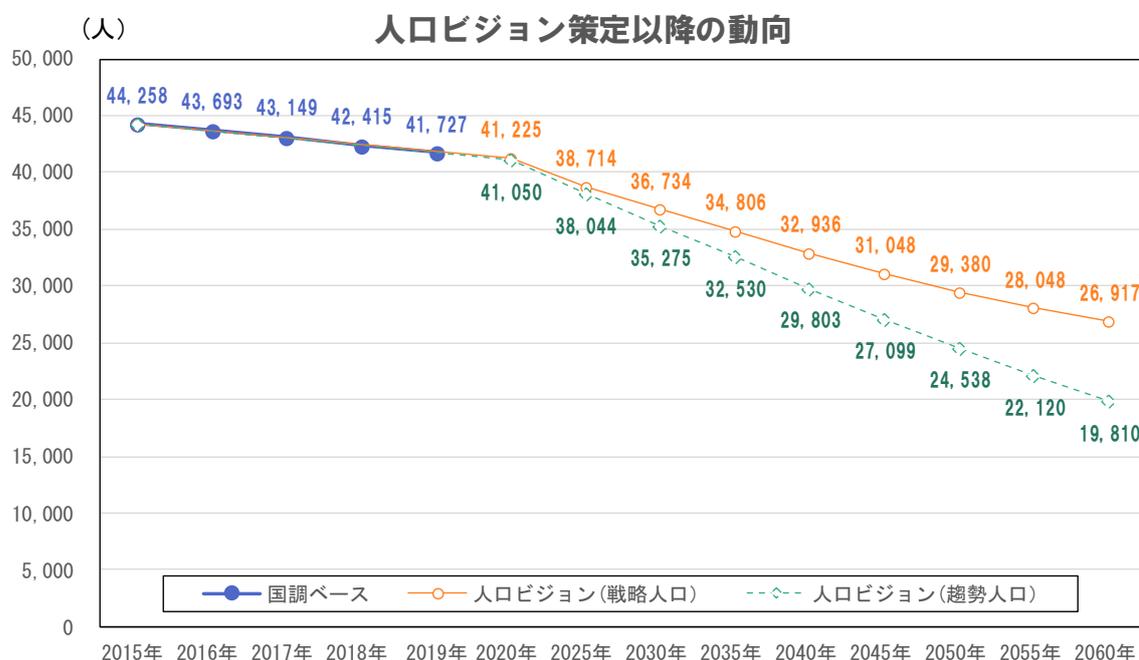
2. 「人口ビジョン」策定以降の動向

(1) 人口の推移

本市では、2015年に「人口ビジョン」を含む「洲本市総合戦略」を策定し、これに基づくさまざまな人口減少対策に取り組んでいるところです。

「人口ビジョン」では、今後の目標とする「戦略人口」と、今後の人口減少対策等を加味しない場合に想定される「^{すうせい}趨勢人口」とを示しています。

それに基づけば、趨勢人口は2060年には19,810人程度にまで減少することが見通される中、こうした人口減少を抑制するさまざまな取組を前提に戦略人口として2060年に26,000～27,000人規模の確保を目指すこととなっています。



2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年 2045年 2050年 2055年 2060年

※国調ベース（各年10月1日現在）は、「兵庫県推計人口」（直近の国勢調査時の人口に、その後の出生・死亡、転入・転出による人口の増減を加算したもの）による。

こうした中で、2015年以降の本市の人口動向（国調ベース）をみると、2015年の44,258人から減少傾向で推移してはいるものの緩やかな減少となっており、2019年時点では41,727人となっています。

(2) 人口動態

人口動態としてみると、自然動態については2015年以降、一貫して死亡数が出生数を上回る自然減が続いており、2018年では333人の自然減となっています。

社会動態についても2015年以降、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いており、2018年では355人の社会減となっています。

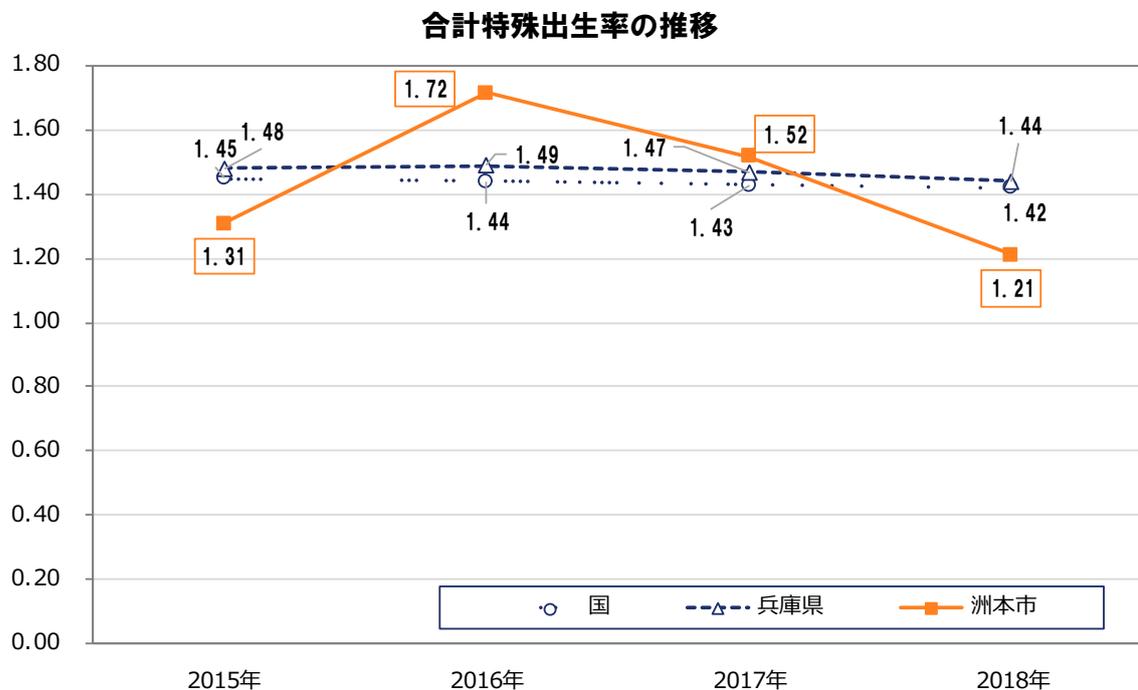
(単位：人)

	総人口	増減計	自然動態			社会動態		
			増減	出生	死亡	増減	転入	転出
2015年	44,258	-565	-325	328	653	-240	1,451	1,691
2016年	43,693	-544	-353	298	651	-191	1,481	1,672
2017年	43,149	-734	-420	247	667	-314	1,459	1,773
2018年	42,415	-688	-333	274	607	-355	1,543	1,898
2019年	41,727							

※「兵庫県推計人口」により集計。各年は、当年10月から翌年9月までの人口動態。
総人口は、各年10月1日現在。

[出生]

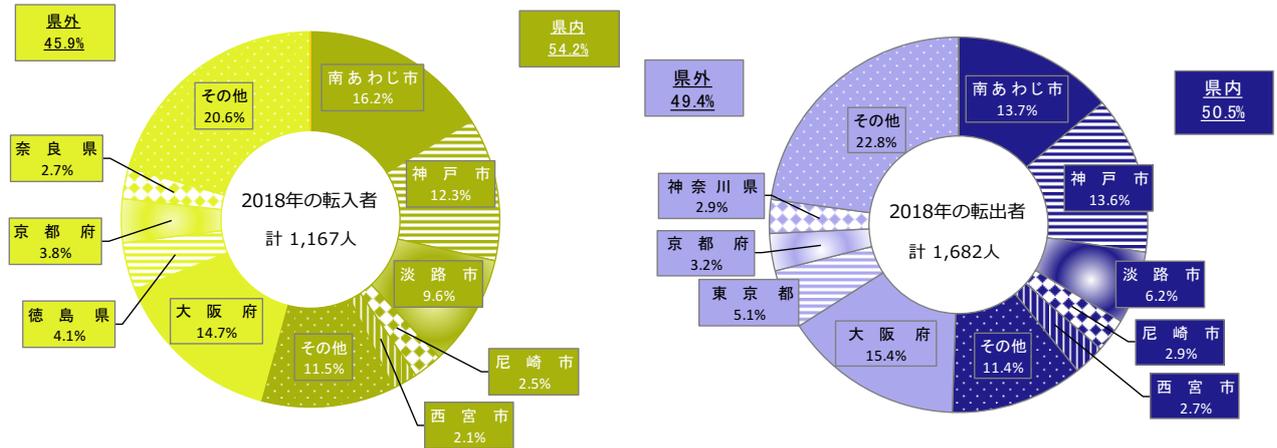
出生の状況について、合計特殊出生率としてみると、2016年には1.72で国や兵庫県の水準を上回っていましたが、2018年には国や兵庫県の水準を下回る1.21に水準となっています。



[転入・転出]

「人口動態統計（2018年）」に基づき、転入・転出の状況をみると、転入については県内からの移動が54.2%、転出についても県内への移動が50.5%といずれも過半数を占めています。

転入元では、南あわじ市が最も多く転入者の16.2%、転出先についても同じく南あわじ市が最も多く転出者の13.7%となっています。



※人口動態統計(2018年)

※人口動態統計(2018年)

転入	総数				男				女			
	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上
都道府県、市区町村												
総数	1,167	16.4%	34.0%	49.6%	605	15.7%	32.9%	51.4%	562	17.1%	35.2%	47.7%
県内合計	633	17.7%	33.2%	49.1%	317	17.0%	32.8%	50.2%	316	18.4%	33.5%	48.1%
神戸市	144	14.6%	31.3%	54.2%	68	11.8%	26.5%	61.8%	76	17.1%	35.5%	47.4%
姫路市	23	17.4%	39.1%	43.5%	11	18.2%	27.3%	54.5%	12	16.7%	50.0%	33.3%
尼崎市	29	13.8%	44.8%	41.4%	18	11.1%	44.4%	44.4%	11	18.2%	45.5%	36.4%
明石市	18	0.0%	33.3%	66.7%	10	0.0%	40.0%	60.0%	8	0.0%	25.0%	75.0%
西宮市	25	8.0%	48.0%	44.0%	11	9.1%	45.5%	45.5%	14	7.1%	50.0%	42.9%
伊丹市	10	10.0%	60.0%	30.0%	5	20.0%	40.0%	40.0%	5	0.0%	80.0%	20.0%
加古川市	17	35.3%	29.4%	35.3%	7	0.0%	42.9%	57.1%	10	60.0%	20.0%	20.0%
南あわじ市	189	23.8%	29.1%	47.1%	92	21.7%	33.7%	44.6%	97	25.8%	24.7%	49.5%
淡路市	112	19.6%	26.8%	53.6%	60	23.3%	25.0%	51.7%	52	15.4%	28.8%	55.8%
その他の市町村	66	10.6%	43.9%	45.5%	35	17.1%	42.9%	40.0%	31	3.2%	45.2%	51.6%
県外合計	534	15.6%	33.6%	50.8%	288	16.3%	30.5%	53.1%	246	14.6%	37.4%	48.0%
東京都	30	20.0%	26.7%	53.3%	16	18.8%	25.0%	56.3%	14	21.4%	28.6%	50.0%
神奈川県	15	6.7%	33.3%	60.0%	9	0.0%	33.3%	66.7%	6	16.7%	33.3%	50.0%
静岡県	11	18.2%	27.3%	54.5%	6	16.7%	33.3%	50.0%	5	20.0%	20.0%	60.0%
愛知県	20	20.0%	55.0%	25.0%	6	33.3%	16.7%	50.0%	14	14.3%	71.4%	14.3%
滋賀県	11	0.0%	72.7%	27.3%	8	0.0%	75.0%	25.0%	3	0.0%	66.7%	33.3%
京都府	44	20.5%	25.0%	54.5%	30	26.7%	20.0%	53.3%	14	7.1%	35.7%	57.1%
大阪府	171	14.6%	32.7%	52.6%	86	15.1%	27.9%	57.0%	85	14.1%	37.6%	48.2%
奈良県	31	16.1%	35.5%	48.4%	17	23.5%	29.4%	47.1%	14	7.1%	42.9%	50.0%
岡山県	19	10.5%	42.1%	47.4%	15	13.3%	46.7%	40.0%	4	0.0%	25.0%	75.0%
広島県	10	0.0%	70.0%	30.0%	6	0.0%	66.7%	33.3%	4	0.0%	75.0%	25.0%
徳島県	48	12.5%	25.0%	62.5%	27	7.4%	25.9%	66.7%	21	19.0%	23.8%	57.1%
愛媛県	13	30.8%	30.8%	38.5%	5	20.0%	20.0%	60.0%	8	37.5%	37.5%	25.0%
福岡県	14	28.6%	21.4%	50.0%	8	37.5%	37.5%	25.0%	6	16.7%	0.0%	83.3%
その他の県	97	11.3%	41.2%	47.4%	49	4.1%	44.9%	51.0%	48	18.8%	37.5%	43.8%

転出	総数				男				女			
	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上
都道府県、市区町村												
総数	1,682	16.7%	42.7%	40.6%	885	16.2%	42.1%	41.7%	797	17.3%	43.3%	39.4%
県内合計	850	20.7%	36.7%	42.6%	425	21.2%	33.6%	45.2%	425	20.2%	39.8%	40.0%
神戸市	229	17.5%	39.7%	42.8%	117	14.5%	39.3%	46.2%	112	20.5%	40.2%	39.3%
姫路市	28	17.9%	53.6%	28.6%	13	15.4%	38.5%	46.2%	15	20.0%	66.7%	13.3%
尼崎市	45	15.6%	42.2%	42.2%	19	21.1%	36.8%	42.1%	26	11.5%	46.2%	42.3%
明石市	49	14.3%	32.7%	53.1%	29	17.2%	31.0%	51.7%	20	10.0%	35.0%	55.0%
西宮市	44	4.5%	72.7%	22.7%	13	7.7%	61.5%	30.8%	31	3.2%	77.4%	19.4%
伊丹市	13	46.2%	15.4%	38.5%	8	50.0%	12.5%	37.5%	5	40.0%	20.0%	40.0%
加古川市	32	12.5%	43.8%	43.8%	16	18.8%	37.5%	43.8%	16	6.3%	50.0%	43.8%
南あわじ市	231	30.7%	24.7%	44.6%	103	34.0%	20.4%	45.6%	128	28.1%	28.1%	43.8%
淡路市	105	22.9%	25.7%	51.4%	64	18.8%	26.6%	54.7%	41	29.3%	24.4%	46.3%
その他の市町村	74	13.5%	52.7%	33.8%	43	16.3%	53.5%	30.2%	31	9.7%	51.6%	38.7%
県外合計	832	12.6%	48.8%	38.6%	460	11.5%	50.0%	38.5%	372	14.0%	47.3%	38.7%
埼玉県	24	8.3%	66.7%	25.0%	20	0.0%	70.0%	30.0%	4	50.0%	50.0%	0.0%
千葉県	26	11.5%	50.0%	38.5%	20	10.0%	50.0%	40.0%	6	16.7%	50.0%	33.3%
東京都	86	8.1%	61.6%	30.2%	52	9.6%	61.5%	28.8%	34	5.9%	61.8%	32.4%
神奈川県	49	4.1%	57.1%	38.8%	33	6.1%	57.6%	36.4%	16	0.0%	56.3%	43.8%
静岡県	18	11.1%	55.6%	33.3%	8	25.0%	37.5%	37.5%	10	0.0%	70.0%	30.0%
愛知県	41	0.0%	58.5%	41.5%	24	0.0%	54.2%	45.8%	17	0.0%	64.7%	35.3%
滋賀県	22	13.6%	45.5%	40.9%	16	6.3%	56.3%	37.5%	6	33.3%	16.7%	50.0%
京都府	54	3.7%	66.7%	29.6%	37	5.4%	67.6%	27.0%	17	0.0%	64.7%	35.3%
大阪府	259	12.4%	45.9%	41.7%	121	12.4%	43.0%	44.6%	138	12.3%	48.6%	39.1%
奈良県	19	42.1%	36.8%	21.1%	10	40.0%	40.0%	20.0%	9	44.4%	33.3%	22.2%
和歌山県	16	25.0%	25.0%	50.0%	3	33.3%	33.3%	33.3%	13	23.1%	23.1%	53.8%
岡山県	22	18.2%	50.0%	31.8%	10	10.0%	50.0%	40.0%	12	25.0%	50.0%	25.0%
広島県	21	9.5%	28.6%	61.9%	12	8.3%	25.0%	66.7%	9	11.1%	33.3%	55.6%
徳島県	39	17.9%	30.8%	51.3%	17	23.5%	23.5%	52.9%	22	13.6%	36.4%	50.0%
香川県	21	33.3%	28.6%	38.1%	10	30.0%	20.0%	50.0%	11	36.4%	36.4%	27.3%
福岡県	11	9.1%	45.5%	45.5%	4	25.0%	25.0%	50.0%	7	0.0%	57.1%	42.9%
その他の県	104	18.3%	44.2%	37.5%	63	14.3%	52.4%	33.3%	41	24.4%	31.7%	43.9%

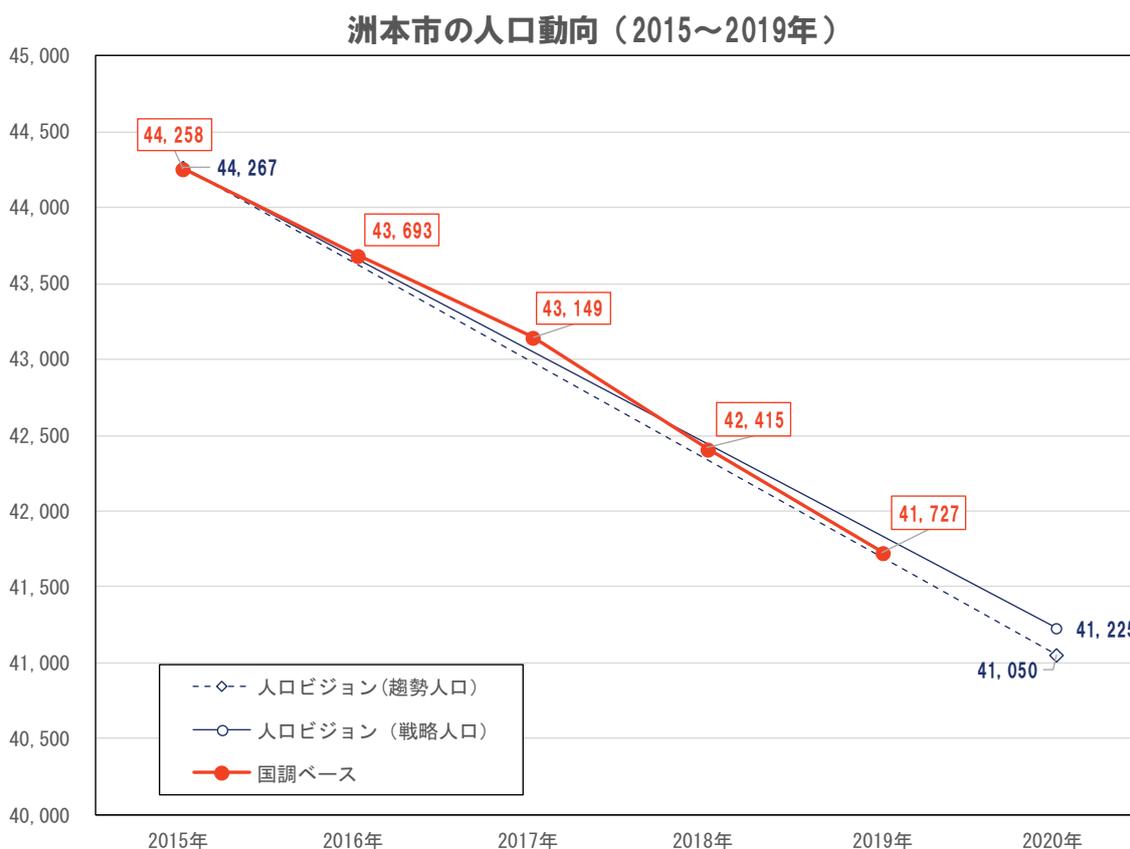
本市への転入が多い島外の都市・地域として神戸市と大阪府が挙げられますが、神戸市からの転入については20～29歳の占める比率が男性26.5%に対して女性35.5%、また、大阪府からの転入についても20～29歳の占める比率が男性27.9%に対して女性37.6%と、いずれも女性の占める比率が男性よりも10ポイント近く高くなっており、大都市部に暮らす若い女性を惹きつける定住環境的な魅力が本市にはあることが窺えます。

3. 「人口ビジョン」の検証

「人口ビジョン」で想定した趨勢人口と実際の国調ベース人口の差分は、「総合戦略」による人口減少抑制効果として捉えることができます。

2017年の169人を最高に2016～2019年の4年間で計350人の抑制効果があったものと考えられます。

一方で、2017年以降は抑制効果人数が縮小傾向にあり、来年に迫った2020年において戦略目標人口とした41,225人を達成できるかどうかは予断を許さない状況です（2020年に想定される人口については後述）。



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
人口ビジョン（趨勢人口） （a）	44,267	43,624	42,980	42,337	41,693	41,050
人口ビジョン（戦略人口） （b）	44,267	43,659	43,050	42,442	41,833	41,225
国調ベース （c）	44,258	43,693	43,149	42,415	41,727	?
総合戦略による 人口減少抑制効果 （c - a）	-9	69	169	78	34	?

※（a）（b）の2016～2019年度欄の数値は、2015年値と2020年値から直線按分的に算出される経過値

II 洲本市の趨勢人口の検討

1. 国立社会保障・人口問題研究所による推計

2015年国勢調査結果までを踏まえた国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」と言います。）の「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」に準拠した推計によると、本市の将来人口は、2020年には41,169人、2040年には3万人を割り29,239人、さらに2060年には2万人を割り18,712人にまで減少することが見込まれています。

（単位：人）

社人研 推計準拠	推計人口									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,169	38,108	35,174	32,242	29,239	26,362	23,678	21,141	18,712
0～4歳	1,469	1,307	1,119	1,006	917	835	737	634	545	476
5～9歳	1,740	1,411	1,256	1,076	969	885	807	711	612	526
10～14歳	1,959	1,679	1,362	1,213	1,039	936	855	780	688	591
15～19歳	1,947	1,671	1,432	1,162	1,034	886	798	728	665	586
20～24歳	1,408	1,357	1,161	995	805	718	613	552	504	460
25～29歳	1,617	1,589	1,548	1,353	1,159	938	836	714	643	587
30～34歳	2,051	1,614	1,590	1,558	1,363	1,168	945	842	720	648
35～39歳	2,515	1,981	1,564	1,540	1,513	1,325	1,135	919	818	701
40～44歳	2,993	2,401	1,894	1,496	1,473	1,450	1,270	1,088	881	784
45～49歳	2,780	2,913	2,336	1,844	1,457	1,436	1,415	1,240	1,062	860
50～54歳	2,702	2,689	2,820	2,259	1,785	1,411	1,391	1,372	1,202	1,029
55～59歳	2,827	2,652	2,646	2,777	2,224	1,758	1,391	1,372	1,354	1,186
60～64歳	3,471	2,806	2,644	2,647	2,782	2,226	1,761	1,393	1,374	1,355
65～69歳	4,172	3,333	2,702	2,552	2,562	2,696	2,158	1,707	1,350	1,332
70～74歳	3,021	3,942	3,156	2,568	2,432	2,449	2,581	2,065	1,634	1,292
75～79歳	2,521	2,750	3,606	2,894	2,369	2,251	2,277	2,399	1,919	1,519
80～84歳	2,418	2,143	2,361	3,131	2,517	2,080	1,990	2,015	2,122	1,697
85～89歳	1,706	1,744	1,575	1,764	2,385	1,918	1,609	1,537	1,559	1,640
90歳以上	941	1,187	1,336	1,339	1,457	1,873	1,793	1,610	1,489	1,443
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	9.8%	9.4%	9.1%	9.1%	9.1%	9.0%	8.7%	8.5%
15～64歳	54.9%	52.6%	51.5%	50.1%	48.4%	45.5%	43.8%	43.2%	43.6%	43.8%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.4%	14.6%	15.5%	17.6%	18.0%	15.9%	14.1%	14.0%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.3%	26.0%	27.1%	27.8%	29.1%	31.9%	33.5%	33.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.7%	40.5%	42.6%	45.4%	47.1%	47.9%	47.6%	47.7%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

出生パラメータ	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
子ども女性比	0.18950	0.18912	0.19530	0.19957	0.19981	0.19823	0.19662	0.19400	0.19364

※社人研推計では市町村レベルの出生推計に関して子ども女性比による手法を採用し、合計特殊出生率是用いていない。

移動パラメータ	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
生涯定住率 男	0.54861	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
生涯定住率 女	0.56848	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

[純定住率と生涯定住率について]

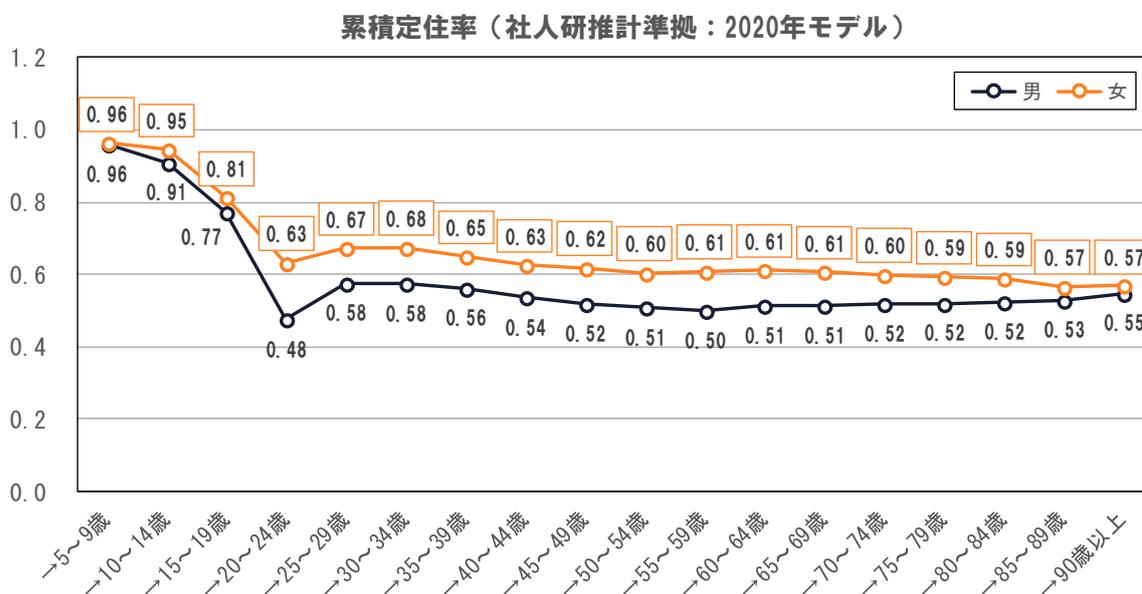
移動パラメータについては、一般的に純移動率（性別・年齢区分別）が用いられますが、ここでは、この純移動率にそれぞれ1を加算した値を純定住率として定義します。

例えば、2020年の男性の“0～4歳→5～9歳”の純定住率は「0.95926」となっており、これは2015年の“0～4歳”が2020年に“5～9歳”になる間に移動により人口が0.95926倍になることを示しています。さらに、2020年の男性の年齢別の純定住率をすべて乗じると0.54861となり、これは本市の男性の“0～4歳”人口が“90歳以上”になるまでに移動により0.54861倍になることを示しています（生涯定住率）。

移動パラメータ	仮定値(社人研推計準拠)								
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
純定住率 男									
0～4歳→5～9歳	0.95926	0.96075	0.96135	0.96244	0.96353	0.96443	0.96443	0.96443	0.96443
5～9歳→10～14歳	0.94921	0.94952	0.94965	0.94969	0.94981	0.94992	0.94992	0.94992	0.94992
10～14歳→15～19歳	0.84812	0.84759	0.84745	0.84735	0.84697	0.84670	0.84670	0.84670	0.84670
15～19歳→20～24歳	0.61556	0.61575	0.61518	0.61489	0.61470	0.61412	0.61412	0.61412	0.61412
20～24歳→25～29歳	1.21479	1.22866	1.23276	1.23383	1.23477	1.23616	1.23616	1.23616	1.23616
25～29歳→30～34歳	0.99660	0.99932	1.00406	1.00555	1.00533	1.00559	1.00559	1.00559	1.00559
30～34歳→35～39歳	0.97710	0.97984	0.98022	0.98271	0.98344	0.98349	0.98349	0.98349	0.98349
35～39歳→40～44歳	0.95398	0.95462	0.95534	0.95530	0.95659	0.95699	0.95699	0.95699	0.95699
40～44歳→45～49歳	0.96860	0.96775	0.96780	0.96837	0.96825	0.96926	0.96926	0.96926	0.96926
45～49歳→50～54歳	0.97697	0.97781	0.97591	0.97591	0.97662	0.97670	0.97670	0.97670	0.97670
50～54歳→55～59歳	0.98635	0.98734	0.98743	0.98657	0.98655	0.98680	0.98680	0.98680	0.98680
55～59歳→60～64歳	1.02701	1.03143	1.03475	1.03459	1.03215	1.03235	1.03235	1.03235	1.03235
60～64歳→65～69歳	0.99952	0.99987	1.00121	1.00243	1.00204	1.00113	1.00113	1.00113	1.00113
65～69歳→70～74歳	1.01099	1.00985	1.01165	1.01292	1.01431	1.01383	1.01383	1.01383	1.01383
70～74歳→75～79歳	1.00154	1.00201	0.99942	1.00064	1.00158	1.00261	1.00261	1.00261	1.00261
75～79歳→80～84歳	1.00638	1.00570	1.00933	1.00177	1.00286	1.00488	1.00488	1.00488	1.00488
80～84歳→85～89歳	1.01147	1.01122	1.01055	1.01544	1.00348	1.00513	1.00513	1.00513	1.00513
85歳以上→90歳以上	1.03559	1.03109	1.02512	1.02400	1.03323	1.00785	1.00785	1.00785	1.00785
生涯定住率(累積)	0.54861	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
純定住率 女									
0～4歳→5～9歳	0.96273	0.96366	0.96428	0.96539	0.96647	0.96736	0.96736	0.96736	0.96736
5～9歳→10～14歳	0.98214	0.98356	0.98359	0.98373	0.98411	0.98450	0.98450	0.98450	0.98450
10～14歳→15～19歳	0.85950	0.85894	0.85889	0.85844	0.85789	0.85746	0.85746	0.85746	0.85746
15～19歳→20～24歳	0.77975	0.77936	0.77759	0.77701	0.77552	0.77351	0.77351	0.77351	0.77351
20～24歳→25～29歳	1.06141	1.07730	1.11314	1.11265	1.11314	1.11157	1.11157	1.11157	1.11157
25～29歳→30～34歳	1.00462	1.00651	1.01259	1.01270	1.01259	1.01348	1.01348	1.01348	1.01348
30～34歳→35～39歳	0.96089	0.96314	0.96339	0.96628	0.96627	0.96655	0.96655	0.96655	0.96655
35～39歳→40～44歳	0.96377	0.96436	0.96497	0.96485	0.96633	0.96630	0.96630	0.96630	0.96630
40～44歳→45～49歳	0.99016	0.99004	0.98996	0.99024	0.99008	0.99126	0.99126	0.99126	0.99126
45～49歳→50～54歳	0.97599	0.97627	0.97584	0.97577	0.97591	0.97598	0.97598	0.97598	0.97598
50～54歳→55～59歳	1.00671	1.00819	1.00872	1.00778	1.00763	1.00796	1.00796	1.00796	1.00796
55～59歳→60～64歳	1.00442	1.00651	1.00802	1.00849	1.00766	1.00764	1.00764	1.00764	1.00764
60～64歳→65～69歳	0.99288	0.99313	0.99389	0.99457	0.99466	0.99424	0.99424	0.99424	0.99424
65～69歳→70～74歳	0.98828	0.98757	0.98795	0.98821	0.98843	0.98823	0.98823	0.98823	0.98823
70～74歳→75～79歳	0.98950	0.99006	0.98838	0.98869	0.98945	0.99017	0.99017	0.99017	0.99017
75～79歳→80～84歳	0.99102	0.99160	0.99402	0.98952	0.99024	0.99162	0.99162	0.99162	0.99162
80～84歳→85～89歳	0.96484	0.96545	0.96697	0.97094	0.96217	0.96344	0.96344	0.96344	0.96344
85歳以上→90歳以上	1.00139	0.99676	0.98982	0.99062	1.00060	0.97857	0.97857	0.97857	0.97857
生涯定住率(累積)	0.56848	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

同様に、例えば、“0～4歳→5～9歳”から“20～24歳→25～29歳”までのすべての純定住率を乗じることで、“0～4歳”人口が“25～29歳”になるまでに移動によるどの程度に変化するかを示す値として捉えることができます（累積定住率）。

こうした考え方にに基づき、社人研推計準拠による本市の移動特性を累積定住率として示すと次のとおりです。



これをみると、男女ともに“15～19歳→20～24歳”における転出が大きく、“20～24歳→25～29歳”ではUターン等による転入によりいくらか盛り返し、その後はおおそ安定的に推移することがわかります。

また、“15～19歳→20～24歳”において男性の累積定住率は0.48にまで下がるのに対し、女性ではこれが0.63の水準であることを含め、すべての年代において女性の累積定住率が男性のそれを上回っています。出生に大きく関わる女性の定住率が男性を上回ることを本市の強みとして捉えることもできそうです。

2. 趨勢人口の推計

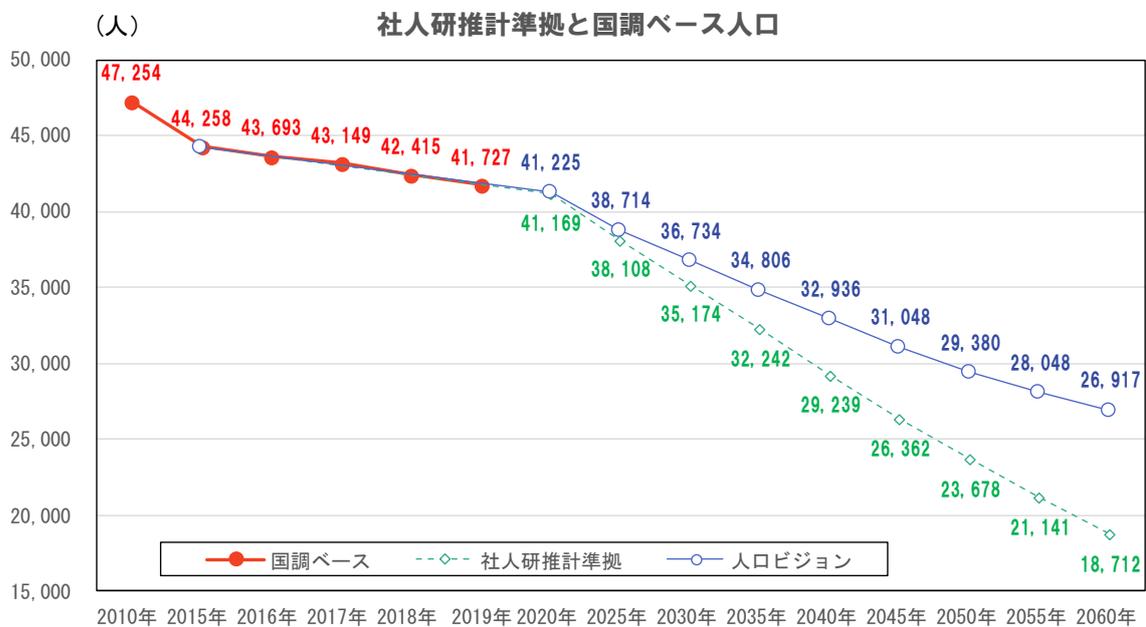
趨勢人口とは、今後、特段の人口政策効果等を見込まない場合に将来的に想定される人口のことです。

先に示した社人研推計準拠による将来人口は、考え方としてはこの趨勢人口に相当しますが、ここでは、これをベースに、2015年以降の人口動向を踏まえた検討・推計を行います。

(1) 「兵庫県推計人口」に基づく社人研推計準拠の検証

兵庫県では、国勢調査の人口を基に、住民基本台帳法の規定に基づく移動状況を加減して推計された市町別人口を毎月（各月1日現在）、集計・公表しており、これは市町の国調ベースの人口として見なすことができます。

この「兵庫県推計人口」による本市の2015年以降の国調ベース人口と社人研推計準拠による推計を比較すると、次のようになっています。



国調ベース人口の年間変化率をみると98%台で推移しており、仮に2019年の変化率で推移すると2020年の人口は41,050人程度となることが想定されます。

これは、社人研が想定する2020年の人口41,169人を100人以上下回るため、本市の趨勢人口としては2020年の人口が41,050人程度となるような補正を行う必要があります。

(単位：人)

総人口	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
社人研推計準拠	44,258					41,169
国調ベース	44,258	43,693	43,149	42,415	41,727	41,050

年間変化率	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
		98.7%	98.8%	98.3%	98.4%

(2) 社人研推計準拠の補正による趨勢人口

社人研推計準拠において採用された各種パラメータの修正・調整等を通して、2020年の推計人口が41,050人程度となるように補正を行い、これを本市の趨勢人口とします。

[出生パラメータについて]

社人研推計準拠では、合計特殊出生率ではなく、子ども女性比を用いた推計を行っていますが、趨勢人口の推計においては、パラメータとしての認知度の高さ等を踏まえ、合計特殊出生率を用いる手法に変更します。

社人研推計準拠では、出生数の推計に合計特殊出生率を用いていないものの、子ども女性比の仮定値から経験的に換算される合計特殊出生率を参考値として示しており、この換算された合計特殊出生率を踏まえ、本市において今後趨勢的に想定される合計特殊出生率を次表のように算出し、仮定値として用います。なお、2015年欄の合計特殊出生率は、2015年国勢調査結果より想定される本市の2010～2015年の合計特殊出生率水準です。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
子ども女性比	0.18833	0.18950	0.18912	0.19530	0.19957	0.19981	0.19823	0.19823	0.19823	0.19823
子ども女性比から 合計特殊出生率への換算率		7.43397	7.37580	7.16962	7.04755	7.05330	7.12486	7.18316	7.28024	7.29372
換算率を用いた 合計特殊出生率の変化分		0.01	0.00	0.04	0.03	0.00	-0.01	0.00	0.00	0.00



合計特殊出生率	1.54	1.55	1.55	1.59	1.62	1.62	1.61	1.61	1.61	1.61
---------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

※子ども女性比は、社人研の仮定値であり、社人研では合計特殊出生率を用いた推計を行っていない。
 ※換算率は、国配布の人口推計ツールにおいて仮定されている子ども女性比から合計特殊出生率への換算率。
 ※2015年の合計特殊出生率は、2015年の国勢調査結果より想定される2010～2015年の合計特殊出生率。

[死亡パラメータについて]

死亡パラメータについては、社人研推計準拠において仮定された生残率をそのまま用いることとします。

[移動パラメータについて]

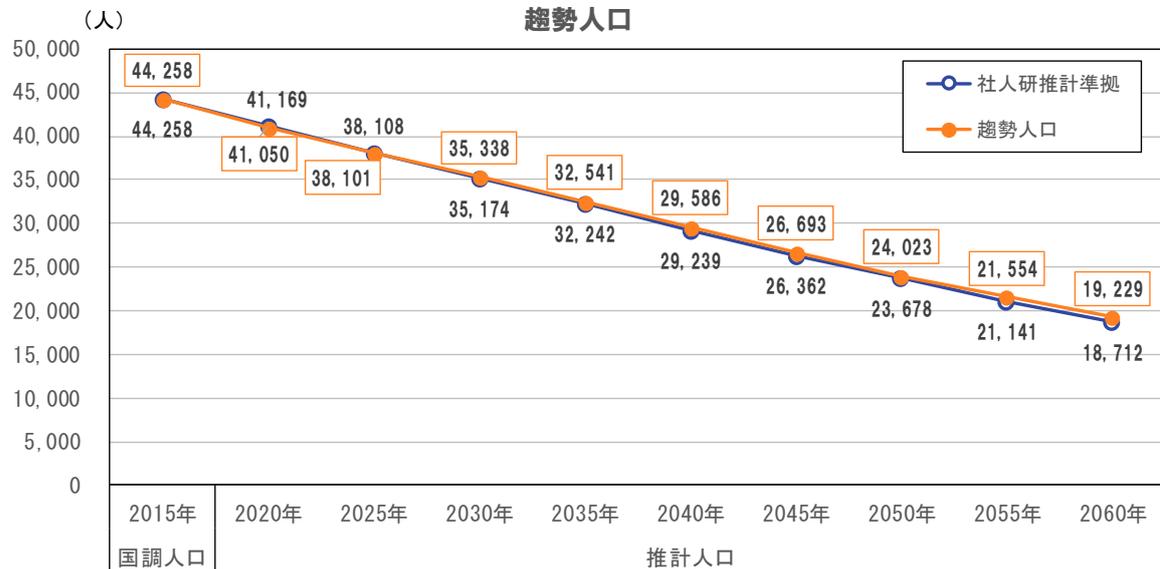
上記の出生パラメータ、死亡パラメータを採用・設定した上で、移動パラメータとしての生涯定住率の操作により、2020年の人口が41,050人程度となるように、社人研の純移動率仮定値に基づく2020年の純定住率を補正しました（補正率95.5%）。

こうした補正を行った純定住率については、次のとおりです。

移動パラメータ	仮定値(趨勢人口)								
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
純定住率 男									
0～4歳→5～9歳	0.95681	0.96075	0.96135	0.96244	0.96353	0.96443	0.96443	0.96443	0.96443
5～9歳→10～14歳	0.94679	0.94952	0.94965	0.94969	0.94981	0.94992	0.94992	0.94992	0.94992
10～14歳→15～19歳	0.84595	0.84759	0.84745	0.84735	0.84697	0.84670	0.84670	0.84670	0.84670
15～19歳→20～24歳	0.61399	0.61575	0.61518	0.61489	0.61470	0.61412	0.61412	0.61412	0.61412
20～24歳→25～29歳	1.21169	1.22866	1.23276	1.23383	1.23477	1.23616	1.23616	1.23616	1.23616
25～29歳→30～34歳	0.99405	0.99932	1.00406	1.00555	1.00533	1.00559	1.00559	1.00559	1.00559
30～34歳→35～39歳	0.97460	0.97984	0.98022	0.98271	0.98344	0.98349	0.98349	0.98349	0.98349
35～39歳→40～44歳	0.95154	0.95462	0.95534	0.95530	0.95659	0.95699	0.95699	0.95699	0.95699
40～44歳→45～49歳	0.96613	0.96775	0.96780	0.96837	0.96825	0.96926	0.96926	0.96926	0.96926
45～49歳→50～54歳	0.97447	0.97781	0.97591	0.97591	0.97662	0.97670	0.97670	0.97670	0.97670
50～54歳→55～59歳	0.98383	0.98734	0.98743	0.98657	0.98655	0.98680	0.98680	0.98680	0.98680
55～59歳→60～64歳	1.02439	1.03143	1.03475	1.03459	1.03215	1.03235	1.03235	1.03235	1.03235
60～64歳→65～69歳	0.99697	0.99987	1.00121	1.00243	1.00204	1.00113	1.00113	1.00113	1.00113
65～69歳→70～74歳	1.00841	1.00985	1.01165	1.01292	1.01431	1.01383	1.01383	1.01383	1.01383
70～74歳→75～79歳	0.99898	1.00201	0.99942	1.00064	1.00158	1.00261	1.00261	1.00261	1.00261
75～79歳→80～84歳	1.00381	1.00570	1.00933	1.00177	1.00286	1.00488	1.00488	1.00488	1.00488
80～84歳→85～89歳	1.00889	1.01122	1.01055	1.01544	1.00348	1.00513	1.00513	1.00513	1.00513
85歳以上→90歳以上	1.03294	1.03109	1.02512	1.02400	1.03323	1.00785	1.00785	1.00785	1.00785
生涯定住率(累積)	0.52393	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
純定住率 女									
0～4歳→5～9歳	0.96027	0.96366	0.96428	0.96539	0.96647	0.96736	0.96736	0.96736	0.96736
5～9歳→10～14歳	0.97963	0.98356	0.98359	0.98373	0.98411	0.98450	0.98450	0.98450	0.98450
10～14歳→15～19歳	0.85730	0.85894	0.85889	0.85844	0.85789	0.85746	0.85746	0.85746	0.85746
15～19歳→20～24歳	0.77776	0.77936	0.77759	0.77701	0.77552	0.77351	0.77351	0.77351	0.77351
20～24歳→25～29歳	1.05870	1.07730	1.11314	1.11265	1.11314	1.11157	1.11157	1.11157	1.11157
25～29歳→30～34歳	1.00205	1.00651	1.01259	1.01270	1.01259	1.01348	1.01348	1.01348	1.01348
30～34歳→35～39歳	0.95844	0.96314	0.96339	0.96628	0.96627	0.96655	0.96655	0.96655	0.96655
35～39歳→40～44歳	0.96131	0.96436	0.96497	0.96485	0.96633	0.96630	0.96630	0.96630	0.96630
40～44歳→45～49歳	0.98763	0.99004	0.98996	0.99024	0.99008	0.99126	0.99126	0.99126	0.99126
45～49歳→50～54歳	0.97350	0.97627	0.97584	0.97577	0.97591	0.97598	0.97598	0.97598	0.97598
50～54歳→55～59歳	1.00414	1.00819	1.00872	1.00778	1.00763	1.00796	1.00796	1.00796	1.00796
55～59歳→60～64歳	1.00185	1.00651	1.00802	1.00849	1.00766	1.00764	1.00764	1.00764	1.00764
60～64歳→65～69歳	0.99034	0.99313	0.99389	0.99457	0.99466	0.99424	0.99424	0.99424	0.99424
65～69歳→70～74歳	0.98576	0.98757	0.98795	0.98821	0.98843	0.98823	0.98823	0.98823	0.98823
70～74歳→75～79歳	0.98697	0.99006	0.98838	0.98869	0.98945	0.99017	0.99017	0.99017	0.99017
75～79歳→80～84歳	0.98849	0.99160	0.99402	0.98952	0.99024	0.99162	0.99162	0.99162	0.99162
80～84歳→85～89歳	0.96238	0.96545	0.96697	0.97094	0.96217	0.96344	0.96344	0.96344	0.96344
85歳以上→90歳以上	0.99883	0.99676	0.98982	0.99062	1.00060	0.97857	0.97857	0.97857	0.97857
生涯定住率(累積)	0.54290	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

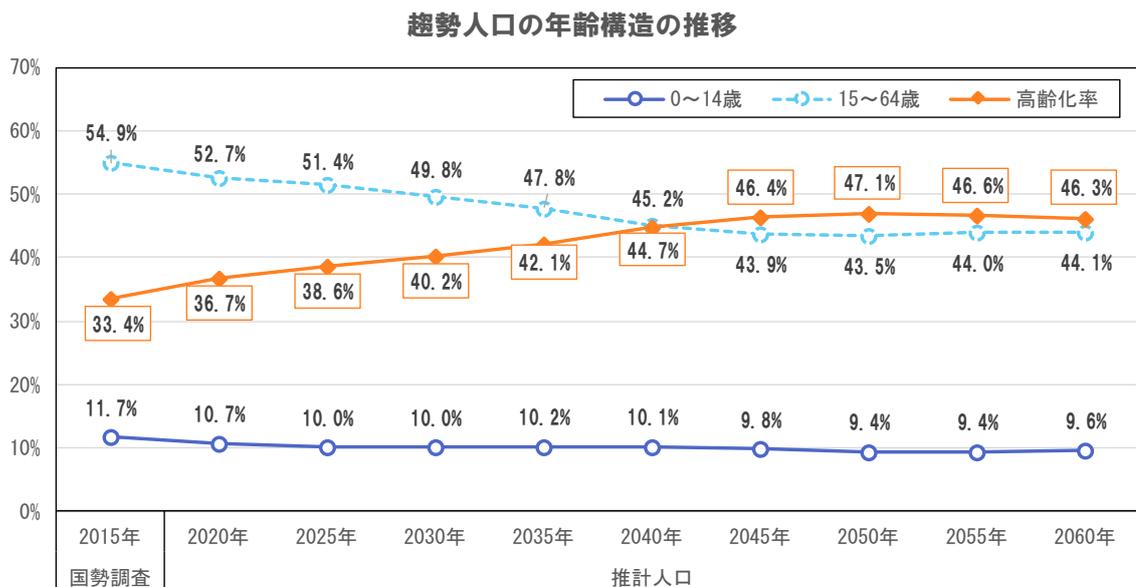
[補正による趨勢人口]

こうした補正により、本市の趨勢人口は次のようになり、2020年に41,050人となった後、2040年には29,586人、2060年には19,229人へと減少することが想定されます。



また、年齢別の動向については、年少人口（0～14歳）は徐々に減少するものの概ね10%前後の水準で推移し、生産年齢人口（15～64歳）については2050年までに43.5%にまで減少した後はほぼ安定的に推移することが想定されます。

一方、老年人口（65歳以上）の高齢化率については2050年に47.1%に達し、その後は緩やかに減少する見込みです。



(単位：人)

趨勢人口	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229
0～4歳	1,469	1,297	1,216	1,166	1,049	895	765	689	638	587
5～9歳	1,740	1,407	1,247	1,170	1,123	1,012	864	739	665	616
10～14歳	1,959	1,674	1,358	1,205	1,131	1,085	978	835	714	643
15～19歳	1,947	1,667	1,428	1,158	1,027	964	924	833	711	608
20～24歳	1,408	1,354	1,159	992	802	712	667	640	577	492
25～29歳	1,617	1,585	1,545	1,350	1,155	935	829	777	745	673
30～34歳	2,051	1,610	1,586	1,555	1,360	1,164	942	835	783	751
35～39歳	2,515	1,977	1,560	1,537	1,510	1,323	1,132	916	812	761
40～44歳	2,993	2,395	1,890	1,492	1,470	1,447	1,269	1,085	878	778
45～49歳	2,780	2,906	2,330	1,840	1,453	1,433	1,412	1,239	1,059	857
50～54歳	2,702	2,681	2,813	2,253	1,781	1,407	1,388	1,369	1,201	1,026
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,770	2,218	1,754	1,387	1,369	1,351	1,185
60～64歳	3,471	2,799	2,638	2,640	2,775	2,220	1,757	1,389	1,371	1,352
65～69歳	4,172	3,325	2,695	2,546	2,556	2,689	2,152	1,703	1,346	1,329
70～74歳	3,021	3,930	3,148	2,562	2,427	2,443	2,574	2,060	1,630	1,288
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,888	2,363	2,246	2,273	2,392	1,914	1,516
80～84歳	2,418	2,136	2,354	3,122	2,512	2,075	1,986	2,012	2,116	1,692
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,759	2,378	1,915	1,606	1,534	1,557	1,635
90歳以上	941	1,180	1,330	1,333	1,451	1,867	1,788	1,607	1,486	1,440
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.0%	10.0%	10.2%	10.1%	9.8%	9.4%	9.4%	9.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.4%	49.8%	47.8%	45.2%	43.9%	43.5%	44.0%	44.1%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.3%	14.5%	15.3%	17.3%	17.7%	15.7%	13.8%	13.6%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.2%	25.8%	26.7%	27.4%	28.7%	31.4%	32.8%	32.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.6%	40.2%	42.1%	44.7%	46.4%	47.1%	46.6%	46.3%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

Ⅲ 洲本市の将来人口シミュレーション

1. 将来人口シミュレーションについて

趨勢人口をベースに、今後の人口減少対策の効果等を想定した将来人口のシミュレーションを行います。

人口シミュレーション（シナリオ1～シナリオ3）における出生・死亡・移動に関する仮定は次のとおりです。

[出生パラメータ]

出生に関しては、現行「人口ビジョン」における設定を踏まえ、シナリオ1～シナリオ3のいずれにおいても、合計特殊出生率が2025年に1.80、2030年以降は2.10と仮定します。

[死亡パラメータ]

死亡に関しては、シナリオ1～シナリオ3のいずれにおいても、趨勢人口において採用した社人研推計準拠による生残率仮定値を採用します。

[移動パラメータ]

移動に関しては、年代別の累積定住率について次のように仮定します。

累積定住率	0～4歳⇒10～14歳	10～14歳⇒25～29歳	25～29歳⇒90歳以上
趨勢人口	全期間を通し、男性が0.91程度、女性が0.95程度の水準	全期間を通し、男性が0.63程度、女性が0.72程度の水準	全期間を通し、男性が0.93程度、女性が0.83程度の水準
シナリオ1	趨勢人口の仮定と同様	趨勢人口の仮定と同様	趨勢人口の仮定と同様
シナリオ2	男女ともに2040年までに1.0に上昇（以降1.0維持）	男女ともに2040年までに0.95に上昇、2060年までに1.0に上昇	男女ともに2040年までに1.0に上昇（以降1.0維持）
シナリオ3	男女ともに2035年までに1.0に上昇（以降1.0維持）	男女ともに2035年までに0.95に上昇、2045年までに1.0に上昇	男女ともに2035年までに1.0に上昇（以降1.0維持）

生涯定住率としてみると次のようになります。

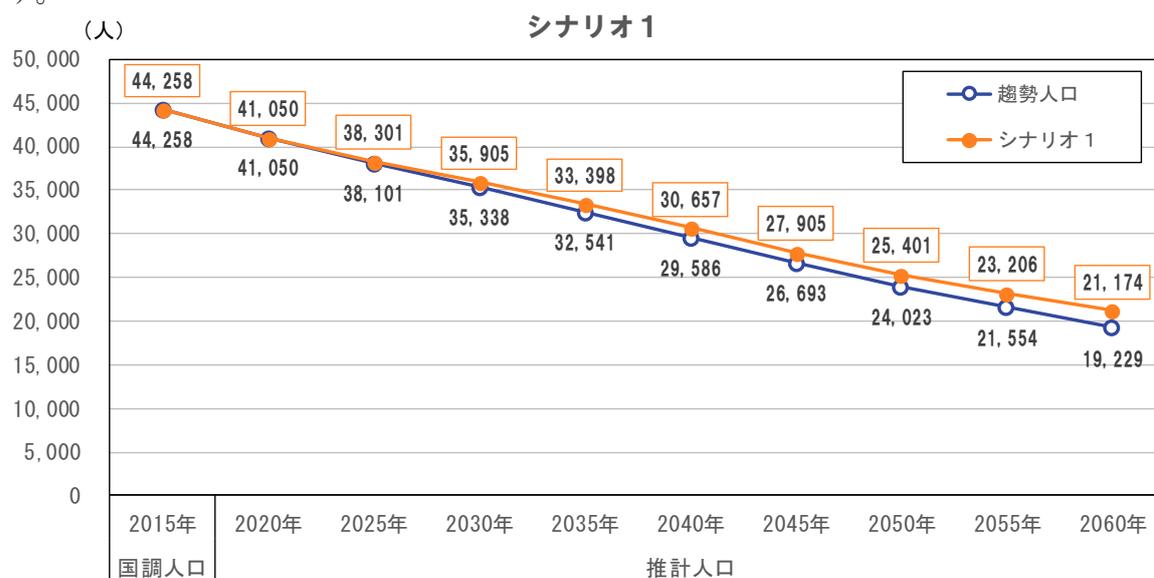
趨勢人口	生涯定住率は2060年で男性0.56程度、女性0.59程度
シナリオ1	生涯定住率は2060年で男性0.56程度、女性0.59程度
シナリオ2	生涯定住率が男女ともに2060年には1.00に上昇
シナリオ3	生涯定住率が男女ともに2045年には1.00に上昇

2. 将来人口シミュレーション結果

(1) シナリオ1

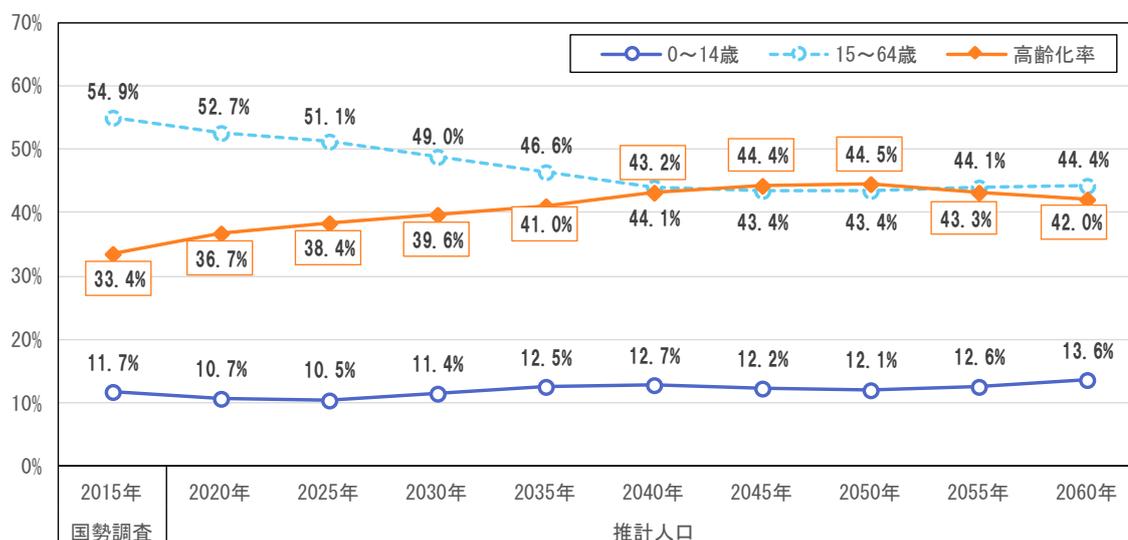
シナリオ1は、移動については趨勢人口と同様で、合計特殊出生率のみが上昇することを想定したシナリオです。

合計特殊出生率が上昇することで、趨勢人口に比べ人口減少がやや緩やかになります。2060年に想定される人口は21,174人で、趨勢人口に比べ1,900人程度の増加にとどまります。



年齢構造については、合計特殊出生率が改善することで、年少人口の減少が抑制され、2060年において13.6%に回復することが想定されるとともに、高齢化率についても2050年の44.5%をピークに2060年には42.0%に減少することが想定されます。

シナリオ1の年齢構造の推移

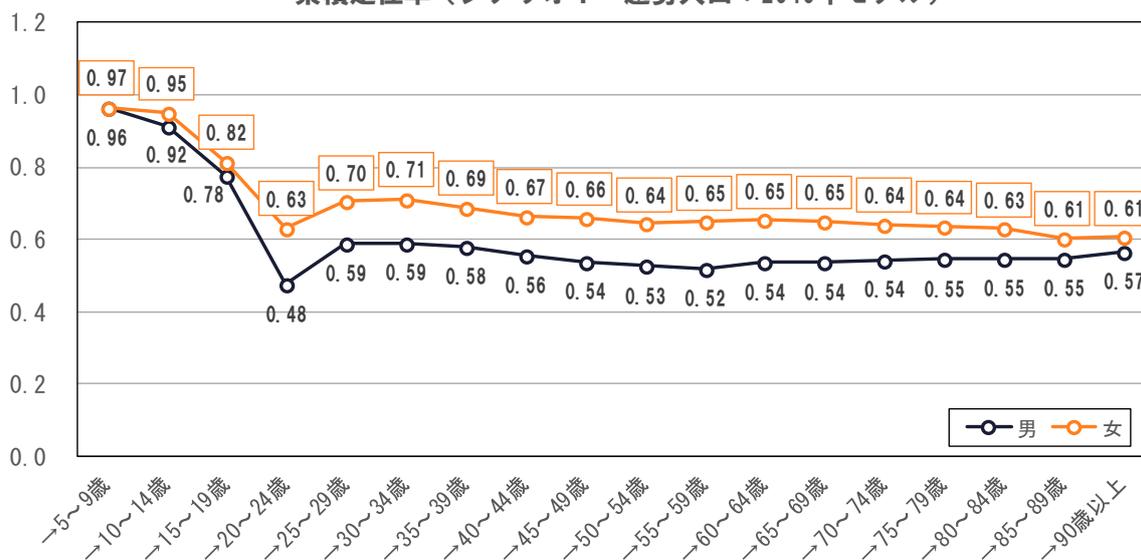


(単位：人)

シナリオ 1	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,301	35,905	33,398	30,657	27,905	25,401	23,206	21,174
0～4歳	1,469	1,297	1,416	1,541	1,359	1,161	1,024	991	1,007	979
5～9歳	1,740	1,407	1,247	1,362	1,485	1,310	1,121	988	957	972
10～14歳	1,959	1,674	1,358	1,205	1,316	1,435	1,266	1,083	955	925
15～19歳	1,947	1,667	1,428	1,158	1,027	1,121	1,222	1,078	922	813
20～24歳	1,408	1,354	1,159	992	802	712	777	846	747	638
25～29歳	1,617	1,585	1,545	1,350	1,155	935	829	905	985	870
30～34歳	2,051	1,610	1,586	1,555	1,360	1,164	942	835	912	992
35～39歳	2,515	1,977	1,560	1,537	1,510	1,323	1,132	916	812	887
40～44歳	2,993	2,395	1,890	1,492	1,470	1,447	1,269	1,085	878	778
45～49歳	2,780	2,906	2,330	1,840	1,453	1,433	1,412	1,239	1,059	857
50～54歳	2,702	2,681	2,813	2,253	1,781	1,407	1,388	1,369	1,201	1,026
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,770	2,218	1,754	1,387	1,369	1,351	1,185
60～64歳	3,471	2,799	2,638	2,640	2,775	2,220	1,757	1,389	1,371	1,352
65～69歳	4,172	3,325	2,695	2,546	2,556	2,689	2,152	1,703	1,346	1,329
70～74歳	3,021	3,930	3,148	2,562	2,427	2,443	2,574	2,060	1,630	1,288
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,888	2,363	2,246	2,273	2,392	1,914	1,516
80～84歳	2,418	2,136	2,354	3,122	2,512	2,075	1,986	2,012	2,116	1,692
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,759	2,378	1,915	1,606	1,534	1,557	1,635
90歳以上	941	1,180	1,330	1,333	1,451	1,867	1,788	1,607	1,486	1,440
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.5%	11.4%	12.5%	12.7%	12.2%	12.1%	12.6%	13.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.1%	49.0%	46.6%	44.1%	43.4%	43.4%	44.1%	44.4%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.3%	14.2%	14.9%	16.7%	16.9%	14.8%	12.8%	12.4%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.1%	25.4%	26.1%	26.4%	27.4%	29.7%	30.5%	29.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.4%	39.6%	41.0%	43.2%	44.4%	44.5%	43.3%	42.0%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

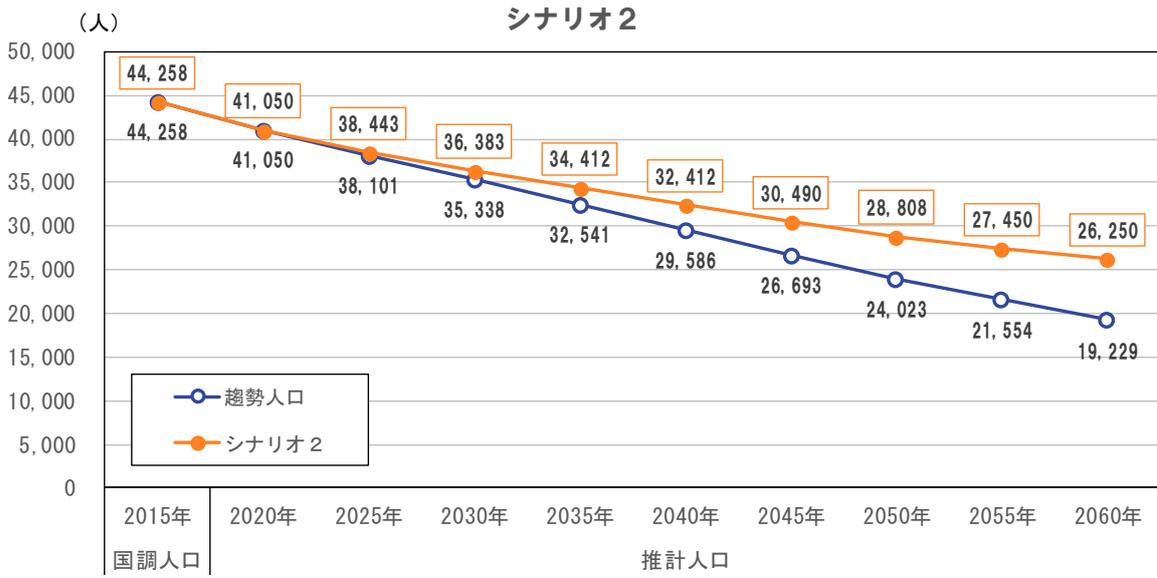
累積定住率（シナリオ1＝趨勢人口：2040年モデル）



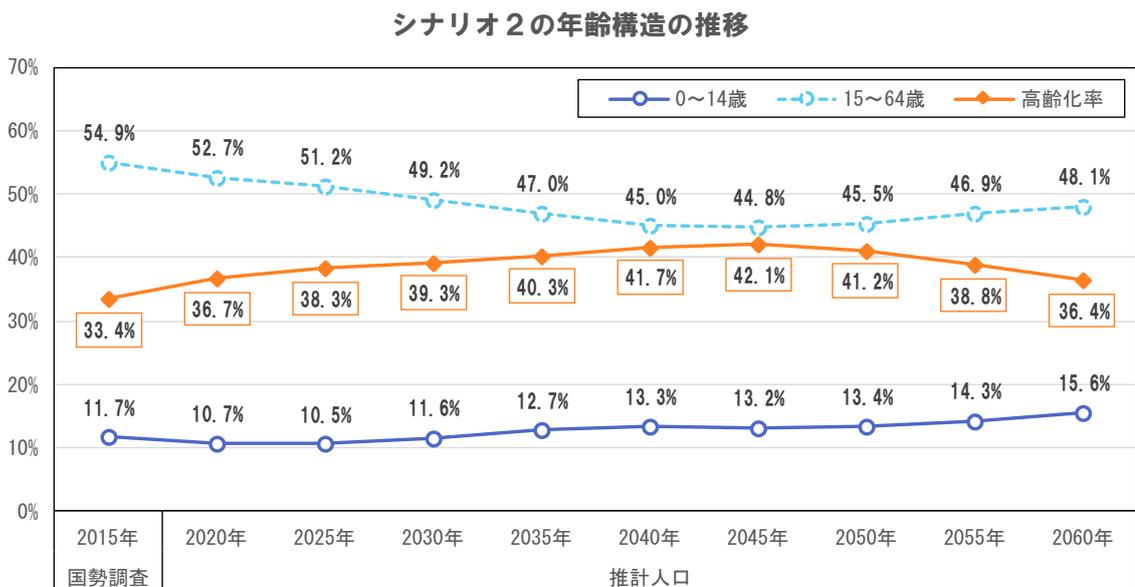
(2) シナリオ 2

シナリオ 2 は、合計特殊出生率の上昇に加えて、生涯定住率が 2060 年までに 1.00 に上昇することを想定したシナリオです。

生涯定住率が上昇していくことで、シナリオ 1 に比べてさらに人口減少が緩やかになり、2060 年に想定される人口は 26,250 人と、趨勢人口に比べ 7,000 人程度の増加が想定されます。



年齢構造については、年少人口が 2060 年において 15.6% にまで上昇するとともに、高齢化率についても 2045 年の 42.1% をピークに 2060 年には 36.4% に減少することが想定されます。

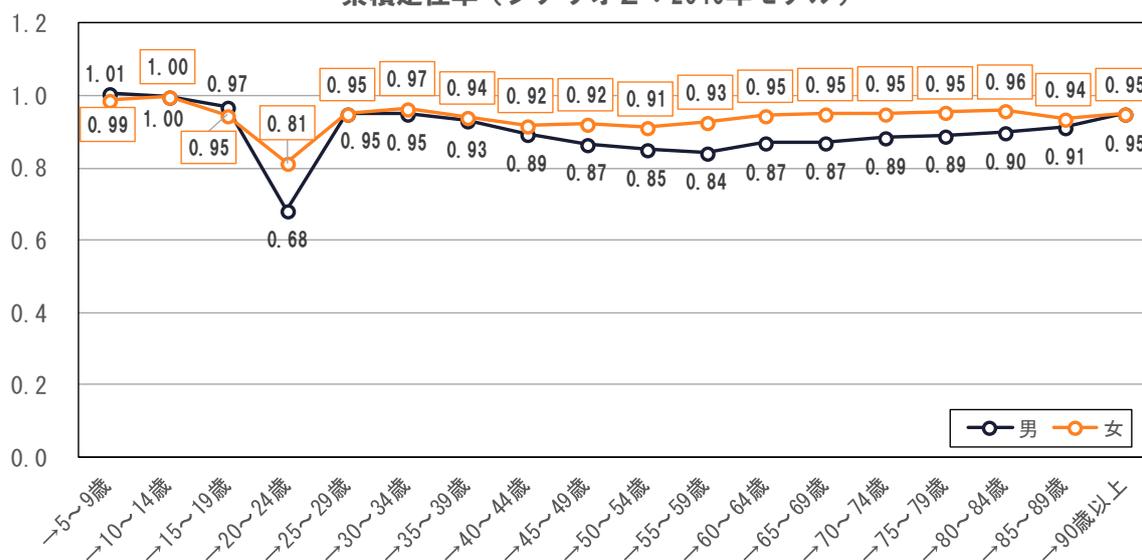


(単位：人)

シナリオ 2	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,443	36,383	34,412	32,412	30,490	28,808	27,450	26,250
0～4歳	1,469	1,297	1,426	1,576	1,447	1,319	1,248	1,288	1,383	1,418
5～9歳	1,740	1,407	1,255	1,394	1,556	1,444	1,315	1,245	1,284	1,379
10～14歳	1,959	1,674	1,367	1,233	1,384	1,559	1,447	1,317	1,247	1,286
15～19歳	1,947	1,667	1,474	1,241	1,152	1,326	1,500	1,399	1,278	1,215
20～24歳	1,408	1,354	1,194	1,090	940	897	1,036	1,177	1,102	1,011
25～29歳	1,617	1,585	1,573	1,434	1,345	1,194	1,144	1,327	1,515	1,425
30～34歳	2,051	1,610	1,584	1,576	1,440	1,355	1,203	1,152	1,337	1,526
35～39歳	2,515	1,977	1,556	1,536	1,532	1,404	1,321	1,173	1,123	1,303
40～44歳	2,993	2,395	1,889	1,491	1,477	1,478	1,353	1,273	1,131	1,082
45～49歳	2,780	2,906	2,332	1,846	1,461	1,453	1,455	1,331	1,252	1,112
50～54歳	2,702	2,681	2,812	2,264	1,799	1,427	1,420	1,423	1,301	1,224
55～59歳	2,827	2,646	2,636	2,775	2,241	1,787	1,418	1,412	1,416	1,293
60～64歳	3,471	2,799	2,631	2,631	2,781	2,253	1,798	1,427	1,421	1,425
65～69歳	4,172	3,325	2,696	2,545	2,556	2,712	2,199	1,756	1,394	1,389
70～74歳	3,021	3,930	3,152	2,571	2,439	2,462	2,616	2,121	1,695	1,345
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,906	2,389	2,280	2,310	2,454	1,989	1,590
80～84歳	2,418	2,136	2,355	3,123	2,555	2,125	2,038	2,068	2,195	1,779
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,766	2,382	1,983	1,671	1,601	1,627	1,726
90歳以上	941	1,180	1,346	1,385	1,536	1,954	1,998	1,864	1,760	1,722
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.5%	11.6%	12.7%	13.3%	13.2%	13.4%	14.3%	15.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.0%	45.0%	44.8%	45.5%	46.9%	48.1%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.2%	14.1%	14.5%	16.0%	15.8%	13.5%	11.3%	10.4%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.1%	25.2%	25.8%	25.7%	26.3%	27.7%	27.6%	26.0%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.3%	39.3%	40.3%	41.7%	42.1%	41.2%	38.8%	36.4%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

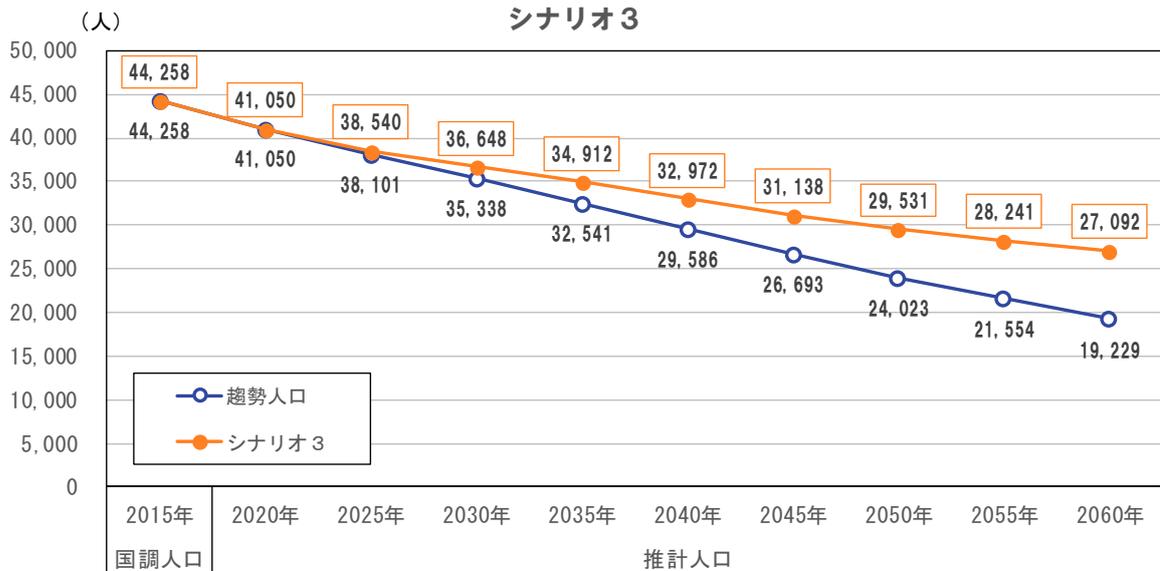
累積定住率（シナリオ 2：2040年モデル）



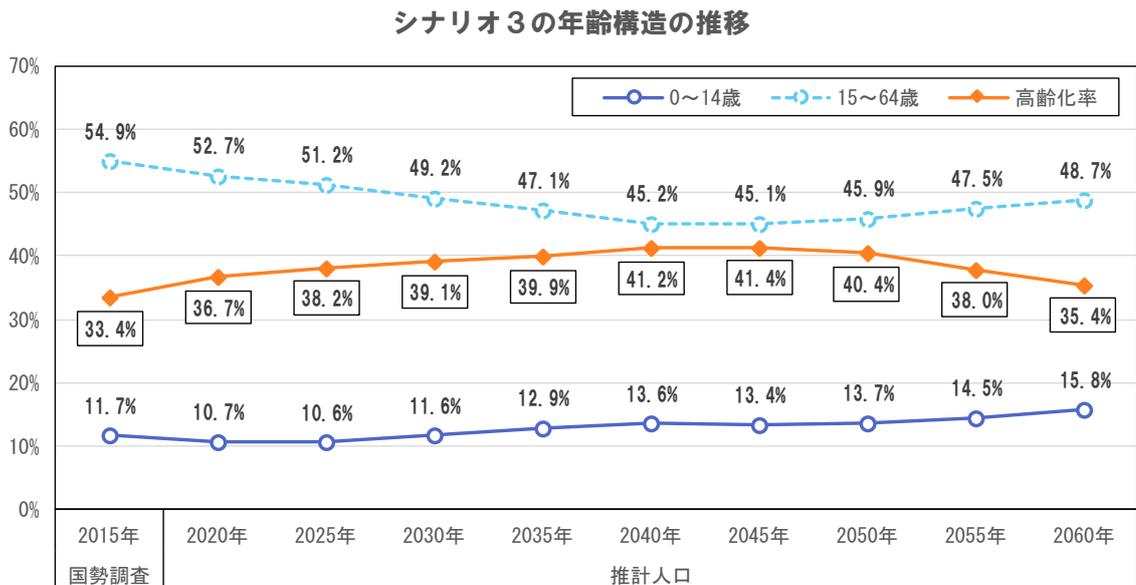
(3) シナリオ 3

シナリオ 3は、合計特殊出生率の上昇に加えて、生涯定住率が 2045 年までに 1.00 に上昇することを想定したシナリオです。

生涯定住率がシナリオ 2 よりも早い段階で 1.00 に上昇することで、シナリオ 2 よりも人口減少が緩やかになり、2060 年に想定される人口は 27,092 人と、趨勢人口に比べ 7,800 人程度の増加が想定されます。



年齢構造については、年少人口が 2060 年において 15.8%にまで上昇するとともに、高齢化率についても 2045 年の 41.4%をピークに 2060 年には 35.4%に減少することが想定されます。

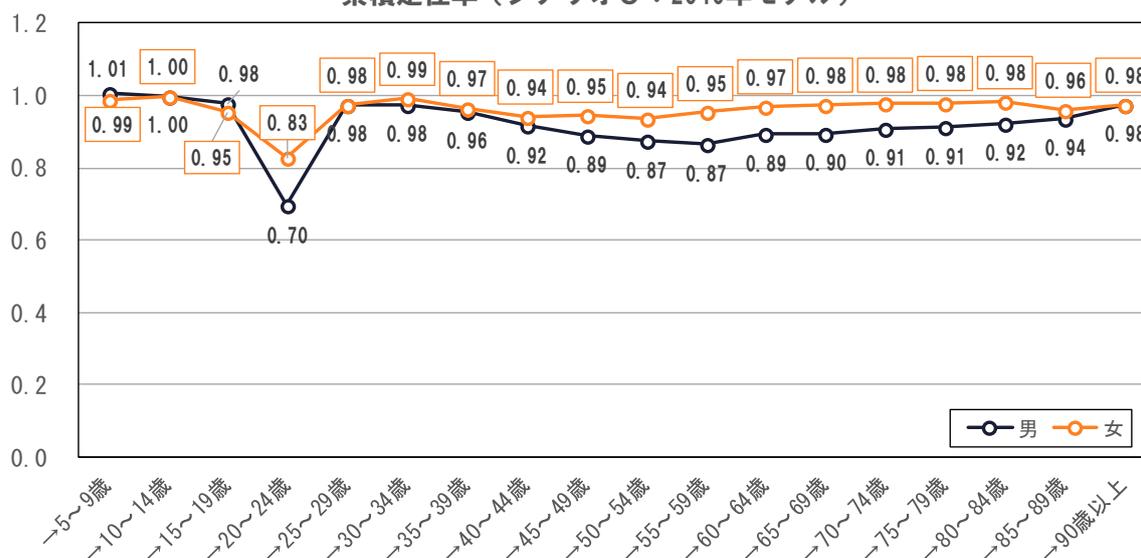


(単位：人)

シナリオ 3	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092
0～4歳	1,469	1,297	1,434	1,603	1,496	1,377	1,308	1,353	1,453	1,487
5～9歳	1,740	1,407	1,260	1,412	1,599	1,492	1,373	1,304	1,349	1,450
10～14歳	1,959	1,674	1,372	1,246	1,415	1,602	1,495	1,376	1,306	1,351
15～19歳	1,947	1,667	1,490	1,270	1,194	1,367	1,562	1,458	1,342	1,273
20～24歳	1,408	1,354	1,207	1,122	986	937	1,081	1,235	1,153	1,062
25～29歳	1,617	1,585	1,589	1,476	1,422	1,264	1,210	1,397	1,596	1,491
30～34歳	2,051	1,610	1,585	1,596	1,487	1,433	1,273	1,219	1,407	1,607
35～39歳	2,515	1,977	1,558	1,539	1,556	1,449	1,397	1,241	1,189	1,371
40～44歳	2,993	2,395	1,891	1,496	1,483	1,500	1,397	1,347	1,196	1,146
45～49歳	2,780	2,906	2,335	1,851	1,470	1,459	1,477	1,374	1,325	1,176
50～54歳	2,702	2,681	2,815	2,272	1,808	1,436	1,426	1,444	1,343	1,296
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,782	2,255	1,796	1,427	1,418	1,436	1,335
60～64歳	3,471	2,799	2,633	2,639	2,795	2,267	1,807	1,436	1,427	1,445
65～69歳	4,172	3,325	2,698	2,551	2,571	2,726	2,213	1,765	1,402	1,394
70～74歳	3,021	3,930	3,155	2,578	2,450	2,476	2,630	2,134	1,702	1,353
75～79歳	2,521	2,742	3,599	2,915	2,403	2,289	2,323	2,467	2,001	1,597
80～84歳	2,418	2,136	2,358	3,134	2,570	2,137	2,046	2,080	2,208	1,789
85～89歳	1,706	1,739	1,573	1,773	2,399	1,994	1,681	1,607	1,637	1,737
90歳以上	941	1,180	1,349	1,393	1,553	1,971	2,012	1,876	1,769	1,732
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.2%	14.0%	14.4%	15.8%	15.6%	13.2%	11.0%	10.1%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.0%	25.1%	25.6%	25.4%	25.9%	27.2%	27.0%	25.3%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

累積定住率（シナリオ3：2040年モデル）



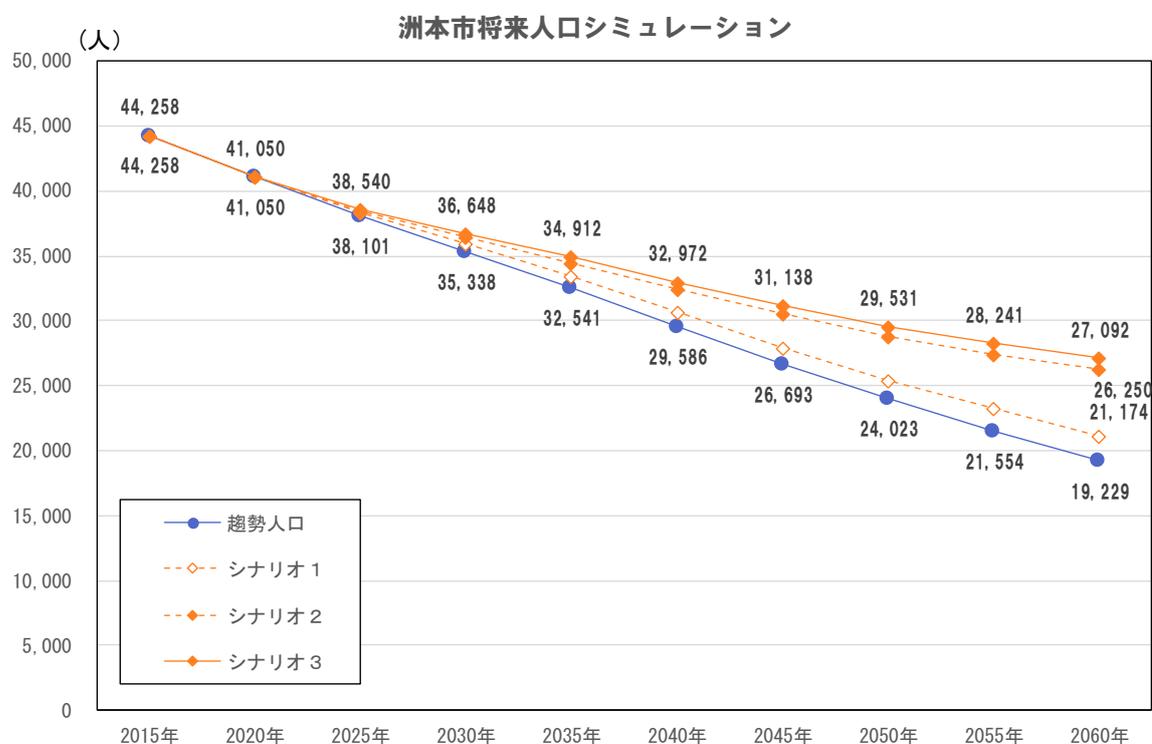
3. シミュレーションを踏まえた人口政策等の課題

[総人口の観点から]

いずれのシナリオにおいても、将来的に人口が減少していくことは避けられず、2060年の人口は、趨勢人口で19,000人規模、最も人口減少が緩和されるシナリオ3においても27,000人規模となります。

少しでも人口減少を緩和するための人口減少緩和策を講じていく必要があるのはもちろんのこと、2060年には少なくとも27,000人規模にまで減少することを見据えた人口減少適応策を考えていくことも併せて重要になってきます。

人口規模は現在よりも小さくとも、現在よりももっと暮らしやすい都市となれるような取組を検討・推進していく必要があります。



(単位：人)

総人口	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229
シナリオ1	44,258	41,050	38,301	35,905	33,398	30,657	27,905	25,401	23,206	21,174
シナリオ2	44,258	41,050	38,443	36,383	34,412	32,412	30,490	28,808	27,450	26,250
シナリオ3	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092

[自然動態の観点から]

出生数（5年間あたり）については、2060年において趨勢人口の600人程度からシナリオ3の1,500人程度までが想定されます。

人口規模がたとえ現在よりも小さくなくても、現在よりも暮らしやすい環境であるためには、人口構造において少子高齢化を抑制していくことが不可欠であり、そのためには、本市における出生数を維持・向上させていくことがとても重要です。

出生数を維持・向上させるためには、合計特殊出生率の改善と併せて、若い女性人口を増やしていく取組が重要になります。

また、将来の死亡数（5年間）については、趨勢人口からシナリオ3までのいずれの場合においても2060年で2,500～2,700人程度が想定されるとともに、いずれの場合においても自然減が今後も続くことは避けられない見通しです。

(単位：人)

出生数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	1,297	1,216	1,166	1,049	895	765	689	638	587
シナリオ1	1,297	1,416	1,541	1,359	1,161	1,024	991	1,007	979
シナリオ2	1,297	1,426	1,576	1,447	1,319	1,248	1,288	1,383	1,418
シナリオ3	1,297	1,434	1,603	1,496	1,377	1,308	1,353	1,453	1,487

(単位：人)

死亡数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	-3,290	-3,269	-3,212	-3,234	-3,298	-3,059	-2,809	-2,629	-2,496
シナリオ1	-3,290	-3,269	-3,212	-3,233	-3,301	-3,058	-2,810	-2,628	-2,502
シナリオ2	-3,290	-3,275	-3,215	-3,265	-3,357	-3,155	-2,962	-2,814	-2,705
シナリオ3	-3,290	-3,271	-3,221	-3,276	-3,386	-3,176	-2,984	-2,830	-2,717

[社会動態の観点から]

出生状況を改善させるだけ（シナリオ1）では、趨勢人口以上に社会減が大きくなることが想定されるのに対し、生涯定住率1.00を目途とする移動状況の改善（シナリオ2、シナリオ3）を図ることで、将来的に現在の社会減を社会増の状態に転換させることができます。

こうした社会動態のマイナスからプラスへのシフトは、単に人口減少を緩和させるだけではなく、都市の賑わい・活気を生み出す源ともなり得るものです。

また、現在の社会減の中心となっている若い年齢層の定住率の改善を通して、出生数増加等の波及効果も期待されるなど、こうした人の流れを変える取組が極めて重要となってきます。

(単位：人)

社会動態（転入数－転出数）	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	-1,215	-896	-717	-612	-552	-599	-550	-478	-416
シナリオ1	-1,215	-896	-725	-633	-601	-718	-685	-574	-509
シナリオ2	-1,215	-758	-421	-153	38	-15	-8	73	87
シナリオ3	-1,215	-673	-274	44	69	34	24	87	81

[人口構造の観点から]

年少人口（0～14歳）比率については、合計特殊出生率の向上等を通して、2060年において趨勢人口の9.6%よりも4～6ポイント高い水準を実現することができます。

子育て・教育関連の基盤施設整備については、長期的にはこうした人口政策とリンクした検討・計画が求められます。

(単位：人)

年少人口比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	10.7%	10.0%	10.0%	10.2%	10.1%	9.8%	9.4%	9.4%	9.6%
シナリオ1	10.7%	10.5%	11.4%	12.5%	12.7%	12.2%	12.1%	12.6%	13.6%
シナリオ2	10.7%	10.5%	11.6%	12.7%	13.3%	13.2%	13.4%	14.3%	15.6%
シナリオ3	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%

都市の経済活動や消費活動に大きなウエイトを占める生産年齢人口（15～64歳）については、趨勢人口からシナリオ3までのいずれの場合においても、2060年における比率が現状を下回ることが想定されます。

地産地消の観点だけではなく、地産外消・地産外商の観点を含め、都市の生産活動・経済活動の維持・拡大に向け、検討していく必要があります。

また、本市の定住人口だけではなく、本市への通勤・通学者や観光客等を含めた交流人口・関係人口の拡大を図るための取組もこれまで以上に重要になってきます。

(単位：人)

生産年齢人口比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	52.7%	51.4%	49.8%	47.8%	45.2%	43.9%	43.5%	44.0%	44.1%
シナリオ1	52.7%	51.1%	49.0%	46.6%	44.1%	43.4%	43.4%	44.1%	44.4%
シナリオ2	52.7%	51.2%	49.2%	47.0%	45.0%	44.8%	45.5%	46.9%	48.1%
シナリオ3	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%

出生状況・移動状況の改善（シナリオ2、シナリオ3）を通して、2060年における高齢化率を30%台に抑制するとともに、介護需要を見極める上で重要な後期高齢者（75歳以上）比率についても、20%台に抑制することが可能です。

人口減少が避けられない中で、今後は将来の人口規模だけではなく、こうした人口構造にも着目した取組を進めることがとても重要です。

(単位：人)

高齢化率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	36.7%	38.6%	40.2%	42.1%	44.7%	46.4%	47.1%	46.6%	46.3%
シナリオ1	36.7%	38.4%	39.6%	41.0%	43.2%	44.4%	44.5%	43.3%	42.0%
シナリオ2	36.7%	38.3%	39.3%	40.3%	41.7%	42.1%	41.2%	38.8%	36.4%
シナリオ3	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

(単位：人)

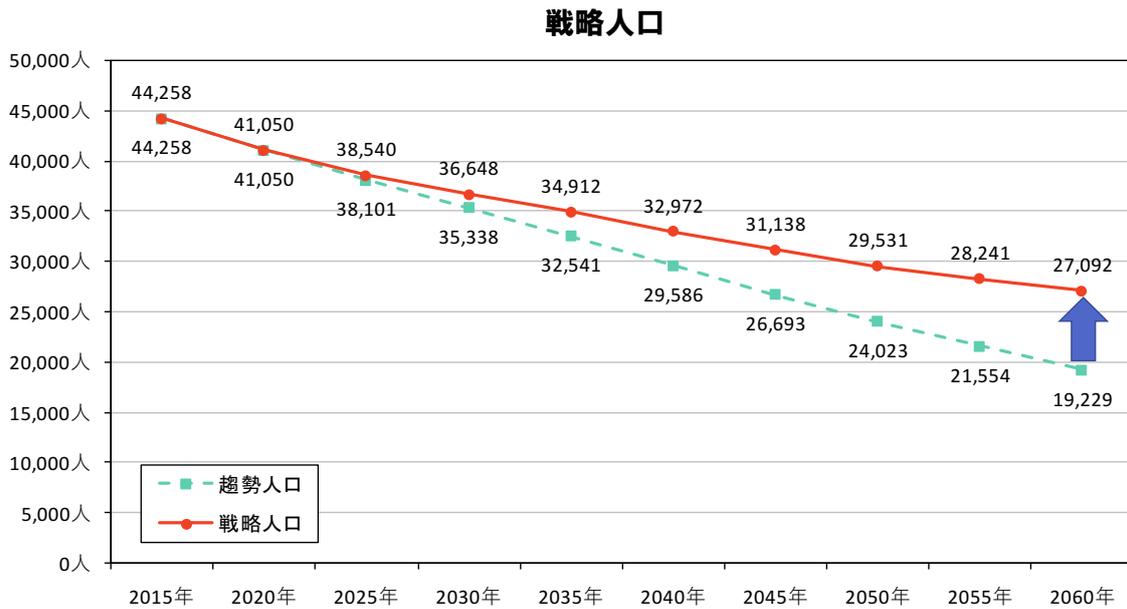
後期高齢者比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	19.0%	23.2%	25.8%	26.7%	27.4%	28.7%	31.4%	32.8%	32.7%
シナリオ1	19.0%	23.1%	25.4%	26.1%	26.4%	27.4%	29.7%	30.5%	29.7%
シナリオ2	19.0%	23.1%	25.2%	25.8%	25.7%	26.3%	27.7%	27.6%	26.0%
シナリオ3	19.0%	23.0%	25.1%	25.6%	25.4%	25.9%	27.2%	27.0%	25.3%

IV 洲本市の将来人口と将来展望

I. 洲本市の戦略人口

ここまでに示した趨勢人口の人口シミュレーションを踏まえ、本市では、2060年の戦略人口として27,000人規模の確保を目指すものとします。

戦略人口 2060年：27,000人規模の確保



(単位：人)

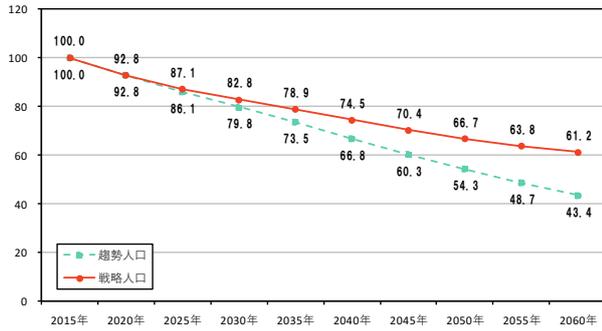
	国勢調査	推計人口									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
趨勢人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229	
戦略人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092	
戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)		0	439	1,310	2,371	3,386	4,445	5,508	6,687	7,863	

(単位：人)

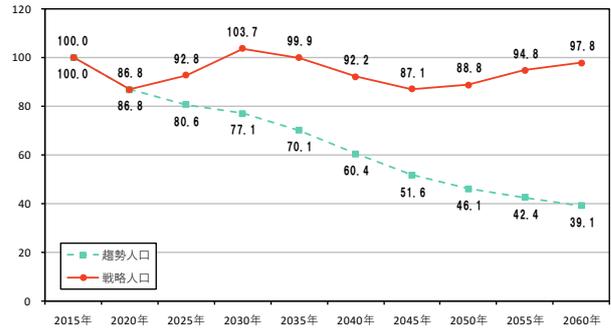
戦略人口	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092
0～14歳	5,168	4,378	4,066	4,261	4,510	4,471	4,176	4,033	4,108	4,288
15～64歳	24,311	21,620	19,742	18,043	16,456	14,908	14,057	13,569	13,414	13,202
65歳以上	14,779	15,052	14,732	14,344	13,946	13,593	12,905	11,929	10,719	9,602
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	11.7%	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%
65歳以上	33.4%	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

[参考1：人口変化指数でみる戦略人口]

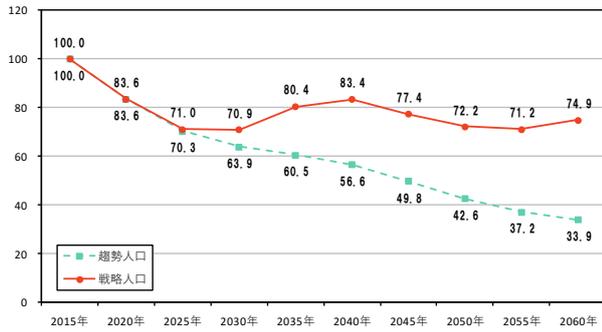
総人口 (2015年=100)



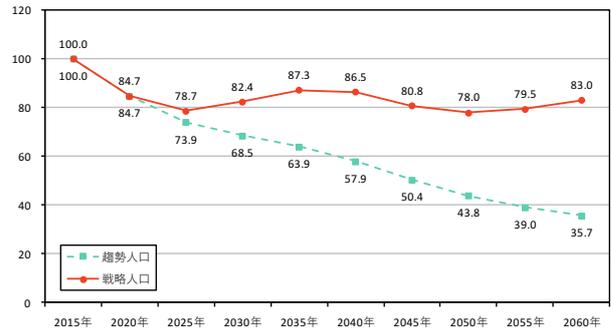
未就学の子ども数 (2015年=100)



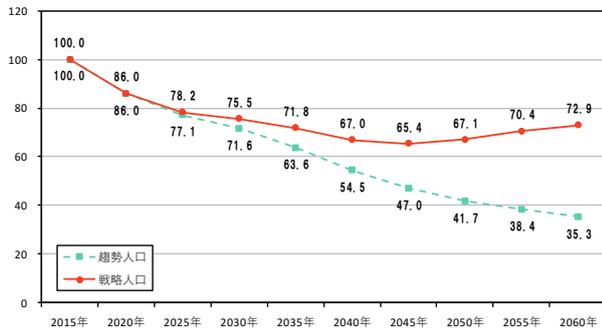
小・中学生数 (2015年=100)



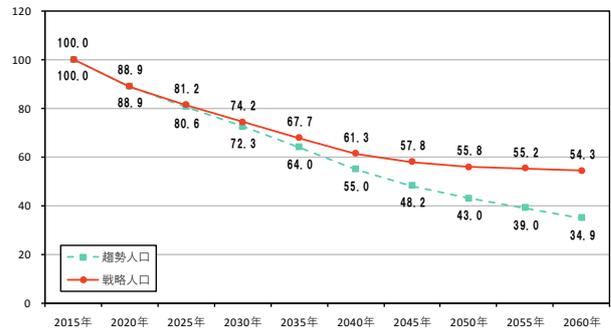
年少人口 (2015年=100)



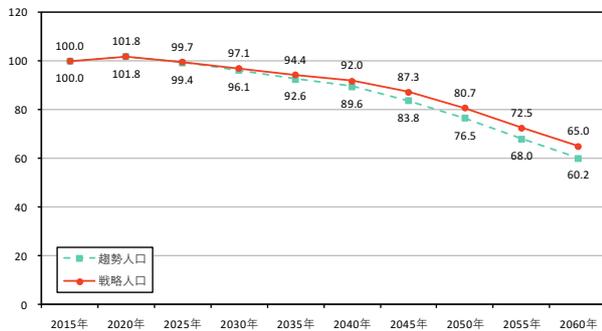
20~30代の人口 (2015年=100)



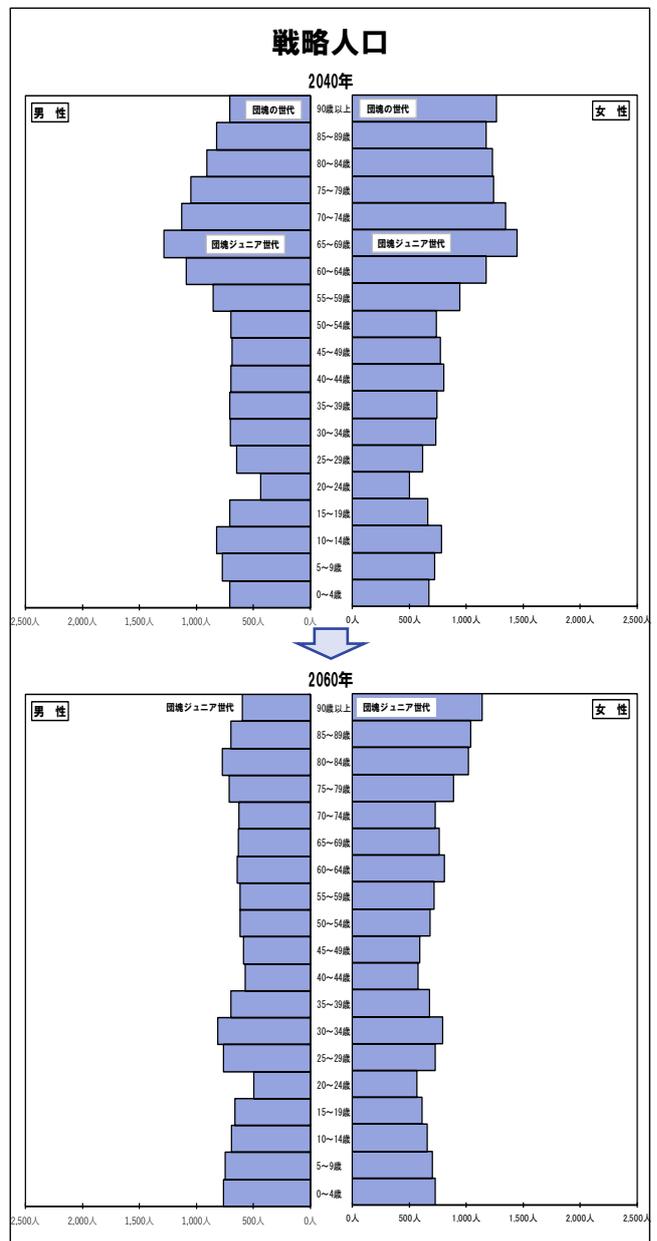
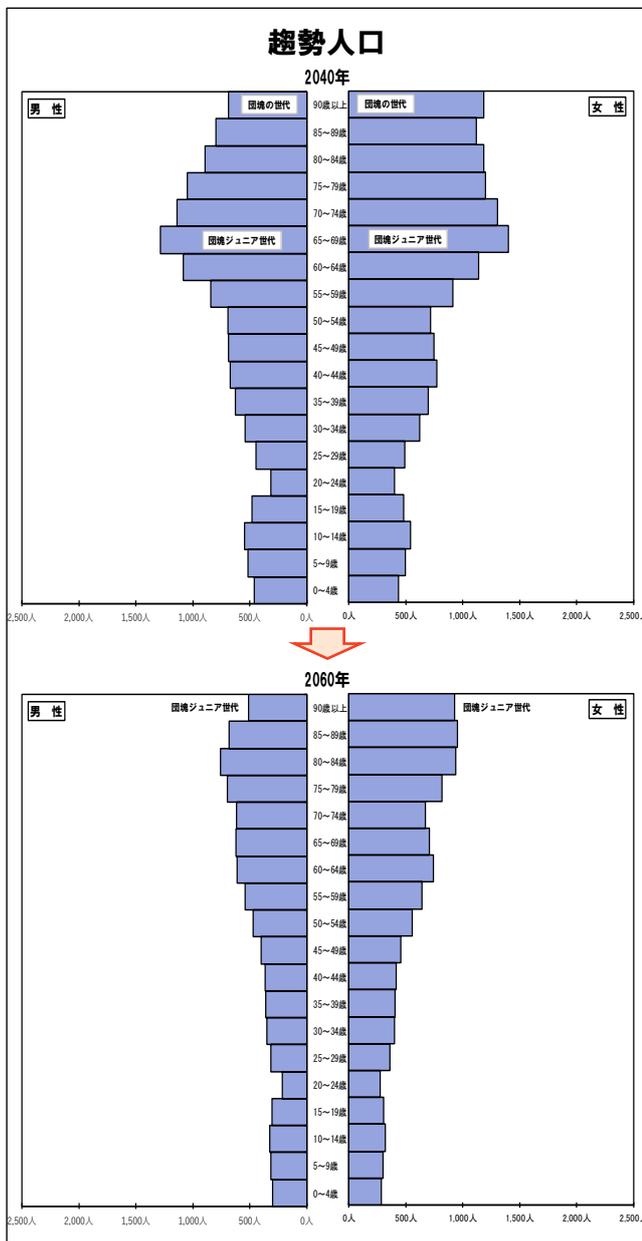
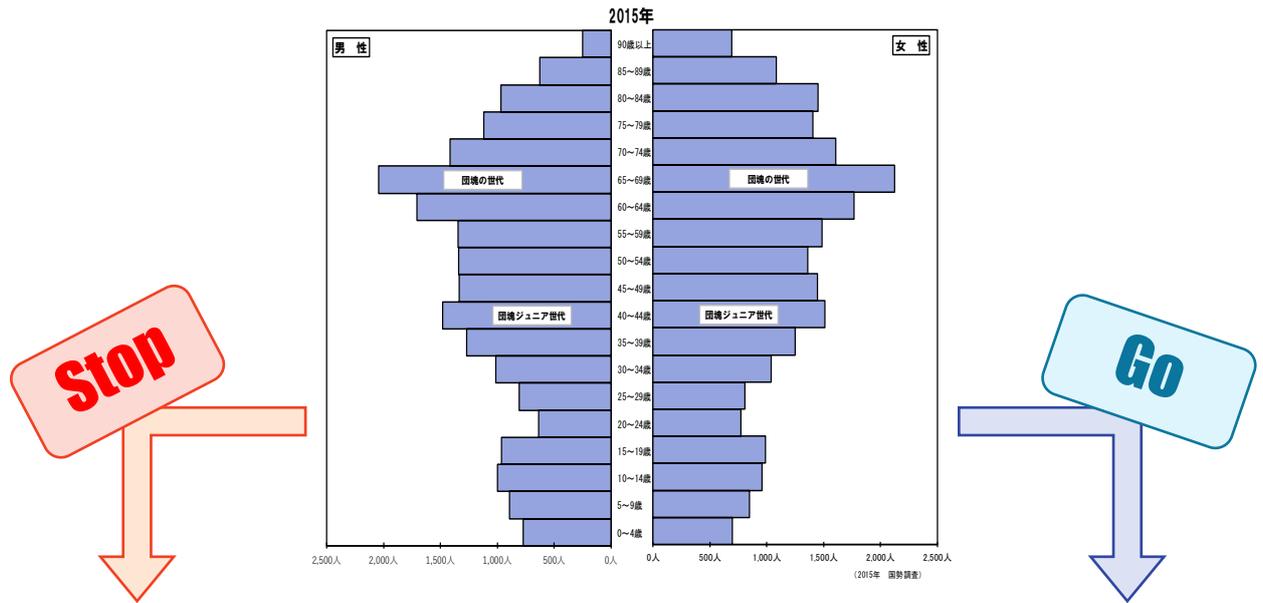
生産年齢人口 (2015年=100)



高齢者人口 (2015年=100)



[参考2：人口ピラミッドでみる人口構造の比較]



2. 洲本市の将来展望

- 戦略人口の達成に向けては、地域における雇用や本市への新しい“ひとの流れ”を創出するとともに、出産や子育てに関する現実と理想とのギャップを解消するための環境整備、人口減少時代に対応した地域社会を創り出すための取組を進める必要があります。
- こうした人口減少緩和策と人口減少適応策を両輪とする取組を通して、地域における消費の落ち込みを抑制し、雇用や労働力人口を確保し、地域経済・地域社会に対する人口減少の影響を最小限にとどめるとともに、今後想定される人口規模の縮小過程においても本市に暮らす誰もが不便を感じることなく、現在以上に快適な洲本暮らしを実現できる環境を創出していくことが重要です。
- そのためには、本市における地域資源の発見・発掘・ブラッシュアップや地域の活力を生み出すための取組を含めた地域創生の取組を進めるに際して、行政（市職員）だけではなく、市民・地域も一緒になって、アイデアを出し合い、ともに将来の洲本市について思いを馳せること、行政だけではなく、市民、地域団体、企業などが自らの暮らす地域社会の問題を自らのこととして考え、自ら主体的に行動することが不可欠です。
- “ひとの流れ”を変える取組については、転出を抑制するとともに転入を促進する定住策だけではなく、本市を行き交う“ひとの流れ”を変える交流人口・関係人口の創出・拡大に向けた取組も重要であり、これらの“ひとの流れ”を変えるためのさまざまな取組を総合的に推進していくことが重要になってきます。
- また、特に淡路島から島外へという“ひとの流れ”を考えると、本市だけの問題としてではなく、淡路島全体の問題としてこれを捉える視点や、島内3市の連携による取組も重要になってくるものと考えます。
- 本市に暮らす市民・仲間として（もちろん、淡路島に暮らす島の仲間として）、本市の将来の姿、淡路島の将来の姿をともに見据えつつ、地域の豊かな資源と安心・快適な暮らしを次の世代へと受け継いでいくために、「新洲本市総合戦略」では、戦略人口を達成するための地域創生の取組を明らかにし、その着実な遂行を図っていくこととします。

第2章 総合戦略

I 基本的な考え方

1. 策定の趣旨

本市においては、人口 68,414 人であった 1950 年以降、人口は減少傾向が続いており、2010 年には 1950 年のピーク人口に比べて、31%少ない 47,254 人となっています。この人口減少は、神戸市や大阪府といった都市部への若者人口の流出のほか少子高齢社会が進展などの影響が主な原因となっています。

「第1章 人口ビジョン」で示したように今後もこの傾向が続いた場合、2060 年の人口は約 19,000 人程度まで減少することが見込まれています。人口減少と少子高齢社会の進展に伴う本市の人口構造の変化は、地域における経済活動やコミュニティ活動などの活力を衰退させ、ひいては、本市における安定した生活・暮らしそのものが成り立たなくなることが危惧されます。

このような状況認識のもと、本市では、2018 年 5 月に策定した「新洲本市総合計画」において、「豊かな自然とやさしさあふれる暮らし共創都市・洲本」を 10 年後に目指すべき将来都市像として掲げ、大都市圏では実現することができない「洲本市ならではの暮らしの創造」をめざして、さまざまな取組を進めています。

一方、「総合戦略」は、こうした取組の成果のほか、社会情勢や国における地方創生の動向、また、市内の中学生・高校生・市民を対象に行ったアンケート調査に加えて、本市若手職員や市民などによるワークショップの結果を踏まえつつ、長期的な視点に立った本市の人口減少の推移と、それがもたらす経済（生産・消費）活動や市民生活への影響を行政、市民、地域団体、企業などがともに認識し、これを回避していくための対策を総合的かつ効果的に進めていくために策定します。また、この「総合戦略」の展開に向けては、さまざまな機会を通して、兵庫県や近隣自治体が行う取組とも、連携・協働を図りながら進めてまいります。

2. 新洲本市総合計画との整合性と連動

本市では、2018 年 5 月に 10 年先の洲本市を見据えた、まちの将来図とも言える「新洲本市総合計画」を策定しました。

この総合計画では、まちづくりビジョンにおいて「豊かな自然とやさしさあふれる暮らし共創都市・洲本」を将来都市像に掲げ、洲本市人口ビジョンで定める本市の将来人口（戦略人口）に加えて、地方創生の基本柱である「まち」・「ひと」・「しごと」も意識しながら、総合計画の基本目標を 3 本の柱を設定しています。

今回、新洲本市総合戦略では、本市の最上位のまちづくりの計画である、新洲本市総合計画との整合性を考慮し、また、総合計画と総合戦略との連動性を確保するとともに、あわせて、新洲本市総合計画の前期計画期間の終期と新洲本市総合戦略の終期を揃えることで、効率的かつ効果的な取組を進めます。

種類 年度	洲本市				
	洲本市総合計画		洲本市総合戦略		
2008	洲本市総合計画(2008～2017) 前期：2008年～2012年 後期：2013年～2017年				
2009	【前期】				
2010		【基本目標】 6つの目標 <ul style="list-style-type: none"> ・創意に満ちた活力ある交流・産業のまちづくり ・安全で快適な生活のまちづくり ・ともにつくる参画と協働のまちづくり ・豊かな自然と共生するまちづくり ・こころ豊かな人を育む教育・文化のまちづくり ・健やかで生き生きと暮らせるまちづくり 			
2011					
2012					
2013	【後期】				
2014					
2015					
			〈第1期〉 洲本市総合戦略(2015～2019)		
2016				【基本目標】 4つの目標 <ul style="list-style-type: none"> ・女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創る ・観光や暮らしの魅力を広く発信し、来訪者、移住・定住者を洲本へ呼び込む ・洲本で出会い、ともに歩み、未来をつなぐ「ひと」の夢をかなえる ・魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る 	
2017					
2018	新洲本市総合計画(2018～2027) 前期：2018年～2022年 後期：2023年～2027年				
2019	【前期】				
			〈第2期〉 新洲本市総合戦略(2020～2022)		
2020		【基本目標】 3つの目標 <ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせる強くなやかなまちづくり ・思いやりと支え合いを大切にすることろ豊かなひとづくり ・活力を生む産業を育み、元気で健やかに暮らせるまちづくり 		【基本目標】 3つの目標 <ul style="list-style-type: none"> ・洲本の人のあたたかさに触れ、ここに居たい、訪れたいと思う「ひと」を創り育む ・歴史の薫る魅力的でやすらぎある「わがまち洲本」を創り守る ・女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創り広げる 	
2021					
2022					
2023	【後期】				
2024					
2025					

3. 計画の期間

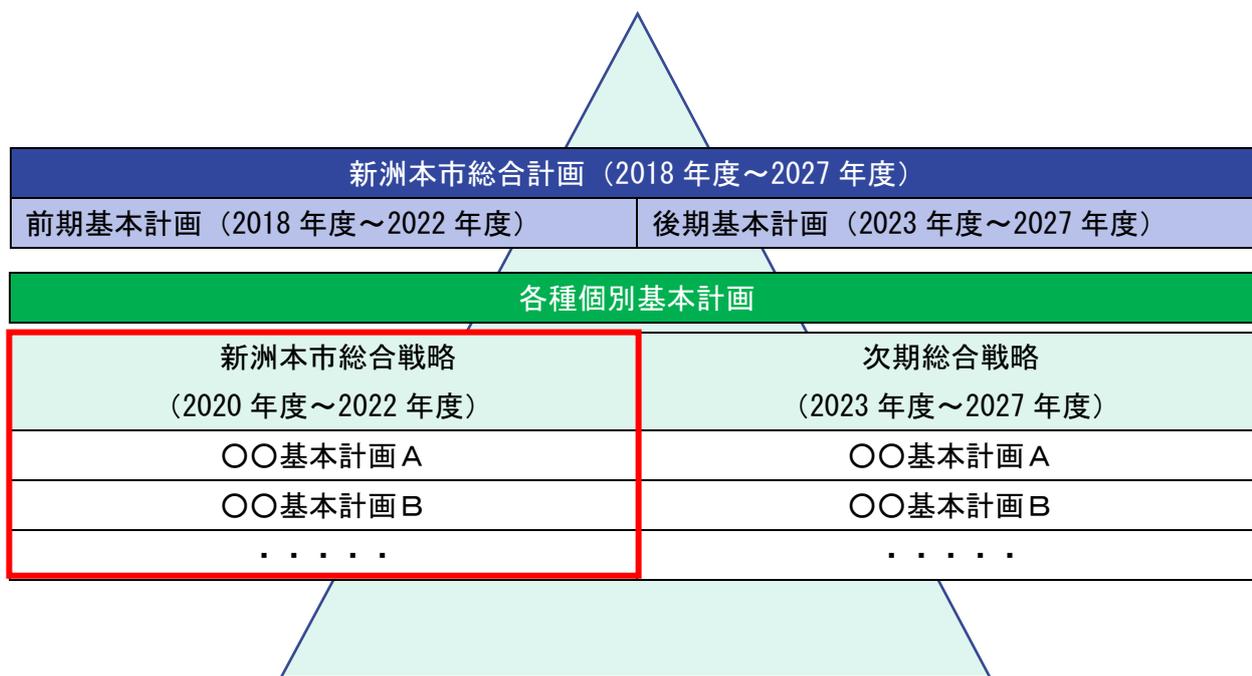
新洲本市総合戦略の計画期間は、2020年度から2022年度までの3年間とします。

	2020年度	2021年度	2022年度
新洲本市総合戦略	策定 		

4. 計画の位置づけ

新洲本市総合戦略は、本市の将来においての人口減少を逡減化させ、緩やかな人口減少を目指すとともに、地域経済や地域コミュニティの活性化を図ることを目的とした戦略です。

一方、本市ではすべての行政事務やサービスを網羅した、最上位の計画として総合計画があり、総合戦略はその内、人口減少と地域経済活性化などに対する対策を基本とする基本計画という位置づけになります。



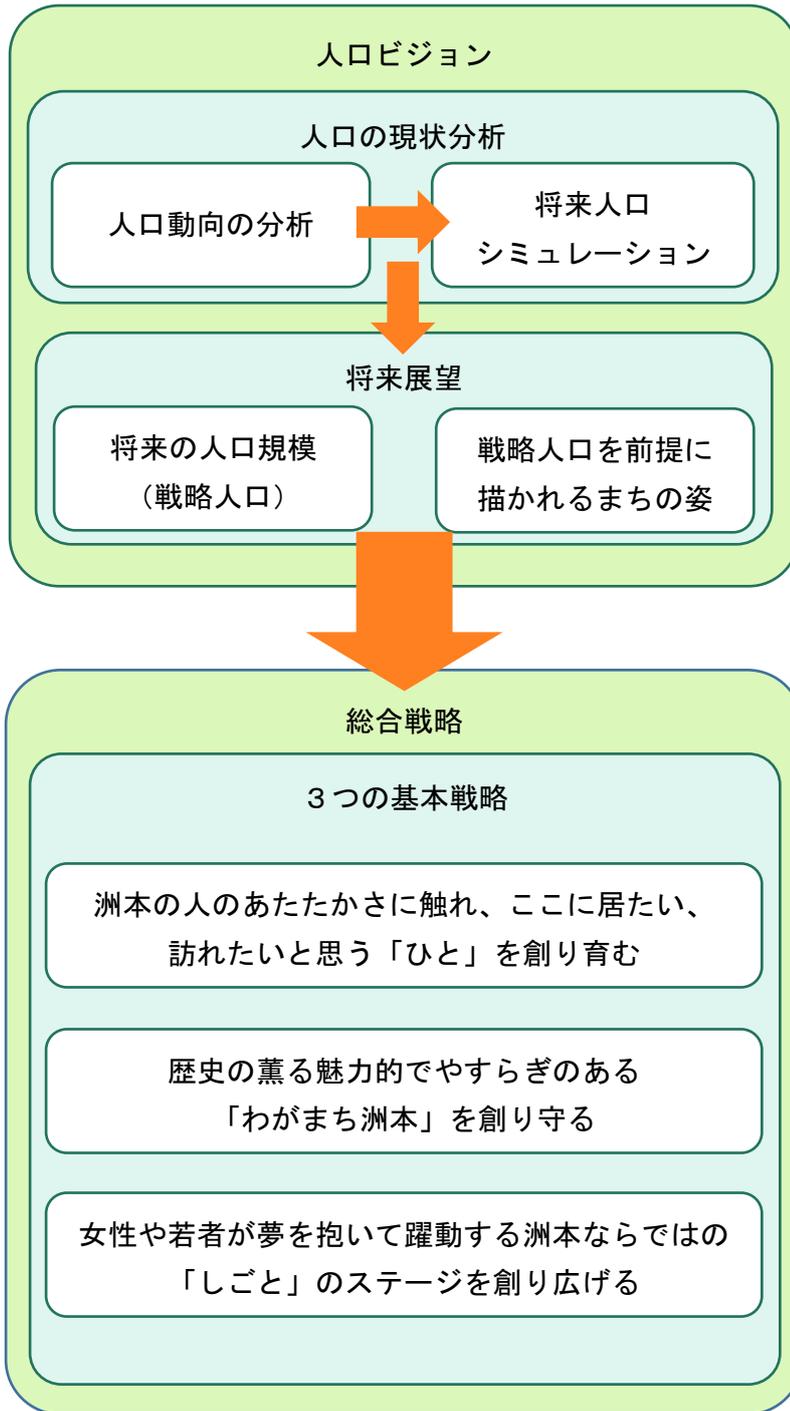
5. 戦略の考え方

総合戦略は、第1章の「人口ビジョン」において設定された将来人口規模（「戦略人口」）を達成するための戦略であり、人口ビジョンと総合戦略は一对となるものです。

総合戦略は、目指すべき将来人口規模（「戦略人口」）を達成することを目標とした「基本目標」に加えて、基本目標を達成するための3つの「基本戦略」があり、その戦略には取組の方向性を示す「基本的方向性」を設定しています。なお、基本戦略には3つの戦略を遂行する上で基本的方向性に沿った具体的な取組や主だった事業・施策を取りまとめた「アクションプラン」があり、「基本目標」、「基本戦略」、「アクションプラン」から構成されます。

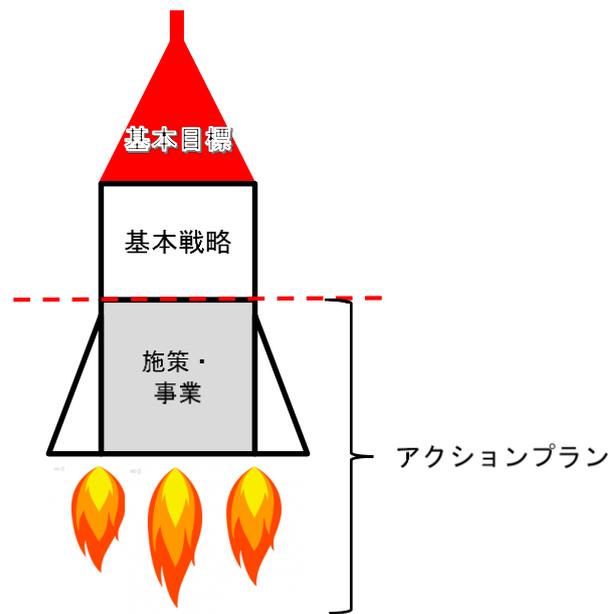
主な事業や施策については、その効果を客観的に検証するため、代表的な施策や事業について「KPI（重要業績評価指標）」を設定しています。従って、人口減少対策の取組は、各基本戦略指数の達成に向けて実施する事業の成果をKPIで評価しながら、総じて出生数の増加及び転出超過の抑制などを図っていくことをめざします。

「人口ビジョン」と「総合戦略」の関係性



そのため、事業の推進にあたっては、本市が目指すべき将来都市像として掲げる「共創都市」の実現に向けて、行政だけではなく、市民や地域団体、企業などとの連携・協働による取組がいっそう求められます。

「総合戦略」の構成イメージ



このほか、2015年9月に国連サミットで採択されました国際目標で「地球上の誰一人として取り残さない」ことを宣誓し、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成される「SDGs（持続可能な開発目標）」^{エスディージーズ}についても、そのゴールに対して、主な事業や施策の目的が合致し、その効果がゴールの達成に貢献すると期待できるものには17のゴールのアイコンを明示しています。

「SDGs（持続可能な開発目標）」17のゴール



II 戦略構想

1. 戦略目標

新洲本市総合戦略の目標は、新洲本市人口ビジョンで設定した、2060年の本市の将来人口27,000人を達成することにあります。

◆洲本市の将来人口（戦略人口）

2060年の洲本市人口 27,000人

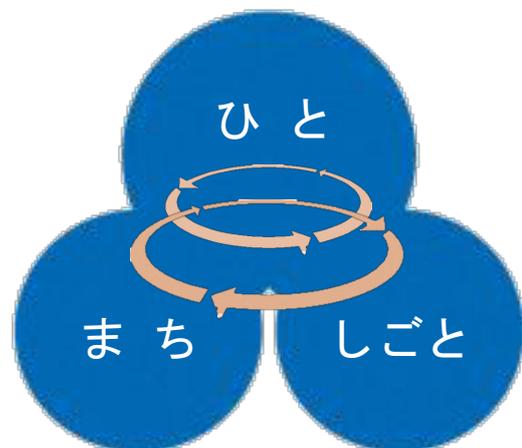
2. 基本理念

本市では、まちづくりの基本的姿勢として、「つながり」を重視したまちづくりを進めてまいりました。この「つながり」は「ひと」と「ひと」のつながりや「地域」と「地域」のほか、「ひと」と「地域」のつながりなど、人が社会において、人らしく暮らし、充実した生活環境の中で自己実現を図っていくためにはなくてはならないものです。そのため、本市では「つながり」の創出と強化のため、魅力的で輝くひとづくりに加えて、元気で活力ある地域づくりを進めてまいりました。

将来にわたって「活力ある地域社会」を実現していくためには、その基礎としてしっかりとした「ひと」の土台なしには実現できません。本市の未来を担う若者「すもとっ子」や元気な高齢者のほか、地域に根差して地元経済を牽引し頑張る企業、また、本市の「ひと」やまちに魅かれ移り住んでこられる人、そして、ふるさと納税など、本市のことを思い、応援して下さるファンの人など、本市は豊かな「ひと」の財産に恵まれたまちです。

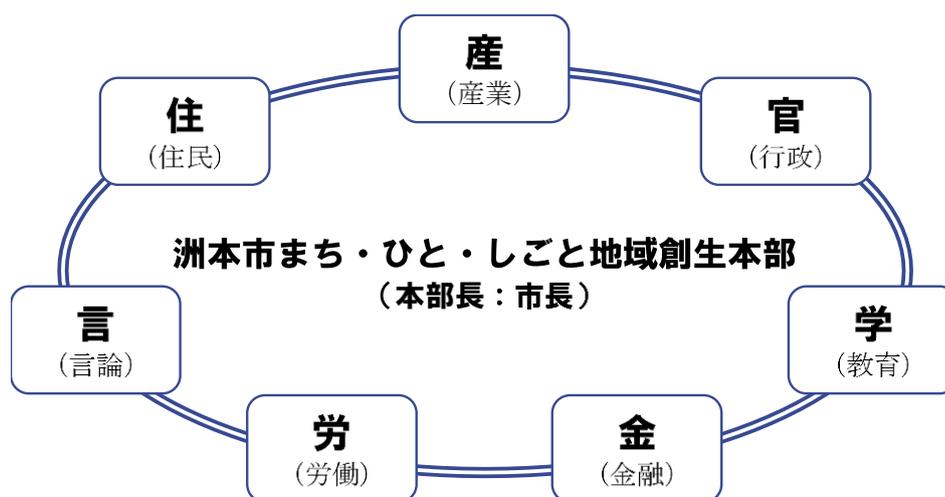
この強みこそが本市の地方創生を進めるための大きな原動力となります。この「ひと」のつながりをいかしながら、ワンチームとなり、「チーム洲本」として、人口減少と地域経済の回復、そして地域コミュニティの維持という大きな壁を克服していかなければなりません。そこで、本市では地方創生を進めるにあたり、「ひと」を中心として、「ひと」が「まち」や「しごと」へ良い刺激を与え、地域で化学反応を起こしながら「まち」・「ひと」・「しごと」を連動させ、好循環を生むまちづくりの確立を目指します。

基本理念のイメージ



～ 総合戦略の効果と課題の検証 ～

総合戦略の取組を進めるにあたっては、毎年、各取組の効果検証が必要です。そこで、市長を本部長とし、「産（産業）」・「官（行政）」・「学（教育）」・「金（金融）」・「労（労働）」・「言（言論）」・「住（住民）」の代表者から構成する「洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部」を中心に検証し、意見を聴取し改善を図るとともに、2015年度から2019年度の総合戦略5ヶ年の取組の成果と課題などを検証することが重要です。その上で、効果があった取組と、当初想定していたほどの効果が出なかった取組を精査し、有効であった取組はさらに磨きをかけていくとともに、効果が出なかった取組については、その原因などを分析し、新洲本市総合戦略に生かし、総合戦略全体としての戦略効果を高めていきます。



～ 適切な「KPI（重要業績評価指標）」の設定とPDCAによる改善の実施 ～

新洲本市総合戦略における取組が個々に成果を上げ、戦略全体として効果を発揮するためには、各取組における「KPI（重要業績評価指標）」の指標及び目標値が適正に設定される必要があります。そのためKPIの根拠となるデータを適切に把握し、管理するとともに、必要に応じて取組の追加し、見直すなど、PDCAサイクルにより推進します。

～ 地方創生の推進に関する国などの総合的支援「3本の矢」の効果的な活用 ～

総合戦略の取組を進めるにあたり、国などから提供される地方創生に伴う国などの「情報支援」を効果的に活用するとともに、国の地方創生関連交付金など、有効な「財政支援」を積極的に活用するほか、地方創生人材支援制度のような「人材支援」や民間人材及び民間活力を生かしたより効果的な取組を進めます。

～ 新たな時代に則した取組の検討 ～

国の『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』において、第2期総合戦略の主な取組の方向性として示された、「①地方への移住・定着の促進」に加えて、「②地方とのつながり

の強化」では、「関係人口」の創出と拡大が新たに設定され、さらなる地方移住の裾野を拡大していく取組が図られてまいります。

また、あわせて、時代に則した新たな視点として「①多様な人材の活躍を推進」していくことに加え、Society 5.0やSDGsなど「②新しい時代の流れを力にすること」が追加されました。新洲本市総合戦略では、国の『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』の取組の方向性と新たな視点についても、吟味しながら、本市の総合戦略の取組に合致し、また、取り入れることで効果が期待できるものについては適宜、検討してまいります。

3. 戦略の体系

国が2019年12月に策定した『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』では、「4つの基本目標」と「2つの横断的な目標」が設定されています。

いずれも、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を目指すものです。

新洲本市総合戦略では、この国の第2期総合戦略の施策の方向性を参考としつつ、あわせて、新洲本市総合計画並びに新洲本市人口ビジョンを踏まえて、次の3つの基本戦略を柱とする戦略体系に基づき、取組を行うこととします。

新洲本市総合戦略の3つの基本戦略

◆基本戦略1

洲本の人にあたたかさに触れ、ここに居たい、訪れたいと思う「ひと」を創り育む

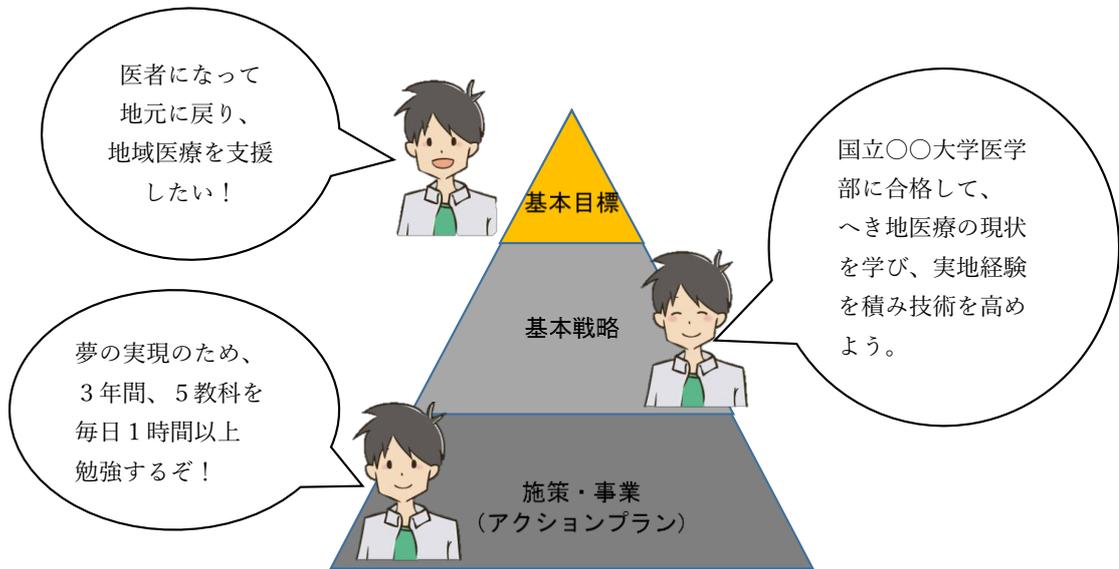
◆基本戦略2

歴史の薫る魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る

◆基本戦略3

女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創り広げる

3つの基本戦略については、その戦略を実現するための取組の方向性「基本的方向性」と、その基本的方向性を達成するために設定する指標「基本戦略指標」を設定します。そして、「基本戦略指標」を達成するために施策・事業を取りまとめた「アクションプラン」を立て、各施策や事業が総合戦略に効果的に機能するように計画し、毎年事業や施策の成果や状況を踏まえて、必要に応じて点検、見直しを行いながら適切に管理します。



Ⅲ 基本戦略に基づく取組

基本戦略Ⅰ 洲本の人にあたたかさに触れ、ここに居たい、訪れたいと思う「ひと」を創り育む

基本的方向性	◆便利な田舎「トカイナカ洲本」のファンを拡大させ、住んでみたいと思う人を増やす ◆洲本の「まち」と「ひと」に魅かれ、訪れてみたいと思う人を呼び込む ◆ふるさとの恵まれた環境で学び、ふるさとへの愛着を持った磨かれた人を育む
S D G s (期待するゴール)	  

基本戦略Ⅰでは、主に以下の取組を行います。

- (1) 都市圏からの移住・定住の促進
- (2) 「関係人口」の拡充
- (3) 観光資源を生かした交流の促進
- (4) まちの魅力の効果的な情報発信
- (5) 教育・スポーツの振興

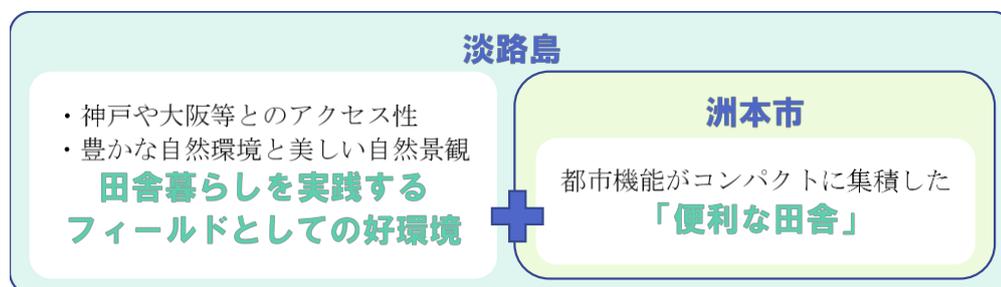
この戦略では、本市のまちの暮らしやすさや特色ある教育の機会の提供など、魅力的な情報を内外に発信し、本市に住み続けたいと思う人を増やしていく取組を進めます。あわせて、その魅力に魅かれて訪れたい、住みたいと思う観光客や移住者のほか、直接的に地域に移住はしなくても、本市のために何らかのかたちで関わりたい、応援したいと思っていただける人（「関係人口」）を増やす取組を行います。

(1) 都市圏からの移住・定住の促進

本市を含め、淡路島は神戸や大阪など都市部とのアクセスが良く便利な一方で、澄んだ海や空気、緑豊かな山や貴重な動植物が暮らす豊かな自然環境が残っています。加えて、美しい海岸線や田畑などの自然景観が今もなお残っており、都会では存分に味わうことのできない、これら自然の恵みを楽しむことができます。

その恵まれた環境のもとで、ゆったりと子育てを楽しみ、又は家庭菜園や趣味を生かした暮らしを満喫するなど、田舎暮らしを実践するフィールドとして、淡路島はこの上ない環境です。

その上で、本市はさらに、市街地周辺に学校、大型スーパー、公立総合病院、図書館、体育館、文化ホールなど文化施設のほか、神戸や大阪方面への充実した高速バスのハブとなるバスターミナルも完備し、生活に便利な施設がコンパクトにまとまった「便利な田舎」であることは、都会から田舎暮らしを希望する人にとって魅力となるものです。



このまちの強みを生かしながら、きめ細やかな移住相談や情報提供などの対応を行うほか、移住の際の住まいに空き家を活用する人へリフォーム費用などを支援し、また、民間住宅の家賃補助、住宅取得の支援、島外通勤者への交通費助成などによる定住促進の支援を行います。このほか、短期間田舎暮らしを楽しむ人への支援施設を有効に運用し、移住がスムーズに運ぶための取組を進めます。

次に、直接的に移住者を呼び込む取組のひとつとして、地域おこし協力隊についても、活動任期満了後も地域に移住し、地域おこし活動に従事するOB・OG隊員が順調に出てくるなど、成果が上がっていることから、引き続き定住・定着を図るため、受け入れやサポート体制を整えるとともに、地域での起業などの支援についても進めます。

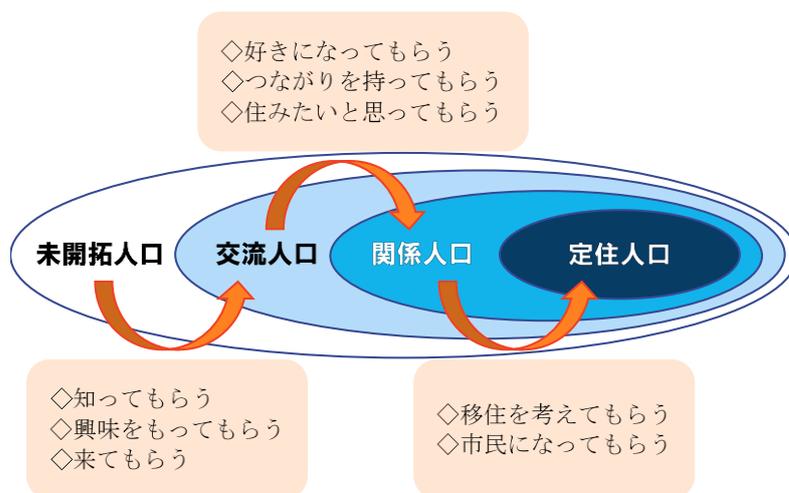


(2) 「関係人口」の拡充

地域との関わり方は、時代とともに大きく変化してきました。

直接的に地域へ移住したりする行動以外にも、その地域と離れていても、その地域のことを応援したい、支援したいという思いを持った人もたくさんいます。これからのまちづくりを進めるにあたり、移住者を呼び込む以外にも、このように地域を応援してくれるファン「関係人口」をたくさんつくっていくことも一方で大変重要になってきます。

そのため、このような「洲本のファン」の拡充を図るため、現在、全国から多くの支持を得ている本市のふるさと納税について、応援をいただいている寄附者のニーズに合致した、満足していただける魅力的な製品の開発を進めるとともに、イベントなどを通して、本市の魅力を攻めの姿勢でプロモーションを展開し、「人と人」、「人とまち」とのつながりをより一層深める取組を進めます。



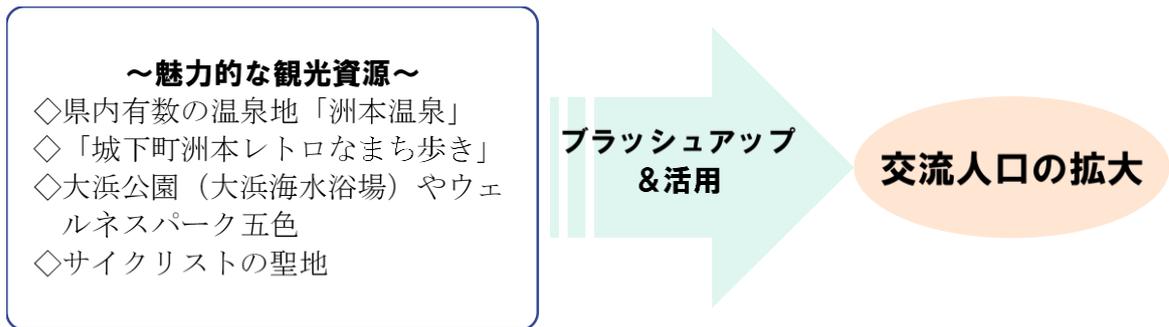
さらに、大学進学を希望する学生が島外へ流出する大きな要因となっていることとし

て、島内に学生が進学できる大学が少ない、学べる施設が少ないことです。大学を誘致することは大変困難を要することですが、その一方で、島外の大学、大学生が本市に関心を寄せ、各地域に入りながら地域住民や学生などと交流し、地域の課題や地域の活性化について共に考え、学び、さまざまな取組を進める機会が増してきています。そのため、島外の大学を中心とした「域学連携事業」を一層加速させ、大学の無いまちに学生の往来を高め、交流を深めるとともに、民間人・民間企業などが有する豊かなノウハウとスキルを地域に還元し、地域独自の魅力の向上や新たな価値の創造につながる取組を進め、外部人材を積極的に活用した、外部人材と住民など多様な人の関わりからつなげるまちづくりを進めます。

(3) 観光資源を生かした交流の促進

本市は県内でも有数の温泉地であり、大阪湾を眺望する洲本温泉があり毎年多くの旅行者が訪れます。また、洲本城址や国名勝旧益習館庭園など城下町らしいまちなみを歩いて散策を楽しんでみたり、地域の方や移住者がオープンさせたお洒落な店舗が連なるレトロなまちなみを生かしてイベントにした「城下町洲本レトロなまち歩き」など地域イベントを楽しみに来訪されたりする人もたくさんいます。このほか、大浜公園（大浜海水浴場）や高田屋嘉兵衛公園（ウェルネスパーク五色）のほか、新都志海水浴場など、淡路島の豊かな自然環境を家族で満喫いただける施設もあり、夏休みなどの大型連休や週末には家族連れで賑わいます。加えて、高田屋嘉兵衛公園（ウェルネスパーク五色）は、2020年3月に重点「道の駅」として選定され、今後、より魅力的で地域の核となる交流・体験施設とするための整備を進め、島内外からさらに多くの人々にお越しいただき、ご家族、ご友人などと楽しんでいただける施設としてまいります。さらに、近年、淡路島は「淡路島ロングライド150」などのサイクリングイベントなどを通して、サイクリストの聖地のひとつとして人気が高まっており、島外から多くのサイクリストが訪れます。

これら観光客などを引き付ける地域資源に磨きをかけ、効果的に見せながら活用を図り、誘客効果の高いイベントやまち歩きツアーなどに生かしながら、交流人口の拡大を図ります。



（４）まちの魅力の効果的な情報発信

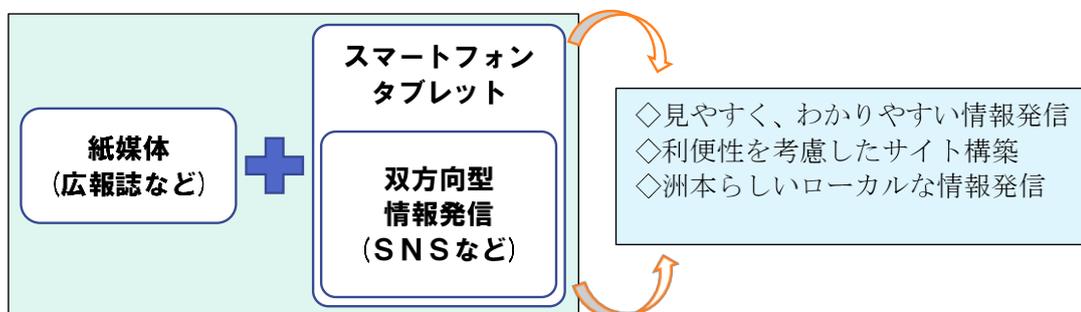
移住者や観光客、また、新たなファンである関係人口を拡大させるためには、本市の魅力的な情報を欲しい人に確実に届けることが必要です。

かつて、行政からの情報は市広報紙やチラシ、冊子などの紙媒体を中心として、インターネットの普及に伴い、ホームページへと時代と共に変わってまいりました。

しかし、スマートフォンやタブレットなど通信端末の技術革新と個人普及が進むと共に、通信速度も5G時代へと移行することに伴い、さらに高速で大容量のデータ通信が可能となります。

そのような時代において、行政の情報発信のあり方についても、情報を届けたい相手に確実に、効果的に届くように工夫する必要があります。

そのため、行政の情報発信について、高齢者など情報技術を上手く使いこなせない人のため、見やすく、分かりやすい従来の紙媒体による広報紙などによる情報発信を工夫するとともに、スマートフォンやタブレットユーザーの利便性を考慮した使いやすいサイトづくりにあわせて、SNSなどを活用した双方向型の情報発信なども積極的に取り組みます。また、移住を希望する人など外部の人にとっては、地域らしい、ローカルな情報に関心を寄せることも多いことから、洲本らしいローカルな情報を発信する取組を進めます。このような取組を通して、本市の強みや魅力を内外に積極的に発信し、本市の存在感（「プレゼンス」）を高める取組を進めます。



(5) 教育・スポーツの振興

現在、子どもの教育現場においては、少子化により、小中学校や高校、大学の統廃合などが地方だけではなく都市部においても進んでいます。

そうした状況において、国では特色ある学校づくり、教育カリキュラムなどを実施することを勧め、都市部だけではなく、地方においても独自性を有する、質の高い教育を子どもたちに受けさせる環境を整える動きが進展し、学校も生き残りをかけて、知恵を絞った学校経営が求められる時代となってきました。

そのような中、都会では味わえない恵まれた自然環境で子どもたちが学べることは、大きな特色であり、また、子どもたちの健全な育成においても誇れるものです。そのほかにも、本市には、城下町として栄えてきた歴史・文化やその遺構が今もなお残っており、子どもたちが歴史・文化に直に触れることで自然に吸収できる機会があること、加えて、学校だけではなく、地域や外部とのつながりを生かした教育を享受できることも特色のひとつです。そのため、自ら考え、行動できる、豊かで健やかな人を育て、これからの洲本市を創る未来の「すもとっ子」を育む取組を進めるとともに、スポーツに集中できる環境のもとで強くしなやかな身体づくりと、スポーツを通じた健康づくりや地域の活性化にも取り組みます。



基本戦略2 歴史の薫る魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る

基本的方向性	◆ 恵まれた環境で健やかに子を育て、人の成長を見守る
	◆ 生涯現役で元気な人がいきいきと活躍するまちをつくる
	◆ 城下町洲本らしさを磨き、伝え、広め、誇れるまちをつくる
	◆ 環境立島淡路島で安全・安心に暮らせる生活環境を構築する
	◆ 広域連携による効率的かつ効果的な行政サービスを提供する
SDGs (期待するゴール)	      

基本戦略2では、主に以下の取組を行います。

- (1) 妊娠・出産・子育ての支援
- (2) 健康・福祉・医療の支援
- (3) 元気な高齢者の活躍の機会の推進
- (4) 歴史・文化の保存と活用によるまちづくりの推進
- (5) コミュニティ組織、中間支援団体の育成と支援
- (6) 防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備
- (7) 環境意識の向上の推進
- (8) 淡路島全体で考える未来の公共交通システムの構築と交通ネットワークの充実
- (9) 市域を超えた広域連携による新たな行政運営の推進

この戦略では、本市で安心して出産・子育てができる環境を整える取組のほか、健康・福祉・医療を高めるまちづくり、元気な高齢者が活躍するまちづくり、

歴史や文化を守り、活用するまちづくり、地域コミュニティの維持及び強化に加えて、防災・防犯による安全・安心に暮らせるまちの基盤づくり、広域的な連携によるまちづくりなど、主としてまちのプラットフォーム（基盤）を整える取組を行います。

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

地域の発展、持続する地域であり続けるためには、地域の未来を担う子どもたちの存在なくしては実現できません。しかしながら、本市においても少子化の進展は止まることがなく、2018年の合計特殊出生率は1.21となり、人口を維持していくために必要される人口置換水準2.08を大きく下回っており、18歳未満の子どもの数は年々減少傾向にあります。少子化は女性の社会進出のほか、若年世代における晩婚化や未婚率の増加、また、子育てに対する

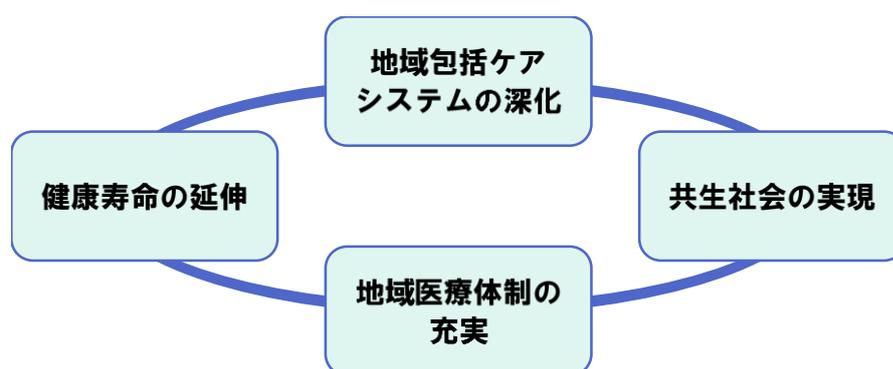
将来の経済的な不安など、さまざまな要因が絡み合っており、課題の解決は単純な問題ではありません。そのため、本市の子どもたちが健康ですくすくと育ち、また、親も安心して子どもを産み、働きながらでも育てられる地域社会を実現することが重要となります。そこで、子育て家庭に対するさまざまな教育・保育、子育て支援サービスの質の向上と充実を図り、子どもの成長を支える環境を整えるほか、母子保健や小児医療などの充実にあわせて、段差解消などまちのバリアフリー化に加えて、妊産婦のメンタルケアなど、心のバリアフリー化などを進め、安心して子どもを産み育てることができる住み良い環境づくりも進めます。

また、「子どもは地域の宝」という認識を地域で共有し、地域の関係機関や住民との連携を図り、あらゆるネットワークを張り巡らせ、地域全体で子育てを応援し、地域で支え合う取組を進めるとともに、子育てと仕事を両立できる環境整備を進めます。

(2) 健康・福祉・医療の支援

地域で安心して健康で快適に暮らすためには、地域医療のほか、健康・福祉環境の整備が重要です。本市では高齢化の進行に伴い、認知症や高齢者に起こりやすい傷病への対策のほか、若年世代でも生活習慣の乱れから生活習慣病を発症するケースもあることから、事前に予防する対策など地域医療や介護・福祉サービスのニーズが高まってまいります。そのため、地域包括ケアシステムの深化を図り、高齢者の自立支援や重度化防止に向け、いきいき百歳体操や高齢者を地域全体で支援するサポーターの育成などを実施し、効果的な介護予防を進めるとともに、認知症の進行を早期に発見し、早期に支援する予防対策を行います。

そのほか、障害を持つ人が自立した生活を送れ、積極的に社会参加できる共生社会の実現に向けた取組を進め、すべての人が共に支え合う地域福祉によるまちづくりを進めます。また、より良い地域医療体制の充実を図るとともに、各種健診を受診しやすい環境づくりを進め、ひとりひとりが自身の健康を意識し、健康管理のため主体的に健診や知識を学ぶ取組を支援することで、住民の健康寿命の延伸を図ります。



(3) 元気な高齢者の活躍の機会の推進

国が発表した「令和元年度高齢社会白書」によると、2018年10月1日現在の高齢化率は国が28.1%、県が28.8%とほぼ同様の状況であるのに対して、淡路島においては35%を超え、国、県をはるかに超す早いペースで高齢化が進んでいます。

一般的に若者が減り、高齢者が増加することで地域における経済活動や労働生産性が低下

し、まちから元気が失われるというようなことも耳にすることもありますが、その一方で、町内会をはじめとする地域団体での地域活動のほか、各種ボランティア活動、また、農業など生涯現役として働かれる元気な高齢者（シニア）の人々もたくさんいらっしゃいます。

そのような中、「人生 100 年時代」、「一億総活躍社会」の到来に対して、現役をリタイアされた高齢者（シニア）の豊かな人生経験や技術を地域に還元し、地域の新たな担い手として元気に活躍する「アクティブシニア」の拡大を図るとともに、地域とのつながりや世代を超えた世代間交流のほか、生涯教育や生涯スポーツを通して、第 2 の人生を豊かにする多様な機会を設けます。

（４）歴史・文化の保存と活用によるまちづくりの推進

本市は淡路島内で唯一、城を有するまちであり、2017 年には「続日本 100 名城」にも選定された、淡路島を代表する洲本城の城下町として栄えてきました。洲本城址には貴重な城壁の石垣や登り石垣などの遺構があるほか、日本最古の模擬天守閣も残っています。そのほか、市街地内では国名勝旧益習館の日本最大級の巨石を用いた豪壮な武家庭園なども残り、それらは適正に管理し、保存しています。

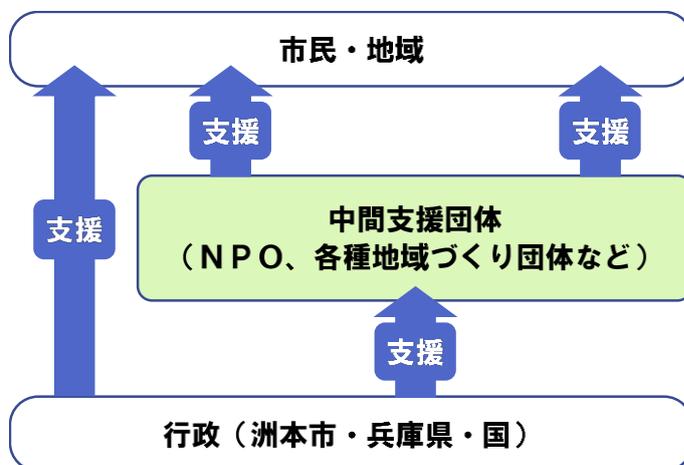
一方で、歴史的に貴重な史跡や資料は保全するだけでなく、貴重な地域資源としてまちづくりに活用していく視点も重要であり、積極的に「見せていく」取組を進めることで、城下町洲本らしい歴史・文化の薫るまちづくりを進めます。

そのほか、西日本で一度は訪れてみたい図書館としてランキングでベスト 3 にも選ばれた、鐘淵紡績工場跡の赤レンガを再利用したおしゃれで大人な雰囲気のある洲本図書館や、淡路島の貴重な出土品や資料などを保管、展示している淡路文化史料館を広く市民のほかにも、多くの人に気軽に立ち寄っていただき、歴史・文化を身近な存在として感じ、現地で体験していただく取組を進めるほか、まちなかを歩き、見てまわることで地域の歴史・文化を学び、そして、新たな気づきや発見をもたらす、まち歩きなどの取組も行います。

（５）コミュニティ組織、中間支援団体の育成と支援

地域に溶け込み、地域で円滑、町内会をはじめとする地域コミュニティは重要であり、まちづくりを支える大きな存在です。しかしながら、地域コミュニティにおいても、少子高齢化により新たな人材が不足し、組織を維持しながら、活動を継続していくことが厳しい状況となっています。

そのような中、「つながり基金」などによる地域コミュニティの活動を支える取組を進めるほか、民間のスキルやノウハウを取り込み、連携したコミュニティ活動を進めま



す。また、NPOや各種地域づくり団体など、行政と連携又は行政の役割の一旦を担うような、新たな中間支援団体などの活動の支援についても進めます。

(6) 防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備

人々が地域で安全・安心に暮らしていく上で、防災・減災対策に加えて、防犯、交通安全対策などの備えをしっかりと行っていく必要があります。

近年、地球温暖化などに伴い、頻発する極地的なゲリラ豪雨や強大な台風など、世界規模で異常気象が発生しています。また、淡路島においては近い将来において発生するとされる南海トラフ巨大地震に対する備えが急務になっています。

このほか、巧妙化する詐欺や子どもや高齢者などを狙った悪質な犯罪など、時代の変化に応じて、犯罪も多様化しています。また、高齢ドライバーの運転の増加に加えて、島外から淡路島を訪れる観光客なども増加しており、自動車や自転車の通行量が増加しています。そのため、島内の道路では渋滞も頻繁に発生しており、交通事故などの発生リスクも高まっています。

このため、防災・減災対策では、風水害や地震に対する備えとして、「自助」・「共助」を学び、習得し、有事の際には直ちに実践できるような学びの機会や各種訓練による技術の習得の機会を積極的に設けます。また、これらソフト対策のほかにも、津波や高潮など自然災害から市民の生命と財産を守るためのハード対策も進めます。

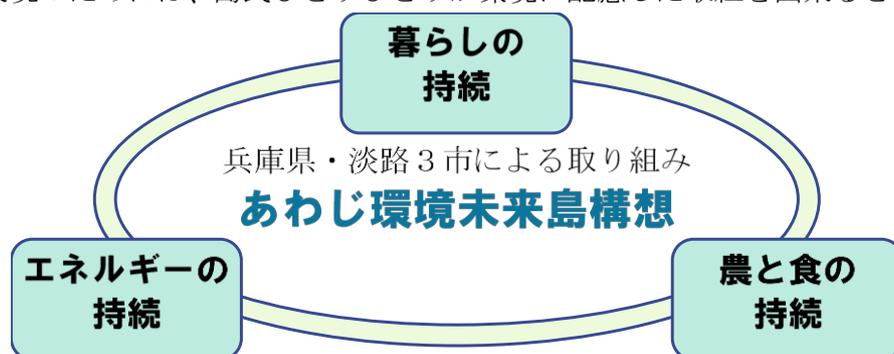
一方、犯罪や事故から身を守る対策としては、詐欺などの犯罪から身を守るための基本的な知識を学ぶ機会や消費相談、各種啓発活動などの取組を進めます。

また、事故などから身を守る対策としては、交通安全の知識を学ぶ交通安全教室の開催するほか、サイクリストなど自転車利用者が安全に走行できる環境を計画的に整備します。

(7) 環境意識の向上の推進

淡路島では、県と淡路3市が国の総合特区を生かして「あわじ環境未来島構想」を進めています。この構想では、自然豊かな淡路島のポテンシャルを最大限に生かし、環境に配慮しながら人々が暮らしやすい生活環境を整え、持続可能な暮らしの確立を目指す取組であり、「エネルギーの持続」、「農と食の持続」、「暮らしの持続」の3つの目標を達成することとしています。この構想の実現のためには、島民ひとりひとりが環境に配慮した取組を出来るところから進めていく必要があります。

そのため、子どもから大人まで広く環境問題について現状を知り、学ぶ機会を設け、普及啓発を図りながら環境意識の向上を図ると



ともに、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を実践し、ごみの減量化に取り組みます。また、省エネ意識を高め、再生可能エネルギーやバイオマスの効果的な活用を進めるため、家庭用太陽光発電システムの各家庭への設置などを支援します。また、あわせて太陽光発電システムに蓄電池をあわせて整備することで、災害時には貴重なライフラインとしても役立つため設置を支援します。

（8）淡路島全体で考える未来の公共交通システムの構築と交通ネットワークの充実

人口減少や担い手不足の問題から、地域において住民の生活の足となる路線バスなど公共交通が衰退してきています。高齢者が増加し外出が困難な人や免許返納により移動手段を失った人など、今後より一層、公共交通の存在、意義が問われてまいります。また、地方では小規模な集落や過疎地において、まちなかへ出ることすら厳しい環境で生活されている人のため、既存のバス路線までつなげる取組も課題となっています。そのため、地域公共交通の維持にあわせて、コミュニティバスなど利用者のニーズに合ったよりきめ細かい公共交通のサービスの確立を図ります。また、地域が独自に移動手段を確立し、地域が主体的に生活の足を守る取組についても支援してまいります。このほか、淡路島全体として、より良い公共交通の在り方を模索しながら、住民のほか観光客などにとっても利用しやすく、効果的な交通ネットワークを構築します。



索引：淡路島地域公共交通網形成計画

（9）市域を超えた広域連携による新たな行政運営の推進

時代とともにまちづくりにおいて、多様な行政ニーズが求められるようになってまいりました。しかしながら、人口減少と少子高齢化の進展に加えて、地方行財政においては大変厳しい状況の中、今後、行政サービスの維持する上で、より一層、効率的かつ効果的な行政運営が求められてまいります。そのような中、国においてはコンパクトシティによる集約したまちづくりや、周辺の自治体が連携し合って行政サービスを相互補完し、住民の利便性を高めていく取組も進められています。

ひとつの自治体がフルスペックの行政サービスを提供するスタイルから、広域的視点により、周辺と相互協力関係を構築し、得意分野・不得意分野を生かし、補完し合いながら、より良い行政サービスを提供していく、新たな行政運営の取組が進んでいます。そのような時代の変化、ニーズの変化に対応するため、淡路島定住自立圏の取組を進めるとともに、地方創生関連交付金などを有効に活用しながら、広域的視点に立ち、周辺自治体との連携した取組などを進めます。

基本戦略3 女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創り広げる

基本的方向性	◆「御食国」ブランドの向上に資する農水産物の生産基盤を強化する ◆地域のしごとの魅力を知り、守り、創る好循環を生み出す
S D G s (期待するゴール)	

基本戦略3では、主に以下の取組を行います。

- (1) 農業生産基盤の整備
- (2) 新規就農者支援による担い手の確保
- (3) 畜産振興の推進
- (4) 水産業の振興
- (5) 地域企業への就業促進
- (6) 起業・創業の支援
- (7) 企業誘致の促進

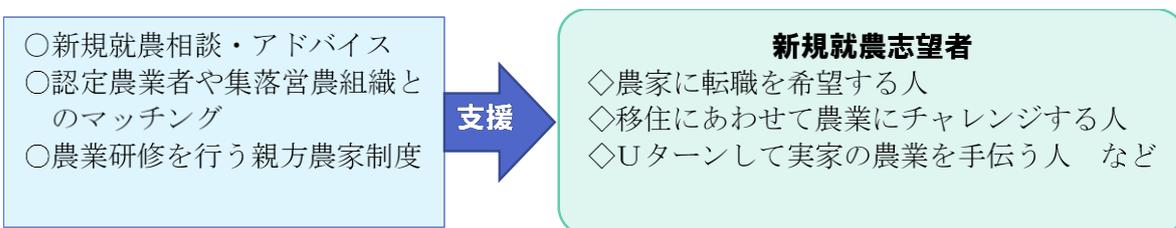
この戦略では、本市を含め「御食国」淡路島が誇る、豊かな農水産物の生産基盤の強化に加えて、全国的にも課題となっている第1次産業の担い手不足を解消するための取組のほか、地域における雇用環境の改善と起業・創業環境の充実を図り、加えて、地域におけるコミュニティビジネスなど、時代に応じた幅広い、仕事のかたち、働き方に適用できる環境をつくり、地域内経済の環境の向上を図る取組を行います。

(1) 農業生産基盤の整備

本市では、淡路島玉ねぎのほか、五色町で作付けされ内外からも評価の高い、鮎原米やイチゴなど、旨い米や野菜、果物を作る産地があります。しかしながら、地勢上、山地や丘陵地の農地が多く、また、形状の悪い田畑や機能的な排水機能及び農業用道路網が十分でないことから、安定した供給体制、生産性の高い農業経営を構築するため、ほ場整備事業を推進するほか、耕作放棄地の解消を進め、有効な農地への転換を図ります。また、拡大する農業被害で農業従事者を悩ませる、シカやイノシシなどの有害鳥獣の駆除を進める一方で、その資源を有効に活用し、新たな製品の開発につなげるなど農業の6次産業化を進めます。そのほか、地域に甚大な被害を及ぼす恐れのある危険なため池を適切に管理し、整備するとともに、人・農地プランなど、地域における将来の農業の在り方や課題を地域や関係者が主体的に考え、共有して取り組むことを支援し、持続可能な農業の実現に取り組めます。

(2) 新規就農者支援による担い手の確保

本市における農業従事者は年々減少傾向にあります。厳しい労働条件に加えて、天候など気象条件に伴い収穫量が左右され、また、為替や諸外国との貿易条件などによる価格の変動の影響も受けるため、特に若年世代には不安定な仕事という印象で受け取られてしまうことがあります。また、農家で育った子どもでも異なる仕事を選び、また、親もそれを願う傾向もあり、農家の担い手不足は深刻な問題となっています。しかしながら、その一方で農家に転職を希望する人や、移住にあわせて農業にチャレンジする人、また、Uターンして実家の農業を手伝う人など、若年世代において、暮らし方、働き方の意識の変化に伴い、新規就農を志す人も出てきています。そのため、新規就農を志す人に対する相談やアドバイスなどの支援のほか、地域の認定農業者や集落営農組織とのマッチング、農業研修を行う親方農家制度など、きめ細やかな対応を図りながら、新規就農者を拡大する取組を進めます。



(3) 畜産振興の推進

昨今、淡路島では、さまざまな農水産物について食のブランド化が進み、知名度と共にその需要が高まっています。特に但馬牛、中でも神戸ビーフは、海外への富裕層に向けた輸出が拡大する中、海外での需要が高騰し、その跳ね返りとして淡路ビーフへの関心と期待も高まりつつあります。また、2020年7月から1年開催が延長となった東京オリンピック・パラリンピックのほか、関西では2025年に大阪・関西万博が開催され、諸外国から多くの訪日外国人が訪れることから、さらに淡路ビーフへの需要に期待ができます。そのため、農業と同様に担い手の確保を図るとともに、大規模志向の畜産農家に対する大規模牛舎の建築を支援にあわせて、小規模畜産農家への増頭対策への支援を行います。そのほか、耕作放棄地や低利用地に繁殖雌牛を放牧し、農地の管理に加えて、雌牛の健康的に管理する取組を進めながら、県内最大の但馬牛の素牛の里として、さらなる飛躍を目指します。

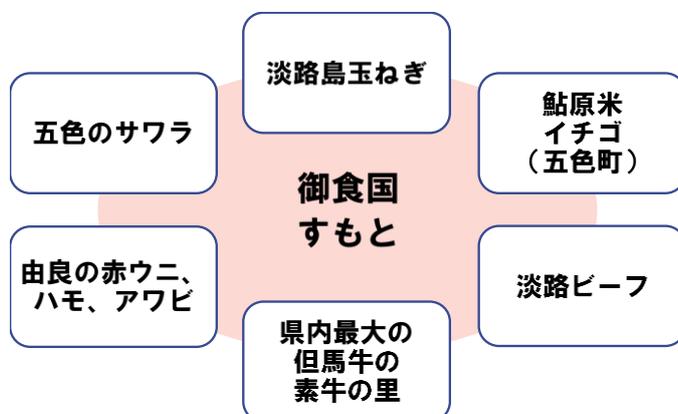


(4) 水産業の振興

本市には多くのブランド水産物があり、地域が誇る資源となっています。代表的なものでは、由良の赤ウニ、ハモやアワビ、また、五色のサワラなど、その多くは京阪神地域に出荷

され、高い評価を得ています。また、古くは大和朝廷にこれら豊かな海産物を献上し、全国でも3つしかない「御食国」にひとつとして認められており、淡路島、洲本市の「食」のポテンシャルの高さは折り紙つきです。しかしながら、水産業においても担い手不足をはじめ、地球温暖化による魚種の変化に加えて、瀬戸内海における栄養塩の低下による海苔養殖への影響などもあり、漁獲量・漁獲高が減少しています。

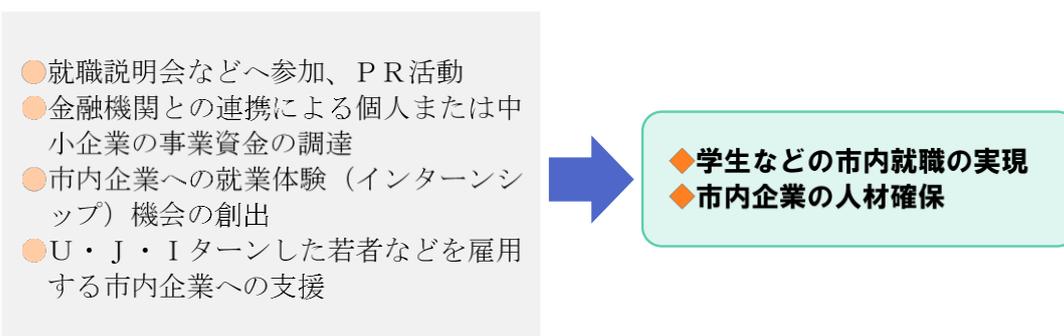
そのため、水産業における就業環境の改善を図るため、漁港や水産関連施設などの整備を行うほか、稚魚や稚貝の放流や栽培漁業の取組を支援し、漁業の生産性の向上を図ります。あわせて資源の枯渇を防ぐため、ため池の底浚え（かいぼり）などの取組を進め、自ら海を守り育てる、豊かな海づくりの取組を支援します。



(5) 地域企業への就業促進

淡路島内における有効求人倍率は2019年10月時点で、県が1.02倍に対して、淡路島では2.35倍となっており、軒並み、県内の地域の中でも高く推移しています。人材を求める職種、仕事の内容と希望する職種、仕事の内容が折り合わず、雇用のミスマッチが長く解消されていません。特に、若年世代においては、島内にはない職種や都会で働くことへの関心が高く、島外に進学し、就職する傾向があることも要因となっています。このような状況の中、市内では事業所のほか、地域に古くからある小規模商店、個人商店なども経営環境の悪化、人材不足などの影響により減少しています。地域の雇用環境の悪化は、事業経営の原動力を低下させ、地域経済の活力を削ぐものであり対策が急がれます。

この状況を改善するため、市内の企業に対する新卒・中途採用の人材確保のため、就職説明会などへ参加し、PR活動を進めてまいります。そのほか、金融機関との連携により、個人又は中小企業の事業資金の調達を支援します。また、大学生などを市内の企業に就業体験（インターンシップ）できる機会を設けるとともに、本市にU・J・Iターンした若者などを雇用する市内企業に対する支援などもあわせて行い、一度地元から島外に出た大学生などのU・Jターンや、移住を希望するIターンの促進も図りながら、学生などの市内就職の実現と市内企業の人材確保を進めます。



(6) 起業・創業の支援

本市で増え続けている空き家の問題と同じくして、商店街や個人商店への人の流れが遠のくことで、商店の閉店や倒産が進み、空き店舗や空きテナントも目立つようになってきました。しかしながら、その一方で移住者などをはじめ、若い人や女性がこのようなスペースを活用して、起業する動きが生まれてまいりました。

地域で新たな生業を起こすことに加えて、空き店舗などの有効活用が進むことは地域の活性化に寄与するものであり、このような女性、若者の起業マインドを応援する取組を進めるとともに、起業セミナーなど起業に要する基本的なスキルやノウハウを習得する機会を設け、また、気軽に、試験的に事業経験を積み、スムーズに起業へ進めるように、チャレンジショップなど体験の場の提供にも取り組みます。

(7) 企業誘致の促進

本市では、明石海峡大橋の開通、神戸淡路鳴門自動車道の開通に加えて、市内で2つ目となるインターチェンジ「淡路島中央スマートインターチェンジ」が開通し、洲本市街地や五色地域のほか島外へのアクセスがさらに改善され、目的地までの時間短縮のほか、渋滞の緩和にも寄与することとなりました。

また、当該スマートインターチェンジの整備にあわせて、接続する主要な県道についても道路の拡幅や新たにバイパスが開通するなど、ハード面での環境が向上していることに加えて、企業誘致に関する各種奨励措置によるソフト面の支援を生かしながら、島内外からの企業の誘致を粘り強く行っていくほか、市内既存企業の事業拡大や移転を支援、促進させ、雇用の機会の創出につなげ、地域経済の活性化を図ります。



IV アクションプラン

「アクションプラン」は、「人口ビジョン」において目標とする将来人口（戦略人口）の実現をめざして取り組む事業等をまとめたものです。

そのため、アクションプランは、「3つの基本戦略」を具現化したもので、原則として、毎年、各施策や取組の達成状況等を確認し、効果の出ているものとそうではないものを精査しながら、適宜、追加や変更などの見直しを行います。



アクションプランのチェック&ローリング

	2020年度	2021年度	2022年度
アクションプラン			

あわせて、主な事業や施策の内容、進捗状況などが見やすく、理解しやすいように、レイアウトに配慮し、取組の状況や成果などについて理解を深めていただくため、マークやアイコンを用いた説明を行っています。

主な事業・施策の事業表示イメージ

(例) 域学連携事業

K P I (重要業績評価指標) 連携大学を 20 校に拡大

実施主体 

事業成果 

◆ K P I (重要業績評価指標)

各施策及び事業の成果・実績を示すもので、**指標とする内容**とその**数値目標**で構成されます。

なお、ここでは既存事業及び事業化できたものについて表示しています。

また、「設定数値」に記載の**単年**、**累計**の表示について、**単年**は単年度の実績で見るものを意味し、**累計**は当該年度以前からの実績の合計値（累積値）を実績として見るものを意味しています。

◆ 実施主体 施策・事業にかかわる主体・関係者を以下のアイコンで説明。



行政 住民 民間事業者 学生・学識経験者 シニア 移住者・関係人口

◆ 事業成果 施策・事業の成果（実績・評価）を以下のアイコンを用いて説明します。

なお、ここでは既存事業及び事業化できたものについて表示しています。

但し、当該戦略の初年度である 2020 年度においては、施策・事業の成果はないため、空欄となっています。

 : 全体の 20%程度の実績・評価
 : 全体の 40%程度の実績・評価
 : 全体の 60%程度の実績・評価
 : 全体の 80%程度の実績・評価
 : 100%達成

【基本戦略 1】

洲本の人へのあたたかさに触れ、ここに居たい、訪れたいと思う「ひと」を創り育む

(1) 都市圏からの移住・定住の促進

① 移住・定住促進事業					
事業内容	移住相談会などを通して、きめ細やかな相談対応を行うとともに、各種移住・定住支援制度の効果的な運用により、移住・定住者を増加させる。				
K P I	設定指標	空き家バンク及び空き家改修支援制度を活用した移住・定住者数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	17人	20人	40人	60人
実施主体					
事業予算	64,660千円				
事業成果					
担当課	魅力創生課				

(2) 「関係人口」の拡充

① 域学連携推進事業					
事業内容	さらなる大学との連携など、域学連携の推進を図るため地域との交流を広げ、事業の推進に必要な各種支援を行う。				
K P I	設定指標	地域団体と大学との連携プロジェクト数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	7件	7件	8件	8件
実施主体					
事業予算	1,820千円				
事業成果					
担当課	企画課				

(3) 観光資源を生かした交流の促進

① 観光対策事業					
事業内容	経済産業省の近代化産業遺産にも認定されている赤レンガ建物群の活用を起点とし、中心市街地及び市内の活性化を目指す。				
K P I	設定指標	総入込客数及びまつり人出数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	1,295 千人	1,260 千人	1,325 千人	1,305 千人
実施主体					
事業予算	27,548 千円				
事業成果					
担当課	商工観光課				

② 高田屋嘉兵衛公園を通じた地域活性化					
事業内容	令和元年度(2019年度)重点「道の駅」として選定された同公園の整備及び「道の駅」への登録を進め、五色地域の振興を図る。				
K P I	設定指標	高田屋顕彰館・歴史文化資料館の入館者数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	3,689 人 (※12月末現在)	5,500 人	6,000 人	10,000 人
実施主体					
事業予算	65,322 千円				
事業成果					
担当課	農政課				

(4) まちの魅力の効果的な情報発信

① 洲本市地域おこし協力隊情報発信事業					
事業内容	洲本市地域おこし協力隊の活動や地域の情報をFacebookなどSNSで発信することで、本市の魅力を伝え、新たなファンを獲得する。				
K P I	設定指標	洲本市地域おこし協力隊Facebookページのフォロー数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	1,875人	1,900人	1,950人	2,000人
実施主体					
事業予算	0千円				
事業成果					
担当課	企画課				

② 洲本CATV施設更新事業					
事業内容	地上デジタルテレビの難視聴地域並びに民間事業者による情報通信系サービスの未提供地域を抱える中、当該施設の整備により、市内全域において途切れのない情報通信系サービス及びテレビ放送系サービスの提供を行うことができ、デジタルデバイド（情報格差）の解消につなげる。				
K P I	設定指標	①CATV加入者数 ②インターネット加入者数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	17,710人	17,800人	17,800人	17,800人
	累計	3,045人	3,065人	3,085人	3,100人
実施主体					
事業予算	700,000千円				
事業成果					
担当課	広報情報課				

③ 広報すもとSNS (Instagram) 発信事業				
事業内容	広報紙の発信媒体を増やすことで、市内域外の読者を増やす。特にスマートフォンを多用する若年層への情報発信を強化することで、本市の行政情報、イベント等情報への関心を高めながら、交流人口の増加につなげる。			
K P I	設定指標	Instagramのフォロワー数		
	設定数値 累計	基準値 (2019) 250人	目標値 (2020) 1,000人	目標値 (2021) 1,500人
実施主体				
事業予算	0千円			
事業成果				
担当課	広報情報課			

④ 地域のいいところ発信事業				
事業内容	芸人の表現力や発信力、また、写真作品の募集の機会を活用し、本市の魅力が島内外へ発信し、交流人口の増加につなげる。			
K P I	設定指標	①すもとのいいところ発信事業：SNS フォロワー数 ②フォトコンテスト：応募者数		
	設定数値 累計	基準値 (2019) 298人	目標値 (2020) 300人	目標値 (2021) 350人
	単年	39人	45人	50人
実施主体	 			
事業予算	1,942千円			
事業成果				
担当課	五色総合事務所地域生活課			

(5) 教育・スポーツの振興

① すもとっ子∞塾事業					
事業内容	中学校への出前講座や京都大学へのキャンパスツアーなど大学生や幅広い分野の有識者からの学びを通して心豊かな人間性を育てる。				
K P I	設定指標	中学生と大学生との交流機会（出前講座）の開催校数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	3校	5校	5校	5校
実施主体					
事業予算	2,000 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

② すもとっ子MANABIプロジェクト事業					
事業内容	地域の高齢者等が培った豊かな経験や知恵、技術を子どもたちに伝え、子どもたちの社会性や豊かな情操を育み、子どもの健全育成を図る。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	650 人	700 人	750 人	800 人
実施主体					
事業予算	1,000 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

③ 科学のふしぎ三島教室事業					
事業内容	郷土の発明家「三島徳七博士」と縁のある東京工業大学公認サークル「東工大Science Techno」が講師を務め、市内の小学生を対象に工作教室を通して、子どもたちが科学に触れ、興味を持つ機会をつくとともに、未来の社会に貢献できる想像力豊かな人材を育成する。また、教室を通して子どもたちの郷土愛を深める。				
K P I	設定指標	参加者のアンケート満足度			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		92%	93%	94%	95%
実施主体					
事業予算	950 千円				
事業成果					
担当課	五色総合事務所地域生活課				

④ アスリートネットワークプロジェクト					
事業内容	トップアスリートとの交流を通して、子どもたちに夢と希望、そして本物の感動を伝え、子どもの運動能力の向上並びに社会適応能力を高める。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		500 人	600 人	800 人	1,000 人
実施主体					
事業予算	2,000 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

⑤ ワールドマスターズゲームズ 2021 関西オープン競技「あわじ島ウォーク」					
事業内容	あわじ島ウォークの開催を成功させるとともに、開催後も継続開催を目指し、スポーツ振興並びに交流人口増を図り、地域の活性化に寄与する。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		200 人	400 人	800 人	1,000 人
実施主体					
事業予算	1,500 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

⑥ あわじ島スポーツフェスティバル					
事業内容	全国から参加できる本市独自のスポーツイベントを開催し、本市をPRするとともに、スポーツ交流を通し交流人口増と地域経済の活性化を図る。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		600 人	700 人	800 人	900 人
実施主体					
事業予算	2,000 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

【基本戦略2】

歴史の薫る魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

① 子育てにやさしいまちづくり事業

事業内容	子育てハンドブックによる支援のほか、妊婦等へのタクシー助成のほか、子育てを支援する協賛企業や店舗を拡充させ、子育て家庭をまち全体で応援する環境を整備する。				
K P I	設定指標	子育て支援協賛店舗数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	35 店	50 店	60 店	70 店
実施主体					
事業予算	7,090 千円				
事業成果					
担当課	子ども子育て課				

② 地域子育て支援拠点事業（にこにこひろば）

事業内容	育児グループの育成支援や子育てに関する講座を通して情報提供を行い、子育て中の親のつながり、仲間づくりなどネットワークを構築する。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	9,800 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人
実施主体					
事業予算	2,851 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

(2) 健康・福祉・医療の支援

① 健康のまちづくり事業					
事業内容	乳幼児期から切れ目のなく、ライフステージに応じた健康づくり、健診の受診、食育、自殺予防などの推進を図り、市民が生涯にわたり健やかに安心して暮らせるまちづくりを進める。				
K P I	設定指標	乳幼児健康診査受診率など（歯科検診、がん検診など含む）			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		4か月 95.4% 1歳6か月 97.2% 3歳 95.2%	96.5%以上	96.5%以上	96.5%以上
実施主体					
事業予算	78,184 千円				
事業成果					
担当課	健康増進課				

(3) 元気な高齢者の活躍の機会の推進

① すもとっ子MANABIプロジェクト事業【再掲（※但し、KPIを変更）】					
事業内容	地域の高齢者等が培った豊かな経験や知恵、技術を子どもたちに伝え、子どもたちの社会性や豊かな情操を育み、子どもの健全育成を図る。				
K P I	設定指標	地域の指導者数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		30人	35人	40人	45人
実施主体					
事業予算	1,000 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

② (続) おやしプロジェクト事業					
事業内容	壮年期・中年期の男性が生きる知恵や技を習得しながら、つながりを構築するとともに、青少年の健全育成及び地域の活性化に寄与する。				
K P I	設定指標	おやじを軸とした参加世帯数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		65 世帯	70 世帯	75 世帯	80 世帯
実施主体					
事業予算	500 千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

③ GENKI すもっとサポーター養成事業					
事業内容	超高齢化社会において介護予防の意識も高まるなか、健康寿命も伸びており、元気な高齢者や、いつまでも社会の役に立ちたいと考える高齢者も多いため、そのような人材を健康や住まいに関する講座を通じて地域社会の「サポーター」として育成し、地域のニーズにつなげていく。				
K P I	設定指標	サポーター養成講座への参加者数 (年間延べ人数)			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		※2020 年からの実施事業につき、現状設定なし	120 人	150 人	180 人
実施主体					
事業予算	80 千円				
事業成果					
担当課	介護福祉課				

(4) 歴史・文化の保存と活用によるまちづくりの推進

① 歴史文化遺産活性化事業					
事業内容	市内の歴史文化遺産をつないだまち歩きイベントや、銅鐸・銅鏡鑄造体験等を通して、歴史を身近に感じ、愛着を持ってもらうことで郷土愛の醸成のほか、歴史文化遺産を通して本市の魅力を外へ発信する。				
K P I	設定指標	参加者数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		150人	165人	180人	200人
実施主体					
事業予算	1,000千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

② 歴史文化遺産保存事業					
事業内容	洲本城址石垣の修復、旧益習館庭園の整備のほか、その他歴史文化遺産を適正に保存し、淡路文化史料館の講座や展示につなげ、広く市民に伝えることで、歴史を身近に感じ、郷土愛を育む。				
K P I	設定指標	淡路文化史料館の入館者数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		5,000人	5,250人	5,500人	5,750人
実施主体					
事業予算	1,916千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

③ 図書館市民まつり事業					
事業内容	2015年に全国の図書館3,300館の中から、「一度は訪ねて読書したい美しい図書館」の西日本部門で第3位に選ばれた洲本図書館は、旧鐘紡紡績工場跡の赤レンガが印象的な図書館で、全国的に知名度も高く、この歴史的な地域資源を活用し、地域住民の交流のほか、島外との交流の促進の機会の増大を図る。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		5,000人	5,500人	6,000人	6,500人
実施主体					
事業予算	0千円				
事業成果					
担当課	生涯学習課				

(5) コミュニティ組織、中間支援団体の育成と支援

① つながり基金助成事業					
事業内容	地域における交流イベントや防災減災に関する取組、また、集会施設の改修やだんじりの改修などについて支援し、市民、事業者、各種団体の自主的な活動の拡大を図り、地域コミュニティの維持並びに活性化を推進する。				
K P I	設定指標	つながり基金活用による自主活動件数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		38件	38件	39件	40件
実施主体					
事業予算	25,000千円				
事業成果					
担当課	企画課				

② 防災に携わる組織・人材の強化支援事業					
事業内容	自主防災組織（町内会）等への学習会、防災訓練の実施のほか、消防団員の確保、消防団施設等の整備を通して、安全・安心なまちづくりを担う組織や人材の強化を図る。				
K P I	設定指標	① 消防団員数の維持（R2年1月1日実数10人減以内） ② 防災訓練、防災学習会（出前講座）の実施地域数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計 累計	933人 72地域	923人以上 82地域	923人以上 92地域	923人以上 102地域
実施主体					
事業予算	4,134千円				
事業成果					
担当課	消防防災課				

③ 防犯・交通安全知識啓発事業					
事業内容	交通安全協会、防犯協会、防犯グループ等の防犯・交通安全に取り組む組織活動を支援するとともに、幼児や児童、高齢者に対する交通安全教室の開催や広報活動を通して、安全・安心なまちづくりを支える人を支援する。				
K P I	設定指標	防犯・交通安全知識の啓蒙・啓発・広報活動等の件数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	246回	250回	260回	270回
実施主体					
事業予算	7,714千円				
事業成果					
担当課	消防防災課				

(6) 防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備

① 防災に携わる組織・人材の強化支援事業【再掲】					
事業内容	自主防災組織（町内会）等への学習会、防災訓練の実施のほか、消防団員の確保、消防団施設等の整備を通して、安全・安心なまちづくりを担う組織や人材の強化を図る。				
K P I	設定指標	① 消防団員数の維持（R2年1月1日実数10人減以内） ② 防災訓練、防災学習会（出前講座）の実施地域数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計 累計	933人 72地域	923人以上 82地域	923人以上 92地域	923人以上 102地域
実施主体					
事業予算	4,134千円				
事業成果					
担当課	消防防災課				

② 防犯・交通安全知識啓発事業【再掲】					
事業内容	交通安全協会、防犯協会、防犯グループ等の防犯・交通安全に取り組む組織活動を支援するとともに、幼児や児童、高齢者に対する交通安全教室の開催や広報活動を通して、安全・安心なまちづくりを支える人を支援する。				
K P I	設定指標	防犯・交通安全知識の啓蒙・啓発・広報活動等の件数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	246回	250回	260回	270回
実施主体					
事業予算	7,714千円				
事業成果					
担当課	消防防災課				

③ ため池整備事業					
事業内容	未整備のまま老朽化が進む危険なため池を改修し、下流域の集落等の安全・安心な暮らしを確保する。				
K P I	設定指標	ため池改修個所数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	21 個所	26 個所	28 個所	30 個所
実施主体					
事業予算	211,542 千円				
事業成果					
担当課	農地整備課				

④ 耐震化促進事業					
事業内容	簡易耐震診断の結果、耐震性能に不足がある場合、耐震計画策定事業、耐震改修事業のほか、防災ベッドの購入補助など多様な耐震化支援策を通して、耐震化の向上を図り、大地震による被害から身を守る。				
K P I	設定指標	耐震化戸数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	5 戸	5 戸	5 戸	6 戸
実施主体					
事業予算	28,514 千円				
事業成果					
担当課	都市計画課				

⑤ 老朽危険空き家除却支援事業					
事業内容	危険空き家について地域からの相談、情報提供を受け、市で実態調査を行い、倒壊等の周辺への安全確保上問題の大きい危険空き家のうち、所有者が解体する意思があり、また、早急に除却する必要性が高いと認められるものについて、その所有者の解体除去の費用の一部を支援する。				
K P I	設定指標	危険空き家の除去軒数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	5軒	5軒	5軒	6軒
実施主体					
事業予算	9,598千円				
事業成果					
担当課	都市計画課				

(7) 環境意識の向上の推進

① 洲本市 25%ごみ減量化作戦					
事業内容	ごみの減量化の学習、PRのほか、ワームコンポストの設置普及や各ごみ減量化機器等の助成を進め、家庭ごみの減量化を図るとともに、ごみ回収ルート効率化、生ごみ水分量の削減対策を講じながら、市民のごみ減量化に対する意識の向上と環境にやさしいまちづくりを進める。				
K P I	設定指標	市民ひとりが1日あたりに排出する家庭ごみの量を県平均値以下に減少させる			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	542.0g/人日	528.0g/人日	514.0g/人日	500.0g/人日
実施主体					
事業予算	1,369千円				
事業成果					
担当課	生活環境課				

② 環境学習推進事業					
事業内容	市内小学生とその保護者を対象とした環境学習会のほか、著名人を招き環境を題材とした講演会を実施し、循環型社会の形成や地球環境問題をきちんと理解し、その実現に向けた自主的な行動が取れる人を育成する。				
K P I	設定指標	参加人数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		600 人	600 人	600 人	600 人
実施主体					
事業予算	2,000 千円				
事業成果					
担当課	生活環境課				

(8) 淡路島全体で考える未来の公共交通システムの構築と交通ネットワークの充実

① 暮らしと交流を支える持続可能な公共交通サービス推進事業					
事業内容	路線バスやコミバスなど地域公共交通網の維持、確保並びに充実を図ることで、市民の暮らしの充実のほか、観光客の利便性の向上を図りながら持続可能な公共交通を確立する。				
K P I	設定指標	地域公共交通（路線バス・コミバス）利用者数			
	設定数値 単年	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
		517 千人	513 千人	509 千人	505 千人
実施主体					
事業予算	87,427 千円				
事業成果					
担当課	企画課				

(9) 市域を超えた広域連携による新たな行政運営の推進

① 淡路島定住自立圏の推進				
事業内容	本市と淡路市、南あわじ市との連携、協力により、圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備し、また、各種サービスを相互運用などすることにより、圏域全体の活性化を図る。			
K P I	設定指標	定住自立圏構想対象実施事業数		
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)
	累計	17事業	17事業	18事業
実施主体				
事業予算	250,000千円（見込み）			
事業成果				
担当課	企画課			

【基本戦略3】

女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創り広げる

(1) 農業生産基盤の整備

① 農業基盤整備事業					
事業内容	高齢化、後継者不足により農業経営が厳しい状況の中、ほ場整備により区画整理した農地で省力化、効率化による収益性の向上を図り、持続可能な農業の確立を目指す。				
K P I	設定指標	新規整備地区数（地形図作成レベル）			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	0 地区	0 地区	0 地区	1 地区
実施主体					
事業予算	113,045 千円				
事業成果					
担当課	農地整備課				

② ため池整備事業【再掲】					
事業内容	未整備のまま老朽化が進む危険なため池を改修し、下流域の集落等の安全・安心な暮らしを確保する。				
K P I	設定指標	ため池改修個所数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	21 個所	26 個所	28 個所	30 個所
実施主体					
事業予算	211,542 千円				
事業成果					
担当課	農地整備課				

③ 広域農道整備事業					
事業内容	南淡路地域の農産物の流通ルートを確保し、農業経営効率の向上を図り、農業生産基盤を整えるとともに、整備による周辺地域の活性化を図る。				
K P I	設定指標	農道供用率			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	51%	51%	74%	100%
実施主体					
事業予算	23,692 千円				
事業成果					
担当課	農地整備課				

(2) 新規就農者支援による担い手の確保

① 新規就農者や集落営農組織を含む農業の担い手確保事業					
事業内容	農業従事者の減少の一因となっている、後継者、担い手不足について、就農希望者の支援やマッチングなどの対策を行い、本市の農業の維持及び発展を図る。				
K P I	設定指標	農業体験者及び農業研修生の受け入れ人数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	8人 (※1月末現在)	8人	9人	10人
実施主体					
事業予算	28,109 千円				
事業成果					
担当課	農政課				

(3) 畜産振興の推進

① 畜産業の振興					
事業内容	本市の農業の中で重要な位置を占めている肉用牛生産及び酪農に関して、繁殖用雌子牛の導入等への補助のほか、増頭による畜産経営の拡大を図るため牛舎の増改築への支援等を行いながら、本市の畜産業の維持並びに発展を促進させる。				
K P I	設定指標	一戸あたりの繁殖雌牛飼養頭数			
	設定数値	基準値 (2019) <small>(※2018年度時点)</small>	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	8.4 頭/戸	9.5 頭/戸	10.0 頭/戸	10.5 頭/戸
実施主体					
事業予算	24,742 千円				
事業成果					
担当課	農政課				

(4) 水産業の振興

① 鳥飼漁港物揚場及び漁港道路整備事業					
事業内容	鳥飼漁港において、漁業活動に支障があった漁港物揚場及び漁港道路を整備し改善することで、漁業協同組合の経営向上につなげ、漁業者（組合員）の減少を抑制する。				
K P I	設定指標	五色町漁業協同組合員の漁港に係る満足度（アンケート調査） ※正組合員の満足している人数/正組合員数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	<small>※2020年からの実施事業につき、現状設定なし</small>	30%	30%	90%
実施主体					
事業予算	19,000 千円				
事業成果					
担当課	林務水産課				

(5) 地域企業への就業促進

① 元気な商店街づくり事業					
事業内容	商店街の統一した景観形成や共同設備の整備を支援することを通して、商店街に活気を生み出し、商店街を歩きかう人の流れを増大させ、その効果により商業の振興を図りながら、さらには新たな雇用につなげていくことを目的とする。				
K P I	設定指標	商店街でのイベント回数（集客数）			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	5回 (3万人)	5回 (3万人)	5回 (3万人)	5回 (3万人)
実施主体					
事業予算	8,450千円				
事業成果					
担当課	商工観光課				

② 御食国プロジェクト推進事業					
事業内容	淡路島ぬーどる・島スイーツ・島カフェなどの振興を図る「御食国プロジェクト」を推進するため、プロジェクトへの参加店舗の拡大を図り、島内外からの人を引き付け、もってその効果により商業の振興を図りながら、さらには新たな雇用につなげる。				
K P I	設定指標	御食国プロジェクトの参加店舗数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	63店舗	65店舗	66店舗	67店舗
実施主体					
事業予算	1,000千円				
事業成果					
担当課	商工観光課				

(6) 起業・創業の支援

① 起業支援事業					
事業内容	本市で起業を目指す女性や若者に対して、起業時等に必要となる経費の一部を補助し、スムーズに起業の準備、開設が運ぶように支援することで、市内における起業環境を整備し、地域経済の活性化につなげていく。				
K P I	設定指標	起業・創業者数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	単年	9人	9人	10人	10人
実施主体					
事業予算	6,400千円				
事業成果					
担当課	商工観光課				

② 域学連携を通じた起業・創業支援					
事業内容	本市と島外の大学により長年取り組んでいる域学連携の成果の社会実装を図るため、域学連携で得た知見や成果を起業や創業というかたちでアウトプットし地域経済に貢献する。また、その取組により起業や創業を市民などに身近なものと感じていただき、市民などの起業・創業へのチャレンジマインドを誘発させる。				
K P I	設定指標	域学連携の成果を生かした起業・創業者数			
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)	目標値 (2022)
	累計	3件	3件	4件	4件
実施主体					
事業予算	500千円				
事業成果					
担当課	企画課				

(7) 企業誘致の促進

① 企業立地促進事業				
事業内容	<p>本市に進出を検討している企業に対して誘致活動を展開し、用地確保など総合的に支援し、市内への進出を実現させ、地域産業の振興、雇用の創出を図る。</p> <p>誘致企業に対しては、定期的に情報交換を行い、行政への要望や企業ニーズを把握しフォローアップを行う。</p> <p>また、既存企業に対しては、流出を防ぐため、当該企業との連携を強化し、情報収集・発信に努め、事業拡大や市内移転に対して支援を行う。</p>			
K P I	設定指標	企業立地支援制度を活用した企業件数 (うち市有企業用地の売却成約件数)		
	設定数値	基準値 (2019)	目標値 (2020)	目標値 (2021)
	単年	2件 (0件)	2件 (1件)	2件 (1件)
実施主体				
事業予算	28,500 千円			
事業成果				
担当課	魅力創生課、五色総合事務所地域生活課			

V “未来の種”

“未来の種”については、以下のとおりです。

- “未来の種”は、「洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部」で提案された意見のほか、市内部（職員）や別に開催したワークショップ等を通して、住民などから意見・提案されたものなどを取りまとめたものです。
- 先の「アクションプラン」は、本市が2060年の将来人口目標を実現するため、その取組としてすでに実施しているものですが、“未来の種”は、現段階においては、あくまでもアイデアベースのものであり、事業主体や事業規模、事業手法などについて、不確定要素が多いことから、必ずしも実施が確定しているものではありません。
- “未来の種”は、基本的に、「人」、「金」、「組織」、「条件・ルール」など、事業として実行するにあたり必要となる「主要な要素」が現段階においては、十分に満たされておりません。
しかしながら、将来的にこれらの「主要な要素」が満たされれば、“種”が芽を出し、やがては「アクションプラン」の中に位置付けられる可能性もあると考えているため、引き続き、検討してまいります。



【基本戦略1】

洲本の人をあたたかさに触れ、ここに居たい、訪れたいと思う「ひと」を創り育む

① 迷いも人生～ある程度疲れた大人たちへ

アイデア	本市にUターンやIターンをする人の多くは、自然の豊かさや人の温かさに魅かれて移住を決断すると考えられる。進学等で一旦地元を離れた学生や、都市での生活に疲れ、「戻りたい」「癒されたい」と感じた人々を、受け入れる体制こそが重要である。「目的をもたない移住」や「過度に期待しすぎない移住」が結果的に移住成立につながることもあり、その上で、域学連携の学生等の関係人口との繋がりは重要である。関係人口への交通費補助などの支援をすることも効果的。
------	---

② ターゲットを絞ったツーリズム事業

アイデア	観光客や移住者などを誘致するため、戦略的に、ターゲットを絞ったツアーを提案する。例えば、健康志向の高い、都市の若者や外国人向けに、バランスの良い食事が取れる地産地消の飲食店や海岸沿いのジョギングコース等を紹介し、「健康的なライフスタイル」を提案。また、スマートフォンを活用して、摂取カロリーや消費カロリー等健康への影響を示す。その他、子育て世帯をターゲットにした、子ども連れで訪れやすいスポットや、ペット連れで入店可能なスポットの紹介なども想定できる。
------	--

③ 洲本市地域おこし企業人

アイデア	民間企業から地域おこし企業人を誘致し、民間人のノウハウやスキルを活かした本市の魅力的な情報の発信方を検討し、InstagramやFacebookなどSNSで積極的に発信し、市の認知度アップを図る。
------	--

④ (仮称) 洲本市まち・ひと・しごと人材バンク (通称: スーパースモト人)

アイデア	市内に暮らす、優れたノウハウを持つ企業の方や、特別な技能をもつ人を、洲本市まち・ひと・しごと人材バンクに登録し、その人の困りごとや特別な技能を紹介する。これを見て、困りごとを解決できる人や、特別な技能を必要としている人とのマッチングを行い、人のつながり、人の輪で地域課題等を解決していくプラットフォームのひとつとして、活用する。
------	--

⑤ (仮称) 洲本市地域創生チームの編成

アイデア	本市の地域創生を推進するため、「洲本市まち・ひと・しごと創生戦略本部」以外に、広く住民等の参画による混成チーム(コンソーシアム)を立ち上げ、意見、アイデアなど幅広い提案の種(シーズ)を生むプラットフォームとして整備し、さらに住民によるまちづくり、地方創生の取組を進める。
------	---

⑥ (仮称) すもと大学の開校

アイデア	大学のない、本市では大学進学に伴う高校生など若年層の島外流出が大きな課題となっている。そのような中、本市では域学連携事業を通して、多くの大学生が本市を訪れ、地域住民等を巻き込んで地域活動等フィールドワークを実施している。そこで、関係する各大学をひとつくりにまとめ、仮想“すもと大学”として開校し、参画している学生やその大学の講師、また、豊かなノウハウやスキルを有する地域住民等をゲスト講師として招くほか、著名なゲストを招き、地域づくりの講演等を実施したり、「すもと検定」などにも取り組んだりしたり、「ひと」と「ひと」のつながり、「ひと」と「地域」とのつながりの中から、移住・定住や起業・創業などにつなげるほか、地域への愛着や帰属感を醸成する。
------	---

⑦ (仮称) 人と人がつながる淡路ネオタウン

アイデア	住まいは淡路島（洲本市）に拠点をおき、仕事は島内（市内）に限定せず、あえて、神戸や明石に出ることを前提とし、島外への通勤補助等を充実させる。 一方で、子育てをしやすい環境づくりや市民のコミュニティを充実させることで、居住地として淡路島（洲本市）を選択してもらうことで、淡路島と神戸・明石を広域的な生活拠点とした「淡路ネオタウン構想」を推進する。
------	---

【基本戦略2】

歴史の薫る魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る

① “試住” 施設改修事業

アイデア	移住者がまずはお試しで田舎暮らしや移住を気軽に体験できる施設を整え、移住のハードルをさげることで、本格的な移住・定住につなげる。
------	--

② ターゲットを絞ったツーリズム事業（再掲）

アイデア	観光客や移住者などを誘致するため、戦略的に、ターゲットを絞ったツアーを提案する。例えば、健康志向の高い、都市の若者や外国人向けに、バランスの良い食事が取れる地産地消の飲食店や海岸沿いのジョギングコース等を紹介し、「健康的なライフスタイル」を提案する。また、スマートフォンを活用して、摂取カロリーや消費カロリー等健康への影響を示す。その他、子育て世帯をターゲットにした、子ども連れで訪れやすいスポットや、ペット連れで入店可能なスポットの紹介なども想定できる。
------	--

③ （仮称）すもと大学の開校【再掲】

アイデア	大学のない、本市では大学進学に伴う高校生など若年層の島外流出が大きな課題となっている。そのような中、本市では域学連携事業を通して、多くの大学生が本市を訪れ、地域住民等を巻き込んで地域活動等フィールドワークを実施している。そこで、関係する各大学をひとくくりにまとめ、仮想“すもと大学”として開校し、参画している学生やその大学の講師、また、豊かなノウハウやスキルを有する地域住民等をゲスト講師として招くほか、著名なゲストを招き、地域づくりの講演等を実施したり、「すもと検定」などにも取り組んだりしたり、「ひと」と「ひと」のつながり、「ひと」と「地域」とのつながりの中から、移住・定住や起業・創業などにつなげるほか、地域への愛着や帰属感を醸成する。
------	---

④ すもとパッケージツアー事業

アイデア	市街地周辺には、海水浴場、史跡や歴史的建造物、洲本温泉、商店街やレトロこみちの飲食店など、観光資源がコンパクトに集約されているにも関わらず、観光客の二次交通の充実や、ツアーの提案、情報発信が不十分である。 市街地の観光地を周遊する、定額制でオープンなイメージのバスを運行させたり、ピントレスト等のプッシュ型の情報発信機能を活用して、ツアーを提案したりする。
------	---

⑤ すもと・サブスクリプションモビリティ事業

アイデア	<p>サブスクリプションサービスとは、提供されるサービスの数に対してではなく、利用期間に対し対価を支払う、いわゆる「月額制」や「定額制」のビジネスモデルのことで、動画配信サービスや飲食業界等、近年活用の幅が広がっている。</p> <p>本市では、交通費の高さや交通空白地域の存在から、運転免許証を手放せない高齢者が数多くいる中、例えば、高齢者が安全に運転できる小型モビリティを月額制にして貸し出しを行ったり、コミュニティバスの運行を月額制にして利用を促進したりするなど、高齢者向けの交通網の確保にサブスクリプションサービスを取り入れる。</p>
------	--

【基本戦略3】

女性や若者が夢を抱いて躍動する洲本ならではの「しごと」のステージを創り広げる

①（仮称）すもと大学の開校【再掲】

アイデア	大学のない、本市では大学進学に伴う高校生など若年層の島外流出が大きな課題となっている。そのような中、本市では域学連携事業を通して、多くの大学生が本市を訪れ、地域住民等を巻き込んで地域活動等フィールドワークを実施している。そこで、関係する各大学をひとつくりにまとめ、仮想“すもと大学”として開校し、参画している学生やその大学の講師、また、豊かなノウハウやスキルを有する地域住民等をゲスト講師として招くほか、著名なゲストを招き、地域づくりの講演等を実施したり、「すもと検定」などにも取り組んだりしたり、「ひと」と「ひと」のつながり、「ひと」と「地域」とのつながりの中から、移住・定住や起業・創業などにつなげるほか、地域への愛着や帰属感を醸成する。
------	---

②（仮称）島での働きかたを“チカク”する

アイデア	高い有効求人倍率が維持されている中、雇用のミスマッチにより、特に若年層の都市流出が目立っている。しかしながら、島内においてもローカルらしい仕事や都市にも負けないカッコいい仕事のスタイルを確立している人もいることから、そのリアルな情報を学生など若年層に対して、また、都市部から移住を希望する人に対して、リアルなローカル情報を上手く発信していくことで、課題の解決の糸口を探る。特に、学生や若者などのYouTuberを活用したYouTubeによるアプローチを図る。
------	---

③ サッカーチーム「FC 淡路島」の支援を通じた雇用の創出

アイデア	2019年のラグビーワールドカップの開催や2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等、人々のスポーツへの関心が高まりを見せる中、スポーツ振興を通じた地域活性化は、重要な手法のひとつである。 淡路島を拠点に、「7年以内にJリーグ昇格」をめざし活動するFC 淡路島を、市として支援し、サッカーの聖地化やグッズ販売、さらには、スタジアムの建設等をサポートすることで、市内に新たな雇用に創出することに繋がる。
------	---

④ 起業後の継続的な経営支援事業

アイデア	起業後、数年以内に休業や廃業に追い込まれる事業者が多い中、起業時の支援のみならず、起業後の経営相談支援等を行う。
------	--

VI 戦略の進行管理

1. 推進体制

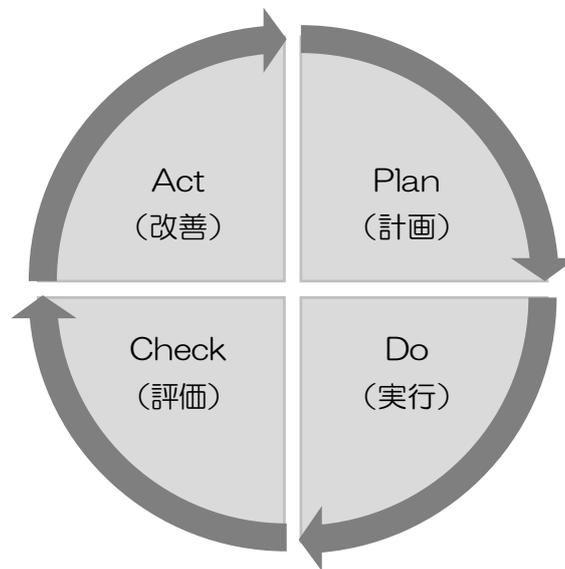
本総合戦略に位置づけた取組を着実に推進するためには、P（計画）、D（実施）、C（検証）、A（改善）サイクルをしっかりと確立することが重要です。

そして、これらの取組を効果的かつ効率的に推進するため、市長を本部長とする「洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部」に加えて、住民、議員、地域団体、企業のほか、地域おこし協力隊や移住者、また、本市と域学連携にて長きにわたって関わり続けてきている、大学生などの「関係人口」も含め、多種多様な人の参加・協力・連携を求めています。

2. 検証・改訂

本総合戦略の基本戦略を達成する上で、KPI（重要業績評価指標）を設定します。

それらの検証にあたっては、「洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部」を中心に、産業、行政、教育、金融、労働、言論、住民の各代表者に加え、議員からも意見をいただきながら、行ってまいります。また、必要に応じて、アクションプランを見直し、施策・事業の追加、入れ替えなどの修正を行い、本総合戦略の改訂を行います。



<総合戦略におけるPDCAサイクル>

- ① 総合戦略を策定する
- ② 施策・事業を着実に実施する
- ③ 実施した施策・事業の効果をKPIなどから検証する
- ④ 必要に応じて、アクションプランなどの見直しを行い、総合戦略を改善する

I 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部

1. 洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部設置要綱

平成27年8月19日告示第51号

改正

平成29年3月31日告示第40号

洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部設置要綱

(設置)

第1条 人口減少、少子高齢社会の進展に対し、将来にわたり活力ある本市地域社会を持続、発展させるため、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業機会の創出に向け、必要な取組を検討し、一体的な推進を図ることを目的として、洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部（以下「本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 本部は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）第10条に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）の策定及び改訂に関すること。
- (2) 前号に関連する人口の現状及び将来の見通しを踏まえた人口ビジョンの策定及び改訂に関すること。
- (3) 総合戦略について施策の推進及び効果の検証並びに情報共有及び連絡調整に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、法に基づく総合的な施策の企画及び推進に関すること。

(組織)

第3条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。

2 本部長は、市長をもって充てる。

3 副本部長は、副市長をもって充てる。

4 本部員は、洲本市部長会議規程（平成18年洲本市訓令第89号）第2条に規定する部長会議の構成員をもって充てる。

(本部長及び副本部長)

第4条 本部長は、本部を代表し、本部を総括する。

2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(本部会議)

第5条 本部会議は、必要に応じて本部長が招集する。

2 本部会議の進行は、本部長又は本部長が指名する者が行う。

3 本部長は、必要があると認めるときは、本部員以外の者を特別本部員として、本部会議に出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(専門部会)

第6条 本部長から付託された事項を調査研究するため、本部に下部組織として別表左欄に掲げる4つの専門部会を置く。

2 専門部会は、総合戦略に盛り込むべき事項を分野別に調査検討するとともに、課題解決のための素案を作成し、本部長に報告する。

3 専門部会に部会長、副部会長及び部員を置き、それぞれ本部長が指名した職員をもって充てる。

4 部会長は専門部会を総括し、副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

5 専門部会は、部会長が必要に応じて招集する。

6 専門部会の円滑な運営を図るため、別表左欄に掲げる専門部会の統括は、それぞれ別表右欄に掲げる課において行う。

(庶務)

第7条 本部の庶務は、企画情報部企画課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

附 則 (平成29年3月31日告示第40号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

別表 (第6条関係)

専門部会	統括課
創業・就労の促進	産業振興部商工観光課
定住・交流の促進	企画情報部魅力創生課
出産・子育て環境の充実	健康福祉部子ども子育て課
まちづくり・地域づくり	都市整備部都市計画課

2. 構成員名簿

(敬称略)

本 部		組 織・役 職	氏 名
本部長		市長	竹内 通弘
副本部長		副市長	浜 辺 学
		副市長	上崎 勝規
本部員		教育長	本條 滋人
		理事（財務部長）	中野 恭典
		企画情報部長	東田 光司
		総務部長	前田 裕司
		市民生活部長	竹鼻 康智
		健康福祉部長	大橋 正典
		産業振興部長	岡野 秀則
		産業振興部参事	永岩 秀俊
		都市整備部長	太田 久雄
		教育次長	山本 泰平
特別本部員	産業	洲本商工会議所 会頭	木下 紘一
	産業	一般社団法人淡路島観光協会 代表理事	木 下 学
	産業	淡路日の出農業協同組合 代表理事組合長	相坂 有俊
	行政	兵庫県淡路県民局 局長	高 見 隆
	学識	阪南大学 国際観光学部 教授	福本 賢太
	金融	三井住友銀行 洲本支店 支店長	池田 俊亮
	金融	淡路信用金庫 理事長	石 村 健
	金融	淡陽信用組合 理事長	山本 英博
	労働	洲本公共職業安定所 所長	藤永 勇人
	言論	神戸新聞社 淡路総局 総局長	田中 靖浩
	住民	洲本市連合町内会 会長	丸 山 正
住民	洲本市子ども会連絡協議会 副会長	小石 雅世	
事務局		企画情報部企画課長	西原 健二
		企画情報部企画課政策調整係長	田中 宏樹
		企画情報部企画課主任	橋詰 一生

3. 新洲本市総合戦略の策定に向けた検討経過

年月日	会議等	協議概要
R1. 8. 8	第1回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度洲本市総合戦略の実績について ・平成27年度から平成30年度までの総括について ・地方創生関連交付金を活用した事業について ・次期「洲本市総合戦略」の策定について
R1. 10. 28～11. 8	「洲本市の地域創生」に関する中学生・高校生アンケート調査の実施	
R1. 10. 28～11. 11	「洲本市の地域創生」に関する18歳以上アンケート調査の実施	
R1. 11. 7	若手市職員ワークショップ「すもと・もっとおもろナーレ2019」の実施	
R1. 11. 21	新洲本市総合戦略策定に係る議員との意見交換会（第1回）	・（仮称）新洲本市人口ビジョン及び（仮称）新洲本市総合戦略について
R1. 11. 23	一般ワークショップ「すもと・もっとおもろナーレ2019」の実施	
R1. 11. 25	第2回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人口ビジョン及び総合戦略の名称について ・新たな総合戦略の基本目標の設定等について
R2. 1. 23	第3回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新洲本市総合戦略における人口ビジョン（素案）について ・新洲本市総合戦略における総合戦略（素案）について
R2. 2. 25	第4回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新洲本市総合戦略（案）について ・パブリックコメント（案）について
R2. 2. 28	新洲本市総合戦略策定に係る議員との意見交換会（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種アンケートの調査結果及びワークショップの開催結果について ・新洲本市総合戦略における人口ビジョン（素案）について ・新洲本市総合戦略における総合戦略（素案）について ・新洲本市総合戦略におけるアクションプラン（素案）について ・パブリックコメントの実施について ・今後のスケジュールについて
R2. 2. 28～3. 19	パブリックコメントの実施	
R2. 3. 25	第5回洲本市まち・ひと・しごと地域創生本部会議	※新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止

Ⅱ 中学生・高校生アンケート調査

1. 実施概要

- ・調査対象者：市内の中学校・高校の生徒 3,100 人（定時制の高校生を除く）
- ・調査期間：令和元年 11 月
- ・配布・回収：学校配布・回収

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
「洲本市の地域創生」に関する 中学生・高校生アンケート調査	3,100 票	2,334 票	75.2%

調査結果の見方

- ・タイトルの横には、質問形態を記載しています。

SA=単数回答：「1つに○」など選択肢を1つ選ぶ質問形態

MA=複数回答：「あてはまるものすべてに○」など2つ以上の選択を選ぶ質問形態

FA=文字記述回答

- ・棒グラフがある場合には、上段の棒は今回調査（R1年）、下段の棒は前回調査（H27年）の結果をそれぞれ示しています。同様に、クロス表が2つある場合には上段の表は今回調査、下段の表は前回調査の結果をそれぞれ示しています。
- ・各コメントのマークは「○・●・★」については、以下を意味しています。

○：単純集計を行った上でのコメント

●：クロス集計を行った上でのコメント

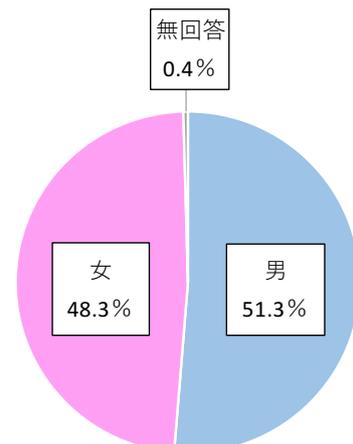
★：前回調査（H27年調査）を行った際との比較コメント

2. 調査結果

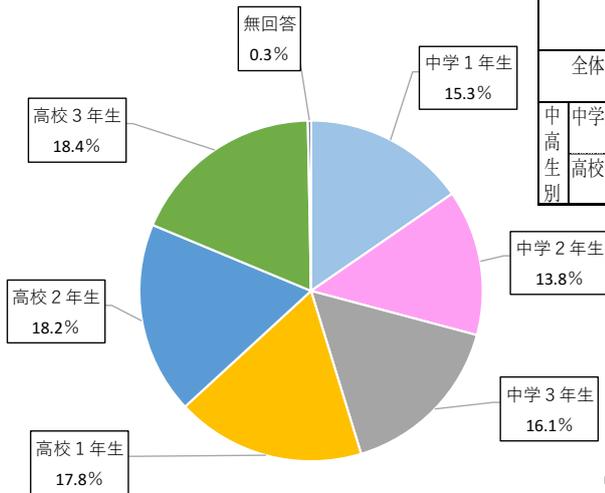
(1) 回答者自身について

問1. 性別【SA】

上段：人 下段：%	合計	問1 性別		
		男	女	無回答
全体	2334 100.0	1197 51.3	1127 48.3	10 0.4
中 高 生 別	中学生 1057 100.0	520 49.2	532 50.3	5 0.5
高校生	1270 100.0	675 53.1	594 46.8	1 0.1



問2. 学年【SA】

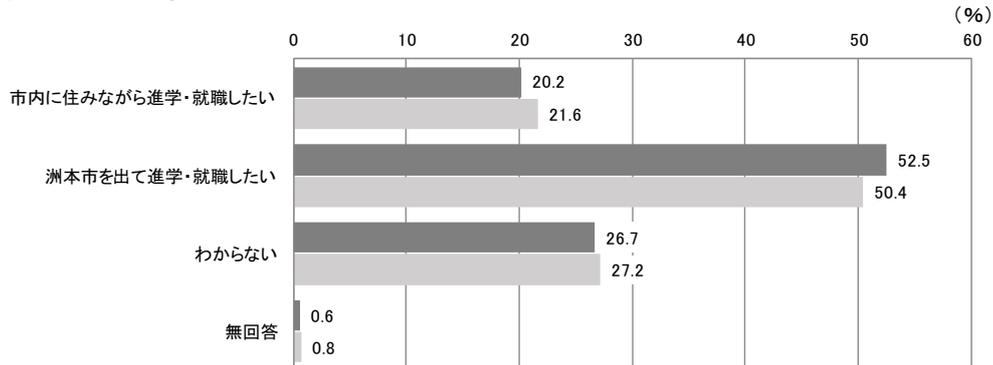


上段：人 下段：%	合計	問2 学年						
		中学1年生	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生	無回答
全体	2334	358	323	376	416	425	429	7
	100.0	15.3	13.8	16.1	17.8	18.2	18.4	0.3
中 高 生 別	中学生	1057	358	323	376	0	0	0
	100.0	33.9	30.6	35.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	高校生	1270	0	0	0	416	425	429
	100.0	0.0	0.0	0.0	32.8	33.5	33.8	0.0

(2) 将来のことについて

問3. 今後の進学・就職先【SA】

- 「洲本市を出て進学・就職したい」が52.5%で過半数となっています。
- 中学生・高校生ともに「洲本市を出て進学・就職をしたい」が最も多くなっています。
- ★「洲本市を出て進学・就職をしたい」と回答した割合については、前回調査と比べて、やや上昇しています。



	合計	問3 進学・就職後の住まい				
		市内に住みながら進学・就職したい	洲本市を出て進学・就職したい	わからない	無回答	
全体	2334	471	1225	623	15	
	100.0	20.2	52.5	26.7	0.6	
中 高 生 別	中学生	1057	312	379	361	5
	100.0	29.5	35.9	34.2	0.5	
	高校生	1270	159	841	262	8
	100.0	12.5	66.2	20.6	0.6	

	合計	問3 進学・就職後の住まい				
		市内に住みながら進学・就職したい	洲本市を出て進学・就職したい	わからない	不明	
全体	2647	573	1335	719	20	
	100.0	21.6	50.4	27.2	0.8	
中 高 生 別	中学生	1180	371	403	402	4
	100.0	31.4	34.2	34.1	0.3	
	高校生	1453	201	925	313	14
	100.0	13.8	63.7	21.5	1.0	

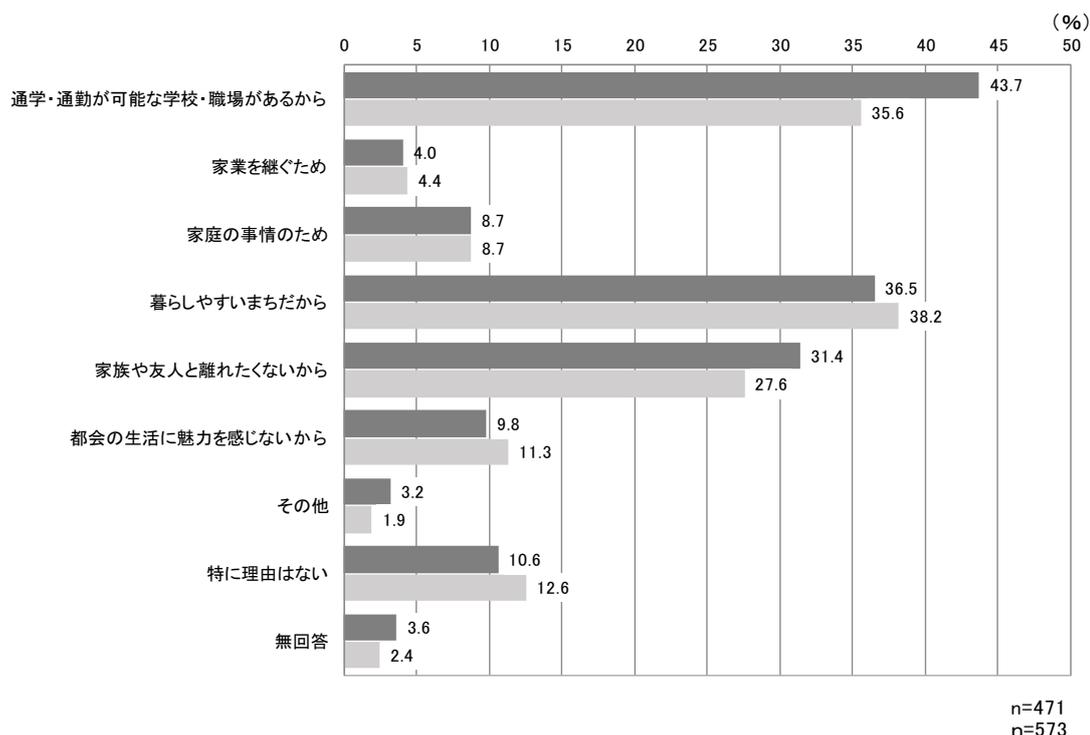
n=2334
n=2647

問3-1. 市内で進学・就職したい理由(市内に住みながら進学・就職したい方限定)【MA】

○「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が43.7%で最も多く、次いで「暮らしやすいまちだから」が36.5%、「家族や友人と離れたくないから」が31.4%となっています。

●中学生・高校生ともに「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が最も多くなっています。

★前回調査では、「暮らしやすいまちだから」が最も多かった一方、今回調査では、「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が最も多くなっています。

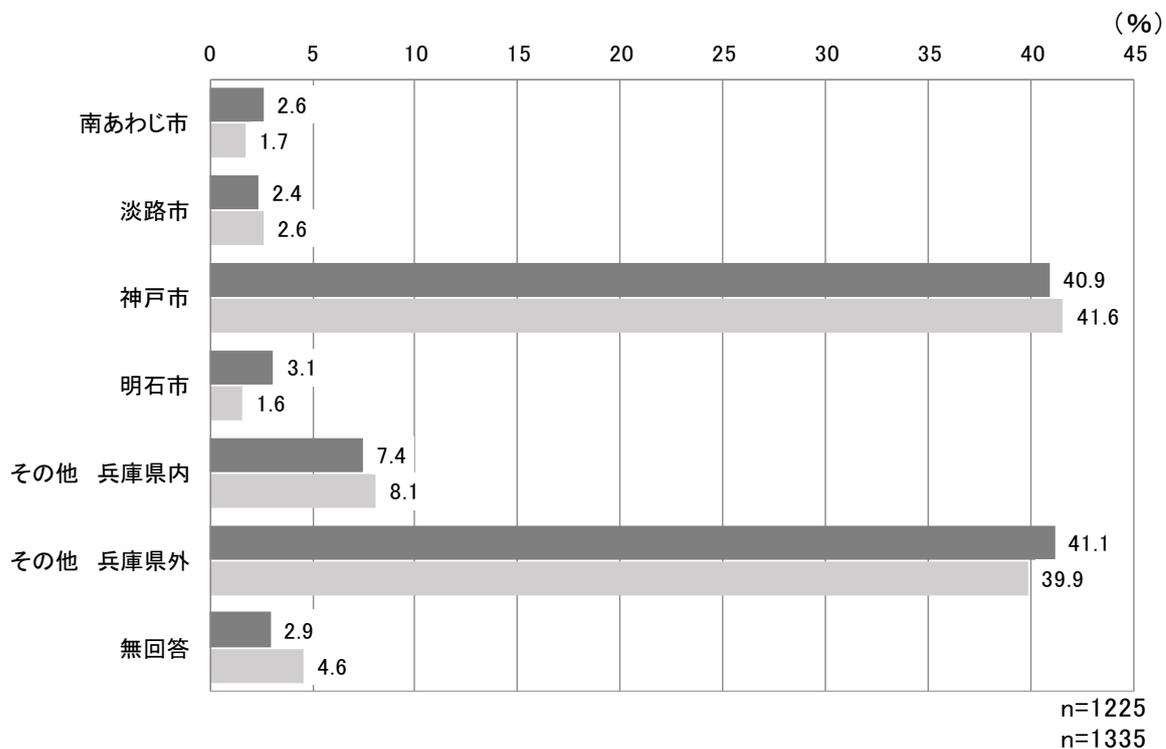


		問3-1 市内に住みながら進学・就職したい理由									
合計		通学・通勤が可能な学校・職場があるから	家業を継ぐため	家庭の事情のため	暮らしやすいまちだから	家族や友人と離れたくないから	都会の生活に魅力を感じないから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	471	206	19	41	172	148	46	15	50	17	
	100.0	43.7	4.0	8.7	36.5	31.4	9.8	3.2	10.6	3.6	
中高生別	中学生	312	141	14	21	126	114	32	7	28	10
	高校生	159	65	5	20	46	34	14	8	22	7
	100.0	40.9	3.1	12.6	28.9	21.4	8.8	5.0	13.8	4.4	

		問3-1 市内に住みながら進学・就職したい理由									
合計		通学・通勤が可能な学校・職場があるから	家業を継ぐため	家庭の事情のため	暮らしやすいまちだから	家族や友人と離れたくないから	都会の生活に魅力を感じないから	その他	特に理由はない	不明	
全体	573	204	25	50	219	158	65	11	72	14	
	100.0	35.6	4.4	8.7	38.2	27.6	11.3	1.9	12.6	2.4	
中高生別	中学生	371	145	16	24	138	124	38	6	46	6
	高校生	201	59	9	26	81	33	27	5	26	8
	100.0	29.4	4.5	12.9	40.3	16.4	13.4	2.5	12.9	4.0	

問3-2. 将来はどこへ出たいか。(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

- 「その他兵庫県外」が41.1%で最も多く、次いで「神戸市」が40.9%となっています。
- 中学生では、「神戸市」が最も多かった一方で、高校生では「その他兵庫県外」が最も多くなっています。
- ★前回調査では「神戸市」が最も多かった一方、今回調査では「その他兵庫県外」がわずかに多くなっています。



	合計	問3-2 将来的にどこへ出る (出たい) 予定か							
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外	無回答	
全体	1225 100.0	32 2.6	29 2.4	501 40.9	38 3.1	91 7.4	504 41.1	36 2.9	
中高生別	中学生	379 100.0	3 0.8	4 1.1	185 48.8	18 4.7	21 5.5	131 34.6	17 4.5
	高校生	841 100.0	29 3.4	25 3.0	314 37.3	20 2.4	70 8.3	370 44.0	19 2.3

	合計	問3-2 将来的にどこへ出る (出たい) 予定か							
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外	不明	
全体	1335 100.0	23 1.7	35 2.6	555 41.6	21 1.6	108 8.1	532 39.9	61 4.6	
中高生別	中学生	403 100.0	7 1.7	11 2.7	196 48.6	10 2.5	28 6.9	128 31.8	23 5.7
	高校生	925 100.0	16 1.7	24 2.6	357 38.6	11 1.2	79 8.5	401 43.4	37 4.0

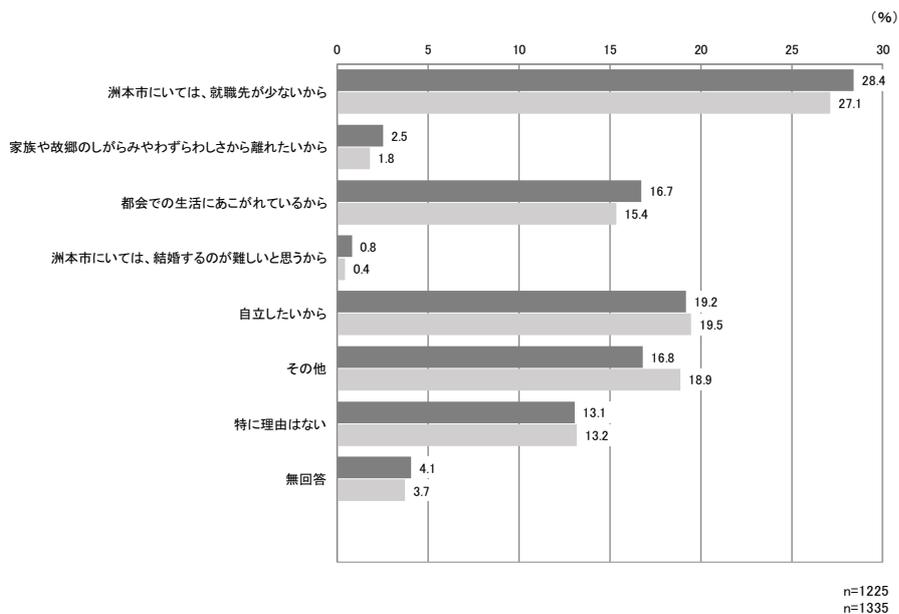
問3-3. 市外に出て、進学・就職したい理由

(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

○「洲本市には、就職先が少ないから」が28.4%で最も多く、次いで「自立したいから」が19.2%となっています。

●中学生・高校生ともに「洲本市には、就職先が少ないから」が最も多くなっています。

★前回調査・今回調査ともに、「洲本市には、就職先が少ないから」が最も多くなっていますが、その割合については、今回調査の方が高くなっています。



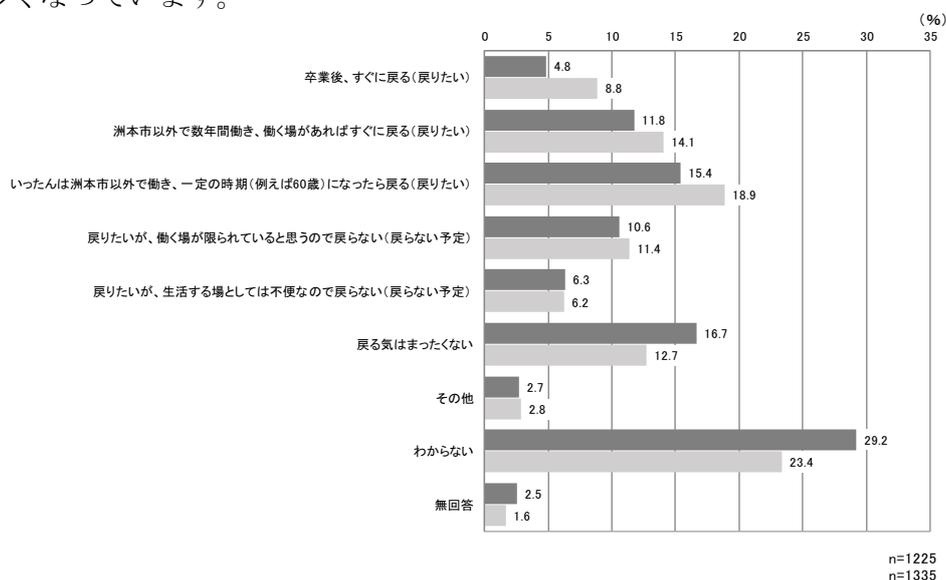
	合計	問3-3 市外に出て進学・就職したい理由							
		洲本市には、就職先が少ないから	家族や故郷のしがらみやわずらわしさから離れたいから	都会での生活にあこがれているから	洲本市には、結婚するのが難しいと思うから	自立したいから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1225 100.0	348 28.4	31 2.5	205 16.7	10 0.8	235 19.2	206 16.8	160 13.1	50 4.1
中学生	379 100.0	110 29.0	7 1.8	79 20.8	1 0.3	62 16.4	70 18.5	38 10.0	19 5.0
高校生	841 100.0	235 27.9	24 2.9	124 14.7	9 1.1	173 20.6	136 16.2	122 14.5	31 3.7

	合計	問3-3 市外に出て進学・就職したい理由							
		洲本市には、就職先が少ないから	家族や故郷のしがらみやわずらわしさから離れたいから	都会での生活にあこがれているから	洲本市には、結婚するのが難しいと思うから	自立したいから	その他	特に理由はない	不明
全体	1335 100.0	362 27.1	24 1.8	205 15.4	6 0.4	260 19.5	252 18.9	176 13.2	50 3.7
中学生	403 100.0	102 25.3	9 2.2	76 18.9	1 0.2	70 17.4	85 21.1	46 11.4	14 3.5
高校生	925 100.0	259 28.0	15 1.6	128 13.8	5 0.5	188 20.3	166 17.9	129 13.9	35 3.8

問3-4. 進学・就職後、洲本市に戻ってきたいか

(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

- 「戻る気はまったくくない」が16.7%で最も多く、次いで「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)」が15.4%、「洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)」が11.8%となっています。(わからないを除く)
- 中学生は、「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)」が最も多い一方、高校生は「戻る気はまったくくない」が最も多くなっています。
- ★前回調査では、「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)」が最も多くなっている一方、今回調査では、「戻る気はまったくくない」が最も多くなっています。



		合計	問3-4 進学・就職後、洲本市に戻ってきたいか								
			卒業後、洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)	洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)	いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)	戻りたいが、働く場が限られていると思うので戻らない(戻らない予定)	戻りたいが、生活する場としては不便なので戻らない(戻らない予定)	戻る気はまったくくない	その他	わからない	無回答
全体		1225 100.0	59 4.8	144 11.8	189 15.4	130 10.6	77 6.3	204 16.7	33 2.7	358 29.2	31 2.5
中高生別	中学生	379 100.0	29 7.7	45 11.9	72 19.0	45 11.9	30 7.9	42 11.1	14 3.7	91 24.0	11 2.9
	高校生	841 100.0	30 3.6	97 11.5	117 13.9	84 10.0	47 5.6	162 19.3	18 2.1	266 31.6	20 2.4

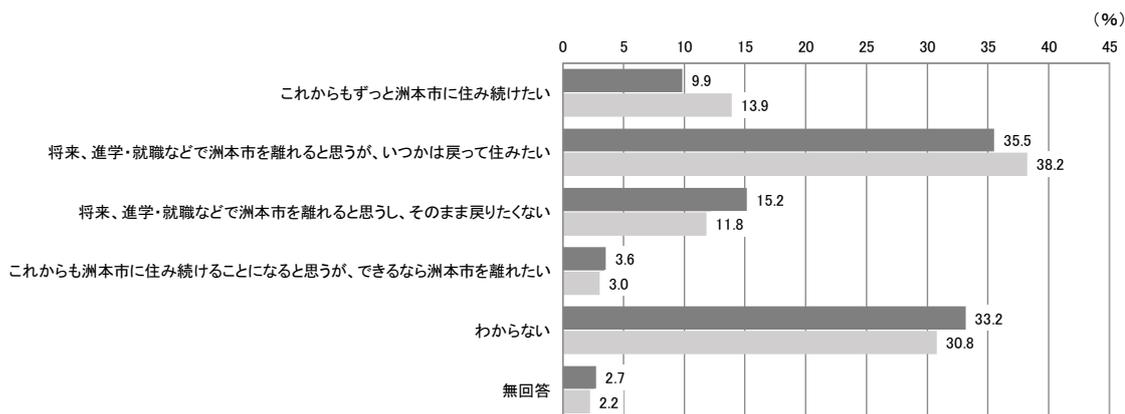
		合計	問3-4 進学・就職後、洲本市に戻ってきたいか								
			卒業後、洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)	洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)	いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)	戻りたいが、働く場が限られていると思うので戻らない(戻らない予定)	戻りたいが、生活する場としては不便なので戻らない(戻らない予定)	戻る気はまったくくない	その他	わからない	不明
全体		1335 100.0	118 8.8	188 14.1	252 18.9	152 11.4	83 6.2	170 12.7	38 2.8	312 23.4	22 1.6
中高生別	中学生	403 100.0	44 10.9	50 12.4	83 20.6	42 10.4	24 6.0	37 9.2	17 4.2	95 23.6	11 2.7
	高校生	925 100.0	74 8.0	135 14.6	167 18.1	108 11.7	59 6.4	133 14.4	21 2.3	217 23.5	11 1.2

問4. 将来的に洲本市に住みたいか【SA】

○「将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」が35.5%で最も多く、次いで「将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うし、そのまま戻りたくない」が15.2%となっています。（わからないを除く）

●中学生・高校生ともに、「将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」が最も多くなっています。

★前回調査・今回調査ともに、「将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」が最も多くなっています。



n=2334
n=2647

	合計	問4 将来的に洲本市に住みたいか						
		これからもずっと洲本市に住み続けたい	将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい	将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うし、そのまま戻りたくない	これからも洲本市に住み続けることになると思うが、できるなら洲本市を離れたくない	わからない	無回答	
全体	2334 100.0	230 9.9	829 35.5	354 15.2	83 3.6	774 33.2	64 2.7	
中高生別	中学生	1057 100.0	144 13.6	453 42.9	126 11.9	47 4.4	261 24.7	26 2.5
	高校生	1270 100.0	86 6.8	372 29.3	225 17.7	36 2.8	513 40.4	38 3.0

	合計	問4 将来的に洲本市に住みたいか						
		これからもずっと洲本市に住み続けたい	将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい	将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うし、そのまま戻りたくない	これからも洲本市に住み続けることになると思うが、できるなら洲本市を離れたくない	わからない	不明	
全体	2647 100.0	368 13.9	1012 38.2	313 11.8	80 3.0	815 30.8	59 2.2	
中高生別	中学生	1180 100.0	235 19.9	471 39.9	97 8.2	45 3.8	307 26.0	25 2.1
	高校生	1453 100.0	132 9.1	535 36.8	215 14.8	33 2.3	504 34.7	34 2.3

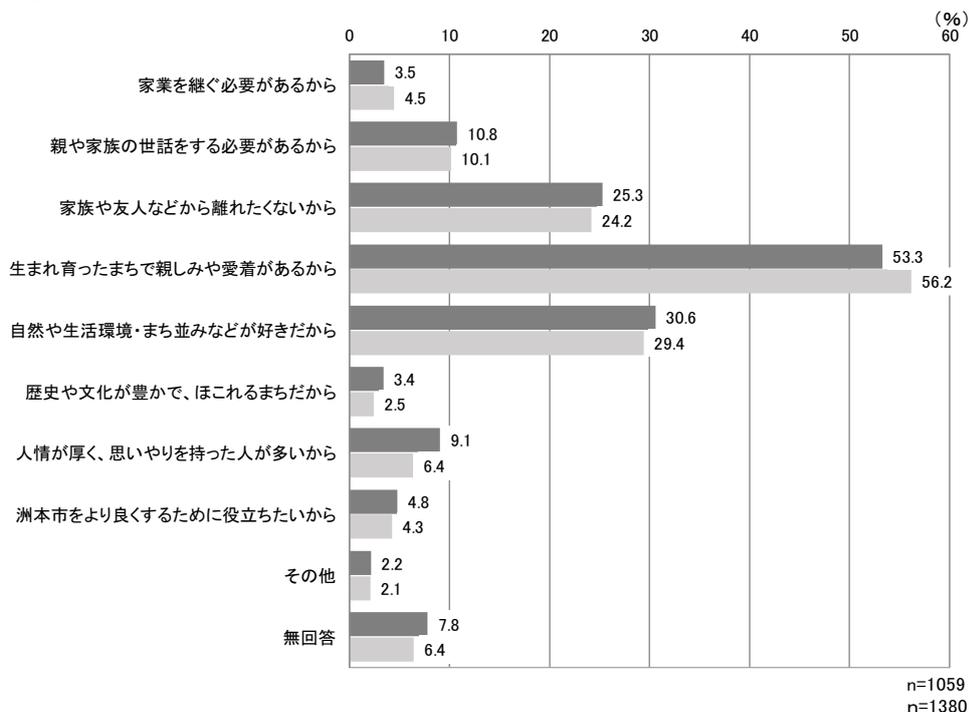
問4-1. 洲本市に住み続けたい理由

(洲本市に住み続けたい・戻ってきたい方限定)【MA】

○「生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから」が53.3%で過半数となっています。

●中学生、高校生ともに「生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから」が最も多くなっており、中学生・高校生ともに過半数となっています。

★前回調査・今回調査ともに、「生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから」が最も多くなっています。



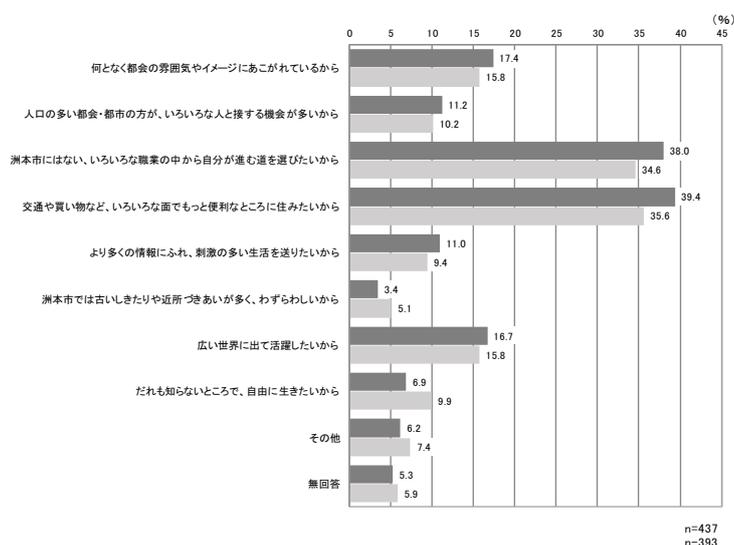
	合計	問4-1 住み続けたい、戻って住みたい理由									
		家業を継ぐ必要があるから	親や家族の世話をする必要があるから	家族や友人などから離れたくないから	生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから	自然や生活環境・まち並みなどが好きだから	歴史や文化が豊かで、ほこれるまちだから	人情が厚く、思いやりを持った人が多いから	洲本市をより良くするために役立ちたいから	その他	無回答
全体	1059	37	114	268	564	324	36	96	51	23	83
	100.0	3.5	10.8	25.3	53.3	30.6	3.4	9.1	4.8	2.2	7.8
中	597	24	67	174	314	191	26	60	23	12	47
高	100.0	4.0	11.2	29.1	52.6	32.0	4.4	10.1	3.9	2.0	7.9
生	458	13	47	94	249	130	10	36	28	11	36
別	100.0	2.8	10.3	20.5	54.4	28.4	2.2	7.9	6.1	2.4	7.9

	合計	問4-1 住み続けたい、戻って住みたい理由									
		家業を継ぐ必要があるから	親や家族の世話をする必要があるから	家族や友人などから離れたくないから	生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから	自然や生活環境・まち並みなどが好きだから	歴史や文化が豊かで、ほこれるまちだから	人情が厚く、思いやりを持った人が多いから	洲本市をより良くするために役立ちたいから	その他	不明
全体	1380	62	140	334	775	406	34	88	59	29	89
	100.0	4.5	10.1	24.2	56.2	29.4	2.5	6.4	4.3	2.1	6.4
中	706	32	65	207	380	201	20	57	33	16	51
高	100.0	4.5	9.2	29.3	53.8	28.5	2.8	8.1	4.7	2.3	7.2
生	667	30	75	125	389	204	14	30	26	13	38
別	100.0	4.5	11.2	18.7	58.3	30.6	2.1	4.5	3.9	1.9	5.7

問4-2. 洲本市に住み続けたくない理由

(洲本市に住み続けたくない方限定)【MA】

- 「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから」が39.4%、「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」が38.0%となっており、この2つの理由が突出しています。
- 中学生では、「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」が最も多い一方、高校生では「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから」、が最も多くなっています。
- ★前回調査・今回調査ともに、「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから」と、「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」の2つの理由が突出しています。



	合計	問4-2 戻りたくない・離れたくない理由									
		何となく都会の雰囲気やイメージにあこがれているから	人口の多い都会・都市の方が、いろいろな人と接する機会が多いから	洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから	交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから	より多くの情報にふれ、刺激の多い生活を送りたいから	洲本市では古いしきたりや近所づきあいが多く、わずらわしいから	広い世界に出て活躍したいから	だれも知らないところで、自由に生きたいから	その他	無回答
全体	437	76	49	166	172	48	15	73	30	27	23
	100.0	17.4	11.2	38.0	39.4	11.0	3.4	16.7	6.9	6.2	5.3
中	173	32	20	86	69	14	6	34	9	9	7
高	100.0	18.5	11.6	49.7	39.9	8.1	3.5	19.7	5.2	5.2	4.0
生	261	44	29	77	102	34	9	39	20	18	16
別	100.0	16.9	11.1	29.5	39.1	13.0	3.4	14.9	7.7	6.9	6.1

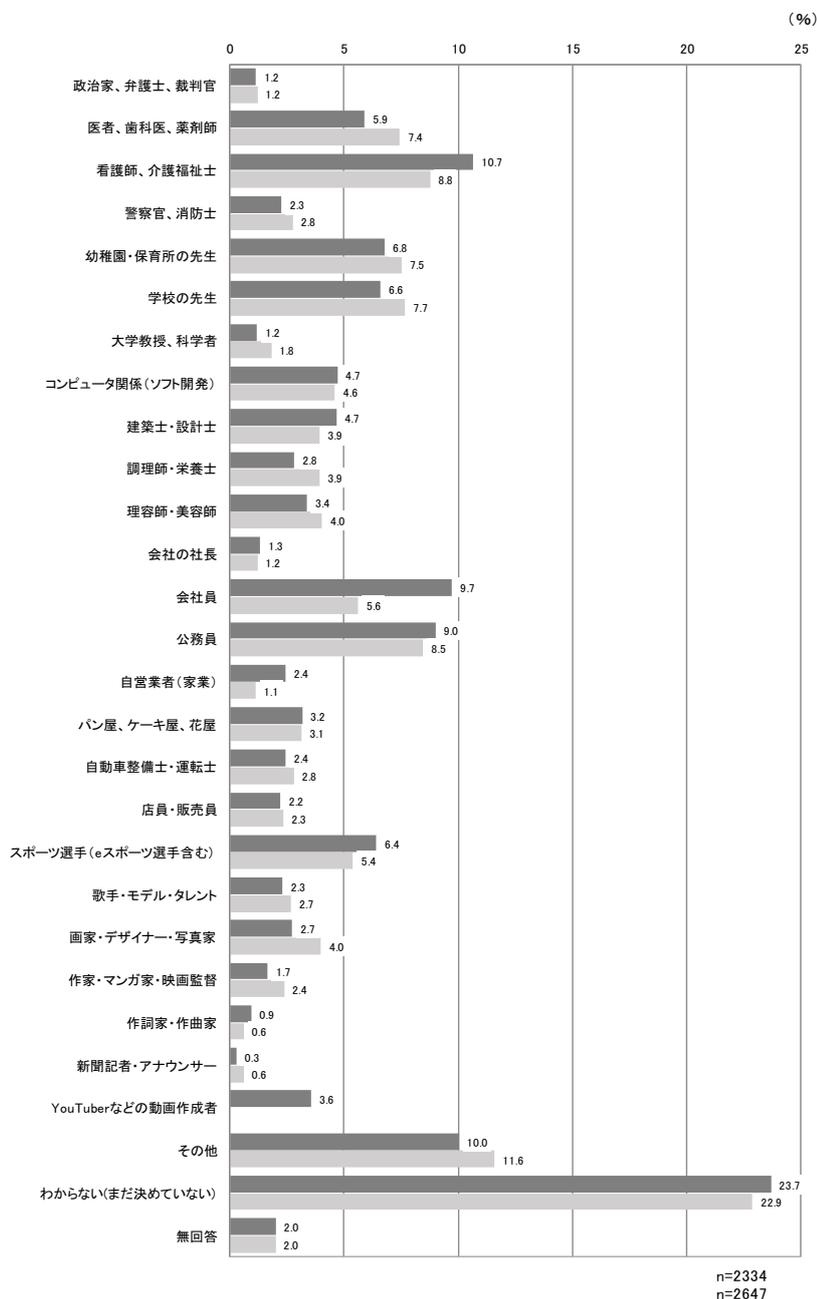
	合計	問4-2 戻りたくない・離れたくない理由									
		何となく都会の雰囲気やイメージにあこがれているから	人口の多い都会・都市の方が、いろいろな人と接する機会が多いから	洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから	交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから	より多くの情報にふれ、刺激の多い生活を送りたいから	洲本市では古いしきたりや近所づきあいが多く、わずらわしいから	広い世界に出て活躍したいから	だれも知らないところで、自由に生きたいから	その他	不明
全体	393	62	40	136	140	37	20	62	39	29	23
	100.0	15.8	10.2	34.6	35.6	9.4	5.1	15.8	9.9	7.4	5.9
中	142	34	15	63	49	11	1	26	10	9	11
高	100.0	23.9	10.6	44.4	34.5	7.7	0.7	18.3	7.0	6.3	7.7
生	248	27	25	72	90	26	19	35	29	19	12
別	100.0	10.9	10.1	29.0	36.3	10.5	7.7	14.1	11.7	7.7	4.8

問5. 将来就きたい職業【MA】

○「看護師、介護福祉士」が10.7%で最も多く、次いで「会社員」が9.7%、「公務員」が9.0%となっています。（わからない、その他を除く）

●中学生では「看護師、介護福祉士」が最も多く、高校生では「会社員」が最も多くなっています。

★前回調査と比べ、今回調査の会社員の割合が4.1ポイント高くなっています。



前回調査（平成27年調査）では、選択肢に

「Youtuberなどの動画編集者」の選択肢はありません。また、当時の調査では、スポーツ選手の選択肢に、「(eスポーツ選手を含む)」という記載もありません。

	合計	問5 将来つきたい職業													
		政治家、 弁護士、 裁判官	医者、歯 科医、薬 剤師	看護師、 介護福祉 士	警察官、 消防士	幼稚園・ 保育所の 先生	学校の先 生	大学教 授、科学 者	コン ピュータ 関係（ソ フト開 発）	建築士・ 設計士	調理師・ 栄養士	理容師・ 美容師	会社の社 長	会社員	公務員
全体	2334 100.0	27 1.2	138 5.9	249 10.7	53 2.3	158 6.8	154 6.6	28 1.2	110 4.7	109 4.7	66 2.8	79 3.4	31 1.3	227 9.7	210 9.0
中 高 生 別	中学生 1057 100.0	8 0.8	74 7.0	110 10.4	32 3.0	89 8.4	52 4.9	11 1.0	60 5.7	51 4.8	26 2.5	45 4.3	6 0.6	63 6.0	80 7.6
高校生	1270 100.0	19 1.5	62 4.9	138 10.9	21 1.7	69 5.4	101 8.0	16 1.3	50 3.9	58 4.6	39 3.1	33 2.6	25 2.0	164 12.9	129 10.2

※上記表に続く

	合計	問5 将来つきたい職業													
		自営業者 (家業)	パン屋、 ケーキ 屋、花屋	自動車整 備士・運 転士	店員・販 売員	スポーツ 選手（e スポーツ 選手含 む）	歌手・モ デル・タ レント	画家・デ ザイ ナー・写 真家	作家・マ ンガ家・ 映画監督	作詞家・ 作曲家	新聞記 者・アナ ウンサー	YouTuber などの動 画作成者	その他	わからな い(まだ 決めてい ない)	無回答
全体	2334 100.0	57 2.4	74 3.2	57 2.4	52 2.2	150 6.4	54 2.3	64 2.7	39 1.7	22 0.9	7 0.3	83 3.6	234 10.0	553 23.7	47 2.0
中 高 生 別	中学生 1057 100.0	26 2.5	39 3.7	23 2.2	22 2.1	108 10.2	31 2.2	37 3.5	24 2.3	13 1.2	3 0.3	42 4.0	107 10.1	294 27.8	14 1.3
高校生	1270 100.0	31 2.4	34 2.7	34 2.7	29 2.3	42 3.3	23 1.8	26 2.0	15 1.2	9 0.7	4 0.3	41 3.2	126 9.9	258 20.3	33 2.6

	合計	問5 将来つきたい職業													
		政治家、 弁護士、 裁判官	医者、歯 科医、薬 剤師	看護師、 介護福祉 士	警察官、 消防士	幼稚園・ 保育所の 先生	学校の先 生	大学教 授、科学 者	コン ピュータ 関係（ソ フト開 発）	建築士・ 設計士	調理師・ 栄養士	理容師・ 美容師	会社の社 長	会社員	公務員
全体	2647 100.0	32 1.2	197 7.4	232 8.8	73 2.8	199 7.5	203 7.7	48 1.8	122 4.6	104 3.9	104 3.9	107 4.0	32 1.2	149 5.6	224 8.5
中 高 生 別	中学生 1180 100.0	11 0.9	92 7.8	91 7.7	33 2.8	122 10.3	85 7.2	26 2.2	61 5.2	37 3.1	46 3.9	45 3.8	13 1.1	62 5.3	78 6.6
高校生	1453 100.0	21 1.4	104 7.2	138 9.5	40 2.8	77 5.3	118 8.1	22 1.5	61 4.2	67 4.6	58 4.0	62 4.3	19 1.3	87 6.0	145 10.0

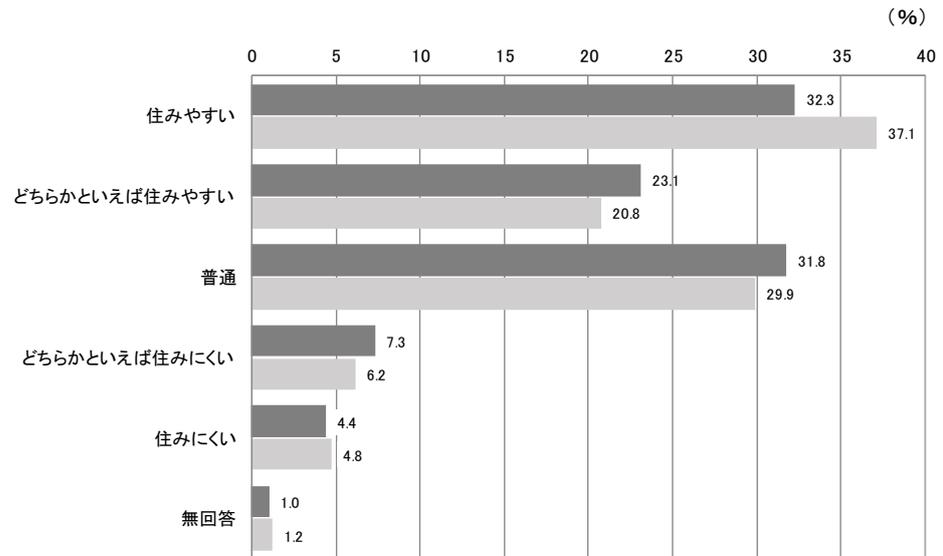
※上記表に続く

	合計	問5 将来つきたい職業												
		自営業者 (家業)	パン屋、 ケーキ 屋、花屋	自動車整 備士・運 転士	店員・販 売員	スポーツ 選手	歌手・モ デル・タ レント	画家・デ ザイ ナー・写 真家	作家・マ ンガ家・ 映画監督	作詞家・ 作曲家	新聞記 者・アナ ウンサー	その他	わからな い(まだ 決めてい ない)	不明
全体	2647 100.0	30 1.1	83 3.1	74 2.8	62 2.3	143 5.4	71 2.7	106 4.0	63 2.4	16 0.6	16 0.6	307 11.6	606 22.9	53 2.0
中 高 生 別	中学生 1180 100.0	15 1.3	59 5.0	17 1.4	33 2.8	113 9.6	47 4.0	58 4.9	39 3.3	9 0.8	12 1.0	133 11.3	261 22.1	20 1.7
高校生	1453 100.0	15 1.0	24 1.7	57 3.9	28 1.9	30 2.1	24 1.7	48 3.3	23 1.6	7 0.5	4 0.3	173 11.9	339 23.3	33 2.3

(3) 洲本市について

問6. 洲本市の住みやすさ【SA】

- 「住みやすい」32.3%と「どちらかというに住みやすい」23.1%を合わせると55.4%が『住みやすい』と感じています。
- 中学生は『住みやすい』と感じている一方で、高校生は「普通」の割合が高くなっています。
- ★今回調査では、「住みやすい」が減少した一方、「どちらかといえば住みやすい」は上昇しています。



n=2334
n=2647

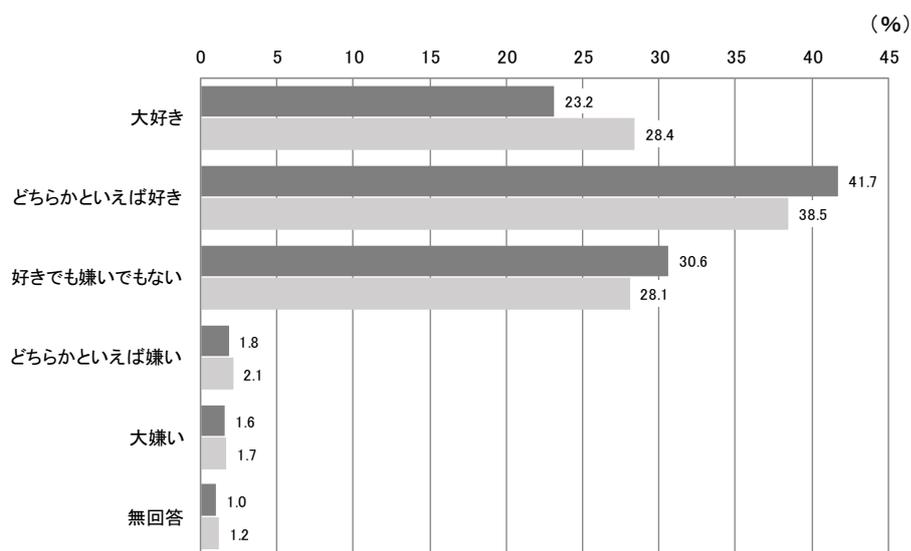
	合計	問6 洲本市は住みやすいまちか					
		住みやすい	どちらか といえば 住みやす い	普通	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い	無回答
全体	2334 100.0	754 32.3	540 23.1	742 31.8	171 7.3	103 4.4	24 1.0
中 高 生 別							
中学生	1057 100.0	432 40.9	250 23.7	277 26.2	64 6.1	29 2.7	5 0.5
高校生	1270 100.0	319 25.1	289 22.8	463 36.5	106 8.3	74 5.8	19 1.5

	合計	問6 洲本市は住みやすいまちか					
		住みやすい	どちらか といえば 住みやす い	普通	どちらか といえば 住みにく い	住みにく い	不明
全体	2647 100.0	983 37.1	550 20.8	792 29.9	163 6.2	126 4.8	33 1.2
中 高 生 別							
中学生	1180 100.0	529 44.8	227 19.2	309 26.2	63 5.3	35 3.0	17 1.4
高校生	1453 100.0	452 31.1	320 22.0	477 32.8	98 6.7	90 6.2	16 1.1

問7. 洲本市が好きか【SA】

○「大好き」23.2%と「どちらかといえば好き」41.7%を合わせると64.9%が『好き』となっています。

●★中学生、高校生、前回調査との比較ともに、『好き』が、「どちらかといえば嫌い」と「大嫌い」を合わせた『嫌い』より多くなっています。



n=2334
n=2647

		合計	問7 洲本市が好きか					無回答
			大好き	どちらか といえば 好き	好きでも 嫌いでも ない	どちらか といえば 嫌い	大嫌い	
全体		2334 100.0	541 23.2	974 41.7	715 30.6	43 1.8	37 1.6	24 1.0
中 高 生 別	中学生	1057 100.0	335 31.7	434 41.1	257 24.3	15 1.4	9 0.9	7 0.7
	高校生	1270 100.0	204 16.1	537 42.3	456 35.9	28 2.2	28 2.2	17 1.3

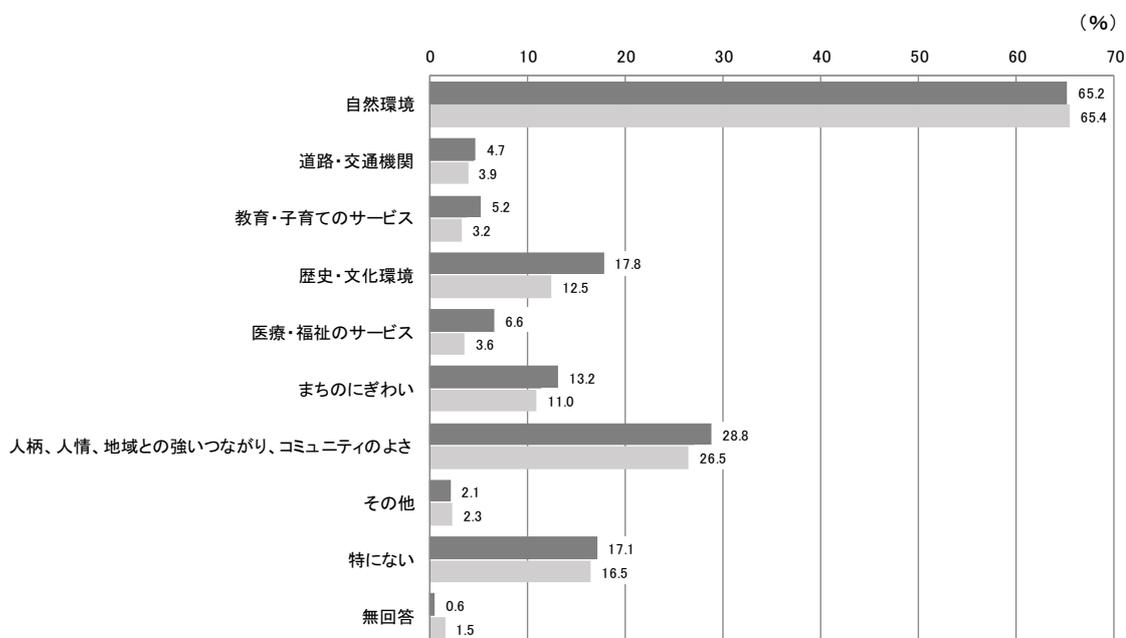
		合計	問7 洲本市が好きか					不明
			大好き	どちらか といえば 好き	好きでも 嫌いでも ない	どちらか といえば 嫌い	大嫌い	
全体		2647 100.0	753 28.4	1018 38.5	743 28.1	56 2.1	45 1.7	32 1.2
中 高 生 別	中学生	1180 100.0	426 36.1	434 36.8	275 23.3	15 1.3	14 1.2	16 1.4
	高校生	1453 100.0	325 22.4	579 39.8	462 31.8	40 2.8	31 2.1	16 1.1

問8. 洲本市の魅力【MA】

○「自然環境」が65.2%で最も多く、次いで「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」が28.8%となっています。

●中学生、高校生ともに「自然環境」が最も多くなっています。

★前回調査においても同じく、「自然環境」「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」が理由として挙げられています。



n=2334
n=2647

		問8 洲本市の魅力										
		合計	自然環境	道路・交通機関	教育・子育てのサービス	歴史・文化環境	医療・福祉のサービス	まちのにぎわい	人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	その他	特にない	無回答
全体		2334	1522	110	122	416	154	307	673	50	400	13
		100.0	65.2	4.7	5.2	17.8	6.6	13.2	28.8	2.1	17.1	0.6
中高生別	中学生	1057	818	42	75	284	94	159	388	23	107	3
	高校生	1270	699	68	47	130	60	146	279	27	293	10
		100.0	55.0	5.4	3.7	10.2	4.7	11.5	22.0	2.1	23.1	0.8

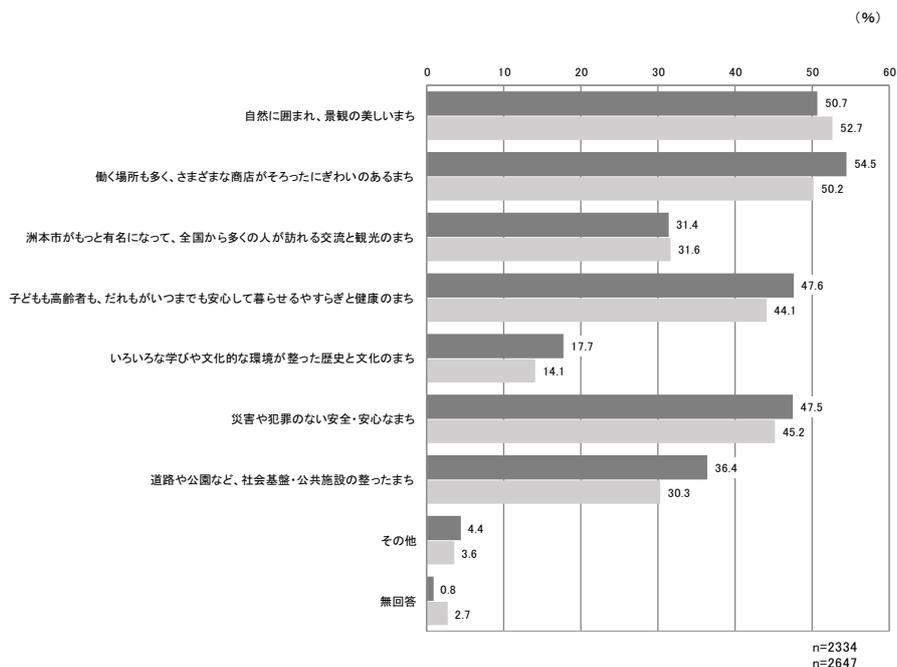
		問8 洲本市の魅力										
		合計	自然環境	道路・交通機関	教育・子育てのサービス	歴史・文化環境	医療・福祉のサービス	まちのにぎわい	人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	その他	特にない	不明
全体		2647	1732	103	86	330	95	290	702	62	436	41
		100.0	65.4	3.9	3.2	12.5	3.6	11.0	26.5	2.3	16.5	1.5
中高生別	中学生	1180	875	52	54	203	70	166	363	29	121	19
	高校生	1453	850	51	32	124	25	122	336	33	311	22
		100.0	58.5	3.5	2.2	8.5	1.7	8.4	23.1	2.3	21.4	1.5

問9. 洲本市が将来なってほしいまち【MA】

○「働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち」が54.5%で最も多く、次いで「自然に囲まれ、景観の美しいまち」が50.7%となっています。

●中学生では、「災害や犯罪のない安全・安心なまち」が最も多い一方、高校生では、「働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち」が最も多くなっています。

★前回調査では、「自然に囲まれ、景観の美しいまち」が最も多い一方、今回調査では、「働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち」が最も多くなっています。

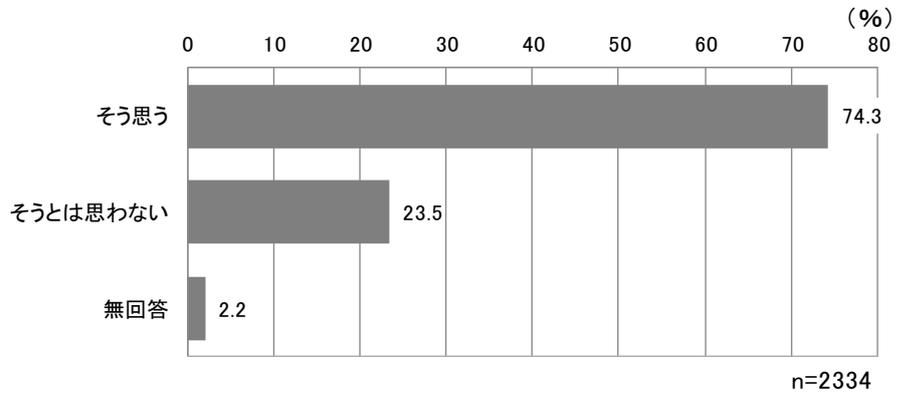


	合計	問9 洲本市が将来どのようにしてほしいか									
		自然に囲まれ、景観の美しいまち	働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち	洲本市がもっと有名になって、全国から多くの人を訪れる交流と観光のまち	子ども高齢者も、だれもいつまでも安心して暮らせるやすらぎと健康のまち	いろいろな学びや文化的な環境が整った歴史と文化のまち	災害や犯罪のない安全・安心なまち	道路や公園など、社会基盤・公共施設の整ったまち	その他	無回答	
全体	2334 100.0	1184 50.7	1272 54.5	732 31.4	1111 47.6	414 17.7	1109 47.5	850 36.4	102 4.4	19 0.8	
中高生別	中学生	1057 100.0	634 60.0	619 58.6	372 35.2	627 59.3	223 21.1	641 60.6	436 41.2	41 3.9	5 0.5
	高校生	1270 100.0	543 42.8	649 51.1	358 28.2	481 37.9	188 14.8	464 36.5	410 32.3	61 4.8	14 1.1

	合計	問9 洲本市が将来どのようにしてほしいか									
		自然に囲まれ、景観の美しいまち	働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち	洲本市がもっと有名になって、全国から多くの人を訪れる交流と観光のまち	子ども高齢者も、だれもいつまでも安心して暮らせるやすらぎと健康のまち	いろいろな学びや文化的な環境が整った歴史と文化のまち	災害や犯罪のない安全・安心なまち	道路や公園など、社会基盤・公共施設の整ったまち	その他	不明	
全体	2647 100.0	1395 52.7	1329 50.2	837 31.6	1167 44.1	372 14.1	1196 45.2	802 30.3	94 3.6	71 2.7	
中高生別	中学生	1180 100.0	700 59.3	649 55.0	461 39.1	619 52.5	207 17.5	647 54.8	399 33.8	39 3.3	34 2.9
	高校生	1453 100.0	688 47.4	671 46.2	372 25.6	542 37.3	162 11.1	543 37.4	400 27.5	55 3.8	37 2.5

問9-1. 実現したら洲本市に住み続けるか(今回調査のみ)

- 「そう思う」が74.3%、「そう思わない」が23.5%となっています。
- 「そう思う」については、中学生の方が、高校生に比べ割合が高くなっています。



		合計	問9-1 実現したら洲本市に住むか		
			そう思う	そうとは思わない	無回答
全体		2334 100.0	1735 74.3	548 23.5	51 2.2
中高生別	中学生	1057 100.0	865 81.8	178 16.8	14 1.3
	高校生	1270 100.0	865 68.1	368 29.0	37 2.9

問10. 参加出来るまちづくり【FA】

○分野別の主な意見（複数意見）は、次のとおりです。

（清掃活動）

- ・ゴミなどを拾う
- ・清掃活動を行う

（ボランティア）

- ・ボランティア活動に参加する
- ・困っている高齢者や子どもを助ける

（情報発信）

- ・洲本市の魅力を島外の人に伝える
- ・SNSを使用して、洲本市をアピールする
- ・音楽のまちをアピールする

（挨拶・コミュニケーション）

- ・挨拶を積極的に行う
- ・近所の人と知り合いを増やす

（市政の参加）

- ・選挙に行く

（社会人としての貢献）

- ・洲本市に住む
- ・洲本市を良くするための仕事をする

Ⅲ 一般市民アンケート調査

1. 実施概要

- ・調査対象者：市内在住の18歳～80歳までの男女 各1,000人
- ・調査期間：令和元年11月
- ・配布・回収：ともに郵送
- ・回収結果：

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査	2,000票	677票	33.8%

調査結果の見方

- ・タイトルの横には、質問形態を記載しています。

SA=単数回答：「1つに○」など選択肢を1つ選ぶ質問形態

MA=複数回答：「あてはまるものすべてに○」など2つ以上の選択を選ぶ質問形態

FA=文字記述回答

- ・棒グラフがある場合には、上段の棒は今回調査（R1年）、下段の棒は前回調査（H27年）の結果をそれぞれ示しています。同様に、クロス表が2つある場合には上段の表は今回調査、下段の表は前回調査の結果をそれぞれ示しています。
- ・各コメントのマークは「○・●・★」については、以下を意味しています。

○：単純集計を行った上でのコメント

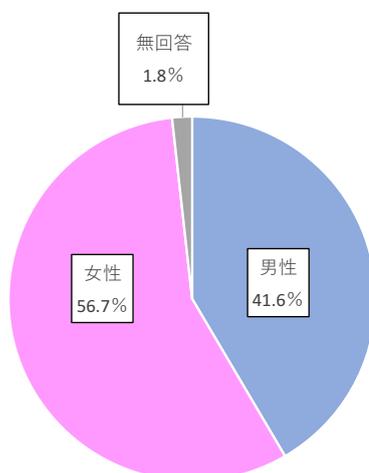
●：クロス集計を行った上でのコメント

★：前回調査（H27年調査）を行った際との比較コメント

2. 調査結果

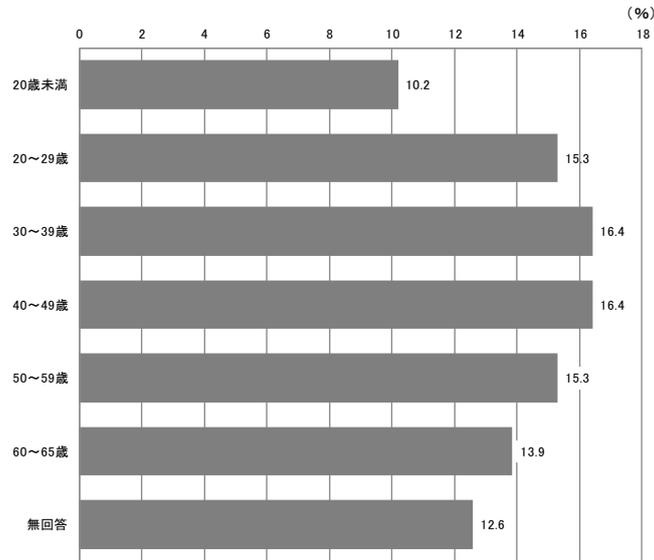
(1) 回答者自身について

① 性別【SA】



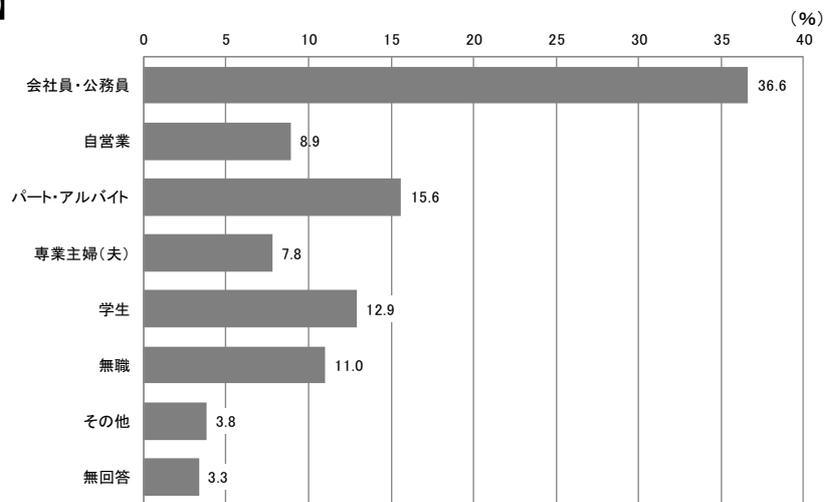
n=628

② 年齢【SA】



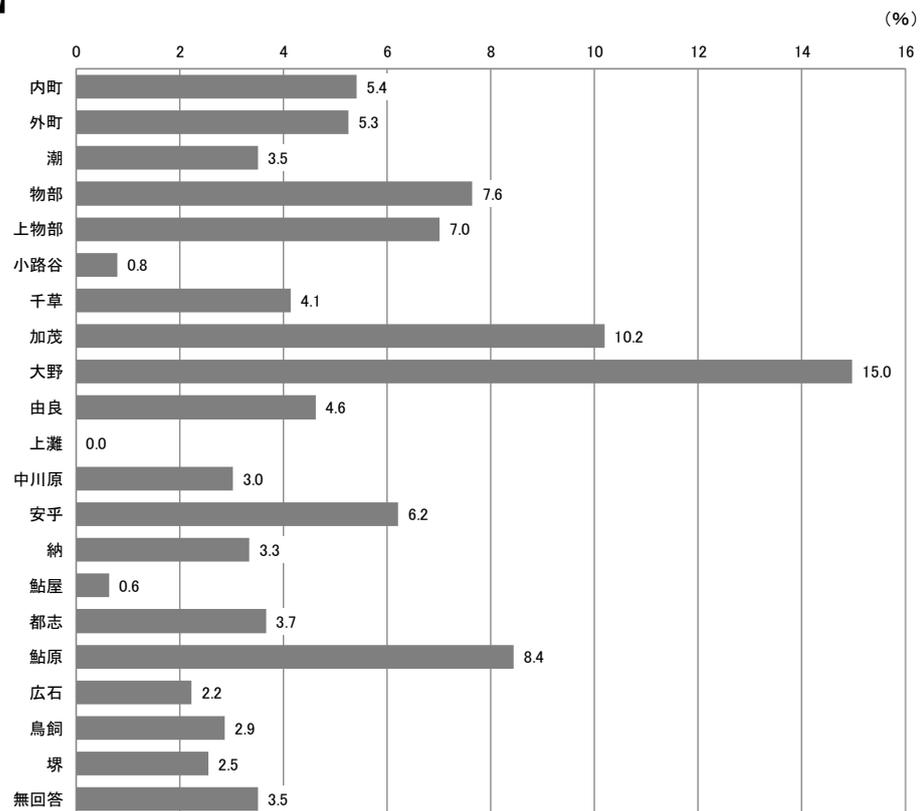
n=628

③ 職業【SA】



n=628

④ 居住地域【SA】



n=628

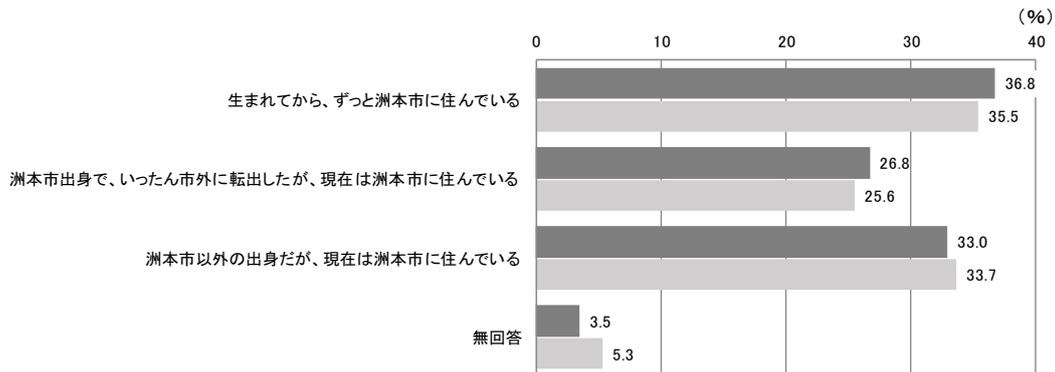
(2) 洲本市について

問1. 居住歴【SA】

○「生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる」が36.8%で最も多くなっています。

●20歳未満と20～29歳で「生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる」が最も多くなっている一方、40～49歳、50～59歳では、「洲本市以外の出身だが、現在は洲本市に住んでいる」が最も多くなっています。

★前回調査と比較し、「生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる」はやや上昇をし、「洲本市以外の出身だが、現在は洲本市に住んでいる」は、やや減少をしました。



n=628
n=677

	合計	問1 居住歴				
		生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる	洲本市出身で、いったん市外に転出したが、現在は洲本市に住んでいる	洲本市以外の出身だが、現在は洲本市に住んでいる	無回答	
全体	628 100.0	231 36.8	168 26.8	207 33.0	22 3.5	
②年齢	20歳未満	64 100.0	49 76.6	5 7.8	8 12.5	2 3.1
	20～29歳	96 100.0	44 45.8	28 29.2	21 21.9	3 3.1
	30～39歳	103 100.0	27 26.2	42 40.8	33 32.0	1 1.0
	40～49歳	103 100.0	23 22.3	33 32.0	46 44.7	1 1.0
	50～59歳	96 100.0	32 33.3	25 26.0	39 40.6	0 0.0
	60～65歳	87 100.0	32 36.8	20 23.0	31 35.6	4 4.6

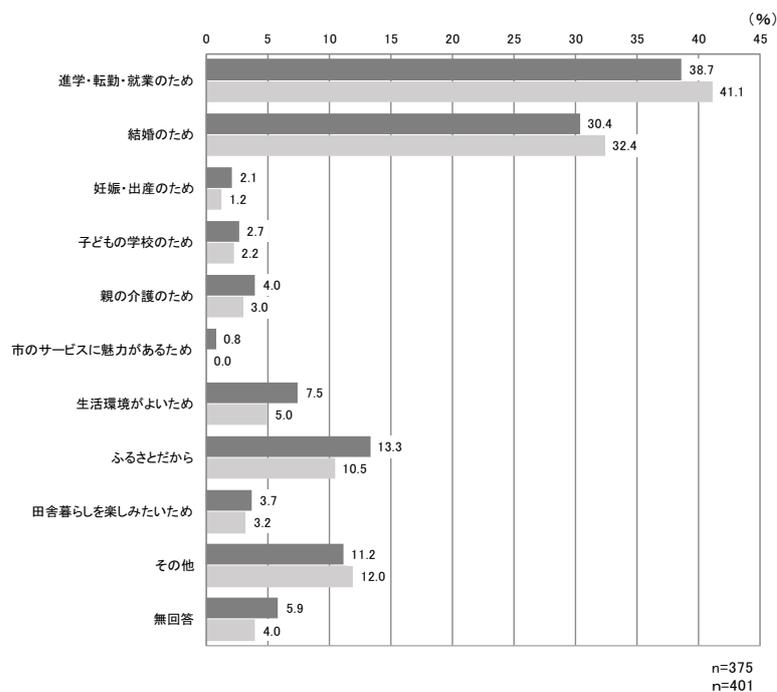
	合計	問1 居住歴				
		生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる	洲本市出身で、いったん市外に転出したが、現在は洲本市に住んでいる	洲本市以外の出身だが、現在は洲本市に住んでいる	不明	
全体	677 100.0	240 35.5	173 25.6	228 33.7	36 5.3	
②年齢	20歳未満	64 100.0	42 65.6	7 10.9	12 18.8	3 4.7
	20～29歳	103 100.0	51 49.5	31 30.1	17 16.5	4 3.9
	30～39歳	134 100.0	40 29.9	40 29.9	54 40.3	0 0.0
	40～49歳	97 100.0	19 19.6	24 24.7	54 55.7	0 0.0
	50～59歳	84 100.0	29 34.5	28 33.3	27 32.1	0 0.0
	60～69歳	105 100.0	33 31.4	32 30.5	38 36.2	2 1.9
	70歳以上	59 100.0	25 42.4	10 16.9	23 39.0	1 1.7

問1-1. 転入理由(一度市外に転出した方、洲本市以外のお出身の方限定)【MA】

○「進学・転勤・就業のため」が38.7%で最も多く、次いで「結婚のため」が30.4%となっています。

●すべての年代で、「進学・転勤・就業のため」が多くみられますが、40～49歳と60～65歳では、「結婚のため」も多くみられます。

★「進学・転勤・就業のため」と「結婚のため」はともに、前回調査と比較し減少した一方、その他ほとんどの項目は上昇しました。



	合計	問1-1 転入した理由											
		進学・転勤・就業のため	結婚のため	妊娠・出産のため	子どもの学校のため	親の介護のため	市のサービスに魅力があるため	生活環境がよい	ふるさとだから	田舎暮らしを楽しみたい	その他	無回答	
全体	375 100.0	145 38.7	114 30.4	8 2.1	10 2.7	15 4.0	3 0.8	28 7.5	50 13.3	14 3.7	42 11.2	22 5.9	
②年齢	20歳未満	13 100.0	4 30.8	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 23.1	1 7.7	5 38.5	1 7.7	
	20～29歳	49 100.0	28 57.1	10 20.4	2 4.1	0 0.0	0 0.0	2 4.1	9 18.4	2 4.1	5 10.2	0 0.0	
	30～39歳	75 100.0	32 42.7	27 36.0	2 2.7	4 5.3	3 4.0	1 1.3	5 6.7	10 13.3	1 1.3	7 9.3	4 5.3
	40～49歳	79 100.0	29 36.7	31 39.2	1 1.3	3 3.8	2 2.5	0 0.0	5 6.3	11 13.9	4 5.1	4 5.1	8 10.1
	50～59歳	64 100.0	27 42.2	17 26.6	1 1.6	1 1.6	6 9.4	1 1.6	4 6.3	8 12.5	1 1.6	8 12.5	4 6.3
	60～65歳	51 100.0	15 29.4	15 29.4	0 0.0	1 2.0	2 3.9	0 0.0	6 11.8	4 7.8	4 7.8	7 13.7	2 3.9

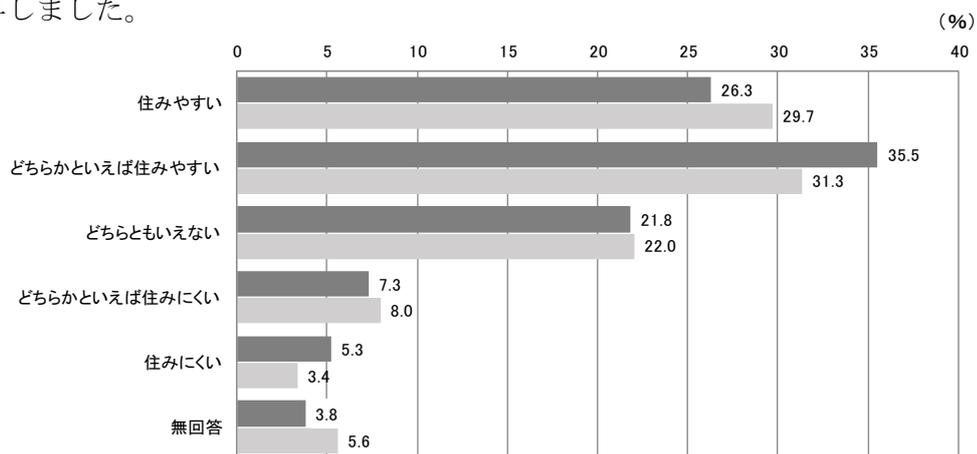
	合計	問1-1 転入した理由											
		進学・転勤・就業のため	結婚のため	妊娠・出産のため	子どもの学校のため	親の介護のため	市のサービスに魅力があるため	生活環境がよい	ふるさとだから	田舎暮らしを楽しみたい	その他	不明	
全体	401 100.0	165 41.1	130 32.4	5 1.2	9 2.2	12 3.0	0 0.0	20 5.0	42 10.5	13 3.2	48 12.0	16 4.0	
②年齢	20歳未満	19 100.0	6 31.6	1 5.3	2 10.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3	5 26.3	0 0.0	7 36.8	0 0.0
	20～29歳	48 100.0	33 68.8	6 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.2	8 16.7	0 0.0	7 14.6	0 0.0	
	30～39歳	94 100.0	39 41.5	30 31.9	2 2.1	3 3.2	3 3.2	0 0.0	6 6.4	10 10.6	3 3.2	10 10.6	5 5.3
	40～49歳	78 100.0	41 52.6	28 35.9	0 0.0	3 3.8	1 1.3	0 0.0	6 7.7	4 5.1	0 0.0	6 7.7	4 5.1
	50～59歳	55 100.0	20 36.4	23 41.8	1 1.8	0 0.0	1 1.8	0 0.0	3 5.5	4 7.3	1 1.8	6 10.9	3 5.5
	60～69歳	70 100.0	17 24.3	26 37.1	0 0.0	3 4.3	6 8.6	0 0.0	2 2.9	8 11.4	5 7.1	8 11.4	2 2.9
	70歳以上	33 100.0	8 24.2	14 42.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 9.1	4 12.1	4 12.1	2 6.1

問2. 洲本市の住みやすさ【SA】

○「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』が 61.8%、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた『住みにくい』が 12.6% になっており、肯定的評価が高くなっています。

●すべての年齢で『住みやすい』が過半数となっていますが、特に 20 歳～29 歳と 40 歳～49 歳でその割合が高くなっています。

★前回調査と比較した場合、「住みやすい」は減少した一方、「どちらかといえば住みやすい」は上昇しました。



	合計	問2 洲本市は住みやすいか					無回答
		住みやすい	どちらか といえば 住みやすい	どちらと もいえない	どちらか といえば 住みにくい	住みにくい	
全体	628 100.0	165 26.3	223 35.5	137 21.8	46 7.3	33 5.3	24 3.8
②年齢							
20歳未満	64 100.0	17 26.6	22 34.4	12 18.8	5 7.8	4 6.3	4 6.3
20～29歳	96 100.0	22 22.9	39 40.6	18 18.8	10 10.4	6 6.3	1 1.0
30～39歳	103 100.0	28 27.2	35 34.0	32 31.1	4 3.9	4 3.9	0 0.0
40～49歳	103 100.0	22 21.4	43 41.7	29 28.2	2 1.9	7 6.8	0 0.0
50～59歳	96 100.0	26 27.1	32 33.3	19 19.8	11 11.5	5 5.2	3 3.1
60～65歳	87 100.0	20 23.0	27 31.0	18 20.7	10 11.5	5 5.7	7 8.0

n=628
n=677

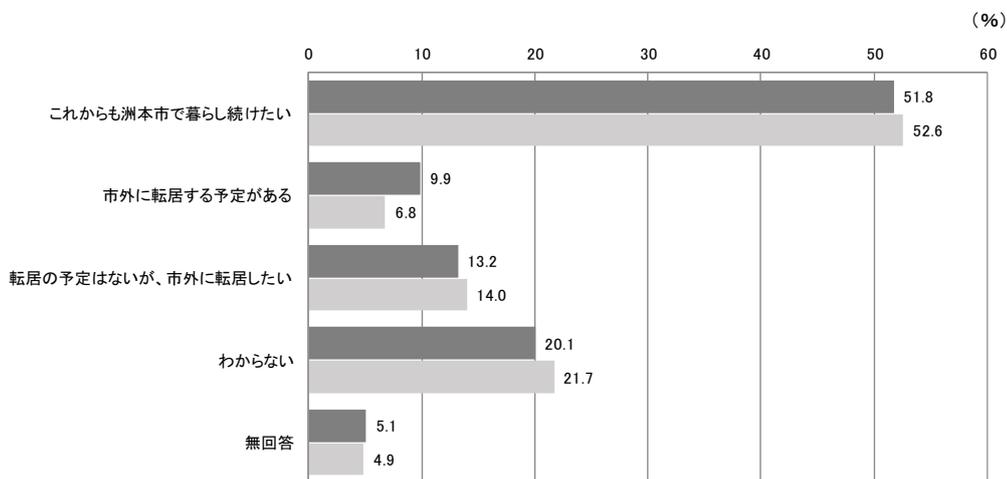
	合計	問2 洲本市は住みやすいか					
		住みやすい	どちらか といえば 住みやすい	どちらと もいえない	どちらか といえば 住みにくい	住みにくい	不明
全体	677 100.0	201 29.7	212 31.3	149 22.0	54 8.0	23 3.4	38 5.6
②年齢							
20歳未満	64 100.0	21 32.8	23 35.9	14 21.9	2 3.1	4 6.3	0 0.0
20～29歳	103 100.0	29 28.2	35 34.0	24 23.3	8 7.8	6 5.8	1 1.0
30～39歳	134 100.0	34 25.4	45 33.6	31 23.1	16 11.9	6 4.5	2 1.5
40～49歳	97 100.0	34 35.1	26 26.8	24 24.7	6 6.2	4 4.1	3 3.1
50～59歳	84 100.0	29 34.5	27 32.1	14 16.7	9 10.7	2 2.4	3 3.6
60～69歳	105 100.0	32 30.5	32 30.5	29 27.6	9 8.6	1 1.0	2 1.9
70歳以上	59 100.0	22 37.3	22 37.3	11 18.6	3 5.1	0 0.0	1 1.7

問3. 洲本市の居留意向【SA】

○「これからも洲本市で暮らし続けたい」が51.8%で過半数を占めています。

●年齢別にみると、20歳未満では「市外に転居する予定がある」が最も多くなっています。そのほかのすべての年代では、「これからも洲本市で暮らし続けたい」が最も多くなっています。

★「市外に転居する予定がある」は前回調査と比較した場合、若干の上昇をしました。



n=628
n=677

	合計	問3 洲本市に暮らし続けたいか					
		これからも洲本市で暮らし続けたい	市外に転居する予定がある	転居の予定はないが、市外に転居したい	わからない	無回答	
全体	628	325	62	83	126	32	
		100.0	51.8	9.9	13.2	20.1	5.1
②年齢	20歳未満	64	12	21	12	16	3
		100.0	18.8	32.8	18.8	25.0	4.7
	20～29歳	96	30	22	13	29	2
		100.0	31.3	22.9	13.5	30.2	2.1
	30～39歳	103	51	10	14	25	3
		100.0	49.5	9.7	13.6	24.3	2.9
	40～49歳	103	50	5	13	26	9
		100.0	48.5	4.9	12.6	25.2	8.7
	50～59歳	96	58	2	14	17	5
		100.0	60.4	2.1	14.6	17.7	5.2
	60～65歳	87	62	2	12	6	5
		100.0	71.3	2.3	13.8	6.9	5.7

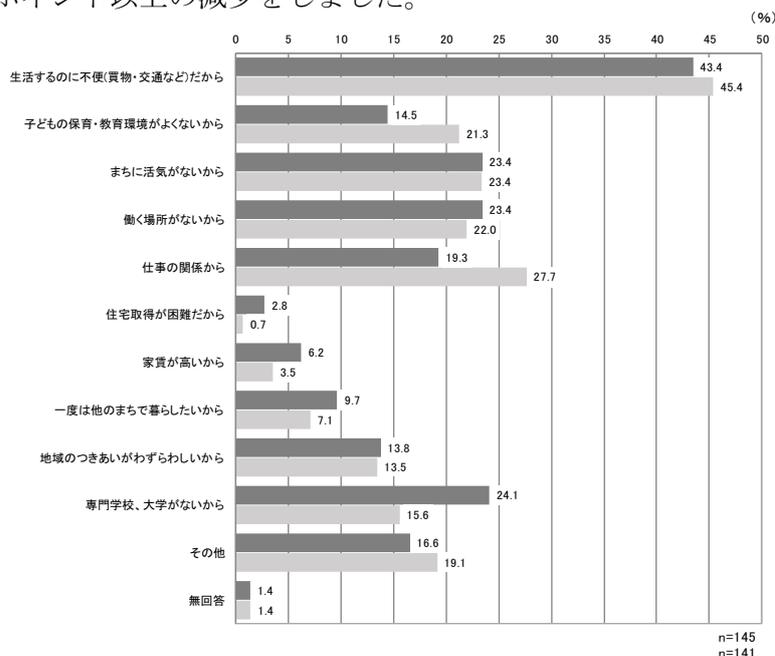
	合計	問3 洲本市に暮らし続けたいか					
		これからも洲本市で暮らし続けたい	市外に転居する予定がある	転居の予定はないが、市外に転居したい	わからない	不明	
全体	677	356	46	95	147	33	
		100.0	52.6	6.8	14.0	21.7	4.9
②年齢	20歳未満	64	19	12	11	21	1
		100.0	29.7	18.8	17.2	32.8	1.6
	20～29歳	103	35	20	18	29	1
		100.0	34.0	19.4	17.5	28.2	1.0
	30～39歳	134	61	8	23	41	1
		100.0	45.5	6.0	17.2	30.6	0.7
	40～49歳	97	50	5	15	27	0
		100.0	51.5	5.2	15.5	27.8	0.0
	50～59歳	84	55	1	13	13	2
		100.0	65.5	1.2	15.5	15.5	2.4
	60～69歳	105	83	0	10	11	1
		100.0	79.0	0.0	9.5	10.5	1.0
	70歳以上	59	50	0	4	4	1
		100.0	84.7	0.0	6.8	6.8	1.7

問3-1. 転出理由(引っ越す予定がある、引っ越したい方限定)【MA】

○「生活するのに不便(買物・交通等)だから」が43.4%で最も多く、次いで「専門学校、大学がないから」が24.1%となっています。

●20歳未満では、「専門学校、大学がないから」が最も多く、20～29歳では「仕事の関係から」が最も多くなっています。そのほかのすべての年代では、「生活するのに不便(買物・交通など)だから」が最も多くなっています。

★前回調査と比較し、「子どもの保育・教育環境がよくないから」と「仕事の関係から」は、ともに5ポイント以上の減少をしました。



	合計	問3-1 引っ越しする理由											
		生活するの に不便 (買物・ 交通な ど)だか ら	子ども の保育・ 教育環 境がよ くない から	まちに 活気が ないか ら	働く場 所がな いから	仕事 の関 係から	住宅 取得 が困 難だ から	家賃 が高 いから	一度 は他 のま ちで 暮ら した いから	地域 のつ きあ いが わず らわ しい から	専門 学 校、 大 学 が な い か ら	その他	無回答
全体	145	63	21	34	34	28	4	9	14	20	35	24	2
②年齢													
20歳未満	33	8	1	3	7	3	0	0	6	2	22	1	0
20～29歳	35	11	2	5	9	15	0	2	3	0	5	8	1
30～39歳	24	13	8	6	5	4	1	4	1	4	1	5	0
40～49歳	18	8	6	5	4	3	1	2	1	3	6	4	1
50～59歳	16	12	1	7	5	2	2	1	1	5	1	2	0
60～65歳	14	8	3	8	4	1	0	0	1	4	0	3	0

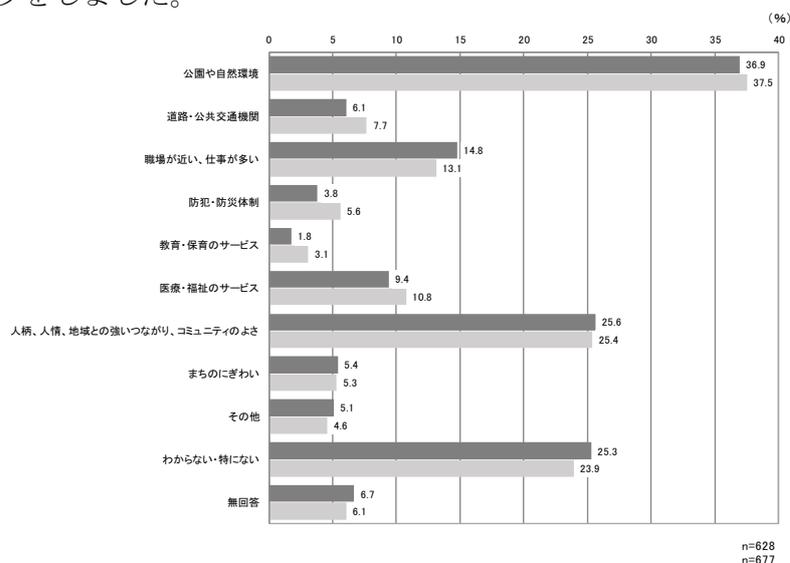
	合計	問3-1 引っ越しする理由											
		生活するの に不便 (買物・ 交通な ど)だか ら	子ども の保育・ 教育環 境がよ くない から	まちに 活気が ないか ら	働く場 所がな いから	仕事 の関 係から	住宅 取得 が困 難だ から	家賃 が高 いから	一度 は他 のま ちで 暮ら した いから	地域 のつ きあ いが わず らわ しい から	専門 学 校、 大 学 が な い か ら	その他	不明
全体	141	64	30	33	31	39	1	5	10	19	22	27	2
②年齢													
20歳未満	23	9	2	2	7	5	0	1	4	1	10	2	0
20～29歳	38	12	6	5	8	19	1	2	3	4	1	7	1
30～39歳	31	13	11	5	6	6	0	1	4	4	6	8	1
40～49歳	20	9	7	8	5	5	0	0	4	1	4	4	0
50～59歳	14	8	3	7	3	2	0	2	4	1	3	3	0
60～69歳	10	8	1	5	2	1	0	0	2	2	3	2	0
70歳以上	4	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

問4. 洲本市の魅力【MA】

○「公園や自然環境」が36.9%で最も多く、次いで「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」が25.6%となっています。

●すべての年代で、「公園や自然環境」が最も多くなっており、なかでも20歳未満と20～29歳では過半数を超えています。（分からない・とくにないを除く）

★洲本市の魅力として上昇したのものもありますが、「公園や自然環境」、「道路・公共交通機関」、「防犯・防災体制」、「教育・保育サービス」、「医療・福祉サービス」に関しては若干の減少をしました。



	合計	問4 洲本市の魅力											
		公園や自然環境	道路・公共交通機関	職場に近い、仕事が多い	防犯・防災体制	教育・保育サービス	医療・福祉サービス	人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	まちのにぎわい	その他	わからない・特にない	無回答	
全体	628 100.0	232 36.9	38 6.1	93 14.8	24 3.8	11 1.8	59 9.4	161 25.6	34 5.4	32 5.1	159 25.3	42 6.7	
②年齢	20歳未満	64 100.0	38 59.4	0 0.0	3 4.7	2 3.1	5 7.8	3 4.7	19 29.7	4 6.3	1 1.6	14 21.9	2 3.1
	20～29歳	96 100.0	49 51.0	4 4.2	12 12.5	2 2.1	0 0.0	5 5.2	28 29.2	6 6.3	5 5.2	21 21.9	2 2.1
	30～39歳	103 100.0	29 28.2	3 2.9	26 25.2	2 1.9	4 3.9	14 13.6	23 22.3	10 9.7	5 4.9	27 26.2	5 4.9
	40～49歳	103 100.0	31 30.1	5 4.9	17 16.5	2 1.9	1 1.0	5 4.9	22 21.4	6 5.8	10 9.7	24 23.3	13 12.6
	50～59歳	96 100.0	29 30.2	12 12.5	20 20.8	3 3.1	0 0.0	9 9.4	22 22.9	3 3.1	5 5.2	31 32.3	7 7.3
	60～65歳	87 100.0	29 33.3	8 9.2	8 9.2	3 3.4	0 0.0	9 10.3	24 27.6	0 0.0	4 4.6	23 26.4	5 5.7

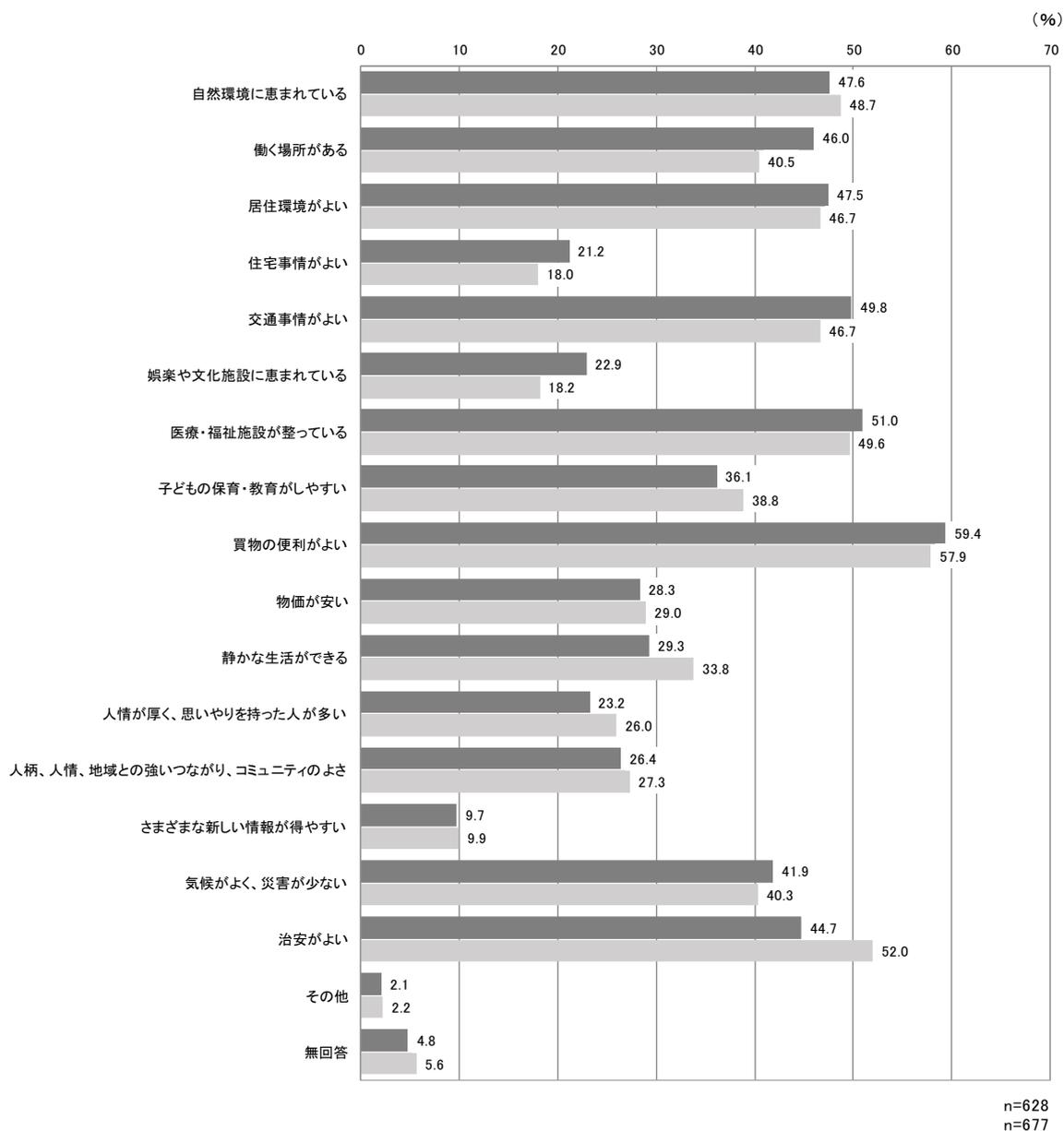
	合計	問4 洲本市の魅力											
		公園や自然環境	道路・公共交通機関	職場に近い、仕事が多い	防犯・防災体制	教育・保育サービス	医療・福祉サービス	人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	まちのにぎわい	その他	わからない・特にない	不明	
全体	677 100.0	254 37.5	52 7.7	89 13.1	38 5.6	21 3.1	73 10.8	172 25.4	36 5.3	31 4.6	162 23.9	41 6.1	
②年齢	20歳未満	64 100.0	35 54.7	6 9.4	4 6.3	3 4.7	1 1.6	7 10.9	18 28.1	3 4.7	1 1.6	12 18.8	0 0.0
	20～29歳	103 100.0	50 48.5	4 3.9	11 10.7	3 2.9	2 1.9	7 6.8	30 29.1	10 9.7	6 5.8	27 26.2	0 0.0
	30～39歳	134 100.0	43 32.1	13 9.7	29 21.6	1 0.7	7 5.2	10 7.5	27 20.1	14 10.4	4 3.0	40 29.9	1 0.7
	40～49歳	97 100.0	36 37.1	8 8.2	20 20.6	7 7.2	5 5.2	11 11.3	20 20.6	4 4.1	9 9.3	23 23.7	0 0.0
	50～59歳	84 100.0	28 33.3	6 7.1	16 19.0	5 6.0	3 3.6	11 13.1	18 21.4	2 2.4	3 3.6	25 29.8	2 2.4
	60～69歳	105 100.0	41 39.0	8 7.6	6 5.7	10 9.5	1 1.0	12 11.4	31 29.5	2 1.9	7 6.7	25 23.8	6 5.7
70歳以上	59 100.0	19 32.2	7 11.9	3 5.1	9 15.3	2 3.4	15 25.4	26 44.1	1 1.7	1 1.7	9 15.3	5 8.5	

問5. 住みよさとは【MA】

○「買物の便利がよい」が59.4%で最も多く、次いで「医療・福祉施設が整っている」が51.0%となっています。

●20歳未満では、「交通事情が良い」が最も多く、そのほかのすべての年代では、「買い物の便利が良い」が最も多くなっています。

★前回調査と比較し、「働く場所がある」と回答した人は、5.5ポイント上昇しました。



	合計	問5 住みよさは														
		自然環境に恵まれている	働く場所がある	居住環境がよい	住宅事情がよい	交通事情がよい	娯楽や文化施設に恵まれている	医療・福祉施設が整っている	子どもの保育・教育がしやすい	買物の便利がよい	物価が安い	静かな生活ができる	人情が厚く、思いやりを持った人が多い	人柄、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	さまざまな新しい情報が得やすい	
全体	628 100.0	299 47.6	289 46.0	298 47.5	133 21.2	313 49.8	144 22.9	320 51.0	227 36.1	373 59.4	178 28.3	184 29.3	146 23.2	166 26.4	61 9.7	
②年齢	20歳未満	64 100.0	30 46.9	38 59.4	32 50.0	9 14.1	39 60.9	18 28.1	23 35.9	17 26.6	36 56.3	16 25.0	12 18.8	8 12.5	15 23.4	5 7.8
	20～29歳	96 100.0	48 50.0	51 53.1	51 53.1	32 33.3	54 56.3	17 17.7	50 52.1	44 45.8	60 62.5	30 31.3	29 30.2	23 24.0	29 30.2	13 13.5
	30～39歳	103 100.0	52 50.5	60 58.3	53 51.5	31 30.1	60 58.3	40 38.8	67 65.0	64 62.1	80 77.7	36 35.0	36 35.0	30 29.1	29 28.2	13 12.6
	40～49歳	103 100.0	39 37.9	44 42.7	48 46.6	17 16.5	50 48.5	26 25.2	51 49.5	45 43.7	62 60.2	33 32.0	30 29.1	24 23.3	18 17.5	8 7.8
	50～59歳	96 100.0	49 51.0	50 52.1	53 55.2	24 25.0	52 54.2	19 19.8	53 55.2	32 33.3	58 60.4	34 35.4	30 31.3	22 22.9	26 27.1	11 11.5
	60～65歳	87 100.0	41 47.1	29 33.3	31 35.6	12 13.8	31 35.6	10 11.5	44 50.6	12 13.8	46 52.9	20 23.0	21 24.1	19 21.8	23 26.4	6 6.9

	合計	問5 住みよさは			
		気候がよく、災害が少ない	治安がよい	その他	無回答
全体	628 100.0	263 41.9	281 44.7	13 2.1	30 4.8
②年齢	20歳未満	64 100.0	21 32.8	31 48.4	1 1.6
	20～29歳	96 100.0	31 32.3	47 49.0	2 2.1
	30～39歳	103 100.0	48 46.6	49 47.6	1 1.0
	40～49歳	103 100.0	37 35.9	53 51.5	3 2.9
	50～59歳	96 100.0	52 54.2	46 47.9	3 3.1
	60～65歳	87 100.0	39 44.8	31 35.6	2 2.3

	合計	問5 住みよさは													
		自然環境に恵まれている	働く場所がある	居住環境がよい	住宅事情がよい	交通事情がよい	娯楽や文化施設に恵まれている	医療・福祉施設が整っている	子どもの保育・教育がしやすい	買物の便利がよい	物価が安い	静かな生活ができる	人情が厚く、思いやりを持った人が多い	人柄、地域との強いつながり、コミュニティのよさ	さまざまな新しい情報が得やすい
全体	677 100.0	330 48.7	274 40.5	316 46.7	122 18.0	316 46.7	123 18.2	336 49.6	263 38.8	392 57.9	196 29.0	229 33.8	176 26.0	185 27.3	67 9.9
②年齢	20歳未満	64 100.0	31 48.4	20 31.3	23 35.9	9 14.1	34 53.1	18 28.1	24 37.5	17 26.6	33 51.6	19 29.7	18 28.1	18 26.6	6 9.4
	20～29歳	103 100.0	59 57.3	53 51.5	53 51.5	25 24.3	56 54.4	21 20.4	52 50.5	44 42.7	70 68.0	37 35.9	33 32.0	29 28.2	27 26.2
	30～39歳	134 100.0	58 43.3	66 49.3	78 58.2	41 30.6	75 56.0	32 23.9	77 57.5	88 65.7	95 70.9	47 35.1	53 39.6	40 29.9	30 22.4
	40～49歳	97 100.0	52 53.6	48 49.5	52 53.6	17 17.5	48 49.5	17 17.5	54 55.7	55 56.7	61 62.9	34 35.1	34 35.1	28 28.9	26 26.8
	50～59歳	84 100.0	47 56.0	48 57.1	49 58.3	16 19.0	46 54.8	14 16.7	52 61.9	39 46.4	53 63.1	30 35.7	36 42.9	16 19.0	28 33.3
	60～69歳	105 100.0	55 52.4	29 27.6	45 42.9	9 8.6	43 41.0	14 13.3	51 48.6	16 15.2	57 54.3	24 22.9	33 31.4	28 26.7	31 29.5
	70歳以上	59 100.0	26 44.1	8 13.6	15 25.4	4 6.8	13 22.0	5 8.5	25 42.4	3 5.1	22 37.3	3 5.1	19 32.2	17 28.8	26 44.1

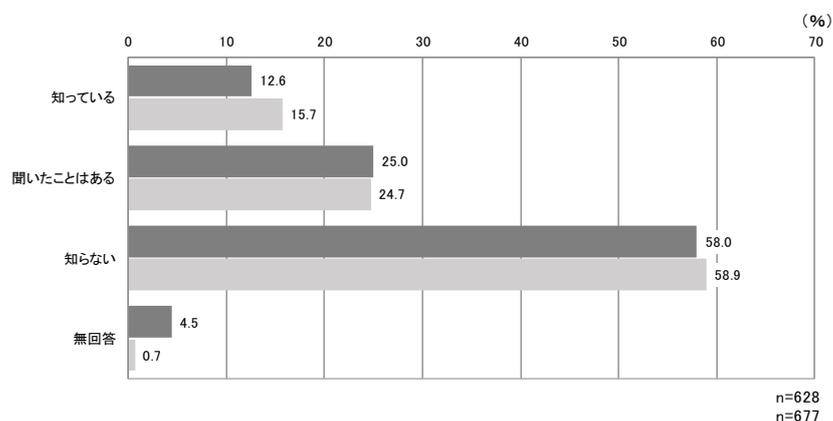
	合計	問5 住みよさは			
		気候がよく、災害が少ない	治安がよい	その他	不明
全体	677 100.0	273 40.3	352 52.0	15 2.2	38 5.6
②年齢	20歳未満	64 100.0	16 25.0	35 54.7	0 0.0
	20～29歳	103 100.0	40 38.8	64 62.1	1 1.0
	30～39歳	134 100.0	52 38.8	80 59.7	1 0.7
	40～49歳	97 100.0	48 49.5	54 55.7	4 4.1
	50～59歳	84 100.0	43 51.2	43 51.2	1 1.2
	60～69歳	105 100.0	51 48.6	48 45.7	5 4.8
	70歳以上	59 100.0	21 35.6	26 44.1	2 3.4

問6. 洲本市の人口推計結果の認知度【SA】

○「知らない」が58.0%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が25.0%、「知っている」が12.6%となっています。

●すべての年代で「知らない」が最も多くなっており、特に30～39歳でその割合が高くなっています。

★「知らない」と回答した人は、前回調査と同様に過半数を超えました。



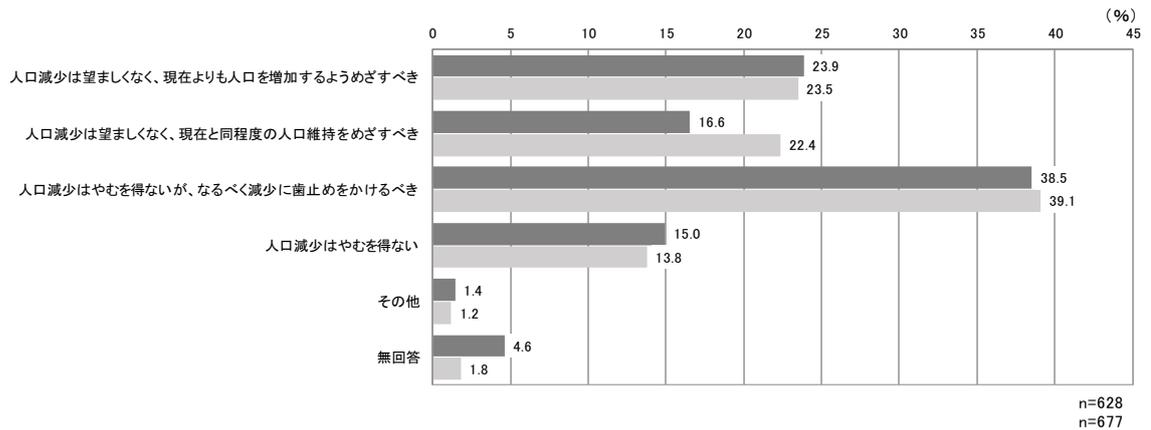
		合計	問6 洲本市の人口減少の推計結果の認知			
			知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		628	79	157	364	28
		100.0	12.6	25.0	58.0	4.5
②年齢	20歳未満	64	7	11	45	1
		100.0	10.9	17.2	70.3	1.6
	20～29歳	96	9	21	65	1
		100.0	9.4	21.9	67.7	1.0
	30～39歳	103	4	20	77	2
		100.0	3.9	19.4	74.8	1.9
	40～49歳	103	11	24	61	7
	100.0	10.7	23.3	59.2	6.8	
50～59歳	96	15	33	44	4	
	100.0	15.6	34.4	45.8	4.2	
60～65歳	87	20	27	35	5	
	100.0	23.0	31.0	40.2	5.7	

		合計	問6 洲本市の人口減少の推計結果の認知			
			知っている	聞いたことはある	知らない	不明
全体		677	106	167	399	5
		100.0	15.7	24.7	58.9	0.7
②年齢	20歳未満	64	5	10	48	1
		100.0	7.8	15.6	75.0	1.6
	20～29歳	103	5	22	75	1
		100.0	4.9	21.4	72.8	1.0
	30～39歳	134	14	34	86	0
		100.0	10.4	25.4	64.2	0.0
	40～49歳	97	12	24	61	0
		100.0	12.4	24.7	62.9	0.0
	50～59歳	84	21	17	45	1
	100.0	25.0	20.2	53.6	1.2	
60～69歳	105	27	33	45	0	
	100.0	25.7	31.4	42.9	0.0	
70歳以上	59	16	21	21	1	
	100.0	27.1	35.6	35.6	1.7	

(3) 人口減少社会におけるまちづくり

問7. 洲本市の人口減少について【SA】

- 「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が38.5%で最も多くなっています。
- すべての年代で、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が最も多くなっています。
- ★「人口減少は望ましくなく、現在と同程度の人口維持を目指すべき」と回答した人は、5.8ポイント減少しました。

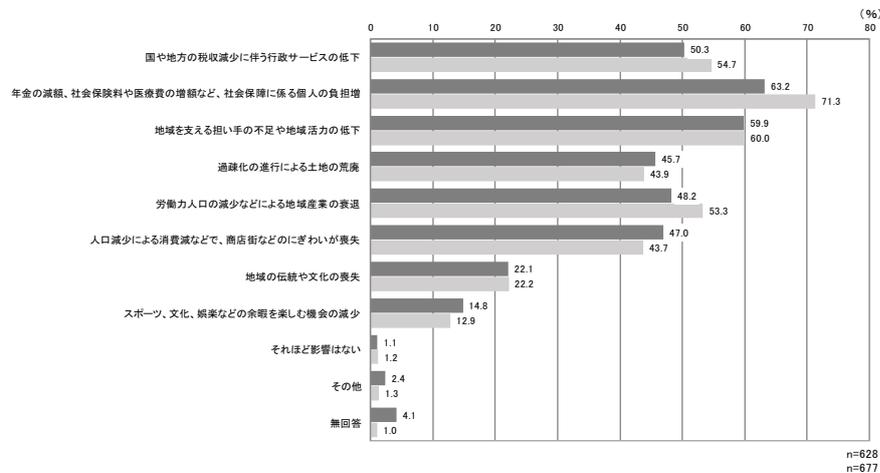


	合計	問7 人口減少についての考え					
		人口減少は望ましくなく、現在よりも人口を増加するようめざすべき	人口減少は望ましくなく、現在と同程度の人口維持をめざすべき	人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき	人口減少はやむを得ない	その他	無回答
全体	628	150	104	242	94	9	29
	100.0	23.9	16.6	38.5	15.0	1.4	4.6
②年齢							
20歳未満	64	14	12	27	10	0	1
	100.0	21.9	18.8	42.2	15.6	0.0	1.6
20～29歳	96	26	16	36	16	1	1
	100.0	27.1	16.7	37.5	16.7	1.0	1.0
30～39歳	103	26	14	43	15	2	3
	100.0	25.2	13.6	41.7	14.6	1.9	2.9
40～49歳	103	21	20	41	10	4	7
	100.0	20.4	19.4	39.8	9.7	3.9	6.8
50～59歳	96	25	19	32	16	0	4
	100.0	26.0	19.8	33.3	16.7	0.0	4.2
60～65歳	87	18	13	34	15	2	5
	100.0	20.7	14.9	39.1	17.2	2.3	5.7

	合計	問7 人口減少についての考え					
		人口減少は望ましくなく、現在よりも人口を増加するようめざすべき	人口減少は望ましくなく、現在と同程度の人口維持をめざすべき	人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき	人口減少はやむを得ない	その他	不明
全体	677	156	149	260	92	8	12
	100.0	23.0	22.0	38.4	13.6	1.2	1.8
②年齢							
20歳未満	64	14	17	21	11	0	1
	100.0	21.9	26.6	32.8	17.2	0.0	1.6
20～29歳	103	20	22	45	14	0	2
	100.0	19.4	21.4	43.7	13.6	0.0	1.9
30～39歳	134	20	30	58	22	4	0
	100.0	14.9	22.4	43.3	16.4	3.0	0.0
40～49歳	97	28	28	29	10	1	1
	100.0	28.9	28.9	29.9	10.3	1.0	1.0
50～59歳	84	22	20	28	10	1	3
	100.0	26.2	23.8	33.3	11.9	1.2	3.6
60～69歳	105	25	18	46	12	0	4
	100.0	23.8	17.1	43.8	11.4	0.0	3.8
70歳以上	59	16	8	24	9	1	1
	100.0	27.1	13.6	40.7	15.3	1.7	1.7

問8. 人口減少社会への影響が大きいと思うこと【MA】

- 「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が63.2%で最も多く、次いで「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」が59.9%、「国や地方の税収減少に伴う行政サービスの低下」が50.3%となっています。
- 20歳未満で「人口減少による消費減などで、商店街などのにぎわいが喪失」、40～49歳で「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」が最も多くなっています。そのほかの年代では、「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が最も多くなっています。
- ★「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」については、8.1ポイント減少をしました。

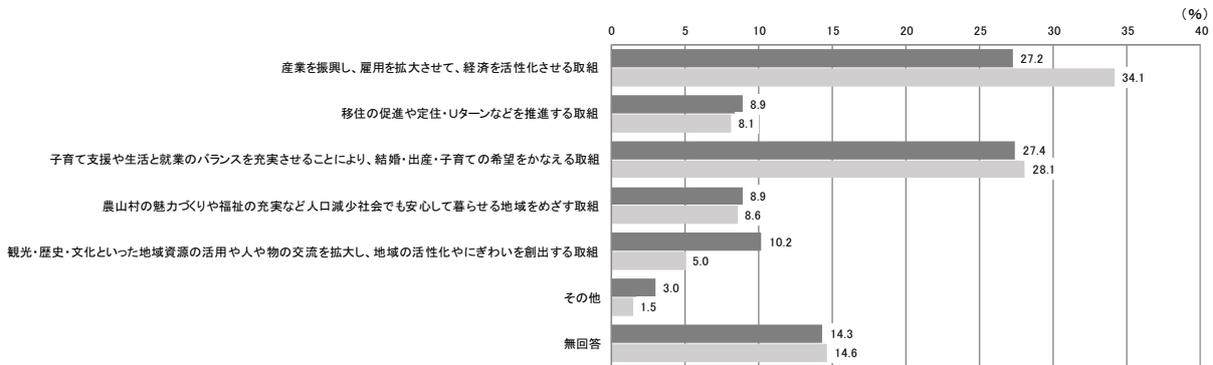


	合計	問8 人口減少社会への影響が大きいこと、不安										
		国や地方の税収減少に伴う行政サービスの低下	年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増	地域を支える担い手の不足や地域活力の低下	過疎化の進行による土地の荒廃	労働力人口の減少などによる地域産業の衰退	人口減少による消費減などで、商店街などのにぎわいが喪失	地域の伝統や文化の喪失	スポーツ、文化、娯楽などの余暇を楽しむ機会の減少	それほど影響はない	その他	無回答
全体	628	316	397	376	287	303	295	139	93	7	15	26
	100.0	50.3	63.2	59.9	45.7	48.2	47.0	22.1	14.8	1.1	2.4	4.1
②年齢												
20歳未満	64	22	28	33	27	24	34	10	8	0	3	1
	100.0	34.4	43.8	51.6	42.2	37.5	53.1	15.6	12.5	0.0	4.7	1.6
20～29歳	96	47	54	46	31	41	43	11	18	1	4	1
	100.0	49.0	56.3	47.9	32.3	42.7	44.8	11.5	18.8	1.0	4.2	1.0
30～39歳	103	58	75	59	47	47	47	29	18	3	1	3
	100.0	56.3	72.8	57.3	45.6	45.6	45.6	28.2	17.5	2.9	1.0	2.9
40～49歳	103	50	60	67	44	49	43	21	14	2	4	7
	100.0	48.5	58.3	65.0	42.7	47.6	41.7	20.4	13.6	1.9	3.9	6.8
50～59歳	96	58	67	65	49	58	49	28	12	0	3	5
	100.0	60.4	69.8	67.7	51.0	60.4	51.0	29.2	12.5	0.0	3.1	5.2
60～65歳	87	43	62	54	47	42	40	18	11	1	0	4
	100.0	49.4	71.3	62.1	54.0	48.3	46.0	20.7	12.6	1.1	0.0	4.6

	合計	問8 人口減少社会への影響が大きいこと、不安										
		国や地方の税収減少に伴う行政サービスの低下	年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増	地域を支える担い手の不足や地域活力の低下	過疎化の進行による土地の荒廃	労働力人口の減少などによる地域産業の衰退	人口減少による消費減などで、商店街などのにぎわいが喪失	地域の伝統や文化の喪失	スポーツ、文化、娯楽などの余暇を楽しむ機会の減少	それほど影響はない	その他	不明
全体	677	370	483	406	297	361	296	150	87	8	9	7
	100.0	54.7	71.3	60.0	43.9	53.3	43.7	22.2	12.9	1.2	1.3	1.0
②年齢												
20歳未満	64	28	40	34	23	20	25	17	9	1	0	1
	100.0	43.8	62.5	53.1	35.9	31.3	39.1	26.6	14.1	1.6	0.0	1.6
20～29歳	103	49	69	49	29	62	43	12	14	2	1	1
	100.0	47.6	67.0	47.6	28.2	60.2	41.7	11.7	13.6	1.9	1.0	1.0
30～39歳	134	75	98	77	52	64	40	27	19	1	3	0
	100.0	56.0	73.1	57.5	38.8	47.8	29.9	20.1	14.2	0.7	2.2	0.0
40～49歳	97	66	64	54	43	48	47	25	11	2	1	0
	100.0	67.9	66.0	55.7	44.3	49.5	48.5	25.8	11.3	2.1	1.0	0.0
50～59歳	84	48	62	48	32	48	46	20	8	1	2	2
	100.0	57.1	73.8	57.1	37.9	57.1	54.8	23.8	9.5	1.2	2.4	2.4
60～69歳	105	58	81	72	63	62	47	26	15	0	1	2
	100.0	55.2	77.1	68.6	60.0	59.0	44.8	24.8	14.3	0.0	1.0	1.9
70歳以上	59	28	46	36	25	29	35	13	6	1	0	1
	100.0	47.5	78.0	61.0	42.4	49.2	59.3	22.0	10.2	1.7	0.0	1.7

問9. 人口減少を克服するために最も重視すべき市が取り組むべきこと【SA】

- 「子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が27.4%で最も多く、次いで「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が27.2%でとなっています。
- 20歳未満、50～59歳、60～65歳で「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が最も多く、20～29歳、30～39歳、40～49歳では、「子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が最も多くなっています。
- ★「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」については、6.9ポイント減少をしました。



n=628
n=677

	合計	問9 活力ある社会を目指して市が取り組むべきこと						
		産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組	移住の促進や定住・Uターンなどを推進する取組	子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組	農山村の魅力づくりや福祉の充実など人口減少社会でも安心して暮らせる地域をめざす取組	観光・歴史・文化といった地域資源の活用や人や物の交流を拡大し、地域の活性化やにぎわいを創出する取組	その他	無回答
全体	628	171	56	172	56	64	19	90
	100.0	27.2	8.9	27.4	8.9	10.2	3.0	14.3
②年齢								
20歳未満	64	16	9	13	6	10	2	8
	100.0	25.0	14.1	20.3	9.4	15.6	3.1	12.5
20～29歳	96	23	9	38	5	8	3	10
	100.0	24.0	9.4	39.6	5.2	8.3	3.1	10.4
30～39歳	103	24	10	34	12	7	5	11
	100.0	23.3	9.7	33.0	11.7	6.8	4.9	10.7
40～49歳	103	26	7	29	8	10	6	17
	100.0	25.2	6.8	28.2	7.8	9.7	5.8	16.5
50～59歳	96	29	7	19	11	10	2	18
	100.0	30.2	7.3	19.8	11.5	10.4	2.1	18.8
60～65歳	87	25	7	23	10	8	0	14
	100.0	28.7	8.0	26.4	11.5	9.2	0.0	16.1

	合計	問9 活力ある社会を目指して市が取り組むべきこと						
		産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組	移住の促進や定住・Uターンなどを推進する取組	子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組	農山村の魅力づくりや福祉の充実など人口減少社会でも安心して暮らせる地域をめざす取組	観光・歴史・文化といった地域資源の活用や人や物の交流を拡大し、地域の活性化やにぎわいを創出する取組	その他	不明
全体	677	231	55	190	58	34	10	99
	100.0	34.1	8.1	28.1	8.6	5.0	1.5	14.5
②年齢								
20歳未満	64	19	8	19	3	4	0	11
	100.0	29.7	12.5	29.7	4.7	6.3	0.0	17.2
20～29歳	103	32	12	30	9	7	1	12
	100.0	31.1	11.7	29.1	8.7	6.8	1.0	11.7
30～39歳	134	30	13	66	7	2	3	13
	100.0	22.4	9.7	49.3	5.2	1.5	2.2	9.7
40～49歳	97	30	8	28	9	5	1	16
	100.0	30.9	8.2	28.9	9.3	5.2	1.0	16.5
50～59歳	84	35	2	19	4	6	2	16
	100.0	41.7	2.4	22.6	4.8	7.1	2.4	19.0
60～69歳	105	41	7	16	18	4	1	18
	100.0	39.0	6.7	15.2	17.1	3.8	1.0	17.1
70歳以上	59	29	3	7	6	5	0	9
	100.0	49.2	5.1	11.9	10.2	8.5	0.0	15.3

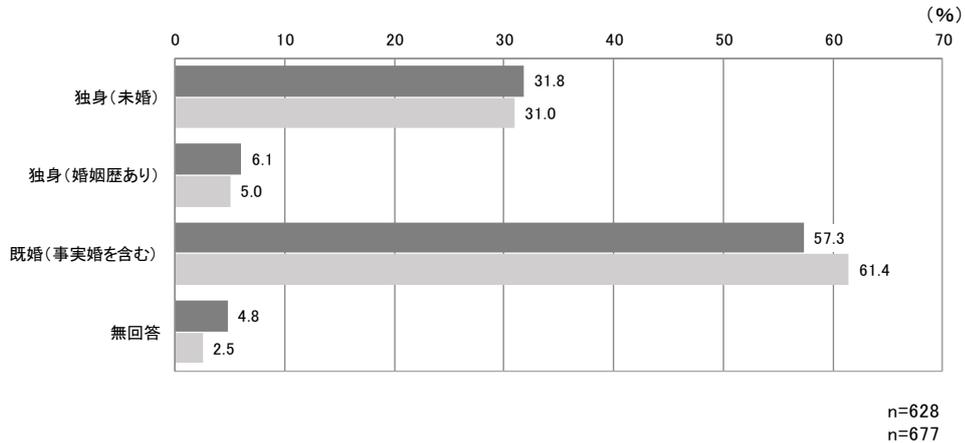
(4) 結婚について

問10. 配偶状況【SA】

○「既婚（事実婚を含む）」が過半数の57.3%となっています。

●年齢別にみると、40歳以上で7割以上が「既婚（事実婚を含む）」となっています。

★配偶状況については、前回調査と大きな差はみられません。



	合計	問10 配偶状況			
		独身(未婚)	独身(婚姻歴あり)	既婚(事実婚を含む)	無回答
全体	628	200	38	360	30
	100.0	31.8	6.1	57.3	4.8
②年齢					
20歳未満	64	61	0	1	2
	100.0	95.3	0.0	1.6	3.1
20～29歳	96	70	0	22	4
	100.0	72.9	0.0	22.9	4.2
30～39歳	103	33	4	65	1
	100.0	32.0	3.9	63.1	1.0
40～49歳	103	14	5	81	3
	100.0	13.6	4.9	78.6	2.9
50～59歳	96	15	10	71	0
	100.0	15.6	10.4	74.0	0.0
60～65歳	87	3	12	61	11
	100.0	3.4	13.8	70.1	12.6

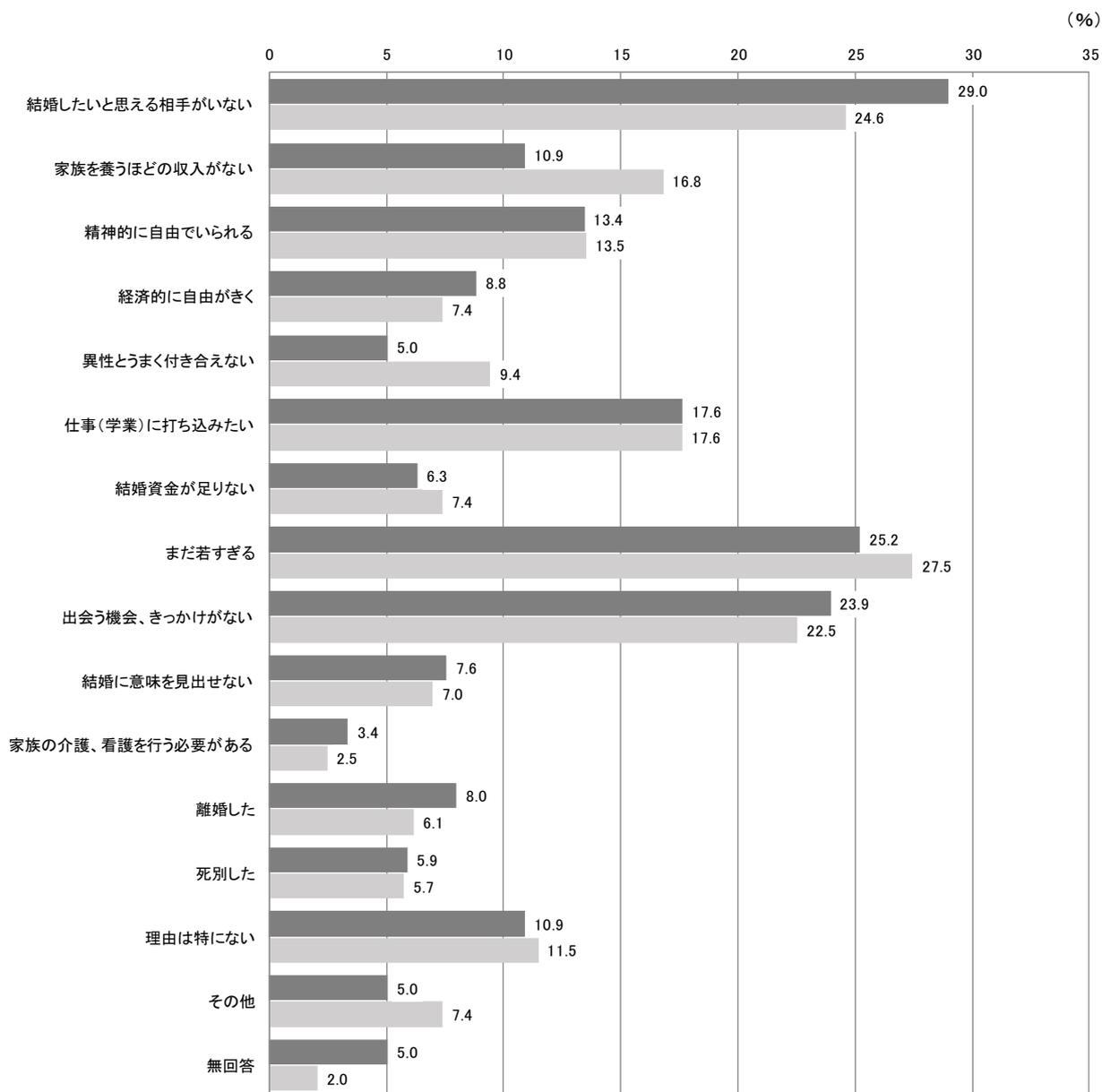
	合計	問10 配偶状況			
		独身(未婚)	独身(婚姻歴あり)	既婚(事実婚を含む)	不明
全体	677	210	34	416	17
	100.0	31.0	5.0	61.4	2.5
②年齢					
20歳未満	64	59	0	3	2
	100.0	92.2	0.0	4.7	3.1
20～29歳	103	83	2	18	0
	100.0	80.6	1.9	17.5	0.0
30～39歳	134	27	7	100	0
	100.0	20.1	5.2	74.6	0.0
40～49歳	97	17	5	75	0
	100.0	17.5	5.2	77.3	0.0
50～59歳	84	7	4	71	2
	100.0	8.3	4.8	84.5	2.4
60～69歳	105	7	8	85	5
	100.0	6.7	7.6	81.0	4.8
70歳以上	59	0	6	45	8
	100.0	0.0	10.2	76.3	13.6

問10-1. 結婚していない理由(現在独身の方限定)【MA】

○「結婚したいと思える相手がない」が29.0%で最も多く、次いで「まだ若すぎる」が25.2%となっています。

●年齢別にみると、20歳未満で「まだ若すぎる」、20～29歳で「出会う機会、きっかけがない」、30～39歳、40～49歳、50～59歳で、「結婚したいと思える相手がない」が最も多くなっています。

★「結婚したいと思える相手がない」については、前回調査と比較し、4.4ポイント上昇した一方、「家族を養うほどの収入がない」については、5.9ポイント減少しました。



n=238
n=244

	合計	問10-1 独身の理由													
		結婚したいと思える相手がいない	家族を養うほどの収入がない	精神的に自由でいられない	経済的に自由がきく	異性とうまく付き合えない	仕事(学業)に打ち込みたい	結婚資金が足りない	まだ若すぎる	出会う機会、きっかけがない	結婚に興味を見出せない	家族の介護、看護を行う必要がある	離婚した	死別した	理由は特にな
全体	238	69	26	32	21	12	42	15	60	57	18	8	19	14	26
	100.0	29.0	10.9	13.4	8.8	5.0	17.6	6.3	25.2	23.9	7.6	3.4	8.0	5.9	10.9
②年齢	20歳未満	61	7	5	2	3	23	4	40	4	0	0	0	0	4
	100.0	9.8	11.5	8.2	3.3	4.9	37.7	6.6	65.6	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.6
	20～29歳	70	22	4	6	4	15	5	20	23	3	0	0	0	8
	100.0	31.4	5.7	8.6	8.6	5.7	21.4	7.1	28.6	32.9	4.3	0.0	0.0	0.0	11.4
	30～39歳	37	20	6	8	9	3	2	0	18	9	2	3	0	4
	100.0	54.1	16.2	21.6	24.3	13.5	8.1	5.4	0.0	48.6	24.3	5.4	8.1	0.0	10.8
	40～49歳	19	7	2	2	0	0	2	0	3	1	0	3	0	4
	100.0	36.8	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	15.8	5.3	0.0	15.8	0.0	21.1
	50～59歳	25	9	3	7	3	0	2	0	8	2	3	7	2	3
	100.0	36.0	12.0	28.0	12.0	0.0	0.0	8.0	0.0	32.0	8.0	12.0	28.0	8.0	12.0
	60～65歳	15	1	3	1	0	0	0	0	0	1	1	3	8	2
	100.0	6.7	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	20.0	53.3	13.3

	合計	問10-1 独身の理由	
		その他	無回答
全体	238	12	12
	100.0	5.0	5.0
②年齢	20歳未満	61	1
	100.0	11.5	1.6
	20～29歳	70	5
	100.0	5.7	7.1
	30～39歳	37	0
	100.0	0.0	0.0
	40～49歳	19	2
	100.0	5.3	10.5
	50～59歳	25	2
	100.0	0.0	8.0
	60～65歳	15	2
	100.0	0.0	13.3

	合計	問10-1 独身の理由													
		結婚したいと思える相手がいない	家族を養うほどの収入がない	精神的に自由でいられない	経済的に自由がきく	異性とうまく付き合えない	仕事(学業)に打ち込みたい	結婚資金が足りない	まだ若すぎる	出会う機会、きっかけがない	結婚に興味を見出せない	家族の介護、看護を行う必要がある	離婚した	死別した	理由は特にな
全体	244	60	41	33	18	23	43	18	67	55	17	6	15	14	28
	100.0	24.6	16.8	13.5	7.4	9.4	17.6	7.4	27.5	22.5	7.0	2.5	6.1	5.7	11.5
②年齢	20歳未満	59	8	2	3	3	20	5	38	8	1	0	0	0	2
	100.0	15.3	13.6	3.4	5.1	5.1	33.9	8.5	64.4	13.6	1.7	0.0	0.0	0.0	3.4
	20～29歳	85	27	19	13	7	10	17	10	27	25	5	2	0	12
	100.0	31.8	22.4	15.3	8.2	11.8	20.0	11.8	31.8	29.4	5.9	0.0	2.4	0.0	14.1
	30～39歳	34	13	9	6	3	8	2	2	10	4	3	4	0	5
	100.0	38.2	26.5	17.6	8.8	23.5	5.9	5.9	0.0	29.4	11.8	8.8	11.8	0.0	14.7
	40～49歳	22	6	2	6	3	1	0	0	7	2	0	5	0	5
	100.0	27.3	9.1	27.3	13.6	4.5	0.0	0.0	0.0	31.8	9.1	0.0	22.7	0.0	22.7
	50～59歳	11	3	2	0	0	1	0	1	2	2	2	1	1	0
	100.0	27.3	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0
	60～69歳	15	1	1	3	1	0	0	0	0	2	0	2	6	2
	100.0	6.7	6.7	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	13.3	40.0	13.3
	70歳以上	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7

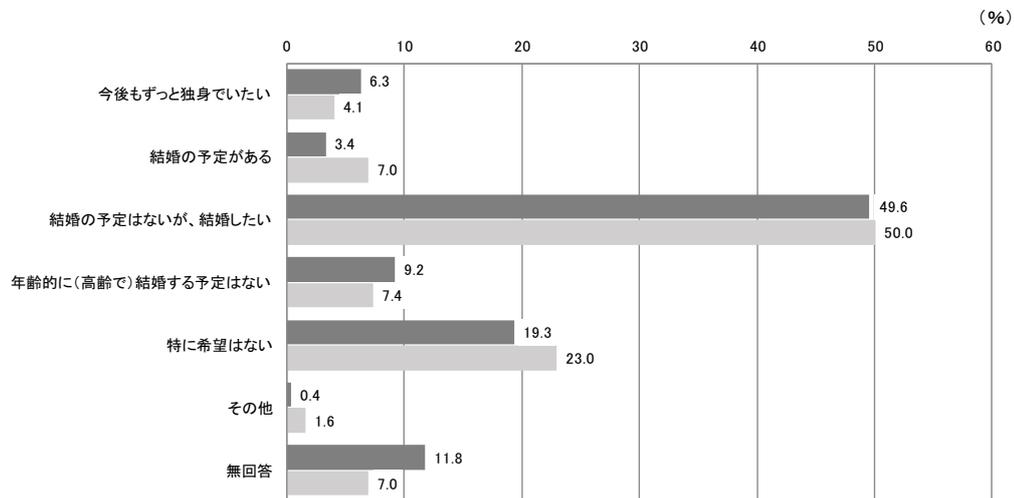
	合計	問10-1 独身の理由	
		その他	不明
全体	244	18	5
	100.0	7.4	2.0
②年齢	20歳未満	59	2
	100.0	3.4	3.4
	20～29歳	85	0
	100.0	5.9	0.0
	30～39歳	34	1
	100.0	14.7	2.9
	40～49歳	22	1
	100.0	9.1	4.5
	50～59歳	11	1
	100.0	18.2	9.1
	60～69歳	15	0
	100.0	6.7	0.0
	70歳以上	6	0
	100.0	0.0	0.0

問10-2. 結婚に関する希望(現在独身の方限定)【SA】

○「結婚の予定はないが、結婚したい」が49.6%で最も多くなっています。

●年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「結婚の予定はないが、結婚したい」方の割合が低くなる傾向にあります。

★前回調査と比較し、「結婚の予定がある」がやや減少し、「今後もずっと独身でいたい」はやや上昇しました。



(%)

n=238
n=244

	合計	問10-2 結婚に関する希望						
		今後もずっと独身でいたい	結婚の予定がある	結婚の予定はないが、結婚したい	年齢的に(高齢で)結婚する予定はない	特に希望はない	その他	無回答
全体	238	15	8	118	22	46	1	28
	100.0	6.3	3.4	49.6	9.2	19.3	0.4	11.8
②年齢								
20歳未満	61	1	0	43	0	11	1	5
	100.0	1.6	0.0	70.5	0.0	18.0	1.6	8.2
20~29歳	70	1	6	46	0	11	0	6
	100.0	1.4	8.6	65.7	0.0	15.7	0.0	8.6
30~39歳	37	2	2	19	0	11	0	3
	100.0	5.4	5.4	51.4	0.0	29.7	0.0	8.1
40~49歳	19	3	0	5	1	4	0	6
	100.0	15.8	0.0	26.3	5.3	21.1	0.0	31.6
50~59歳	25	4	0	3	7	7	0	4
	100.0	16.0	0.0	12.0	28.0	28.0	0.0	16.0
60~65歳	15	3	0	0	8	1	0	3
	100.0	20.0	0.0	0.0	53.3	6.7	0.0	20.0

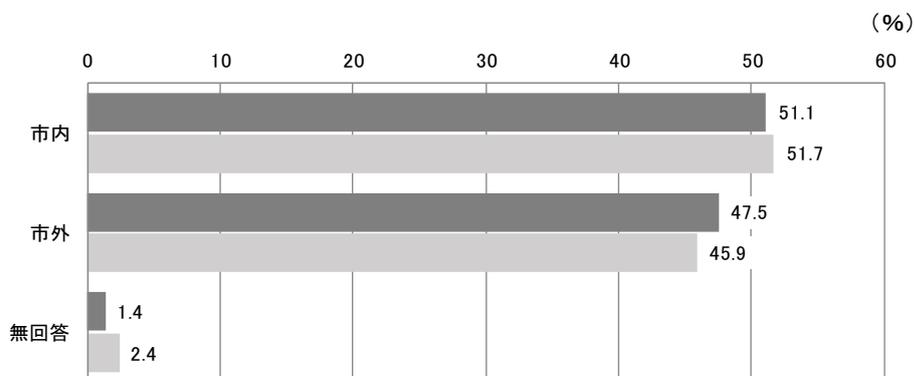
	合計	問10-2 結婚に関する希望						
		今後もずっと独身でいたい	結婚の予定がある	結婚の予定はないが、結婚したい	年齢的に(高齢で)結婚する予定はない	特に希望はない	その他	不明
全体	244	10	17	122	18	56	4	17
	100.0	4.1	7.0	50.0	7.4	23.0	1.6	7.0
②年齢								
20歳未満	59	2	1	41	0	11	0	4
	100.0	3.4	1.7	69.5	0.0	18.6	0.0	6.8
20~29歳	85	1	10	49	0	19	1	5
	100.0	1.2	11.8	57.6	0.0	22.4	1.2	5.9
30~39歳	34	0	5	14	0	12	0	3
	100.0	0.0	14.7	41.2	0.0	35.3	0.0	8.8
40~49歳	22	2	1	8	1	8	0	2
	100.0	9.1	4.5	36.4	4.5	36.4	0.0	9.1
50~59歳	11	2	0	2	4	1	1	1
	100.0	18.2	0.0	18.2	36.4	9.1	9.1	9.1
60~69歳	15	3	0	2	7	1	1	1
	100.0	20.0	0.0	13.3	46.7	6.7	6.7	6.7
70歳以上	6	0	0	0	5	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	16.7

問10-3. 結婚前の住まい(現在既婚の方限定)【SA】

○「市内」が51.1%、「市外」が47.5%となっています。

●50～59歳と60～65歳で「市内」が多く、そのほかのすべての年代で、「市外」が多くなっています。

★結婚前の住まいについては、前回調査と比べ大きな変化はみられません。



n=360
n=416

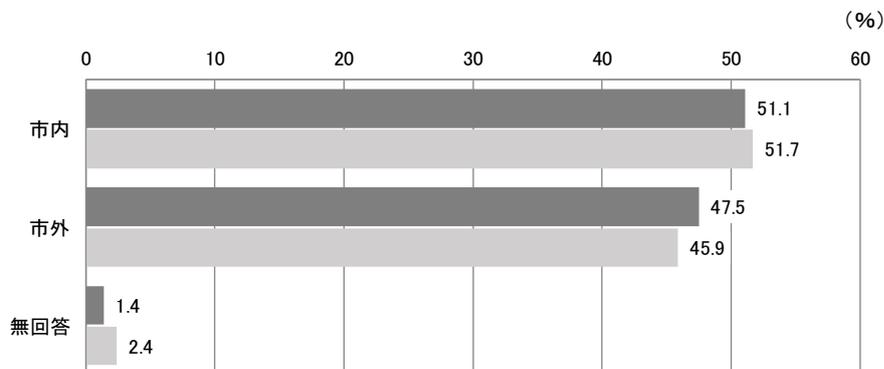
		合計	問10-3 結婚する前の住まい		
			市内	市外	無回答
全体		360 100.0	184 51.1	171 47.5	5 1.4
②年齢	20歳未満	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	20～29歳	22 100.0	10 45.5	12 54.5	0 0.0
	30～39歳	65 100.0	26 40.0	39 60.0	0 0.0
	40～49歳	81 100.0	38 46.9	42 51.9	1 1.2
	50～59歳	71 100.0	38 53.5	32 45.1	1 1.4
	60～65歳	61 100.0	37 60.7	22 36.1	2 3.3

		合計	問10-3 結婚する前の住まい		
			市内	市外	不明
全体		416 100.0	215 51.7	191 45.9	10 2.4
②年齢	20歳未満	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	20～29歳	18 100.0	8 44.4	10 55.6	0 0.0
	30～39歳	100 100.0	49 49.0	50 50.0	1 1.0
	40～49歳	75 100.0	33 44.0	42 56.0	0 0.0
	50～59歳	71 100.0	43 60.6	27 38.0	1 1.4
	60～69歳	85 100.0	49 57.6	32 37.6	4 4.7
	70歳以上	45 100.0	27 60.0	15 33.3	3 6.7

問10-3-1. 洲本市に引っ越してきた理由

(現在既婚の方で結婚前に市外に在住していた方限定)【SA】

- 「配偶者が洲本市に住んでいたから」が48.0%で約半数となっています。
- 性別にみると、20歳未満を除くすべての年代で「配偶者が洲本市に住んでいたから」が最も多くなっています。
- ★「配偶者が洲本市に住んでいたから」はやや減少しましたが、前回調査と大きな変化は見られません。



n=171
n=191

		合計	問10-3-1 洲本市に引っ越した理由			
			配偶者が洲本市に住んでいたから	転勤・就業のため	その他	無回答
全体		171 100.0	82 48.0	36 21.1	47 27.5	6 3.5
②年齢	20歳未満	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	20～29歳	12 100.0	8 66.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3
	30～39歳	39 100.0	22 56.4	5 12.8	10 25.6	2 5.1
	40～49歳	42 100.0	19 45.2	11 26.2	11 26.2	1 2.4
	50～59歳	32 100.0	13 40.6	10 31.3	8 25.0	1 3.1
	60～65歳	22 100.0	9 40.9	5 22.7	8 36.4	0 0.0

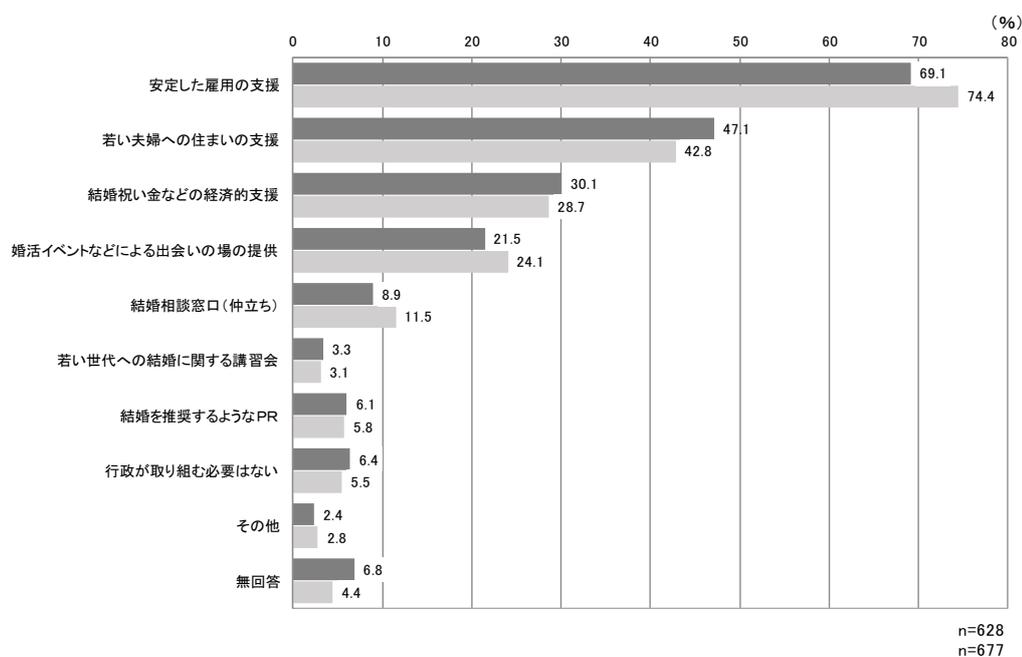
		合計	問10-3-1 洲本市に引っ越した理由			
			配偶者が洲本市に住んでいたから	転勤・就業のため	その他	不明
全体		191 100.0	100 52.4	39 20.4	46 24.1	6 3.1
②年齢	20歳未満	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	20～29歳	10 100.0	6 60.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0
	30～39歳	50 100.0	25 50.0	12 24.0	11 22.0	2 4.0
	40～49歳	42 100.0	19 45.2	15 35.7	8 19.0	0 0.0
	50～59歳	27 100.0	18 66.7	3 11.1	5 18.5	1 3.7
	60～69歳	32 100.0	20 62.5	1 3.1	11 34.4	0 0.0
	70歳以上	15 100.0	6 40.0	3 20.0	4 26.7	2 13.3

問11. 重点的に取り組むべき結婚支援策【MA】

○「安定した雇用の支援」が69.1%で最も多く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」が47.1%となっています。

●年齢別にみると、すべての年齢で「安定した雇用の支援」が最も多く、過半数を超えています

★「安定した雇用の支援」は前回調査と比べ、5.3ポイント減少した一方、「若い夫婦への住まいの」支援は、やや上昇しました。



	合計	問11 結婚する人のために市が取り組むべきこと										
		安定した雇用の支援	若い夫婦への住まいの支援	結婚祝い金などの経済的支援	婚活イベントなどによる出会いの場の提供	結婚相談窓口(仲立ち)	若い世代への結婚に関する講習会	結婚を推奨するようなPR	行政が取り組む必要はない	その他	無回答	
全体	628	434	296	189	135	56	21	38	40	15	43	
	100.0	69.1	47.1	30.1	21.5	8.9	3.3	6.1	6.4	2.4	6.8	
②年齢	20歳未満	64	42	31	23	7	5	0	3	6	0	1
	100.0	65.6	48.4	35.9	10.9	7.8	0.0	4.7	9.4	0.0	1.6	
	20～29歳	96	60	47	46	19	3	2	3	5	2	7
	100.0	62.5	49.0	47.9	19.8	3.1	2.1	3.1	5.2	2.1	7.3	
	30～39歳	103	59	51	39	20	15	7	9	11	3	4
	100.0	57.3	49.5	37.9	19.4	14.6	6.8	8.7	10.7	2.9	3.9	
	40～49歳	103	79	48	33	22	4	2	5	5	3	3
	100.0	76.7	46.6	32.0	21.4	3.9	1.9	4.9	4.9	2.9	2.9	
	50～59歳	96	78	50	27	27	8	4	5	4	3	3
	100.0	81.3	52.1	28.1	28.1	8.3	4.2	5.2	4.2	3.1	3.1	
	60～65歳	87	64	38	14	19	8	2	7	4	3	10
	100.0	73.6	43.7	16.1	21.8	9.2	2.3	8.0	4.6	3.4	11.5	

	合計	問11 結婚する人のために市が取り組むべきこと										
		安定した雇用の支援	若い夫婦への住まいの支援	結婚祝い金などの経済的支援	婚活イベントなどによる出会いの場の提供	結婚相談窓口(仲立ち)	若い世代への結婚に関する講習会	結婚を推奨するようなPR	行政が取り組む必要はない	その他	不明	
全体	677	504	290	194	163	78	21	39	37	19	30	
	100.0	74.4	42.8	28.7	24.1	11.5	3.1	5.8	5.5	2.8	4.4	
②年齢	20歳未満	64	47	25	19	10	4	2	2	6	0	2
	100.0	73.4	39.1	29.7	15.6	6.3	3.1	3.1	9.4	0.0	3.1	
	20～29歳	103	74	51	46	22	9	4	5	4	5	1
	100.0	71.8	49.5	44.7	21.4	8.7	3.9	4.9	3.9	4.9	1.0	
	30～39歳	134	89	62	58	29	13	2	6	10	6	4
	100.0	66.4	46.3	43.3	21.6	9.7	1.5	4.5	7.5	4.5	3.0	
	40～49歳	97	74	35	25	26	10	3	5	8	2	2
	100.0	76.3	36.1	25.8	26.8	10.3	3.1	5.2	8.2	2.1	2.1	
	50～59歳	84	63	42	19	26	9	5	7	3	3	6
	100.0	75.0	50.0	22.6	31.0	10.7	6.0	8.3	3.6	3.6	7.1	
	60～69歳	105	89	44	15	31	16	5	6	4	2	5
	100.0	84.8	41.9	14.3	29.5	15.2	4.8	5.7	3.8	1.9	4.8	
	70歳以上	59	42	18	5	11	12	0	5	2	0	8
	100.0	71.2	30.5	8.5	18.6	20.3	0.0	8.5	3.4	0.0	13.6	

(5) 出産・育児について

問12. ～問14. 子ども数【SA】

○現在の子ども数は20歳未満～39歳が「0人」、40～65歳は「2人」が最も多くなっています。

●すべての年代で、今後子どもを持つ予定の人数が「0人」となっています。また、理想の子ども的人数は、20歳未満～59歳で「2人」、60～65歳で「3人」となっています。

★前回調査においても、概ね同様の傾向がみられますが、前回調査では、「理想の子ども数」について、50～59歳と60～69歳で、3人と回答した人もみられました。

質問項目	年	平均	人数						
			0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
現在、お子さんが何人いますか？	令和1年	1.32人	37.1%	9.9%	30.1%	15.3%	1.9%	0.3%	5.4%
	平成27年	1.23人	36.3%	13.1%	28.4%	15.4%	1.2%	0.6%	5.0%～
今後、子どもを持つ予定の人数	令和1年	0.92人	50.5%	3.7%	20.9%	8.6%	1.6%	0.3%	14.5%
	平成27年	1.37人	23.9%	10.0%	32.2%	17.4%	1.5%	1.0%	13.9%
理想の子ども的人数	令和1年	2.34人	4.8%	2.9%	42.4%	32.6%	2.1%	1.8%	13.5%
	平成27年	2.06人	3.1%	3.1	42.5%	32.8%	2.7%	1.9%	13.9%

	合計	問12 現在の子ども的人数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体	628	233	62	189	96	12	2	34
	100.0	37.1	9.9	30.1	15.3	1.9	0.3	5.4
②年齢	20歳未満	64	60	1	0	0	0	3
	100.0	93.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7
	20～29歳	96	73	3	5	4	1	10
	100.0	76.0	3.1	5.2	4.2	1.0	0.0	10.4
	30～39歳	103	38	22	22	14	3	3
	100.0	36.9	21.4	21.4	13.6	2.9	1.0	2.9
	40～49歳	103	21	15	39	23	1	4
	100.0	20.4	14.6	37.9	22.3	1.0	0.0	3.9
	50～59歳	96	22	5	44	22	1	2
	100.0	22.9	5.2	45.8	22.9	1.0	0.0	2.1
	60～65歳	87	6	10	42	21	4	4
	100.0	6.9	11.5	48.3	24.1	4.6	0.0	4.6

	合計	問13 将来持つ予定の子ども数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体	628	317	23	131	54	10	2	91
	100.0	50.5	3.7	20.9	8.6	1.6	0.3	14.5
②年齢	20歳未満	64	40	2	13	3	0	6
	100.0	62.5	3.1	20.3	4.7	0.0	0.0	9.4
	20～29歳	96	40	1	25	12	2	14
	100.0	41.7	1.0	26.0	12.5	2.1	2.1	14.6
	30～39歳	103	43	8	34	9	3	6
	100.0	41.7	7.5	33.0	8.7	2.9	0.0	5.8
	40～49歳	103	50	9	23	14	2	5
	100.0	48.5	8.7	22.3	13.6	1.9	0.0	4.9
	50～59歳	96	38	1	19	9	1	8
	100.0	60.4	1.0	19.8	9.4	1.0	0.0	8.3
	60～65歳	87	46	2	7	5	1	26
	100.0	52.9	2.3	8.0	5.7	1.1	0.0	29.9

	合計	問14 理想的な子ども数						
		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
全体	628	30	18	266	205	13	11	85
	100.0	4.8	2.9	42.4	32.6	2.1	1.8	13.5
②年齢	20歳未満	64	6	2	38	11	1	6
	100.0	9.4	3.1	59.4	17.2	1.6	0.0	9.4
	20～29歳	96	4	6	39	30	3	12
	100.0	4.2	6.3	40.6	31.3	3.1	2.1	12.5
	30～39歳	103	6	5	45	36	4	6
	100.0	5.8	4.9	43.7	35.0	3.9	1.0	5.8
	40～49歳	103	5	3	51	32	2	8
	100.0	4.9	2.9	49.5	31.1	1.9	1.9	7.8
	50～59歳	96	3	2	40	37	1	10
	100.0	3.1	2.1	41.7	38.5	1.0	3.1	10.4
	60～65歳	87	4	0	28	32	2	18
	100.0	4.6	0.0	32.2	36.8	2.3	3.4	20.7

		問12 現在の子どもの人数							
		合計	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明
全体		677 100.0	246 36.3	89 13.1	192 28.4	104 15.4	8 1.2	4 0.6	34 5.0
②年齢	20歳未満	64 100.0	59 92.2	3 4.7	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6
	20～29歳	103 100.0	88 85.4	10 9.7	2 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 2.9
	30～39歳	134 100.0	41 30.6	25 18.7	38 28.4	24 17.9	2 1.5	1 0.7	3 2.2
	40～49歳	97 100.0	21 21.6	19 19.6	35 36.1	19 19.6	0 0.0	1 1.0	2 2.1
	50～59歳	84 100.0	9 10.7	9 10.7	37 44.0	23 27.4	1 1.2	1 1.2	4 4.8
	60～69歳	105 100.0	15 14.3	13 12.4	39 37.1	26 24.8	3 2.9	1 1.0	8 7.6
	70歳以上	59 100.0	4 6.8	9 15.3	25 42.4	9 15.3	2 3.4	0 0.0	10 16.9

		問13 将来持つ予定の子どもの数							
		合計	0人(特に予定はない)	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明
全体		677 100.0	324 47.9	32 4.7	137 20.2	78 11.5	6 0.9	6 0.9	94 13.9
②年齢	20歳未満	64 100.0	42 65.6	1 1.6	13 20.3	6 9.4	0 0.0	0 0.0	2 3.1
	20～29歳	103 100.0	57 55.3	5 4.9	23 22.3	7 6.8	1 1.0	1 1.0	9 8.7
	30～39歳	134 100.0	45 33.6	12 9.0	41 30.6	24 17.9	2 1.5	4 3.0	6 4.5
	40～49歳	97 100.0	44 45.4	8 8.2	23 23.7	15 15.5	0 0.0	0 0.0	7 7.2
	50～59歳	84 100.0	41 48.8	2 2.4	18 21.4	12 14.3	0 0.0	1 1.2	10 11.9
	60～69歳	105 100.0	49 46.7	3 2.9	13 12.4	9 8.6	2 1.9	0 0.0	29 27.6
	70歳以上	59 100.0	25 42.4	0 0.0	2 3.4	4 6.8	1 1.7	0 0.0	27 45.8

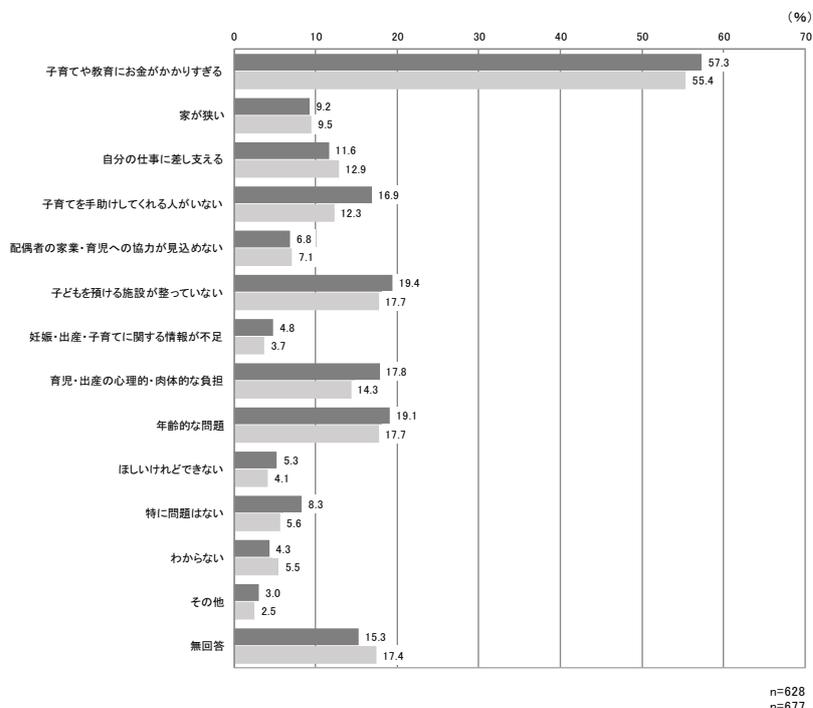
		問14 理想的な子どもの数							
		合計	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明
全体		677 100.0	21 3.1	21 3.1	288 42.5	222 32.8	18 2.7	13 1.9	94 13.9
②年齢	20歳未満	64 100.0	2 3.1	10 15.6	38 59.4	12 18.8	0 0.0	0 0.0	5 7.8
	20～29歳	103 100.0	3 2.9	5 4.9	62 60.2	24 23.3	2 1.9	1 1.0	6 5.8
	30～39歳	134 100.0	3 2.2	3 3.0	64 47.8	44 32.8	8 6.0	6 4.5	5 3.7
	40～49歳	97 100.0	5 5.2	3 3.1	49 41.2	36 37.1	0 0.0	1 1.0	12 12.4
	50～59歳	84 100.0	4 4.8	0 0.0	28 33.3	39 46.4	1 1.2	3 3.6	9 10.7
	60～69歳	105 100.0	3 2.9	0 0.0	30 28.6	39 37.1	3 2.9	2 1.9	28 26.7
	70歳以上	59 100.0	0 0.0	2 3.4	16 27.1	15 25.4	3 5.1	0 0.0	23 39.0

問15. 理想の子どもを持つための問題点【MA】

○「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が57.3%で最も多く、次いで「子どもを預ける施設が整っていない」19.4%と「年齢的な問題」が19.1%となっています。

●すべての年代で、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多くなっており、60～65歳を除くすべての年齢で、過半数を超えています。

★「子育てを手助けしてくれる人がいない」については、前回調査と比べやや上昇しました。



	合計	問15 理想的な子どもを持つための障害													
		子育てや教育にお金がかかりすぎる	家が狭い	自分の仕事に差し支える	子育てを手助けしてくれる人がいない	配偶者の家業・育児への協力が見込めない	子どもを預ける施設が整っていない	妊娠・出産・子育てに関する情報が不足	育児・出産の心理的・肉体的な負担	年齢的な問題	ほしいけれどできない	特に問題はない	わからない	その他	無回答
全体	628	360	58	73	106	43	122	30	112	120	33	52	27	19	96
②年齢															
20歳未満	64	40	1	4	12	3	10	4	13	2	2	2	11	2	6
20～29歳	96	60	5	12	10	5	20	8	22	5	4	11	5	2	12
30～39歳	103	67	16	22	15	11	27	6	33	20	6	11	2	7	5
40～49歳	103	69	18	18	29	11	24	6	25	43	9	5	1	4	7
50～59歳	96	51	8	8	18	6	21	2	8	24	6	9	4	3	12
60～65歳	87	41	6	4	13	2	12	3	9	17	2	7	2	1	27

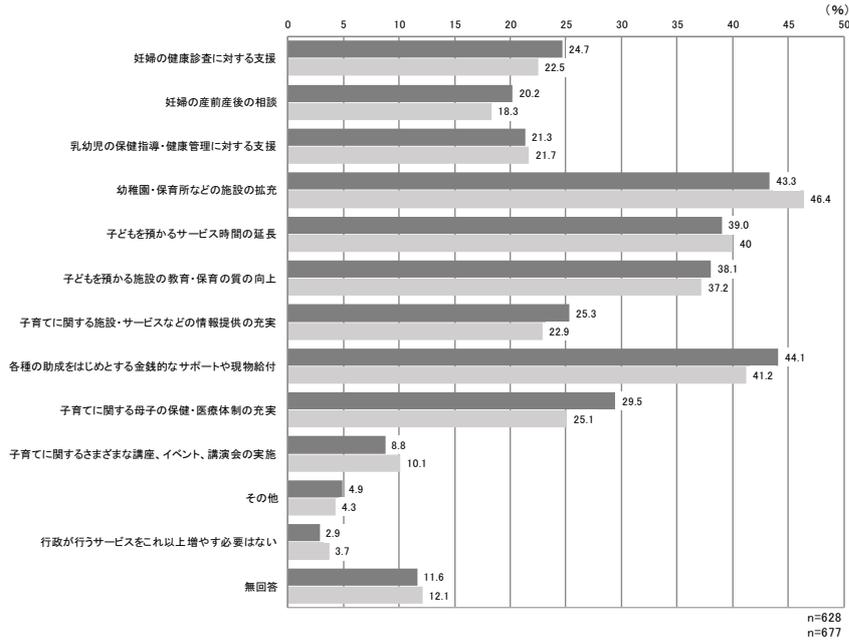
	合計	問15 理想的な子どもを持つための障害													
		子育てや教育にお金がかかりすぎる	家が狭い	自分の仕事に差し支える	子育てを手助けしてくれる人がいない	配偶者の家業・育児への協力が見込めない	子どもを預ける施設が整っていない	妊娠・出産・子育てに関する情報が不足	育児・出産の心理的・肉体的な負担	年齢的な問題	ほしいけれどできない	特に問題はない	わからない	その他	不明
全体	677	375	64	87	83	48	120	25	97	120	28	38	37	17	118
②年齢															
20歳未満	64	36	5	9	5	3	10	5	6	6	0	2	15	0	5
20～29歳	103	65	10	15	9	2	21	10	14	7	4	5	9	3	10
30～39歳	134	87	20	26	23	24	38	5	40	26	6	8	4	8	8
40～49歳	97	53	12	13	20	8	15	2	13	32	10	11	2	0	10
50～59歳	84	52	4	9	15	3	16	1	11	21	3	3	1	1	16
60～69歳	105	50	5	8	4	5	12	1	7	17	2	4	3	3	35
70歳以上	59	18	2	2	2	1	2	0	1	6	3	5	1	1	28

問16. 重点的に取り組むべき出産・育児サービス【MA】

○「各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が44.1%で最も多く、幼稚園・保育所などの施設の拡充」次いでが43.3%、「子どもを預かるサービス時間の延長」が39.0%となっています。

●50～59歳で「幼稚園・保育所などの施設の拡充」、60～65歳で「子どもを預かるサービス時間の延長」が最も多く、そのほかのすべての年代で「各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が最も多くなっています。

★「幼稚園・保育所などの施設の拡充」はやや減少とした一方、「各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」に関しては、やや上昇をしました。



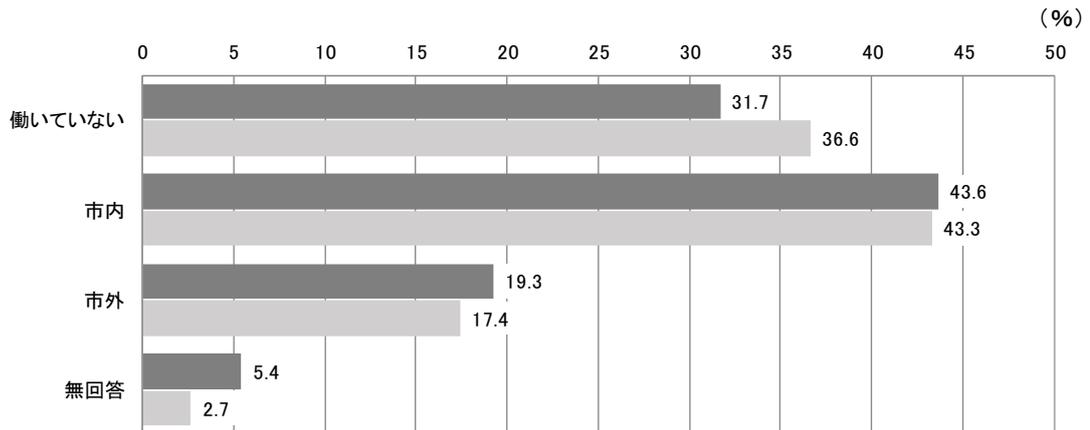
	合計	問16 出産・育児に関するサービスで力を入れるべきこと													不明
		妊婦の健康診査に対する支援	妊婦の産前産後の相談	乳幼児の保健指導・健康管理に対する支援	幼稚園・保育所などの施設の拡充	子どもを預かるサービス時間の延長	子どもを預かる施設の教育・保育の質の向上	子育てに関する施設・サービスなどの情報提供の充実	各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付	子育てに関する母子の保健・医療体制の充実	子育てに関するさまざまな講座、イベント、講演会の実施	その他	行政が行うサービスをこれ以上増やす必要はない	無回答	
全体	628	155	127	134	272	245	239	159	277	185	55	31	18	73	
②年齢															
20歳未満	64	13	12	10	26	17	22	20	29	19	4	0	0	6	
20～29歳	96	34	24	25	47	35	36	25	52	35	9	3	2	9	
30～39歳	103	29	24	23	50	46	45	29	61	35	11	7	4	4	
40～49歳	103	26	19	23	43	48	45	34	51	27	11	9	2	6	
50～59歳	96	20	20	20	47	41	45	19	37	32	8	8	3	8	
60～65歳	87	18	12	17	30	34	46	19	38	33	8	8	3	8	
	100.0	20.7	13.8	19.5	34.5	39.1	27.6	21.8	34.5	25.3	8.0	2.3	4.6	17.2	

	合計	問16 出産・育児に関するサービスで力を入れるべきこと													不明
		妊婦の健康診査に対する支援	妊婦の産前産後の相談	乳幼児の保健指導・健康管理に対する支援	幼稚園・保育所などの施設の拡充	子どもを預かるサービス時間の延長	子どもを預かる施設の教育・保育の質の向上	子育てに関する施設・サービスなどの情報提供の充実	各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付	子育てに関する母子の保健・医療体制の充実	子育てに関するさまざまな講座、イベント、講演会の実施	その他	行政が行うサービスをこれ以上増やす必要はない	無回答	
全体	677	152	124	147	314	271	252	155	279	170	68	29	25	82	
②年齢															
20歳未満	64	22	10	14	31	30	22	14	30	16	9	2	3	2	
20～29歳	103	34	24	25	48	46	34	21	46	25	14	3	4	3	
30～39歳	103	31	24	23	42	42	39	24	43	25	13	5	4	6	
40～49歳	134	34	26	28	42	53	54	30	77	44	13	10	7	7	
50～59歳	97	18	17	17	48	45	35	27	43	29	10	3	5	8	
60～69歳	84	16	15	20	46	36	36	24	35	16	9	6	2	7	
70歳以上	59	9	7	11	19	15	15	5	7	9	3	0	3	19	
	100.0	15.3	11.9	18.6	32.2	25.4	25.4	25.4	8.5	11.9	5.1	0.0	5.1	32.2	

(6) 働くことについて

問17. 就業地【SA】

- 「市内」が43.6%で最も多く、次いで「働いていない」が31.7%、「市外」が19.3%の順となっています。
- 「働いていない」方を除くと、ほとんどの年代で「市内」で働いている方が多くなっていますが、20～49歳では「市外」で働いている方もいます。
- ★「市内」「市外」については、前回調査と同様の傾向がみられますが、「働いていない」については、やや減少しました。



	合計	問17 働き場所			
		働いていない	市内	市外	無回答
全体	628	199	274	121	34
	100.0	31.7	43.6	19.3	5.4
②年齢					
20歳未満	64	51	5	4	4
	100.0	79.7	7.8	6.3	6.3
20～29歳	96	32	38	23	3
	100.0	33.3	39.6	24.0	3.1
30～39歳	103	10	59	30	4
	100.0	9.7	57.3	29.1	3.9
40～49歳	103	19	57	27	0
	100.0	18.4	55.3	26.2	0.0
50～59歳	96	10	55	25	6
	100.0	10.4	57.3	26.0	6.3
60～65歳	87	34	37	9	7
	100.0	39.1	42.5	10.3	8.0

n=628
n=677

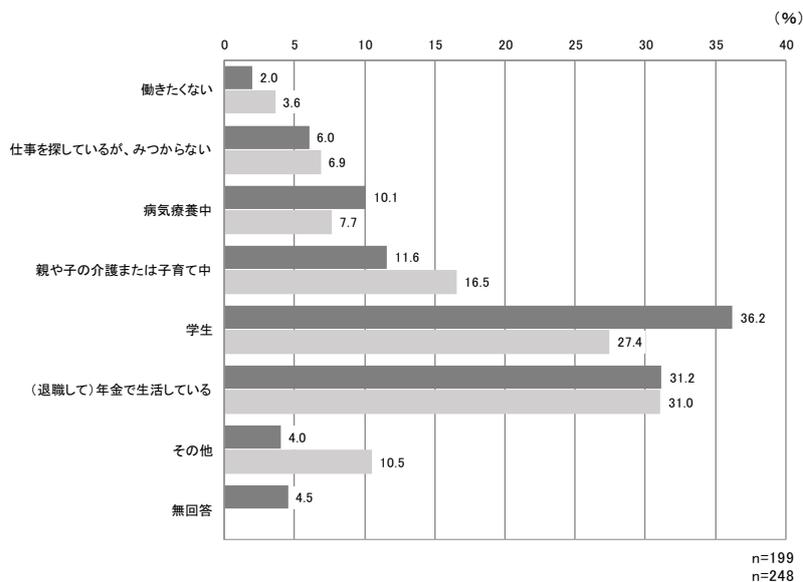
	合計	問17 働き場所			
		働いていない	市内	市外	不明
全体	677	248	293	118	18
	100.0	36.6	43.3	17.4	2.7
②年齢					
20歳未満	64	45	14	5	0
	100.0	70.3	21.9	7.8	0.0
20～29歳	103	39	43	21	0
	100.0	37.9	41.7	20.4	0.0
30～39歳	134	38	57	36	3
	100.0	28.4	42.5	26.9	2.2
40～49歳	97	13	62	20	2
	100.0	13.4	63.9	20.6	2.1
50～59歳	84	14	54	15	1
	100.0	16.7	64.3	17.9	1.2
60～69歳	105	52	36	13	4
	100.0	49.5	34.3	12.4	3.8
70歳以上	59	38	13	1	7
	100.0	64.4	22.0	1.7	11.9

問17-1. 働いていない理由(現在働いていない方限定)【MA】

○「学生」が36.2%で最も多く、次いで「(退職して)年金で生活している」が31.2%となっています。

●30～39歳、40歳～49歳で、「親や子の介護または子育て中」が最も多く、50～59歳で、「病気療養中」が最も多くなっています。

★「病気療養中」については、前回調査と比べやや上昇し、「学生」については、8.8ポイント上昇しました。



	合計	問17-1 働いていない理由							
		働きたくない	仕事を探しているが、みつからない	病気療養中	親や子の介護または子育て中	学生	(退職して)年金で生活している	その他	無回答
全体	199 100.0	4 2.0	12 6.0	20 10.1	23 11.6	72 36.2	62 31.2	8 4.0	9 4.5
②年齢									
20歳未満	51 100.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	48 94.1	0 0.0	1 2.0	2 3.9
20～29歳	32 100.0	1 3.1	0 0.0	5 15.6	5 15.6	22 68.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30～39歳	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
40～49歳	19 100.0	1 5.3	6 31.6	3 15.8	7 36.8	0 0.0	0 0.0	3 15.8	1 5.3
50～59歳	10 100.0	1 10.0	2 20.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
60～65歳	34 100.0	0 0.0	0 0.0	3 8.8	1 2.9	0 0.0	26 76.5	2 5.9	3 8.8

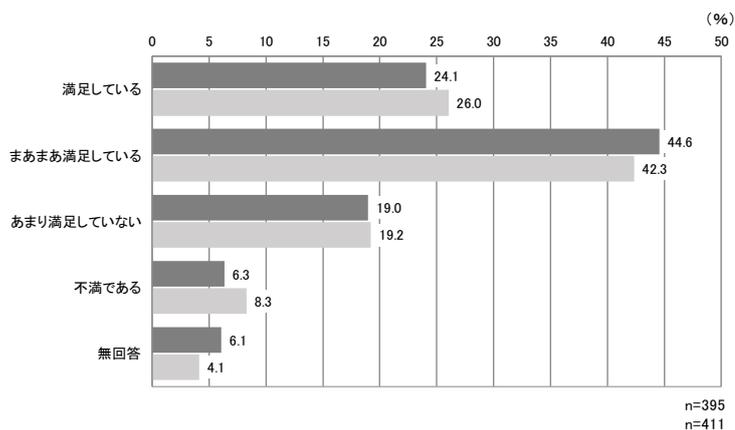
	合計	問17-1 働いていない理由							
		働きたくない	仕事を探しているが、みつからない	病気療養中	親や子の介護または子育て中	学生	(退職して)年金で生活している	その他	不明
全体	248 100.0	9 3.6	17 6.9	19 7.7	41 16.5	68 27.4	77 31.0	26 10.5	8 3.2
②年齢									
20歳未満	45 100.0	1 2.2	0 0.0	1 2.2	2 4.4	40 88.9	0 0.0	1 2.2	2 4.4
20～29歳	39 100.0	1 2.6	5 12.8	2 5.1	4 10.3	26 66.7	0 0.0	3 7.7	0 0.0
30～39歳	38 100.0	1 2.6	6 15.8	1 2.6	26 68.4	1 2.6	0 0.0	6 15.8	1 2.6
40～49歳	13 100.0	3 23.1	2 15.4	4 30.8	4 30.8	0 0.0	0 0.0	3 23.1	0 0.0
50～59歳	14 100.0	1 7.1	3 21.4	2 14.3	1 7.1	0 0.0	1 7.1	6 42.9	1 7.1
60～69歳	52 100.0	2 3.8	0 0.0	7 13.5	3 5.8	0 0.0	39 75.0	5 9.6	0 0.0
70歳以上	38 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	1 2.6	0 0.0	32 84.2	1 2.6	4 10.5

問17-2. 現在の仕事の満足度(現在働いている方限定)【SA】

○「満足している」24.1%と「まあまあ満足している」44.6%を合わせると68.7%の方が『満足』、「あまり満足していない」19.0%と「不満である」6.3%を合わせると25.3%の方が『不満』となっています。

●年齢別にみると、すべての年齢で『満足』が多くなっていますが、20～49歳で『不満』と感じている方が3割程度います。

★「満足している」については、前回調査と比べやや減少した一方、「まあまあ満足している」については、やや上昇しました。



		合計	問17-2 現在の仕事の満足度				
			満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	不満である	無回答
全体		395 100.0	95 24.1	176 44.6	75 19.0	25 6.3	24 6.1
②年齢	20歳未満	9 100.0	3 33.3	3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1
	20～29歳	61 100.0	13 21.3	25 41.0	15 24.6	5 8.2	3 4.9
	30～39歳	89 100.0	18 20.2	46 51.7	14 15.7	6 6.7	5 5.6
	40～49歳	84 100.0	16 19.0	34 40.5	20 23.8	7 8.3	7 8.3
	50～59歳	80 100.0	18 22.5	43 53.8	12 15.0	4 5.0	3 3.8
	60～65歳	46 100.0	16 34.8	19 41.3	8 17.4	0 0.0	3 6.5

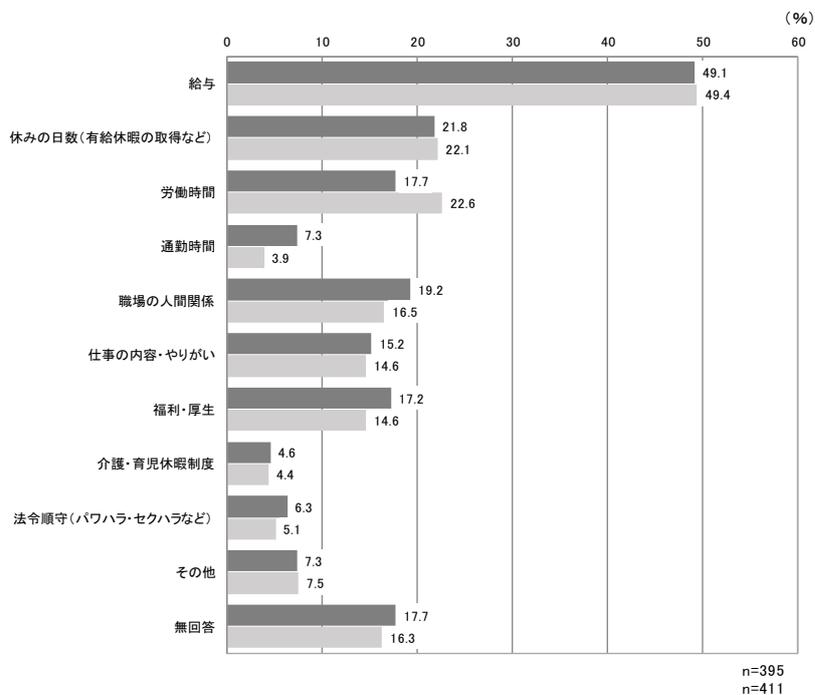
		合計	問17-2 現在の仕事の満足度				
			満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	不満である	不明
全体		411 100.0	107 26.0	174 42.3	79 19.2	34 8.3	17 4.1
②年齢	20歳未満	19 100.0	4 21.1	7 36.8	4 21.1	3 15.8	1 5.3
	20～29歳	64 100.0	13 20.3	29 45.3	11 17.2	7 10.9	4 6.3
	30～39歳	93 100.0	20 21.5	44 47.3	18 19.4	9 9.7	2 2.2
	40～49歳	82 100.0	24 29.3	31 37.8	19 23.2	5 6.1	3 3.7
	50～59歳	69 100.0	19 27.5	28 40.6	14 20.3	7 10.1	1 1.4
	60～69歳	49 100.0	16 32.7	18 36.7	8 16.3	3 6.1	4 8.2
	70歳以上	14 100.0	6 42.9	7 50.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0

問17-3. 現在の職場で改善してほしい点(現在働いている方限定)【MA】

○「給与」が49.1%で最も多く、次いで「休みの日数(有給休暇の取得など)」が21.8%となっています。

●年齢別にみると、すべての年代で「給与」が多くなっており、20~29歳では6割以上となっています。

★「労働時間」についての改善要望は、前回調査と比較して、やや減少しました。



	合計	問17-3 働いている環境で改善して欲しい点										
		給与	休みの日数(有給休暇の取得など)	労働時間	通勤時間	職場の人間関係	仕事の内容・やりがい	福利・厚生	介護・育児休暇制度	法令順守(パワハラ・セクハラなど)	その他	無回答
全体	395 100.0	194 49.1	86 21.8	70 17.7	29 7.3	76 19.2	60 15.2	68 17.2	18 4.6	25 6.3	29 7.3	70 17.7
②年齢												
20歳未満	9 100.0	4 44.4	3 33.3	2 22.2	1 11.1	2 22.2	2 22.2	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2
20~29歳	61 100.0	38 62.3	16 26.2	21 34.4	10 16.4	14 23.0	13 21.3	9 14.8	2 3.3	3 4.9	4 6.6	6 9.8
30~39歳	89 100.0	47 52.8	19 21.3	18 20.2	9 10.1	22 24.7	15 16.9	14 15.7	4 4.5	7 7.9	5 5.6	10 11.2
40~49歳	84 100.0	45 53.6	22 26.2	15 17.9	1 1.2	17 20.2	10 11.9	21 25.0	6 7.1	10 11.9	4 4.8	17 20.2
50~59歳	80 100.0	36 45.0	16 20.0	10 12.5	4 5.0	16 20.0	14 17.5	18 22.5	2 2.5	3 3.8	9 11.3	11 13.8
60~65歳	46 100.0	17 37.0	10 21.7	3 6.5	3 6.5	2 4.3	4 8.7	3 6.5	3 6.5	1 2.2	4 8.7	12 26.1

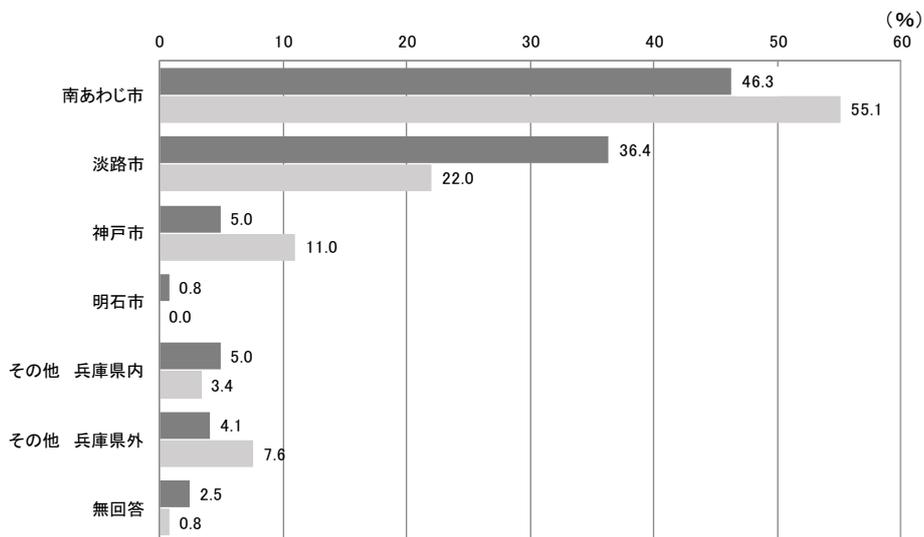
	合計	問17-3 働いている環境で改善して欲しい点										不明
		給与	休みの日数(有給休暇の取得など)	労働時間	通勤時間	職場の人間関係	仕事の内容・やりがい	福利・厚生	介護・育児休暇制度	法令順守(パワハラ・セクハラなど)	その他	
全体	411 100.0	203 49.4	91 22.1	93 22.6	16 3.9	68 16.5	60 14.6	60 14.6	18 4.4	21 5.1	31 7.5	67 16.3
②年齢												
20歳未満	19 100.0	12 63.2	5 26.3	5 26.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5	2 5.3	1 5.3	0 0.0	1 5.3	2 10.5
20~29歳	64 100.0	35 54.7	15 23.4	15 23.4	3 4.7	12 18.8	10 15.6	11 17.2	2 3.1	9 14.1	4 6.3	7 10.9
30~39歳	93 100.0	47 50.5	21 22.6	23 24.7	5 5.4	15 16.1	16 17.2	12 12.9	4 4.3	1 1.1	8 8.6	8 8.6
40~49歳	82 100.0	40 48.8	18 22.0	18 22.0	3 3.7	13 15.9	12 14.6	12 14.6	4 4.9	5 6.1	6 7.3	14 17.1
50~59歳	69 100.0	36 52.2	20 29.0	18 26.1	4 5.8	15 21.7	10 14.5	12 17.4	2 2.9	3 4.3	6 8.7	11 15.9
60~69歳	49 100.0	21 42.9	7 14.3	8 16.3	0 0.0	5 10.2	6 12.2	5 10.2	3 6.1	0 0.0	3 6.1	17 34.7
70歳以上	14 100.0	3 21.4	0 0.0	2 14.3	0 0.0	3 21.4	1 7.1	2 14.3	1 7.1	0 0.0	1 7.1	5 35.7

問17-4. 市外での就業地(現在市外で働いている方限定)【SA】

○「南あわじ市」が46.3%で最も多く、次いで「淡路市」が36.4%となっています。

●年齢別にみると、60～65歳で「淡路市」が最も多く、そのほかのすべての年代で「南あわじ市」が最も多くなっています。

★「南あわじ市」については、前回調査と比べ8.8ポイント減少した一方、「淡路市」については、14.4ポイント上昇しました。



n=121
n=118

	合計	問17-4 就業地						
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外	無回答
全体	121	56	44	6	1	6	5	3
	100.0	46.3	36.4	5.0	0.8	5.0	4.1	2.5
②年齢								
20歳未満	4	1	1	1	0	0	1	0
	100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
20～29歳	23	11	6	1	0	2	2	1
	100.0	47.8	26.1	4.3	0.0	8.7	8.7	4.3
30～39歳	30	14	13	3	0	0	0	0
	100.0	46.7	43.3	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	27	15	11	0	0	1	0	0
	100.0	55.6	40.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0
50～59歳	25	12	9	1	0	1	1	1
	100.0	48.0	36.0	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0
60～65歳	9	2	4	0	1	1	1	0
	100.0	22.2	44.4	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0

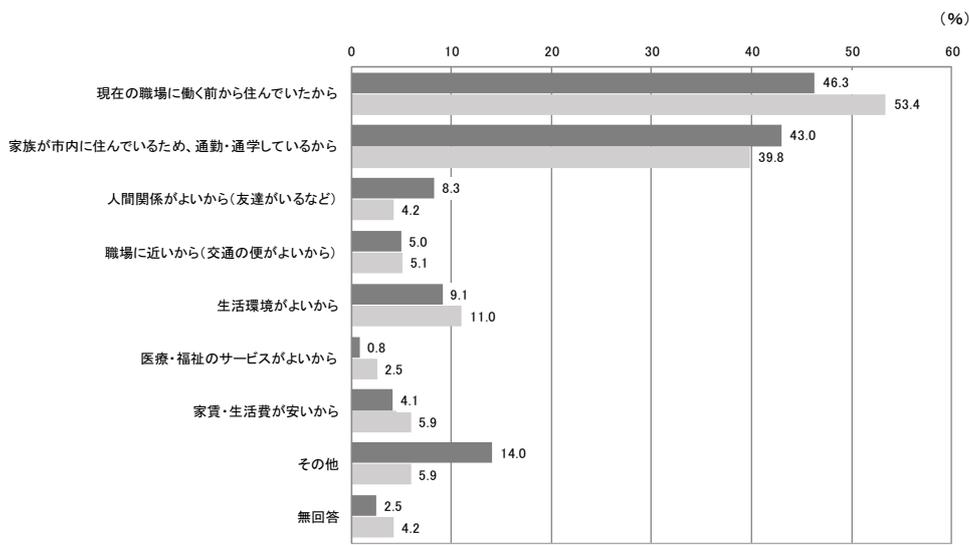
	合計	問17-4 就業地						
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外	不明
全体	118	65	26	13	0	4	9	1
	100.0	55.1	22.0	11.0	0.0	3.4	7.6	0.8
②年齢								
20歳未満	5	2	1	0	0	0	2	0
	100.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
20～29歳	21	11	4	4	0	1	1	0
	100.0	52.4	19.0	19.0	0.0	4.8	4.8	0.0
30～39歳	36	21	10	0	0	3	2	0
	100.0	58.3	27.8	0.0	0.0	8.3	5.6	0.0
40～49歳	20	11	3	3	0	0	2	1
	100.0	55.0	15.0	15.0	0.0	0.0	10.0	5.0
50～59歳	15	9	3	1	0	0	2	0
	100.0	60.0	20.0	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0
60～69歳	13	7	4	2	0	0	0	0
	100.0	53.8	30.8	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問17-5. 現在、洲本市内にお住まいの理由(現在市外で働いている方限定)【MA】

○「現在の職場に働く前から住んでいたから」が46.3%で最も多く、次いで「家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから」が43.0%となっています。

●年齢別にみると、20歳未満、20～29歳、40～49歳、60～65歳で「家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから」、20歳未満、30～39歳、50～59歳、60～65歳で「現在の職場に働く前から住んでいたから」が多くなっています。

★「現在の職場に働く前から住んでいたから」が、7.1ポイント減少した一方、「家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから」はやや上昇しました。



n=121
n=118

	合計	問17-5 洲本市に住んでいる理由								
		現在の職場に働く前から住んでいたから	家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから	人間関係がよいから(友達がいるなど)	職場に近いから(交通の便がよいから)	生活環境がよいから	医療・福祉のサービスがよいから	家賃・生活費が安いから	その他	無回答
全体	121	56	52	10	6	11	1	5	17	3
	100.0	46.3	43.0	8.3	5.0	9.1	0.8	4.1	14.0	2.5
②年齢										
20歳未満	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	23	8	11	3	1	5	0	3	4	0
	100.0	34.8	47.8	13.0	4.3	21.7	0.0	13.0	17.4	0.0
30～39歳	30	18	15	1	2	0	0	0	2	0
	100.0	60.0	50.0	3.3	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
40～49歳	27	9	11	4	1	3	0	1	6	1
	100.0	33.3	40.7	14.8	3.7	11.1	0.0	3.7	22.2	3.7
50～59歳	25	12	8	1	1	2	0	1	5	1
	100.0	48.0	32.0	4.0	4.0	8.0	0.0	4.0	20.0	4.0
60～65歳	9	5	5	1	1	1	1	0	0	0
	100.0	55.6	55.6	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0

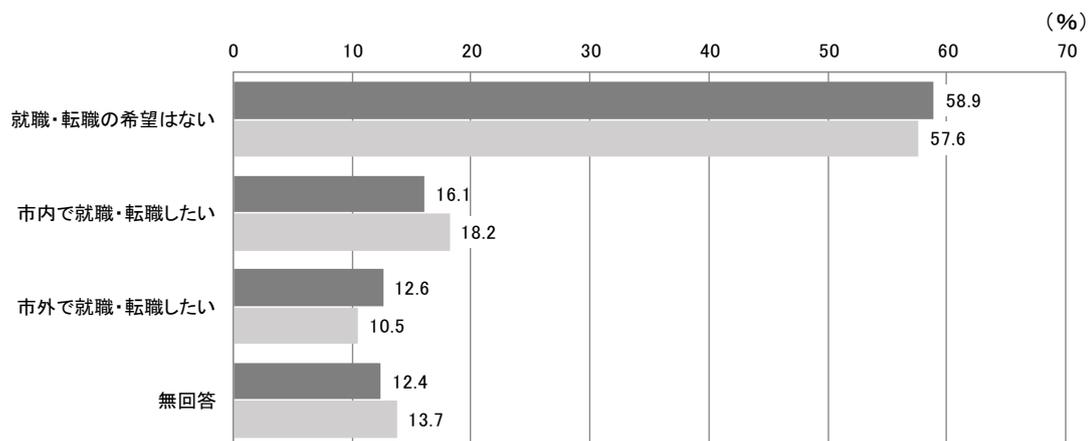
	合計	問17-5 洲本市に住んでいる理由								不明
		現在の職場に働く前から住んでいたから	家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから	人間関係がよいから(友達がいる)	職場に近いから(交通の便がよいから)	生活環境がよいから	医療・福祉のサービスがよいから	家賃・生活費が安いから	その他	
全体	118	63	47	5	6	13	3	7	7	5
	100.0	53.4	39.8	4.2	5.1	11.0	2.5	5.9	5.9	4.2
②年齢										
20歳未満	5	2	1	0	1	0	0	0	0	1
	100.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
20～29歳	21	10	11	2	2	0	0	1	1	2
	100.0	47.6	52.4	9.5	9.5	0.0	0.0	4.8	4.8	9.5
30～39歳	36	17	18	0	1	4	0	4	3	0
	100.0	47.2	50.0	0.0	2.8	11.1	0.0	11.1	8.3	0.0
40～49歳	20	11	6	2	0	5	1	2	2	0
	100.0	55.0	30.0	10.0	0.0	25.0	5.0	10.0	10.0	0.0
50～59歳	15	8	3	0	1	1	0	0	1	2
	100.0	53.3	20.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	13.3
60～69歳	13	8	6	1	1	3	2	0	0	0
	100.0	61.5	46.2	7.7	7.7	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問18. 就職・転職希望【SA】

○「就職・転職の希望はない」が58.9%で最も多く、次いで「市内で就職・転職したい」が16.1%、「市外で就職・転職したい」が12.6%となっています。

●「就職・転職の希望はない」を除いた年齢別にみると、“20歳未満”で「市外で就職・転職したい」が多くなっています。

★就職・転職希望については、前回調査と比較し大きな変化はみられません。



n=628
n=677

	合計	問18 就職・転職の希望			
		就職・転職の希望はない	市内で就職・転職したい	市外で就職・転職したい	無回答
全体	628	370	101	79	78
	100.0	58.9	16.1	12.6	12.4
②年齢					
20歳未満	64	16	12	30	6
	100.0	25.0	18.8	46.9	9.4
20～29歳	96	44	21	24	7
	100.0	45.8	21.9	25.0	7.3
30～39歳	103	71	16	11	5
	100.0	68.9	15.5	10.7	4.9
40～49歳	103	62	29	6	6
	100.0	60.2	28.2	5.8	5.8
50～59歳	96	69	12	7	8
	100.0	71.9	12.5	7.3	8.3
60～65歳	87	54	10	0	23
	100.0	62.1	11.5	0.0	26.4

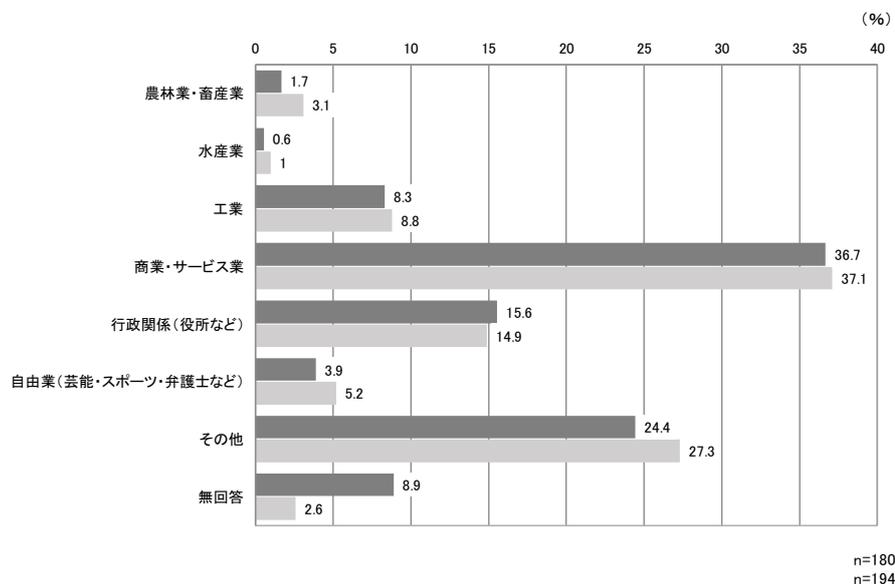
	合計	問18 就職・転職の希望			
		就職・転職の希望はない	市内で就職・転職したい	市外で就職・転職したい	不明
全体	677	390	123	71	93
	100.0	57.6	18.2	10.5	13.7
②年齢					
20歳未満	64	19	15	22	8
	100.0	29.7	23.4	34.4	12.5
20～29歳	103	43	23	25	12
	100.0	41.7	22.3	24.3	11.7
30～39歳	134	81	36	13	4
	100.0	60.4	26.9	9.7	3.0
40～49歳	97	65	22	6	4
	100.0	67.0	22.7	6.2	4.1
50～59歳	84	64	11	3	6
	100.0	76.2	13.1	3.6	7.1
60～69歳	105	73	7	0	25
	100.0	69.5	6.7	0.0	23.8
70歳以上	59	27	0	0	32
	100.0	45.8	0.0	0.0	54.2

問18-1. 就職・転職したい分野(就職・転職したい方限定)【SA】

○「商業・サービス業」が36.7%で最も多く、「行政関係(役所など)」が15.8%となっています。(その他を除く)

●年齢別にみると、すべての年代で「商業・サービス業」が最も多くなっています。(その他を除く)

★就職・転職したい分野については、前回調査と比較し大きな変化はみられません。



	合計	問18-1 就職・転職したい分野							無回答
		農林業・畜産業	水産業	工業	商業・サービス業	行政関係(役所など)	自由業(芸能・スポーツ・弁護士など)	その他	
全体	180	3	1	15	66	28	7	44	16
	100.0	1.7	0.6	8.3	36.7	15.6	3.9	24.4	8.9
②年齢	20歳未満	42	0	8	10	8	0	12	4
	100.0	0.0	0.0	19.0	23.8	19.0	0.0	28.6	9.5
	20~29歳	45	1	1	14	10	3	13	3
	100.0	2.2	0.0	2.2	31.1	22.2	6.7	28.9	6.7
	30~39歳	27	0	2	13	4	0	6	2
	100.0	0.0	0.0	7.4	48.1	14.8	0.0	22.2	7.4
	40~49歳	35	2	2	13	2	3	9	4
	100.0	5.7	0.0	5.7	37.1	5.7	8.6	25.7	11.4
	50~59歳	19	0	2	13	1	0	3	0
	100.0	0.0	0.0	10.5	68.4	5.3	0.0	15.8	0.0
	60~65歳	10	0	1	3	3	1	0	2
	100.0	0.0	10.0	0.0	30.0	30.0	10.0	0.0	20.0

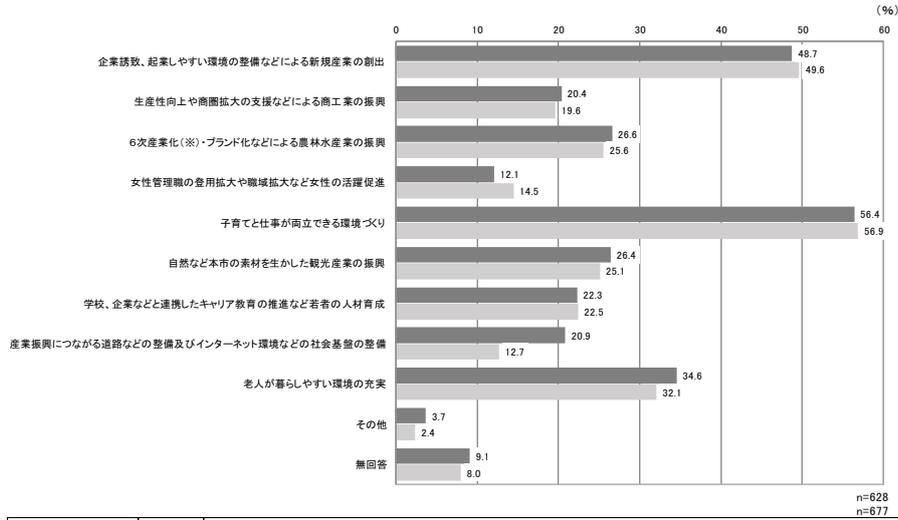
	合計	問18-1 就職・転職したい分野							不明
		農林業・畜産業	水産業	工業	商業・サービス業	行政関係(役所など)	自由業(芸能・スポーツ・弁護士など)	その他	
全体	194	6	2	17	72	29	10	53	5
	100.0	3.1	1.0	8.8	37.1	14.9	5.2	27.3	2.6
②年齢	20歳未満	37	1	7	7	5	4	10	2
	100.0	2.7	2.7	18.9	18.9	13.5	10.8	27.0	5.4
	20~29歳	48	0	1	26	9	0	11	0
	100.0	0.0	2.1	2.1	54.2	18.8	0.0	22.9	0.0
	30~39歳	49	1	6	18	4	0	19	1
	100.0	2.0	0.0	12.2	36.7	8.2	0.0	38.8	2.0
	40~49歳	28	2	3	8	5	3	6	1
	100.0	7.1	0.0	10.7	28.6	17.9	10.7	21.4	3.6
	50~59歳	14	1	0	9	2	2	0	0
	100.0	7.1	0.0	0.0	64.3	14.3	14.3	0.0	0.0
	60~69歳	7	1	0	1	3	0	1	1
	100.0	14.3	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0	14.3	14.3
	70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問19. 地域経済の活性化のために力を入れるべき取組【MA】

○「子育てと仕事ができる環境づくり」が56.4%で最も多く、次いで「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が48.7%となっています。

●20歳未満～49歳で「子育てと仕事ができる環境づくり」が最も多く、50歳～65歳で「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が最も多くなっています。

★「産業振興につながる道路などの整備及びインターネット環境などの社会基盤の整備」については、前回調査と比較し8.2ポイント上昇しました。



	合計	問19 地域経済の活性化のために力を入れるべき取組										
		企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出	生産性向上や商圏拡大の支援などによる商工業の振興	6次産業化(※)・ブランド化などによる農林水産業の振興	女性管理職の登用拡大や職域拡大など女性の活躍促進	子育てと仕事ができる環境づくり	自然など本市の素材を生かした観光産業の振興	学校、企業などと連携したキャリア教育の推進など若者の人材育成	産業振興につながる道路などの整備及びインターネット環境などの社会基盤の整備	老人が暮らしやすい環境の充実	その他	無回答
全体	628	306	128	167	76	354	166	140	131	217	23	57
②年齢	100.0	48.7	20.4	26.6	12.1	56.4	26.4	22.3	20.9	34.6	3.7	9.1
20歳未満	64	27	13	9	8	36	11	21	12	13	1	7
20～29歳	96	42	14	19	18	62	25	21	24	24	5	2
30～39歳	103	47	21	20	14	69	37	24	21	34	5	6
40～49歳	103	46	20	33	15	64	23	27	27	32	4	5
50～59歳	96	56	30	33	12	52	30	29	24	42	5	5
60～65歳	87	44	17	29	4	43	22	6	13	43	2	14

	合計	問19 地域経済の活性化のために力を入れるべき取組										
		企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出	生産性向上や商圏拡大の支援などによる商工業の振興	6次産業化(※)・ブランド化などによる農林水産業の振興	女性管理職の登用拡大や職域拡大など女性の活躍促進	子育てと仕事ができる環境づくり	自然など本市の素材を生かした観光産業の振興	学校、企業などと連携したキャリア教育の推進など若者の人材育成	産業振興につながる道路などの整備及びインターネット環境などの社会基盤の整備	老人が暮らしやすい環境の充実	その他	不明
全体	677	336	133	173	98	385	170	152	86	217	16	54
②年齢	100.0	49.6	19.6	25.6	14.5	56.9	25.1	22.5	12.7	32.1	2.4	8.0
20歳未満	64	27	13	9	8	36	11	20	12	13	1	3
20～29歳	103	42	21	14	19	65	27	27	24	21	3	8
30～39歳	134	53	25	40	24	100	33	37	19	36	5	5
40～49歳	97	49	18	26	18	74	24	27	14	26	3	7
50～59歳	84	48	22	32	14	43	19	18	15	34	1	7
60～69歳	105	66	21	36	4	50	22	10	18	39	1	11
70歳以上	59	34	11	14	4	19	8	9	3	27	1	13

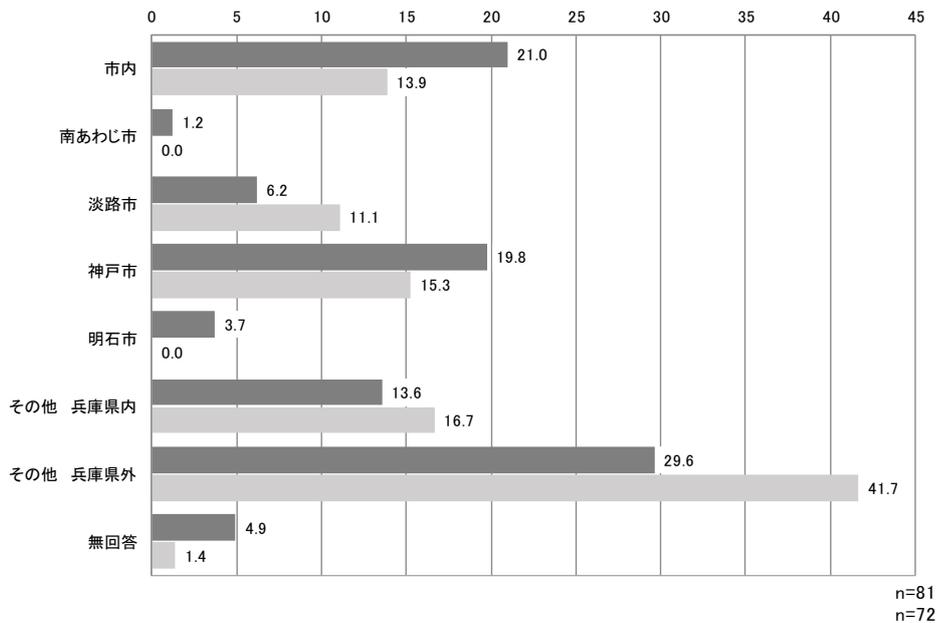
(7) 今後の進学や就職について（学生限定）

問20. 現在の通学先【SA】

○「その他兵庫県外」が29.6%で最も多く、次いで「市内」が21.0%、「神戸市」が19.8%となっています。

●20歳未満で「市内」、20～29歳で「その他兵庫県外」が最も多くなっています。

★「市内」については、前回調査と比較し7.1ポイント上昇し、「その他 兵庫県外」については12.1ポイント減少しました。

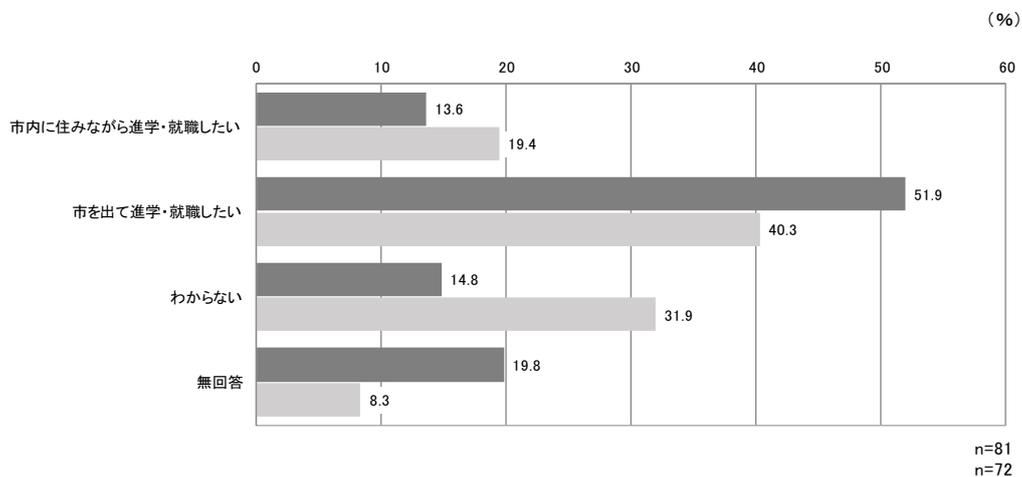


	合計	問20 通学先							
		市内	南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他兵庫県内	その他兵庫県外	無回答
全体	81	17	1	5	16	3	11	24	4
	100.0	21.0	1.2	6.2	19.8	3.7	13.6	29.6	4.9
②年齢									
20歳未満	57	17	0	4	10	2	7	14	3
	100.0	29.8	0.0	7.0	17.5	3.5	12.3	24.6	5.3
20～29歳	23	0	0	1	6	1	4	10	1
	100.0	0.0	0.0	4.3	26.1	4.3	17.4	43.5	4.3
30～39歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～65歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	合計	問20 通学先							不明
		市内	南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他兵庫県内	その他兵庫県外	
全体	72	10	0	8	11	0	12	30	1
	100.0	13.9	0.0	11.1	15.3	0.0	16.7	41.7	1.4
②年齢									
20歳未満	45	10	0	4	8	0	4	19	0
	100.0	22.2	0.0	8.9	17.8	0.0	8.9	42.2	0.0
20～29歳	26	0	0	3	3	0	8	11	1
	100.0	0.0	0.0	11.5	11.5	0.0	30.8	42.3	3.8
30～39歳	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問21. 今後の進学や就職【SA】

- 「市を出て進学・就職したい」が51.9%で最も多くなっています。
- 20歳未満～39歳の約半数が、「市を出て進学・就職したい」となっています。
- 「市内に住みながら進学・就職したい」が減少した一方、「市を出て進学・就職したい」が上昇しました。



	合計	問21 進学・就職後の住まい			
		市内に住みながら進学・就職したい	市を出て進学・就職したい	わからない	無回答
全体	81 100.0	11 13.6	42 51.9	12 14.8	16 19.8
②年齢					
20歳未満	57 100.0	8 14.0	30 52.6	9 15.8	10 17.5
20～29歳	23 100.0	3 13.0	11 47.8	3 13.0	6 26.1
30～39歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
60～65歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

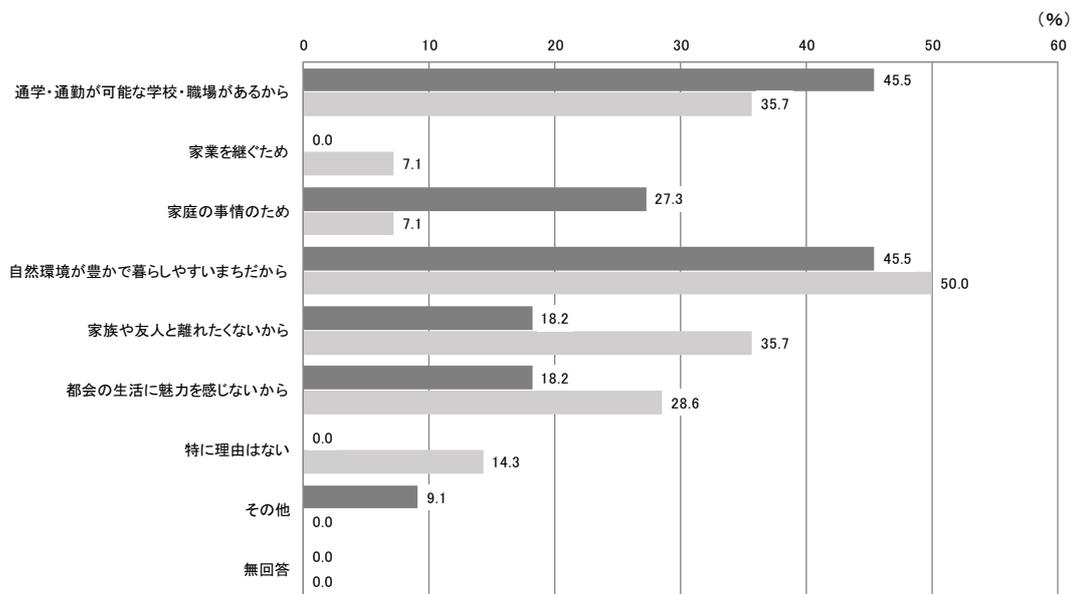
	合計	問21 進学・就職後の住まい			
		市内に住みながら進学・就職したい	市を出て進学・就職したい	わからない	不明
全体	72 100.0	14 19.4	29 40.3	23 31.9	6 8.3
②年齢					
20歳未満	45 100.0	6 13.3	19 42.2	17 37.8	3 6.7
20～29歳	26 100.0	8 30.8	9 34.6	6 23.1	3 11.5
30～39歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
60～69歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

問21-1. 市内で進学・就職したい理由(市内に住みながら進学・就職したい方限定)【MA】

○「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」と「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」45.5%で最も多く、次いで、「家庭の事情のため」が27.3%となっています。

●20歳未満では、6割以上で「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が最も多くなっています。

★「家庭の事情のため」については、前回調査と比較し20.2ポイント上昇した一方、「家族や友人と離れたくないから」については、17.5ポイント減少しました。



n=11
n=14

	合計	問21-1 市内に住みながら進学・就職したい理由								無回答
		通学・通勤が可能な学校・職場があるから	家業を継ぐため	家庭の事情のため	自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから	家族や友人と離れたくないから	都会の生活に魅力を感じないから	特に理由はない	その他	
全体	11	45.5	0.0	27.3	45.5	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0
②年齢										
20歳未満	8	50.0	0.0	25.0	50.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
20～29歳	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
30～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～65歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

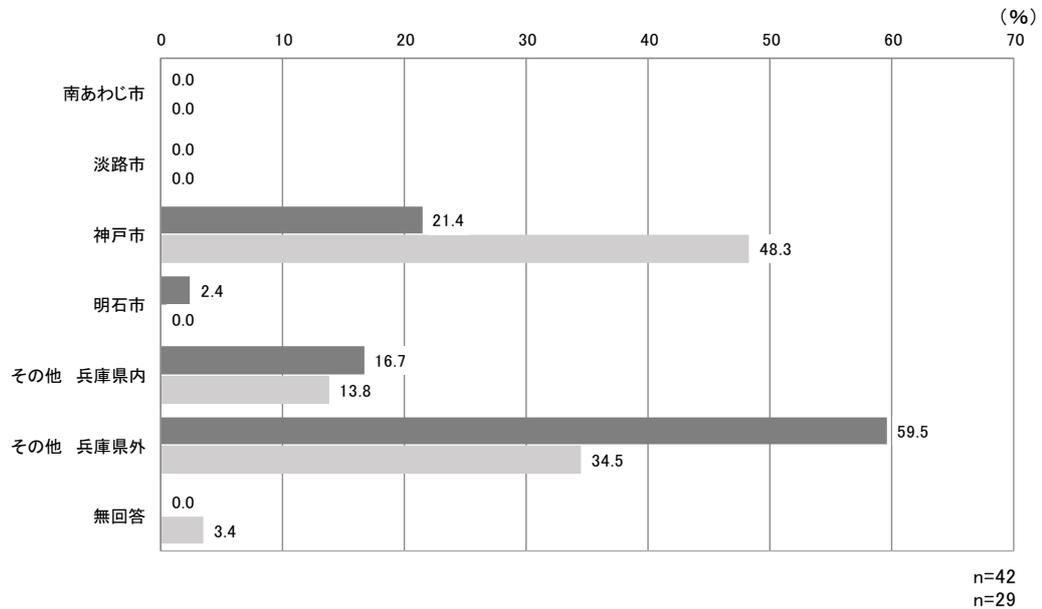
	合計	問21-1 市内に住みながら進学・就職したい理由								不明
		通学・通勤が可能な学校・職場があるから	家業を継ぐため	家庭の事情のため	自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから	家族や友人と離れたくないから	都会の生活に魅力を感じないから	特に理由はない	その他	
全体	14	35.7	7.1	7.1	50.0	35.7	28.6	14.3	0.0	0.0
②年齢										
20歳未満	6	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
20～29歳	8	50.0	0.0	12.5	62.5	5.0	25.0	12.5	0.0	0.0
30～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～69歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問21-2. 市外のどこに出る予定(出たい)か(市を出て進学・就職したい方限定)【SA】

○「その他兵庫県外」が59.5%で最も多く、次いで、「神戸市」が21.4%となっています。

●20歳未満で、「その他兵庫県外」が6割を超えています。

★「神戸市」については、前回調査と比較し26.9ポイント減少した一方、「その他 兵庫県外」については、25ポイント上昇しました。



	合計	問21-2 どこへ出る予定(出たい)か						無回答	
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外		
全体	42 100.0	0 0.0	0 0.0	9 21.4	1 2.4	7 16.7	25 59.5	0 0.0	
②年齢	20歳未満	30 100.0	0 0.0	0 0.0	5 16.7	1 3.3	5 16.7	19 63.3	0 0.0
	20～29歳	11 100.0	0 0.0	0 0.0	4 36.4	0 0.0	2 18.2	5 45.5	0 0.0
	30～39歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～65歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

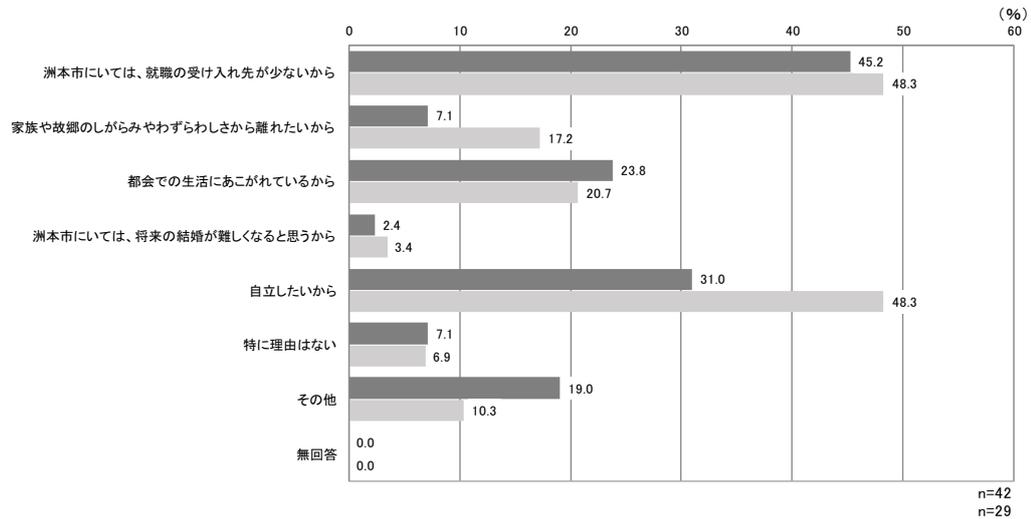
	合計	問21-2 どこに出る予定(出たい)か							
		南あわじ市	淡路市	神戸市	明石市	その他 兵庫県内	その他 兵庫県外	不明	
全体	29 100.0	0 0.0	0 0.0	14 48.3	0 0.0	4 13.8	10 34.5	1 3.4	
②年齢	20歳未満	19 100.0	0 0.0	0 0.0	8 42.1	0 0.0	2 10.5	9 47.4	0 0.0
	20～29歳	9 100.0	0 0.0	0 0.0	6 66.7	0 0.0	1 11.1	1 11.1	1 11.1
	30～39歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

問21-3. 市外で進学・就職したい理由(市を出て進学・就職したい方限定)【MA】

○「洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから」が45.2%で最も多く、次いで「自立したいから」が31.0%となっています。

● 20歳未満と20～29歳で、「洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから」が最も多くなっています。

★「自立したいから」については、前回調査に比べ17.3ポイント減少しました。



	合計	問21-3 洲本市を出る(出たい)理由							
		洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから	家族や故郷のしがらみやわずらわしさから離れたいから	都会での生活にあこがれているから	洲本市においては、将来の結婚が難しくなると思うから	自立したいから	特に理由はない	その他	無回答
全体	42	19	3	10	1	13	3	8	0
	100.0	45.2	7.1	23.8	2.4	31.0	7.1	19.0	0.0
②年齢	30	13	2	6	1	11	2	6	0
	100.0	43.3	6.7	20.0	3.3	36.7	6.7	20.0	0.0
20～29歳	11	6	1	4	0	2	0	2	0
	100.0	54.5	9.1	36.4	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0
30～39歳	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～65歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	合計	問21-3 洲本市を出る(出たい)理由							
		洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから	家族や故郷のしがらみやわずらわしさから離れたいから	都会での生活にあこがれているから	洲本市においては、将来の結婚が難しくなると思うから	自立したいから	特に理由はない	その他	不明
全体	29	14	5	6	1	14	2	3	0
	100.0	48.3	17.2	20.7	3.4	48.3	6.9	10.3	0.0
②年齢	19	8	4	3	0	9	2	3	0
	100.0	42.1	21.1	15.8	0.0	47.4	10.5	15.8	0.0
20～29歳	9	5	1	3	1	5	0	0	0
	100.0	55.6	11.1	33.3	11.1	55.6	0.0	0.0	0.0
30～39歳	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

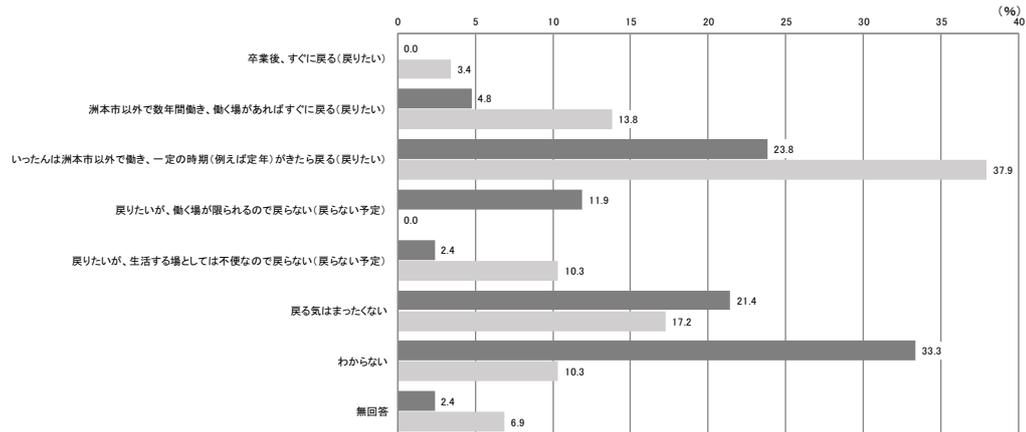
問21-4. 将来的に市外で進学・就職した後、洲本市に戻ってくるか

(市を出て進学・就職したい方限定)【SA】

○「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)」が23.8%で最も多くなっています。(わからないを除く)

●20歳未満と20~29歳で、いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)が2割以上となっています。

★「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)」については、14.1ポイント減少しました。



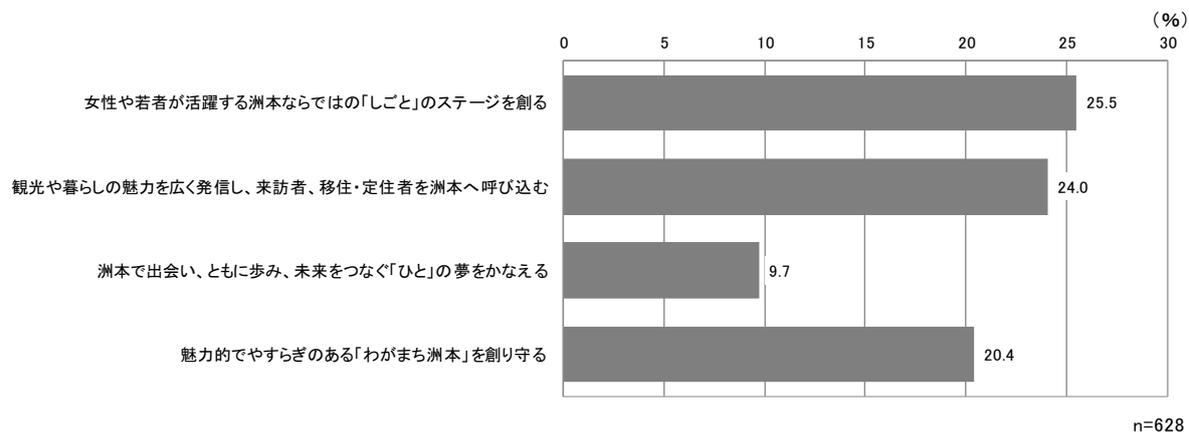
n=42
n=29

	合計	問21-4 進学・就職後洲本市に戻って暮らしたいか							
		卒業後、 すぐに戻 る(戻り たい)	洲本市以 外で数年 間働き、 働く場が あればす ぐに戻る (戻りた い)	いったん は洲本市 以外で働 き、一定 の時期 (例えば 定年)が きたら戻 る(戻り たい)	戻りたい が、働く 場が限ら れるので 戻らない (戻らな い予定)	戻りたい が、生活 する場と しては不 便なので 戻らない (戻らな い予定)	戻る気は まったく ない	わからな い	無回答
全体	42	0	2	10	5	1	9	14	1
	100.0	0.0	4.8	23.8	11.9	2.4	21.4	33.3	2.4
②年齢	30	0	2	7	4	0	6	10	1
	100.0	0.0	6.7	23.3	13.3	0.0	20.0	33.3	3.3
20~29歳	11	0	0	3	1	1	2	4	0
	100.0	0.0	0.0	27.3	9.1	9.1	18.2	36.4	0.0
30~39歳	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
40~49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50~59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60~65歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	合計	問21-4 進学・就職後洲本市に戻って暮らしたいか							
		卒業後、 すぐに戻 る(戻り たい)	洲本市以 外で数年 間働き、 働く場が あればす ぐに戻る (戻りた い)	いったん は洲本市 以外で働 き、一定 の時期 (例えば 定年)が きたら戻 る(戻り たい)	戻りたい が、働く 場が限ら れるので 戻らない (戻らな い予定)	戻りたい が、生活 する場と しては不 便なので 戻らない (戻らな い予定)	戻る気は まったく ない	わからな い	不明
全体	29	1	4	11	3	5	3	2	2
	100.0	3.4	13.8	37.9	10.3	17.2	10.3	6.9	6.9
②年齢	19	1	2	7	1	5	1	2	2
	100.0	5.3	10.5	36.8	5.3	26.3	5.3	10.5	10.5
20~29歳	9	0	1	4	0	2	2	0	0
	100.0	0.0	11.1	44.4	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0
30~39歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40~49歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50~59歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60~69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問22. 基本目標の中で、最も重要なもの【SA】(今回調査のみ)

- 「女性や若者が活躍する洲本ならではの「しごと」のステージを創るが最も多くなっています。
- 20歳未満は、「観光や暮らしの魅力を広く発信し、来訪者、移住・定住者を洲本へ呼び込む」が最も多く、そのほかの年代では、「女性や若者が活躍する洲本ならではの「しごと」のステージを創る」が最も多くなっています。



		合計	問22 基本目標の中で、最も重要なもの				
			女性や若者が活躍する洲本ならではの「しごと」のステージを創る	観光や暮らしの魅力を広く発信し、来訪者、移住・定住者を洲本へ呼び込む	洲本で出会い、ともに歩み、未来をつなぐ「ひと」の夢をかなえる	魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る	無回答
全体		628 100.0	160 25.5	151 24.0	61 9.7	128 20.4	128 20.4
②年齢	20歳未満	64 100.0	17 26.6	20 31.3	10 15.6	7 10.9	10 15.6
	20～29歳	96 100.0	24 25.0	22 22.9	15 15.6	19 19.8	16 16.7
	30～39歳	103 100.0	25 24.3	24 23.3	19 18.4	20 19.4	15 14.6
	40～49歳	103 100.0	28 27.2	22 21.4	8 7.8	24 23.3	21 20.4
	50～59歳	96 100.0	30 31.3	26 27.1	2 2.1	21 21.9	17 17.7
	60～65歳	87 100.0	25 28.7	18 20.7	5 5.7	12 13.8	27 31.0

問23. まちづくりへの参加(参画)でできることに対する自由意見

○分野別の主な意見（複数意見）は、次のとおりです。

（子育て）

- ・子育て経験を活かして、悩んでいる人へのアドバイスをする
- ・子育て支援モニターなどの手伝いをする

（ボランティア）

- ・清掃活動に参加し、まちをきれいにする
- ・城下町すもとレトロな町歩きボランティアに参加
- ・ボランティアに参加しまちを花いっぱいにする

（コミュニケーション）

- ・人と人とのコミュニケーションを大切にする
- ・あいさつ、声掛けを行う
- ・近所の友達を大切にする

（イベント）

- ・祭りやイベントに参加する
- ・子どものスポーツの行事を手伝う

（情報発信）

- ・SNS等で洲本の魅力を友達に発信する
- ・淡路島の魅力を外国人に発信する

問24. これからのまちづくりに対する自由意見

○分野別の主な意見（複数意見）は、次のとおりです。

（観光プロモーション・PR活動）

- ・洲本市の良い所をPRしてほしい
- ・ドラクエのまちをもっとアピールしてほしい

（産業活性化・企業誘致）

- ・倉庫の跡地の活用をしてはどうか
- ・理工学部修士課程を卒業して就職できるような企業の誘致をしてほしい

（雇用の場）

- ・働く場を増やして欲しい

（まち歩き、ツーリズム）

- ・専門の先生指導の体操教室を開いてほしい

（行財政改革）

- ・行政の各課の専門性を高くする事
- ・市民課や保険証の課には、退職した詳しい案内人なりを置いてほしい

（子育て環境）

- ・子どもを預けるところが少ない

（社会基盤整備）

- ・街灯が少ない

（交通）

- ・バスを増やして欲しい
- ・高齢者の交通について、考えてほしい

IV 新洲本市総合戦略 若手職員ワークショップ ～ すもと・もっとおもろナーレ 2019 ～

1. 開催目的

現在の「洲本市総合戦略」が今年度をもって最終年度を迎えるにあたり、2020年度より実施される「新洲本市総合戦略」の策定に向け、本市の若手職員による意見交換会を実施する。

未来の本市行政を担う若者の視点から、より柔軟な発想で、市内外から魅力的なこれからの洲本市、「おもろい洲本の街」を考察し、今後の本市の人口減少対策に必要な政策及び課題の掘り起こしを行う。

[期待される効果]

当戦略に対する各課への意見照会は、別途、実施する予定であることから、当ワークショップにおいては、必ずしも参加者が所属課の意向を考慮した発言である必要はなく、あくまでも「若手行政職員の観点」から、より良い洲本市のあり方について考察するものである。

若手職員が枠に囚われることなく、自由な発想のもと意見できることで、市職員として創造型、未来志向型の行政運営のための発想トレーニングにもつながり、また、この機会に新たな職員間の交流やつながりも形成され、将来の本市行政における担い手の人材育成に期待できる。

2. 開催概要

[開催日時]

令和元年 11月7日(木) 午前10時～12時(2時間)

[開催場所]

洲本市本庁舎 6階 展望ロビー

[参加者]

入庁約10年目以内の若手職員 13名

3. 検討結果

1 班

企画課、健康増進課、保健医療課、子ども子育て課、教育総務課

- ・ スーパースモト人登録バンク制度（移住者や、地元で優れたノウハウを持った人が、洲本市の「ひと」の魅力を発信する）
- ・ あえて市がつくる、ターゲットを絞った観光プランの提供（市役所がもつ情報や資源を活かして、健康管理ツアーや子ども連れOKな店ツアーなど）
- ・ 淡路島の食材を十分に生かしたカレーの聖地化



2 班

総務課、保健医療課、建設課、生涯学習課

- ・ 移動を含めパッケージされたツアー「SVP（洲本ヴァケーションパッケージ）」の提供
- ・ ドラクエホテル
- ・ SNSピンタレスト（個人の趣味にターゲットィングしたPR方法）を模して、空き家活用方法を提案し、中心市街地を活性化する
- ・ オープンで、市民に愛されるコミュニティバスの運行



3 班

税務課、農地整備課、財政課、市民課

- ・ 乗合タクシーを活用した、出会いの演出（観光者とお年寄りなど）
- ・ 起業支援の継続的な制度設計（淡路島の特徴として、店舗立ち上げ時は注目度が高いが、長期的に続かない案件が多いことから）
- ・ FC淡路島の支援を通して、スタジアムを設立し、雇用を創出



(1班) あつまれ！すもと LOVERS!

あえて市がオススメする 観光プランニング

子どもを連れて入れる 店ツアー！	観光ターゲットを しぼってすべき 20代女子？外国人？
健康管理ツアー！ (食の応援店)	高校生と大人と一緒に つくりあげるイベント
持続するイベントを創 る。ワクワクするもの	洲本城から大浜までジ ップライン0.1tいけ る
自然よい	大浜の整備されて良い かんじ

スーパースモト人登録制度

子育てしたい町○	大学時代に帰ってこ るタイミングで、淡 路で働いている人と 交流できる
移住者の魅力○	カッコいい仕事の見 せ方。でっかい会社 が必ずしもいいの か？
移住者と地元の人が 交流すべき×	デザインの力を借り よう
移住者のノウハウU ターンのノウハウを 地元で子供たちに教 える！	都会でもできる仕事 が淡路でもできるん だぜ！
神戸、大阪、東京と かで洲本の人が話を する	

その他聖地化など

出産場所が県病しか ない(悪い面)	レトロこみちは子連れ で お出かけしやすい (良い面)	カレーの聖地づくり 玉ねぎとか	スポーツの聖地化
学カレベル高いとこ ろ高校に行ってしまう	京阪神の近さ、遊びに 行きやすい。巨大な都 市が多いので発信しや すい！	ボート もっと触れ る機会洲本らしいの に	

(2班)

Sumoto Vacation Package

#ドラクエ #洲本城 #洲本温泉

温泉がある	自然（景色）がきれい	神戸と徳島にも割と近い	アピール不足	買い物する所が少ない	観光客の交通網なし
歴史的建物が意外と多い	温泉がある	自然が豊か 瀬戸内国立公園	アピール周知が足りない	公園少ない	高速代が高い
平日淡路でも休日島外に出かけられる	庚午事変とか知れば面白い	ドラクエ	都市部以外には観光スポットが少ない	移動手段がcaぎられる	
自然が程よい町もある	歴史資源風土資源 益習館 洲本城		駐車場が少ない	二次交通がない観光客向けの移転手段	

No more 空き家

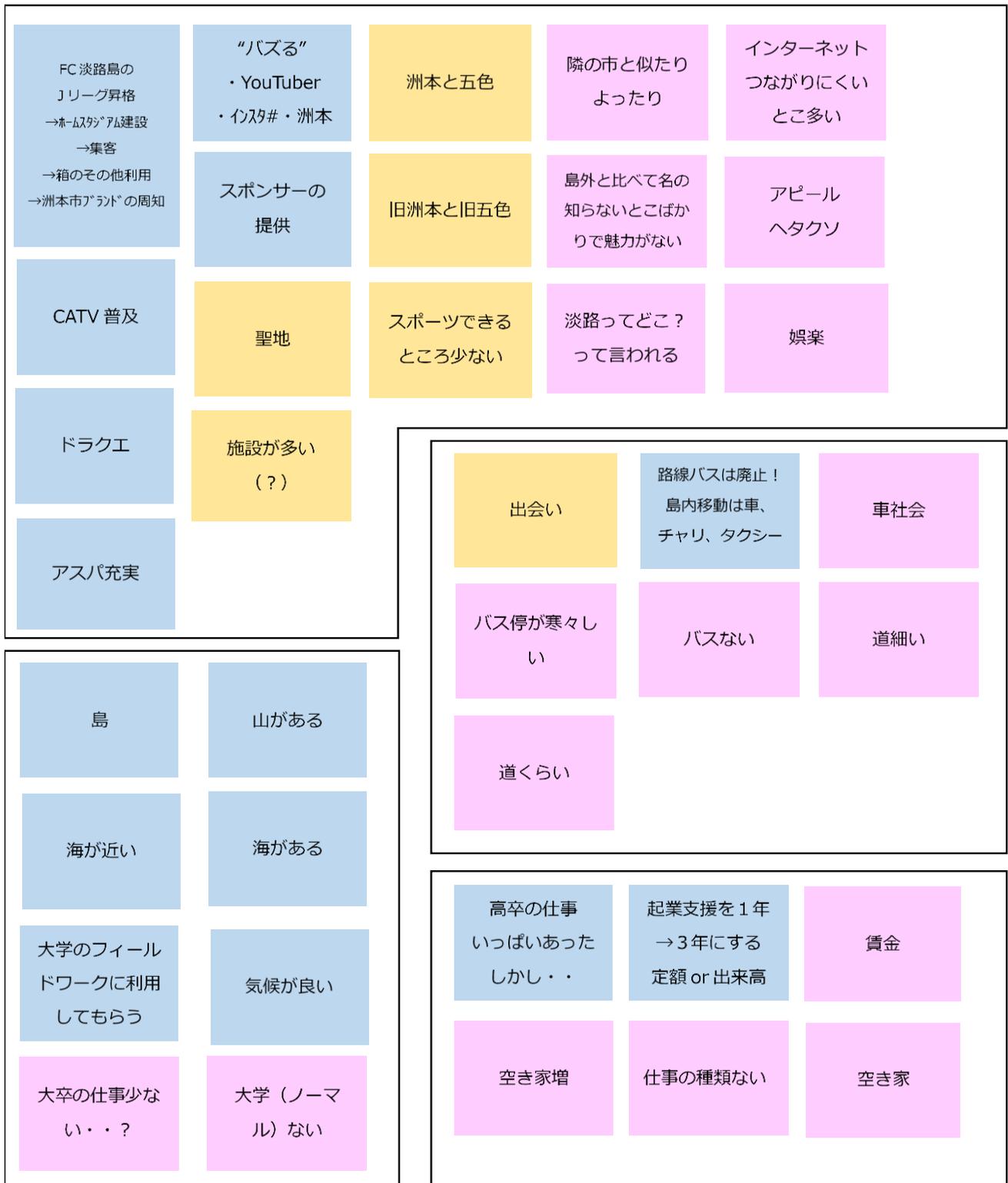
～洲本の中心で“会（あい）”を叫ぶ～

浸水対策南トラ 消防団員不足	住みたいエリアに土地がない 空き家だ	空き家の有効活用ができない
空き家が多い	中心市街地に活気がない	市内が衰えている
子ども向けイベント充実してるよ	スポーツに触れる機会多い	社会体育学校 体育アスリートを招へい
住むには不自由ない	行政機関経済機能の集積	

スモト・サブスク・モビリティ

コミバスが閉鎖的なマイクロボス・・・	交通空白地域の存在	10・20・30年後の交通利便を見通していない
自転車が危ない	高齢者活かせていない？	バスなどの補助があっても値が高い。月額0円じゃないと車を手放せない
コミバスなぜ定額じゃない	歩道が少ないユニバーサル	
自転車道がない	市役所のバリアフリー？ユニバーサルデザインが欠如している	

(3班) 出会って5秒で移住♡



V 新洲本市総合戦略 一般ワークショップ ～ すもと・もっとおもろナーレ 2019 ～

1. 開催目的

現在の「洲本市総合戦略」が今年度をもって最終年度を迎えるにあたり、2020年度より実施される「新洲本市総合戦略」の策定に向け、広く住民を含めて多種多様な方の意見をワークショップにより収集していく。

生活者としての住民の目線のほか、移住者や地域おこし協力隊のような外からの目線による意見に加えて、域学連携やふるさと納税応援者など、日頃、洲本に関わり、洲本を応援してくださっている洲本のファン（「関係人口」）の方々の目線も加えることで、これからの洲本市のまちづくりに新たな視点、新たな価値を見出しながら、「おもろい洲本の街」を考察し、今後の本市の人口減少対策に必要な政策及び課題の掘り起こしを行う。

[期待される効果]

本ワークショップでの意見、アイデア等が、新洲本市総合戦略における新たな洲本のまちな像をかたちづくるヒントとなり、また、新たな施策の種となることが期待される。

2. 開催概要

[開催日時]

令和元年 11月 23日（土・祝）
午後 1時から午後 4時（途中休憩を挟み 3時間）

[開催場所]

洲本市本庁舎 4階 401・402 会議室

[参加者]

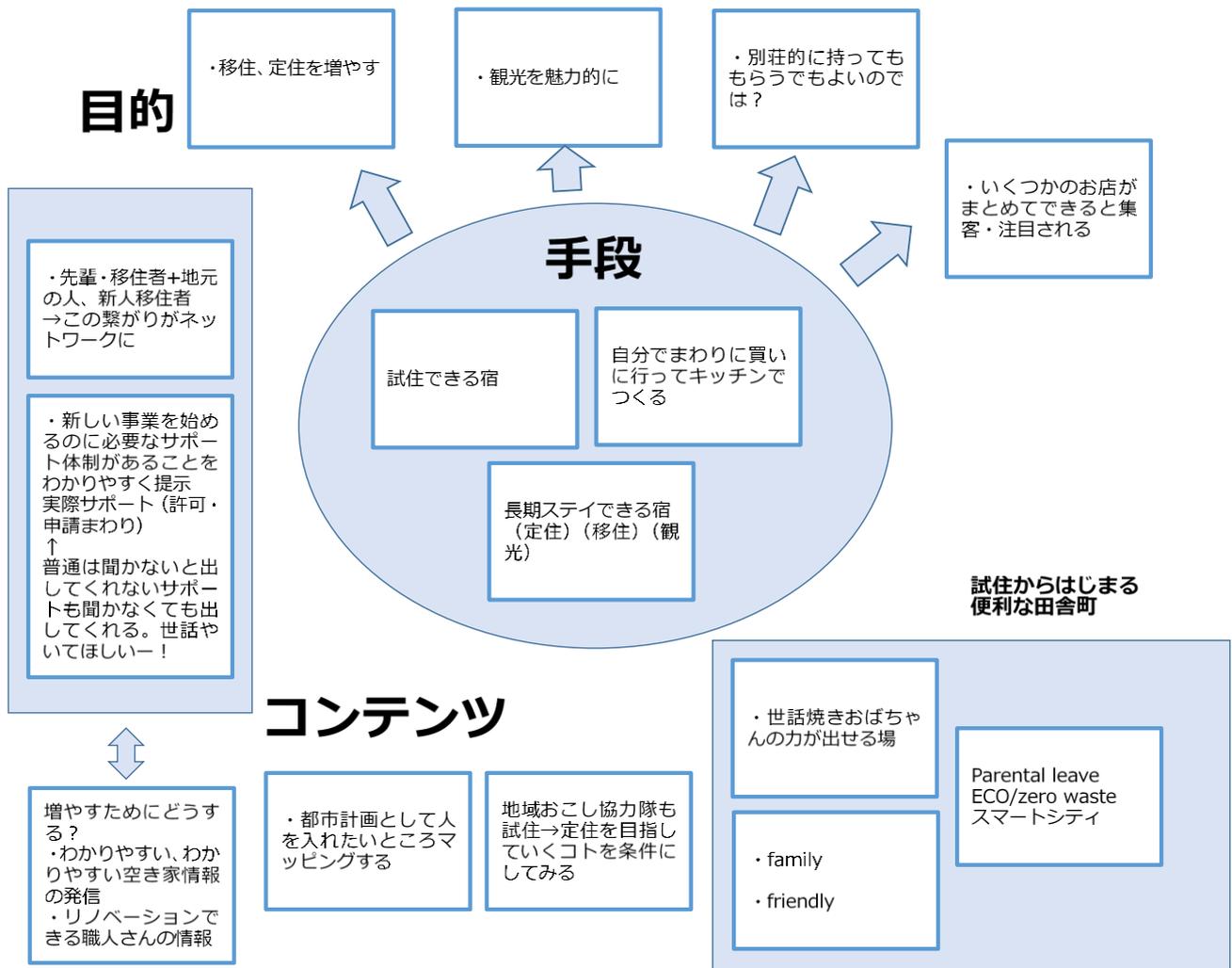
下記対象者からの 20名（5名×4テーブル）
・住民、移住者（概ね 2、3年）、地域おこし協力隊（OB・OG 含む）
・関係人口（域学連携大学、市外・島外の知人など）

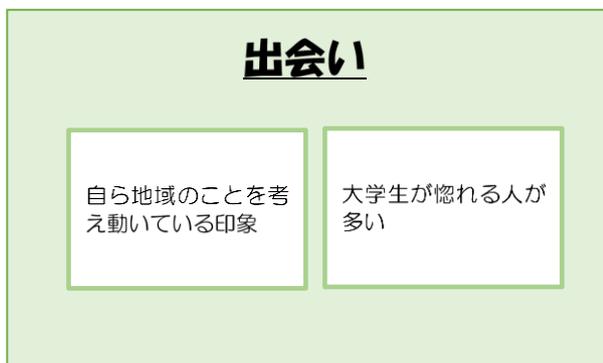
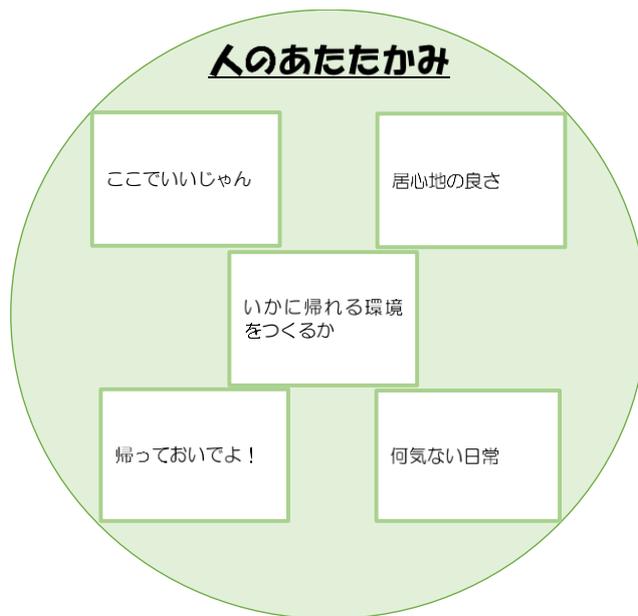
3. 検討結果

4班（テーブル）に分かれてのワークショップの検討結果については、次に示すとおりである。

アイデア

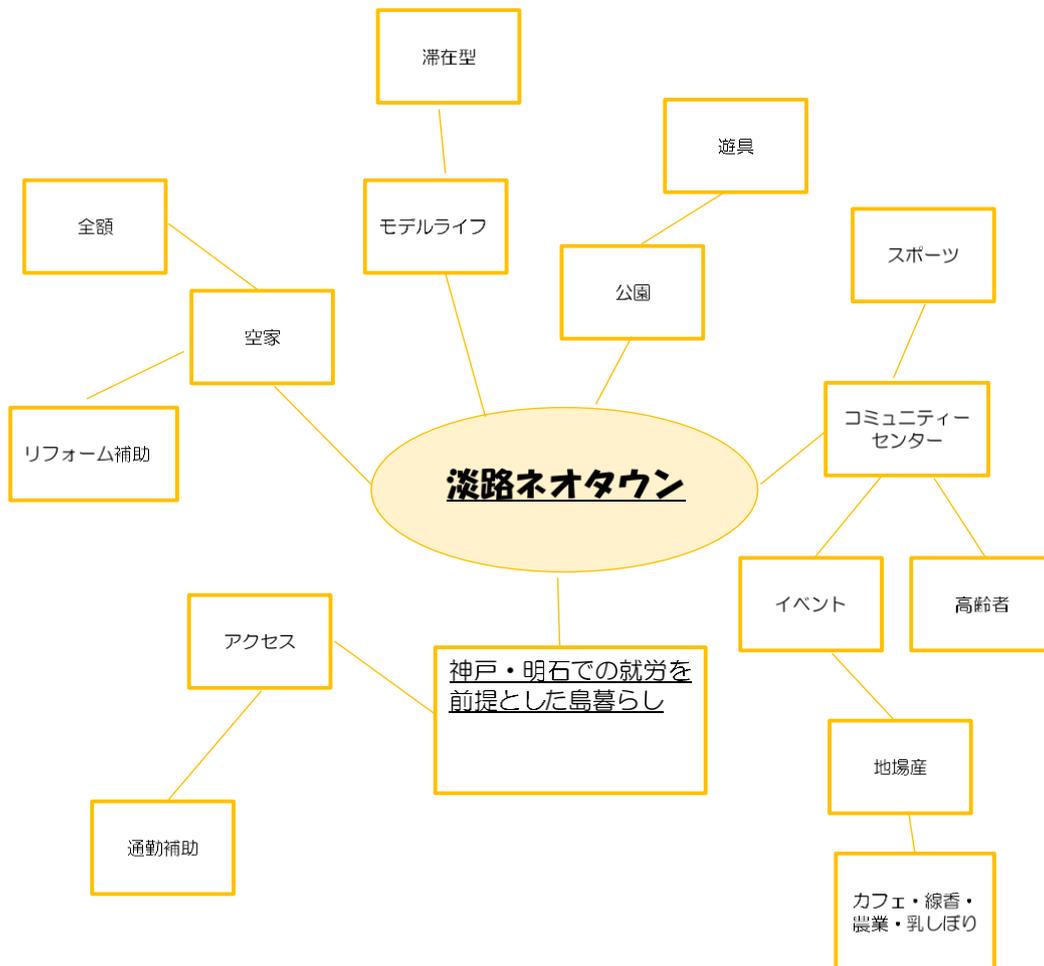
- ・自分のすきなものから作り出す※なぜここなのかは置いておいても大丈夫
- ・便利な田舎に試住しよう！
- ・プチ田舎くらし試せます！
- ・夜の新開地のサイズ感
- ・NHK、大河ドラマゆかりの人、モノを探す
- ・古くからの駄菓子屋（駄菓子屋さん なつかしさ）
- ・銀行からの投資 ビジネスマッチング
- ・都市銀行
- ・海外から移住者
- ・リゾートホテル、温泉
- ・個人の蔵、古民家（400年前とか活用の可能性）
- ・偉人、著名人が多い（ドラクエ、大地真央など）
- ・もっとインタラクティブな美術館または博物館がほしい
- ・シャッターが多いのなんとかしたい
- ・bicycles
- ・古民家、民泊
- ・洲本温泉にどうやって泊まってもらう？
- ・埋もれているもの
- ・試住から始まる島生活
- ・船だんじり
- ・夏（島まつり）
- ・シラス、さわら、ハモ
- ・食が豊富
- ・水産加工・漁業
- ・くにうみマラソン
- ・海、寺、仏像、港
- ・おみやげ屋さん
- ・本町商店街
- ・松の内
- ・弁天さん
- ・後継者がいない
- ・英語のマップとメニュー
- ・アートのトリエンナーレ芸術祭
- ・淡路市からどうつれてくる？





アイデア

- ・自然（ゆとり）海と山が近い
- ・海がきれい
- ・水仙
- ・ツーリング
- ・日照時間多い
- ・気候安定
- ・星がきれい
- ・町がコンパクト
- ・アクティブ人口が多い（生産年齢が幅広い）
- ・信号が少ない
- ・救急医療センターがある（島特有）
- ・石垣
- ・八十八か所廻りやすい
- ・ナゾパラ
- ・戦争跡史
- ・温泉がある（ニューあわじ）
- ・丹下先生
- ・高齢化『人口減』
- ・昨年 600人 ← 人口（18歳）1000 → 100人しか残らない
- ・800人進学 100人島外就職
- ・子育てへのしからの補助
- ・（子育て）金銭面も南淡路（上）家 200万助成
- ・住 マンション 都会の方が安い
- 土地も高い 交通費（高）→島民割など
- ・休まない
- ・金持ち
- ・地域（人）とのつながり
- ・安全◎・安心◎
- ・ヤンキーが居ない
- ・子供が純粋
- ・都会（洲本）
- ・排他性が少ない
- ・大阪、神戸に近い
- ・ごはん◎
- ・食材◎牛乳
- ・若手が働きたい環境が十分か
- ・企業
- ・総合大学がない（数）
- ・高卒→島外へ（そのまま）
- ・就職先が少数
- ・堀井雄二（ドラクエ）
- ・カネボウ跡地
- ・観光スポット少ない（来る）目的がない
- ・無人集落
- ・たぬき
- ・（子育て）公園少ない



アイデア

その他

- ・パッケージ化されない観光外国人へ
- ・持続可能なイベントの作成
- ・町歩きの促進化
(ホテル等で完結させない)
- ・ソフトな体験を増やすメディア
- ・農民者運転体験（レース）
- ・観光に特化する。それに付随した仕事が増える
- ・冬の仕事どうするか

問題

- ・空き家を何とかする
- ・空き家×あえて家を持たない人
(仮住まい)
- ・かせぐ力
- ・お金が欲しい

働き方

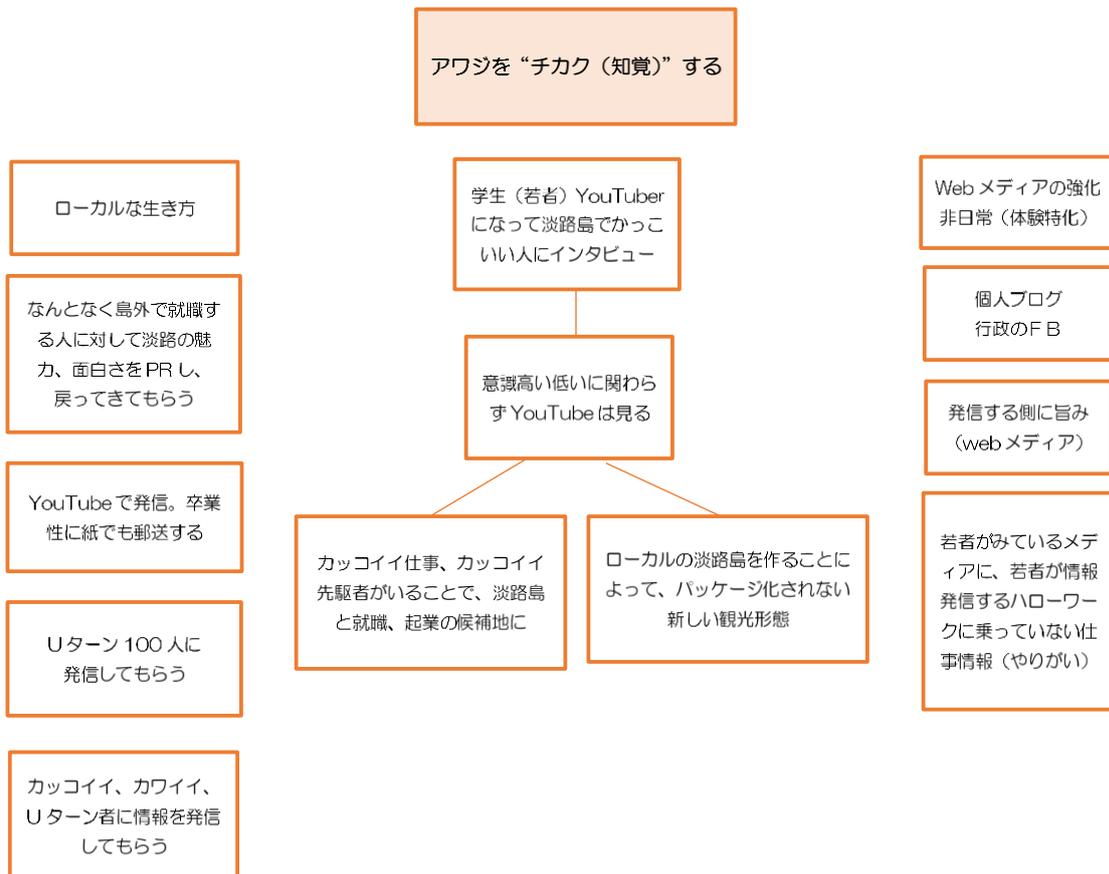
- ・短期的なリモートワーク
- ・場所にしばられない仕事
- ・ダブルワーク
- ・リモートワーク
- ・ワーケーション
- ・起業
(スモールビジネスを沢山つくる)

発信系

- ・若者が見ているメディアに情報が載っていない
- ・やりがい欲しい
- ・ローカルカッコいい！
- ・食べるための仕事（ライフワーク） → やりがい
- ・外国人観光客を呼びたい（市場規模拡大）
- ・淡路島で働くことを“カッコイイ”と思わせたい
- ・Uターンを受け入れる企業を一覧化
- ・島内からしたら普通のことでも島外からしたら普通じゃない（good）こと
- ・Uターンの好事例の発信
- ・Uターンがカッコイイと感じられる情報発信
- ・働きたくなる仕事は。
- ・メディアの作成
- ・学生に対して島内企業求人情報をどう発信するか
- ・やりがいがある仕事発信
- ・まずは知ってもらう関係人口の増加
- ・作られた情報じゃなくてリアルな情報が必要

情報（事例）

- ・都会からのアクセスが良い→昔里山便利
- ・不足している（観光・福祉）
- ・観光（インバウンド）
- ・きっかけがないと帰ってこない
- ・そもそも観光都市にするべきか



VI 新洲本市総合戦略 パブリックコメントの募集結果

1. 募集期間：令和2年2月28日（金） ～ 令和2年3月19日（木）

2. 提出件数：18件

3. 意見募集項目

- ①第1章 人口ビジョン（I 洲本市の人口動向）
- ②第1章 人口ビジョン（II 洲本市の趨勢人口の検討）
- ③第1章 人口ビジョン（III 洲本市の将来人口シミュレーション）
- ④第1章 人口ビジョン（IV 洲本市の将来人口と将来展望）
- ⑤第2章 総合戦略（I 基本的な考え方）
- ⑥第2章 総合戦略（II 戦略構想）
- ⑦第2章 総合戦略（III 基本戦略に基づく取組）
- ⑧第2章 総合戦略（IV アクションプラン）
- ⑨第2章 総合戦略（V “未来の種”）
- ⑩第2章 総合戦略（VI 戦略の進行管理）

4. 意見の取扱

A：加筆修正（総合戦略に反映させるご意見）… 2件

B：記載済（総合戦略案に趣旨や考え方が既に記載されているご意見）… 1件

C：参考等（今後の総合戦略の推進において参考とさせていただくご意見）… 13件

D：回答（質問等に答えるもの）… 2件

No.	項目番号	項目内容 (掲載ページ)	ご意見	取扱	ご意見に対する考え方の 要旨
1	②	社人研による推計 について (10ページ)	○若い女性人口を増やす取組は、 少子社会を緩和するために重要な 要素です（高齢社会を緩和する 方法とは切り離して考える必要 があると思います。）それに 加えて、配偶者および経済的な 豊かさの項目および改善策を追 加する必要があると思います。	C	○配偶者の確保及び経済的 な豊かさの享受は、地域 における雇用環境の改善 や地域内経済が好循環 し、その結果として（可処 分）所得や給与が改善さ れることでもたらされる ものと考えており、いた だいたご意見につきまし ては、今後の労政施策の 推進に関する意見として 参考とさせていただきます。

2	③	シミュレーションを踏まえた人口政策等の課題について (24 ページ)	<p>○10 頁のグラフにあるように、男性は 20-24 歳で特に累積定住率が低く、25-29 歳で盛り返すも、男性人口は女性人口よりも少ないですね。移住して一年が経過しますが、死別ではないシングルマザーの知り合いが複数人います。</p> <p>男性がもともと少ない人口構成に加え、体感としてシングルマザーが多い現状から、男性人口を増やして女性人口に近づけることと、マッチングの機会を十分設けることによって、一世帯における配偶者および経済的な豊かさを充足する必要があるのではないのでしょうか？</p>	C	○いただいたご意見につきましては、婚活など出会いの機会の創出に関する取組の意見として参考とさせていただきます。
3	⑦	都市圏からの移住・定住の促進について (39 ページ)	<p>○洲本市街地は生活に便利な施設がある反面、家から徒歩で行ける範囲内に大型スーパーどころかコンビニエンスストアも無い地域があります。特に洲本市街地から大きく離れる上灘地区の人口減少・高齢化は洲本市の中でも最も深刻です。上灘地区の人口減少・高齢化対策、上灘地区の移住・定住化させるにはどのような考えがあるのでしょうか？</p> <p>また、上灘地区以外でも地区ごとの課題をまとめ、移住・定住させる方法を考えていく必要があります。</p>	D	○本市では、地域間における格差などを考慮して、現状としては移住・定住を推進するためのエリアマネジメントや地域ビジョンを策定してはおりません。本市としましては移住先を決定されるのは、あくまで本人の意思、考えに基づき決定されるものという考えであり、移住先の地域が決まり次第、市としてさまざまな支援を行っていくスタンスとしています。 <p>いただいたご意見につきましては、今後の移住・定住施策の推進における意見として参考とさせていただきます。</p>

4	⑦	「関係人口」の拡充について (40 ページ)	<p>○老若男女問わず洲本に来てくれる人を増やす必要がありますが、洲本市文化体育館などでのイベントを見ると、アイドル出演のライブ等が手薄な感じがします。</p> <p>観客に洲本をPRする前に出演者（アイドルメンバー及び所属事務所）に洲本をPRする必要があります</p> <p>(STU48等、淡路島出身メンバーを含んでいるグループはメンバーから洲本のPRが比較的容易ですが)。</p> <p>洲本港など港湾を利用したイベントもあっても良いと思います (STU48号は洲本市内に寄港出来る港があるのでしょうか?)。洲本市内から淡路島外の大学へ早く安く通えるよう公共交通を整備する必要があるのでは無いでしょうか?全国的に少子化を理由に大学を統廃合させなければいけない中、大学の誘致は困難です。</p>	C	○いただいたご意見につきましては。本市への交流人口及び関係人口を拡大させる取組の意見として参考とさせていただきます。
5	⑦	「関係人口」の拡充について (41 ページ)	<p>○恐れ入りますが、認識と表現に誤りがあります。</p> <p>正しくは、「島内に進学できる大学が少ない、学べる施設が少ない」、「島内外の大学を中心とした「域学連携事業」を一層加速させ、大学が少ないまちに学生の往来を高め、」です。</p> <p>予算的にも、まずは内側から始めてみてはいかがでしょうか? 「域学連携事業」に大変興味があるので、よりよいプランの作成を期待しております。</p>	A	○いただいたご意見に基づき、記載内容を修正いたします。

6	⑦	観光資源を生かした交流の促進について (41 ページ)	○先般、洲本市初の、重点「道の駅」として「高田屋嘉兵衛公園」(仮称、同市五色町都志)が選ばれました。この場所は、洲本市の地域活性化の拠点として重要だと私も感じますので、単に「ウェルネスパーク五色」と書くだけではなく、特に強調したほうがいいと思います。56頁を反映した内容が理想です。	A	○いただいたご意見に基づき、記載内容を修正いたします。
7	⑦	歴史・文化の保存と活用によるまちづくりの推進について (46 ページ)	○淡路島唯一のお城が洲本城だということで、洲本城関連イベントの数がもっと増えると参加しやすいと感じました。白砂青松の海岸もきれいなので、コラボすべきだと思います(既にそのようなイベントがございますか?)	C	○洲本城関連のイベント等につきましては、既に実施しているものがありますが、ご意見のありました大浜公園と連携したイベント等につきましては、今後、新たなイベント等を検討する際の意見として参考とさせていただきます。
8	⑦	防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備について (47 ページ)	○洲本市内の感染症対策も加えてほしいです。クラスター発生を防止し、感染しない、他人に感染させないようにする事が大切です。最近「COVID-19」ですが、今後新たな感染症が発生する可能性があり、発生した場合どうすべきか計画が必要です。	C	○いただいたご意見につきましては、今後の防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備に関する意見として参考とさせていただきます。

9	⑦	<p>防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備について (47 ページ)</p>	<p>○淡路島には電車がないのでマイカー保有台数の増加は仕方ないと思います（人口が減少し続けている現状と整合性が取れない気がしますが、高齢者の免許返納の鈍化と若年者の免許取得数の増加が原因ですか？）。 高齢者ドライバー対策として、免許返納の推進と、路線バスの便数の増加・運行時間の拡大（始バス・終バス）を求めます。ありきたりですが、路線バスは高齢者以外も使用しますので、交通インフラの整備の点でも推進したいです。ただし、自動車運転ありきで考えたとしても、高齢者のみならず運転マナーが本当に悪いです。市外・島外から出入りする貨物トラックは仕方ないとして、市内在住だと思われる農家の軽トラや軽自動車の運転が本当に荒く、スピード超過、車間距離を詰める、追い越し禁止区域での追い越しや、交差点での右折優先などのルール違反は日常茶飯事です。こちらがいくら気をつけていようが、いつ衝突事故が起こってもおかしくないです。免許更新時の講習を軒並み強化する施策を希望します。</p>	C	<p>○いただいたご意見につきましては、今後の交通安全対策に関する意見として参考とさせていただきます。</p>
10	⑦	<p>防災・減災、安全・安心なまちづくり基盤の整備について (47 ページ)</p>	<p>○私はスポーツ自転車でのサイクリングもドライブ同様に好きですが、この一年は乗っていません。狭い道での荒いドライバーと、自転車のタイヤを痛めない段差が少なく平坦でなめらかな道の少なさと、街灯の少なさが理由です。環境整備の時の参考にしていただき、この文言に追記していただきたいです。</p>	C	<p>○淡路島では、県と淡路3市が連携し、「淡路島ロングライド150」などのイベントを通して、島外からのサイクリストの誘致拡大に向け、看板（サイン）の整備のほか、道路環境の整備などを順次進めています。いただいたご意見につきましては、道路環境整備などにおける参考とさせていただきます。</p>

11	⑦	農業生産基盤の整備について (49 ページ)	<p>○有害鳥獣管理にかかる被害者（農業者等）と狩猟者のマッチングシステムを強化してください。市で交流会なども開催してください。市内の被害の概要や進捗の講習会を年3回、開催してください。</p> <p>地元民で農家出身なら既存コミュニティを利用できるでしょうが、外部から来た者にとっては、力関係がわかりづらく、どこでどんな被害があるのか猟師さんや農家さんに聞くしかない現状です。有害鳥獣駆除のやる気があっても、活躍すべき場所が見つけづらいです。</p>	C	<p>○本市においてもハンターの高齢化、担い手不足が鳥獣対策における課題のひとつとなっています。新たにハンターを目指す人がスムーズに相談、支援を受けられる環境を整えることが重要であると認識しています。いただいたご意見につきましては、本市への交流人口及び関係人口を拡大させる取組のひとつとして参考とさせていただきます。</p>
12	⑦	農業生産基盤の整備について (49 ページ)	<p>○市内に流通している農作物で農薬や化学肥料が使用されているのが少なくありません。食の安全について洲本市外にどう説明すれば良いのでしょうか？圃場整備ですが平坦地では高低差が少なく整備が容易ですが、山間部では高低差が大きく平坦地に比べて整備が困難、整備コストが掛かることで農家の負担（借金）が非常に大きくなります（実際に反対農家がいる理由で、圃場整備が頓挫した地域もあります）。</p>	C	<p>○食の安全確保及び農業生産率の向上は、本市にとっても大切な事項です。いただいたご意見につきましては、今後の農業振興に関する取組のひとつとして参考とさせていただきます。</p>
13	⑦	畜産振興の推進について (50 ページ)	<p>○畜産農家にとっては毎日畜産の世話をしなくてはならないため、年中無休となり、旅行など遠出が出来ません。また、淡路ビーフなど地元の肉類は高価を理由に購入が出来ず、日常生活では安価な外国産の肉類を購入します。高価であれば生活に余裕のある方しか食べられないです。淡路産の肉類を高品質ながら定価で提供するにはどのようにすれば良いのか考える必要があります。</p>	C	<p>○いただいたご意見につきましては、今後の畜産振興に関する意見として参考とさせていただきます。</p>

14	⑦	水産業の振興について (50 ページ)	○海に浮遊するプラスチックゴミが課題になります。ゴミのない海でないと良質な海産物が期待できません。	C	○淡路島においては大阪湾を浮遊する海洋ゴミが海岸部に漂着し、ゴミ問題の課題のひとつとなっています。一方、水産業に与える影響としては、ゴミのほかには海水中の栄養塩の低下による海苔の色あせ被害のほか、赤潮などの発生による被害もあり、豊かな海をつくり守ることが水産業の振興につながるものと考えます。 いただいたご意見につきましては、今後の水産業の振興に関する意見として参考とさせていただきます。
15	⑦	地域企業への就業促進について (51 ページ)	○この件に限りませんが、U J I ターンを推進しようとするのであれば、どんな選択肢があつて、何が求められているのかを、市のHPを見さえすれば、わかるようにしてください。	C	○市内の求人情報や就業に係る支援措置に関する情報については、市ホームページに掲載しておりますが、利用者が情報を探しやすく、利用しやすい見せ方などを工夫し、検討する上でいただいたご意見を参考とさせていただきます。
16	⑦	起業・創業の支援について (52 ページ)	○起業支援は非常に魅力的だと思います。	B	○市内においては、女性や若者、また移住者が起業するようなケースも出てきており、今後もさらに起業しやすい環境を整えるため、検討と工夫を重ねてまいります。

17	⑦	企業誘致の促進について (52 ページ)	○淡路島中央スマートインターチェンジが開通しましたが、当S I Cに隣接する本四中川原バス停は高速バスの停車本数が南隣の洲本 I Cなどに比べてかなり少なく、都志線・五色地域コミバスが当停留所前に停車せず乗り換えが出来ません。また、S I C周辺は現時点で企業の進出がなく、商業施設也没有せん。S I C周辺の企業誘致計画はあるのでしょうか？	D	○本四中川原バス停留所の利便性向上については「洲本市公共交通基本計画」及び「淡路島地域公共交通網形成計画」に則り実施してまいります。次に、淡路島中央スマート I Cの開通に伴い、県道洲本五色線沿道を農振農用地から除外し、民間事業者が進出しやすい環境としており、引き続き民間事業者などの動向を注視してまいります。
18	⑧	洲本C A T V施設更新事業について (57 ページ)	○テレビに関してはB S ・ C S 波でも S T Bが不要なパススルーを提供している点では評価します。自主放送に関しては複数のチャンネルでお天気チャンネルを放送していたり、ハイビジョン放送の時間帯が限られていたりすることから再編が必要かも。また自主放送で字幕放送の実施出来ないのでしょうか？海賊版防止の為、画面右上にウォーターマークの表示も検討必要。111 c h すもとチャンネル（終日ハイビジョン化）・113 c h お天気チャンネル（一部時間帯 111 c h でも放送）←ウォーターマークはA T V ロゴ 121 c h 行政放送（終日ハイビジョン化）・123 c h 文字放送（一部時間帯 121 c h でも放送）←ウォーターマークは洲本市の市章 ケーブルテレビ電話は「ケーブル プ ラ ス 電 話 」 (http://www.kddi.com/phone/cableplus/)に変更、ケーブルテレビインターネットは現在の10倍以上（高速サービスで1G b p s 以上・基本サービスで100M b p s 以上）に速度アップしてください。	C	○本市のC A T V施設の運営・管理は指定管理者である株式会社淡路島テレビジョンにおいて行われております。いただいたご意見につきましては、今後のサービス提供の参考とさせていただきます。

新洲本市総合戦略

令和2年（2020年）3月発行

洲本市 企画情報部 企画課

〒656-8686 兵庫県洲本市本町三丁目4番10号

電話：0799-22-3321 FAX：0799-23-2340



令和2年(2020年)3月